

朝鶴川河川改修工事に伴う

タテチョウ遺跡発掘調査報告書

一三一

本文編

平成 2 年 3 月

水部河川課
育委員会

朝酌川河川改修工事に伴う

タテチョウ遺跡発掘調査報告書

- III -

本文編

平成 2 年 3 月

島根県土木部河川課
島根県教育委員会

序

島根県教育委員会は、島根県土木部の委託を受け、昭和52年度以来朝酌川河川改修工事区域内の調査を行ってまいりました。本書は昭和62・63年度に実施したタテチョウ遺跡発掘調査の結果をまとめたものであります。

朝酌川の中、下流域に所在するタテチョウ遺跡、および西川津遺跡は縄文時代から中世にかけての複合遺跡として広く知られています。とくに弥生時代の遺物が大量に出土しており、山陰地方の弥生時代を語るにはこの2つの遺跡は欠くことができない、といつても過言ではありません。これらのきわめて多くの出土遺物—土器・石器・木製品など—は当時の人々の生活のようすを彷彿とさせるばかりでなく、九州で起こったといわれる弥生文化の当地方への伝播と展開、さらに日本海沿岸各地との交流など、謎の多い弥生時代人の軌跡を解明してくれる可能性を秘めていると考えております。

本書では、多岐にわたる出土遺物について充分な検討ができず、不備な点も少なからずありますが、この調査成果が多少なりとも埋蔵文化財に対する理解に役立てば幸いと思います。

発掘調査および本書の刊行にあたりましては各方面から多大なるご支援、ご協力をいただきましたことに対し心よりお礼を申し上げます。

平成2年3月

島根県教育委員会

教育長 原田俊夫



例　　言

1. 本書は1987・88年度（昭和62・63年度）の2カ年にわたって島根県教育委員会が島根県土木部の委託を受けて実施した、一級河川朝潮川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書には、1985年度に松江市教育委員会が実施した発掘調査で出土した遺物も合わせて掲載した。これは、この調査区が1987年度県教委調査区の中央に当ることから、両者を同一調査区と見なしたほうがよい、との判断からである。
3. 1987年度調査区は島根県松江市西川津町大字橋本字堅町1358-3ほか、1988年度調査区は同1125-3ほかである。
4. 調査組織は次のとおりである。

〔1987年度〕

- | | |
|-------|--|
| 事務局 | 熊谷正弘（文化課長）、安達富治（文化課課長補佐）、矢内高太郎（同文化係長）、
吉郷朋之（同文化係主事）、陶山 彰（同嘱託）、板倉仁志（財務課主任主事） |
| 調査員 | 勝部 昭（文化課課長補佐）、川原和人（同埋蔵文化財第2係長）、宮沢明久（同
埋蔵文化財第1係長）、柳浦俊一（島根県教育文化財団文化財主事）、大谷祐司
(同嘱託)、長嶽康典（同） |
| 調査補助員 | 渡辺正巳（島根大学理学部地質学研究室研究生）、此松昌彦（同）、折橋裕二（島
根大学理学部学生） |

〔1988年度〕

- | | |
|-------|--|
| 事務局 | 内藤仁男（文化課長）、井原 謙（文化課課長補佐）、野村純一（同文化係長）、
吉郷朋之（同文化係主事）、陶山 彰（同嘱託）、板倉仁志（財務課主任主事） |
| 調査員 | 勝部 昭（文化課課長補佐）、川原和人（同埋蔵文化財第2係長）、宮沢明久（同
埋蔵文化財第1係長）、三宅博士（島根県教育文化財団学芸主事）、柳浦俊一（同
文化財主事）、大谷祐司（同嘱託） |
| 調査補助員 | 此松昌彦（島根大学理学部地質学研究室研究生）、折橋裕二（島根大学理学部学
生）、三好壯一郎（同） |

〔1989年度〕

- | | |
|-----|--|
| 事務局 | 泉 恒雄（文化課長）、井原 謙（文化課課長補佐）、野村純一（同文化係長）、
吉郷朋之（同文化係主事）、別所重一郎（同嘱託）、陸浦英哉（財務課主事） |
| 調査員 | 勝部 昭（文化課課長補佐）、川原和人（同埋蔵文化財第2係長）、宮沢明久（同） |

埋蔵文化財第1係長), 三宅博士(島根県教育文化財団学芸主事), 柳浦俊一(文化課埋蔵文化財第2係主事)

遺物整理 瀬田明子, 金津まり子, 佐藤順子, 馬庭志津子, 佐竹一美, 久保田祐子, 藤原富子, 武田美紗子, 今村レイ, 狩野京子, 片山礼子

なお, 1985年度の松江市教育委員会による調査は, 岡崎雄二郎(松江市教育委員会社会教育課文化係長), 今岡一三(同嘱託), 昌子寛光(松江市立女子高教諭)が行い, 遺物整理は県教委が補助した。

5. 自然遺物の同定および自然科学的分析は次の方々の協力をいただき, その結果を収録した。
(敬称略, 順不同)

金子浩昌(早稲田大学講師 獣骨), 佐藤敏也(国分寺市文化財専門委員 炭化米), 大西郁夫(島根大学教授 花粉分析), 秋山 優(同 珊瑚分析), 林 正久(同助教授 自然地理学), 沢村一郎(日本貝類学会員), 赤坂正秀, 山内靖喜(島根大学助教授 金属分析), 粉川昭平(大阪市立大学教授 植物種子), 永嶋正春(国立歴史民俗博物館 漆分析)

6. 発掘調査および遺物整理にあたっては次の方々の有益な御指導, 御助言をいただいた。記して感謝する。(敬称略, 順不同)

山本 清(島根大学名誉教授), 町田 章, 佐原 真, 伊東太作, 工來普通, 金子裕之, 深沢芳樹, 沢田正昭, 花谷 浩(以上奈良国立文化財研究所), 村上 勇(広島県立美術館), 岡田 博, 平井 勝, 柳瀬昭彦, 横 真治(岡山県立古代吉備文化センター), 木野正好, 泉 拓良(奈良大学), 下條信行, 宮本一夫(愛媛大学), 根木 修(岡山市教育委員会), 山田昌久(筑波大学), 麻田哲郎(京都大学考古博物館), 難波洋三(京都国立博物館), 黒沢 浩(明治大学博物館), 井上洋一(東京国立博物館), 井上寛司, 渡辺貞幸, 田中義昭(以上島根大学), 福田健司(東京都教育委員会), 館野 孝(東京都埋蔵文化財センター), 河瀬正利(広島大学), 近藤喬一(山口大学), 西健一郎(九州大学), 木村幾多郎(佐賀大学), 斎藤勤(東亞大学), 渡部明夫(香川県埋蔵文化財調査センター), 重松敏美(福岡県文化財保護審議会), 高島英之, 沢金澤吉茂(群馬県埋蔵文化財調査事業団), 岩崎仁司(笠岡市教育委員会), 印南敏秀(愛知大学), 宮崎泰好(松山市教育委員会), 相田則美(松山市立埋蔵文化財センター), 岡田敏彦, 作田一耕(愛媛県埋蔵文化財調査センター), 松下正司, 篠原芳秀, 鈴木栄之, 佐藤昭嗣(広島県立革戸千軒町遺跡調査研究所), 潟田鉄雄, 市田京子(日本はきもの博物館), 平川 南(国立歴史民俗博物館), 正林 譲(長崎県教育委員会), 高橋 譲(岡山県立博物館), 北野信彦(元興寺文化財研究所), 甲元真之(熊本大学), 藤岡大拙(島根県立女子短大), 的野克之(島根県立博物館), 内田文恵(島根県立図書館), 村上久和(大分県教育委員会)

7. 採図中の方位は国土調査法による第Ⅲ座標系X軸の方向を指す。従って、磁北より7°12'、真北より0°32' 東の方向を指す。
8. 出土遺物については遺物の種類毎に通し番号を与えてそれを採図番号とし、各番号の前には略号を付した。略号は縄文土器がJ(Jomon Pottery)、弥生土器がY(Yayoi Pottery)、土師器がH(Haji Pottery)、須恵器がSU(Sue Pottery)、ミニチュア土器がM(Miniature)、その他の上器がE(Etc)、土製品がCL(Clay Object)、石器がST(Stone Tools)、木製品がW(Wood Tools)、土師質土器がMH(Medieval Age Haji Pottery)、陶磁器がC(Ceramic)、鉄器がI(Iron Artifacts)とした。実測図、図版の縮率は各図および各図版の下部に示すが、縮率のないものは任意である。
9. 掲載図面は主に三宅、柳浦、瀬田、金津、佐藤、馬庭、佐竹、久保田、藤原、深田 浩（別府大学学生）が作成し、三宅、柳浦が修正した。図の清書は瀬田、金津、佐藤、馬庭、佐竹、久保田、狩野が行い、写真は自然遺物以外は二宅、柳浦が撮影した。自然遺物については各執筆者の撮影である。
10. 各遺物の整理および原稿執筆は三宅、柳浦、大谷の二者で協議し、木製品・鉄器と試掘の項を二宅、土器・石器・土製品その他を柳浦が主に行い、Ⅰ～Ⅲ、Ⅷ章は三宅、柳浦が共同で行った。
11. 本報告書は勝部、川原、その他文化課職員の協力を得て、三宅、柳浦が編集した。

本文目次

I. 調査に至る経緯		1
II. 遺跡の歴史的環境		2
III. 調査の経過と概要		4
IV. 第4～6層出土遺物の考古学的観察		6
1. 縄文土器		6
2. 弥生土器		47
3. 土師器		146
4. 須恵器		177
5. ミニチュア土器		178
6. その他の土器		184
7. 土製品		187
8. 石器		196

9. 木製品	214
V. 旧河道	290
第1河道	290
第2河道	290
しがらみ状遺構	290
1. 第1・第2河道内出土遺物	292
(1) 須恵器	292
(2) 土師器	307
(3) 土師質土器	308
(4) 陶磁器・中世須恵器	311
(5) 木製品	315
(6) 鉄鏃・古錢	390
VI. 自然遺物の検討	391
1. タテヨウ遺跡第3次調査出土の脊椎動物遺体 (金子浩昌)	391
2. 松江市西川津町タテヨウ遺跡出土の柳 (佐藤敏也)	418
3. タテヨウ遺跡の貝類の考察について (岡村一郎)	426
4. タテヨウ遺跡出土の植物種子 (粉川昭平)	430
VII. 自然科学的分析	434
1. タテヨウ遺跡'88の花粉分析 (大西郡夫・大谷英之)	434
2. 松江平野の微地形とその形成過程 (林 正久)	437
3. タテヨウ遺跡出土鉛灰状物質の分析結果 (赤坂正秀・山内靖高)	448
4. タテヨウ遺跡堆積土壤中の珪藻類遺体と古環境 (秋山 優)	449
5. タテヨウ遺跡出土の赤色漆塗器にみられる漆技術について (永嶋正春)	455
6. 松江市タテヨウ遺跡出土木製品の樹種の記載 —その1— (渡辺正巳)	458
7. タテヨウ遺跡における河成堆植物の粒土分析 (此松昌彦・折橋裕二)	463
VIII. 加羅加羅橋周辺の試掘調査	474
IX. まとめにかえて	479
あとがき	482

挿 図 日 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2・3
第2図	調査区配置図	4・5
第3図	土層の対比	5
第4図	縄文土器 (1) 前・中期	11
第5図	縄文土器 (2) 早・前期	12
第6図	縄文土器 (3) 前・中期	13
第7図	縄文土器 (4) 中・後期	14
第8図	縄文土器 (5) 後期	15
第9図	縄文土器 (6) 後・晩期	16
第10図	縄文土器 (7) 後期・同細部拓影・晩期	17
第11図	縄文土器 (8) 晩期	18
第12図	縄文土器 (9) 晩期	19
第13図	縄文土器 (10) 晩期	20
第14図	縄文土器 (11) 晩期深鉢・壺	21
第15図	縄文土器 (12) 晩期鉢	22
第16図	縄文土器 (13) 晩期深鉢	23
第17図	縄文土器 (14) 晩期深鉢	24
第18図	縄文土器 (15) 晩期深鉢・浅鉢	25
第19図	縄文土器 (16) 晩期浅鉢	26
第20図	縄文土器 (17) 晩期浅鉢	27
第21図	縄文土器 (18) 晩期浅鉢・底部	28
第22図	縄文土器 (19) 晩期浅鉢	29
第23図	縄文土器 (20) 晩期浅鉢・時期不明	30
第24図	弥生土器 (1) 前期壺	58
第25図	弥生土器 (2) 前期壺	59
第26図	弥生土器 (3) 前期壺	60
第27図	弥生土器 (4) 前期壺	61
第28図	弥生土器 (5) 前期壺	62
第29図	弥生土器 (6) 前期壺	63
第30図	弥生土器 (7) 前期壺	64
第31図	弥生土器 (8) 前期壺	65

第32図	弥生土器（9）	前期壺	66
第33図	弥生土器（10）	前期壺・無頸壺	67
第34図	弥生土器（11）	前期無頸壺・甕	68
第35図	弥生土器（12）	前期甕	69
第36図	弥生土器（13）	前期甕	70
第37図	弥生土器（14）	前期甕	71
第38図	弥生土器（15）	前期甕・鉢	72
第39図	弥生土器（16）	前期鉢・蓋	73
第40図	弥生土器（17）	前期蓋・底部	74
第41図	弥生土器（18）	前期壺拓影	75
第42図	弥生土器（19）	前期壺拓影	76
第43図	弥生土器（20）	前期壺拓影	77
第44図	弥生土器（21）	前期壺拓影	78
第45図	弥生土器（22）	前期壺・無頸壺・甕拓影	79
第46図	弥生土器（23）	前期甕拓影	80
第47図	弥生土器（24）	前期甕・蓋・底部拓影	81
第48図	弥生土器（25）	中期壺	82
第49図	弥生土器（26）	中期壺	83
第50図	弥生土器（27）	中期壺	84
第51図	弥生土器（28）	中期壺	85
第52図	弥生土器（29）	中期壺	86
第53図	弥生土器（30）	中期壺	87
第54図	弥生土器（31）	中期壺・短頸壺・無頸壺	88
第55図	弥生土器（32）	中期壺	89
第56図	弥生土器（33）	中期無頸壺・甕	90
第57図	弥生土器（34）	中期甕	91
第58図	弥生土器（35）	中期甕	92
第59図	弥生土器（36）	中期甕	93
第60図	弥生土器（37）	中期甕	94
第61図	弥生土器（38）	中期甕	95
第62図	弥生土器（39）	中期甕	96
第63図	弥生土器（40）	中期鉢	97
第64図	弥生土器（41）	中期鉢	98
第65図	弥生土器（42）	中期鉢・高杯	99

第66図	弥生土器 (43)	中期高坏	100
第67図	弥生土器 (44)	中期高坏・蓋・その他	101
第68図	弥生土器 (45)	中期底部	102
第69図	弥生土器 (46)	中期拓影	103
第70図	弥生土器 (47)	後期壺	104
第71図	弥生土器 (48)	後期甕	105
第72図	弥生土器 (49)	後期甕・鉢・高坏	106
第73図	弥生土器 (50)	後期器台・注口土器・瓶および漆塗土器・時期不明土器	107
第74図	弥生土器 (51)		108
第75図	土師器 (1)	壺	149
第76図	土師器 (2)	甕・壺	150
第77図	土師器 (3)	甕	151
第78図	土師器 (4)	甕	152
第79図	土師器 (5)	甕	153
第80図	土師器 (6)	甕	154
第81図	土師器 (7)	甕	155
第82図	土師器 (8)	甕	156
第83図	土師器 (9)	甕	157
第84図	土師器 (10)	甕	158
第85図	土師器 (11)	甕・高坏	159
第86図	土師器 (12)	高坏・器台	160
第87図	土師器 (13)	器台・低脚坏・瓶・瓶・脚・文様拓影	161
第88図	土師器 (14)	小型丸底甕	162
第89図	第4層出土須恵器	壺・高坏ほか	177
第90図	ミニチュア上器 (1)	壺形	179
第91図	ミニチュア土器 (2)	甕・鉢・碗形	180
第92図	ミニチュア下器 (3)	脚・高坏・杓子形	181
第93図	その他の土器 (1)	韓式土器・埴輪	185
第94図	その他の土器 (2)	甕・時期不明土器	186
第95図	土製品 (1)	土笛	188
第96図	土製品 (2)	土笛	189
第97図	土製品 (3)	土笛・その他	190
第98図	土製品 (4)	土製円板	192
第99図	土製品 (5)	土製円板・土錘	194

第100図	石 器 (1)	細石核・剥片・刃器・尖頭器状石器・石錐	197
第101図	石 器 (2)	石匙・異形石器・石錐	198
第102図	石 器 (3)	石錐・石斧	200
第103図	石 器 (4)	扁平片刃・柱状片刃石斧	201
第104図	石 器 (5)	柱状片刃石斧・石包丁	202
第105図	石 器 (6)	石包丁・擦切用工具・石錐	203
第106図	石 器 (7)	石剝状石器・棒状石器・劔錐車・凹板状石器	205
第107図	石 器 (8)	擦切り末成品	207
第108図	石 器 (9)	擦切り末成品	208
第109図	砥石・石帶		209
第110図	漆塗櫛実測図		215
第111図	漆塗櫛実測図		216
第112図	漆塗櫛実測図		217
第113図	漆塗櫛実測図		218
第114図	漆塗櫛実測図		219
第115図	広鍬A, a 実測図		221
第116図	広鍬A, a 未成品実測図		222
第117図	広鍬A, b 実測図		223
第118図	広鍬A, b 実測図		224
第119図	広鍬A, b, 未成品実測図		225
第120図	広鍬A, b 転用品実測図		226
第121図	広鍬A, 未成品実測図		227
第122図	広鍬B・狭鍬B実測図		229
第123図	丸鍬実測図		230
第124図	エブリ実測図		231
第125図	又鍬・諸手鍬実測図		232
第126図	各種鍬類実測図		234
第127図	鍬・未成品類実測図		236
第128図	未成品・用途不明品実測図		237
第129図	鋤A実測図		239
第130図	鋤B実測図		240
第131図	鋤B ₁ ・B ₂ 実測図		241
第132図	鋤B ₄ ・B ₅ 等実測図		242
第133図	鋤B未成品実測図		243

第134図	高杯実測図	245
第135図	杓子実測図	246
第136図	匙実測図	247
第137図	桶形木製品実測図	249
第138図	横槌・把手・盤・杵実測図	250
第139図	斧柄実測図	252
第140図	木鎌実測図	253
第141図	木鎌実測図	254
第142図	舟形木製品実測図	257
第143図	鳥形木製品・箱状木製品実測図	258
第144図	棒状木製品実測図	259
第145図	棒状木製品・柄状木製品実測図	261
第146図	弓・先端加工木製品実測図	262
第147図	鋤形木製品・挽未成品実測図	263
第148図	有舌木製品・串形木製品・根バサミ状木製品実測図	265
第149図	板状木製品実測図	266
第150図	板状木製品実測図	267
第151図	建築材実測図	268
第152図	板状未成品実測図	269
第153図	未成品・余材実測図	271
第154図	建築材実測図	272
第155図	建築材実測図	273
第156図	建築材実測図	274
第157図	板状未成品実測図	275
第158図	手斧木柄の型式各部名称図	278
第159図	第1・2河道土層図	290・291
第160図	しがらみ状遺構平面・側面図	290・291
第161図	第1・2河道測量図	291
第162図	第1・第2河道出土須恵器実測図	295
第163図	第1・第2河道出土須恵器実測図	296
第164図	第1・第2河道出土須恵器実測図	297
第165図	第1・第2河道出土須恵器実測図	298
第166図	第1・第2河道出土須恵器実測図	299
第167図	第1・第2河道出土須恵器実測図	300

第168図 第1・第2河道出土須恵器実測図	301
第169図 第1・第2河道出土土須恵器・高环・皿・壺・子持臺・瓦器碗実測図	302
第170図 第2河道出土土師器実測図	307
第171図 第1河道出土上部質上器実測図	309
第172図 第1河道出土陶磁器実測図	312
第173図 第1河道出土陶磁器実測図	313
第174図 人形代実測図	316
第175図 舟形木製品実測図	317
第176図 刀子柄実測図	318
第177図 漆器椀皿実測図	319
第178図 曲物実測図	320
第179図 曲物実測図	321
第180図 曲物実測図	323
第181図 折敷実測図	324
第182図 扇骨形木製品・把手状木製品・先端加工木製品実測図	325
第183図 鋸B・・鐵未成品実測図	326
第184図 鋸A・鉛実測図	327
第185図 余材・建築材実測図	328
第186図 杖・板状木製品・建築材実測図	330
第187図 先端加工木製品・建築材実測図	331
第188図 顺礼札・札状木製品実測図	333
第189図 札状木製品実測図	334
第190図 檜実測図	335
第191図 家形木製品実測図	336
第192図 木像実測図	337
第193図 板塔婆実測図	338
第194図 斎串状木製品実測図	339
第195図 斎串状木製品実測図	340
第196図 梗類実測図	342
第197図 梗・皿類実測図	343
第198図 梗類実測図	344
第199図 梗類実測図	345
第200図 梗類縁状木製品実測図	346
第201図 曲物実測図	348

第202図	曲物実測図	349
第203図	曲物・折敷類実測図	350
第204図	蓋実測図	352
第205図	折敷・柄実測図	353
第206図	鎌柄・短刀柄実測図	355
第207図	下駄実測図	356
第208図	下駄尖測図	357
第209図	弓・鏡・棒状木製品・棒状木製品実測図	358
第210図	槌の子実測図	359
第211図	把手実測図	360
第212図	把手実測図	361
第213図	糸車・円板形木製品・クサビ形木製品実測図	362
第214図	脚形木製品・クサビ形木製品実測図	363
第215図	板状木製品実測図	364
第216図	箱形木製品実測図	366
第217図	柄状木製品・題簽状木製品・隅飾形木製品実測図	367
第218図	板状木製品・杼子・アカトリ実測図	368
第219図	建築部材・板状木製品実測図	369
第220図	杭・枝状木製品実測図	370
第221図	板状木製品・面縁状木製品実測図	372
第222図	綾編笠実測図	372・373
第223図	瓢箪・椰子実・桜皮実測図	373
第224図	深衣	375
第225図	綾編笠	377
第226図	第1河道出土鐵鏃・古鏡実測図	390
第227図	骨角器実測図	404
第228図	骨角器実測図	405
第229図	タテチョウ遺跡 №67 11層出土粒の粒形、粒点と粒幅の相関の変異	423
第230図	タテチョウ遺跡 №67 11層出土粒の粒形変異（粒長／粒幅）	423
第231図	タテチョウ遺跡（87・88）の花粉ダイアグラム	434・435
第232図	松江平野の微地形分類図	438
第233図	松江平野の基盤の地形	441
第234図	松江平野の沖積層の南北断面図	442
第235図	タテチョウ遺跡の柱状図	443

第236図	X線粉末回折パターン	448
第237図	タテヨウ遺跡堆積土壠の電気伝導度	450
第238図	タテヨウ遺跡の調査区位置図	463
第239図	タテヨウ遺跡の粒度分析試料採取地点と上層断面位置 (a. 87年度発掘調査朝駒川左岸 b. 88年度右岸)	464
第240図	タテヨウ遺跡87・88年度発掘調査土層断面図	464・465
第241図	87・88年度タテヨウ遺跡発掘調査区における河成堆積物の 累積頻度曲線(1)	466
第242図	87・88年度タテヨウ遺跡発掘調査区における河成堆積物の 累積頻度曲線(2)	467
第243図	87・88年度タテヨウ遺跡発掘調査区における河成堆積物の 累積頻度曲線(3)	468
第244図	87・88年度タテヨウ遺跡発掘調査における平均粒径と歪度の相関図	470
第245図	タテヨウ遺跡の堆積環境モデル	471
第246図	88年度タテヨウ遺跡発掘調査区の河成堆積物の泥質部における 4.5φ以下を除いた重量パーセントのヒストグラム	472
第247図	試掘区配置図 1:2000	475
第248図	試掘坑土層図	477
第249図	試掘区出土遺物実測図	478

I. 調査に至る経緯

タテチョウ遺跡は、松江市の北東方から大橋川に流れる朝酌川沿いにあり、1934年（昭和9年）に行われた堰と木門を造る工事の際、多くの土器が出土したことによりその存在が確認された。その後、1949年（昭和24年）に至って現島根大学名誉教授山本 清氏によって一部試掘が行われ、本遺跡が弥生時代を中心として古墳時代にもおよぶ複合遺跡であることが判明した。弥生時代前期の遺物は山陰地方では出土遺跡が少なかったこともあり、特に注目を引いた。

ところで、本遺跡を縦断する朝酌川は繰り返し氾濫を起こし、1970年代から急激に増加した川津地区の住宅に損害を与えるようになった。そのため島根県土木部では1972年（昭和47年）から河幅拡大の河川修理計画が企画された。この計画ではタテチョウ遺跡、原の前遺跡、西川津遺跡が影響を受けることになり、島根県教育委員会と県土木部はこれらの取扱いについて協議を重ねてきた。これらの協議に基き、1977年（昭和52年）以降島根県教育委員会は本格的な発掘調査を行ってきた。

本事業に係る調査を列挙すると、以下のとおりである。（調査面積は概数）

1974年（昭和49年）タテチョウ遺跡範囲確認のため予備調査

1977年（昭和52年）タテチョウ遺跡の概要を把握する事前調査（1600m²）（『タテチョウ遺跡発掘調査報告書』 I 1979）

1979～81年（昭和54～56年）西川津遺跡の概要を把握する事前調査（1979・200m², 80・400m², 81・900m²）（『西川津遺跡発掘調査報告書』 I・II 1980・82）

1983～85年（昭和58～60年）西川津遺跡海崎橋付近の調査（1983・2000m², 84・600m², 85・2100m²）（『西川津遺跡発掘調査報告書』 III～V 1987～89）

1984・85年（昭和59・60年）タテチョウ遺跡東山橋付近の調査（1984・1800m², 85・800m²）（『タテチョウ遺跡発掘調査報告書』 II 1987）

1987・88年（昭和62・63年）タテチョウ遺跡東山橋上流付近の調査（1987・2000m², 88・2000m²）

本報告書は、1987・88年度（昭和62・63年度）発掘調査の報告である。

以上の調査とは別に、松江市立第二中学校移転に伴い排水溝の建設が予定され、河川工事区域内ではあるが、松江市教育委員会によって1985年（昭和60年）に調査が実施された。この調査は、県教委1987年度調査区のはば中央に当る（446m²）。この調査で出土した遺物については、県教委1987年度調査区出土遺物と分離するのは望ましくないと判断から、松江市教委と県教委の共同で整理し本報告書に掲載することとした。

II. 遺跡の位置と歴史的環境

タテチヨウ遺跡は、松江市西川津町大字橋本字堅町ほかに所在する。ここは松江市街地東端にあたり、東に和久羅山、北に澄水山、大平山、御嶽山、真山などを臨む位置にある。遺跡は澄水山麓に源を発する朝鈴川沿いの沖積地に立地し、正確な範囲は確認されていないが南北約300m程の拡がりを持つと考えられる。

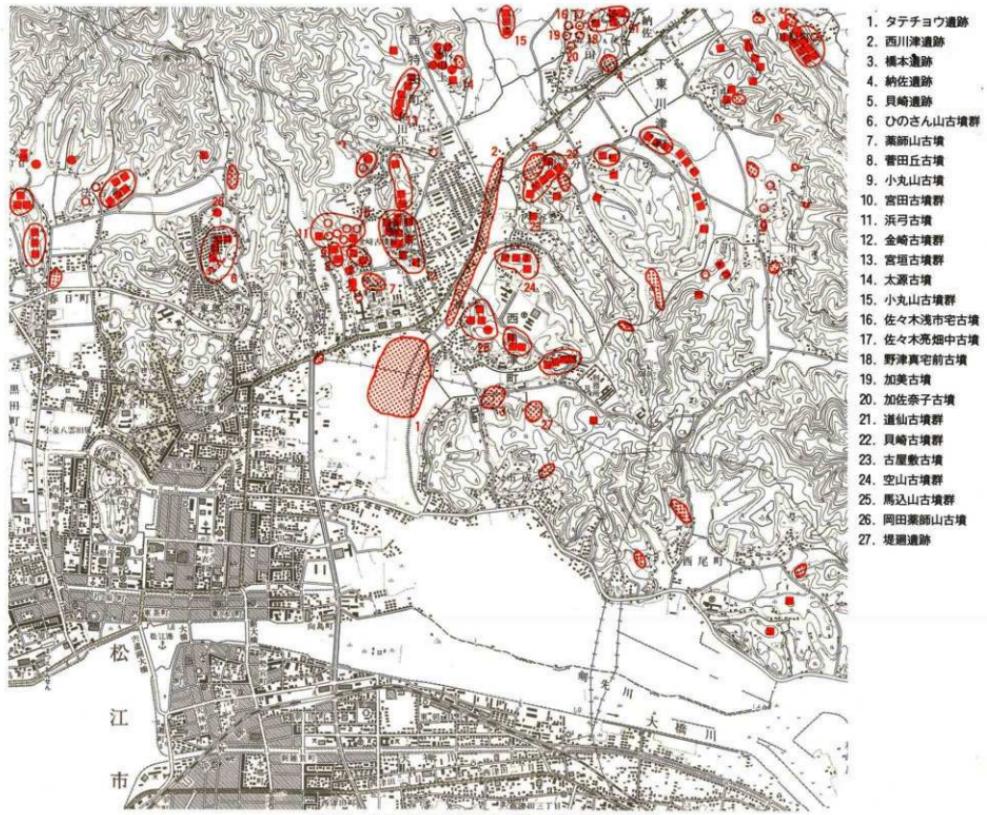
この付近は古墳を中心として多くの遺跡が存在するが、現在のところ旧石器時代の遺跡はまだ発見されていない。縄文時代の遺跡としては、西川津遺跡、金崎遺跡などが知られている。西川津遺跡はタテチヨウ遺跡の北約1.5kmに位置し、昭和55年度から4ヵ年にわたって発掘調査が行われ、縄文土器、弥生土器、木製品、石器などが多く出土した。縄文時代の遺物としては前期および晩期の土器などが多く出土したが、少數ながら早期末の織維土器などが存在するのが注目される。タテチヨウ遺跡でもわずかながら織維土器が出土しており、当地域では少なくとも縄文時代早期末には人々が生活を営んでいたことがわかる。両遺跡とも縄文時代前期後半から中期にかけての土器はほとんど出土しておらず、後期から晩期にかけて次第に上器の量が多くなるようである。

弥生時代の遺跡としては、西川津遺跡、貝崎遺跡、橋本遺跡などがある。いずれも朝鈴川沿いの水田や丘陵裾部に立地する遺跡である。このうち発掘調査が行われた西川津遺跡では前期から中期にかけての弥生土器、木製品、石器、骨角器など豊富な遺物が出土し、当地方の弥生文化を知る上で貴重な遺跡である。

古墳時代の遺跡としては、国指定史跡金崎古墳などを初め、丘陵上には多くの古墳が築かれている。典型的な前期古墳は今のところ確認されていないが、下東川津町道仙古墳群が比較的古い様相の古墳とされている。

中期になると丘陵上にかなりの数の古墳が築造される。これらは一辺20m未満の方墳がほとんどで、比較的大規模なものとしては大源1号墳（円墳径約37m）、宮垣古墳群（円墳径30m）、金崎古墳群、薬師山古墳、菅田丘古墳（前方後方墳 長さ約30m）などが知られる。また、これらは中期でもやや新しい様相の古墳が多く、前半期に遡る古墳は山崎古墳（方墳 一辺19m）などが知られる程度ではほとんどは須恵器出現期頃の古墳とされる。このうち最も著名な古墳は金崎1号墳である。この古墳は全長35mの前方後方墳で、幅広の竪穴式石室を内蔵し、副葬品も豊富で滑石製異形石持勾玉、碧玉製勾玉、同素玉、同管玉、ガラス玉、滑石製小玉などの玉類、仮製内行花文鏡、金環、直刀、須恵器などの優品が出土している。

後期古墳では東持田町佐々木亮宅畠中古墳、同野津真宅前古墳、同加佐奈子古墳、同佐々木浅市



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡(国土地理院 1:25000)

宅裏古墳、同加美古墳、上東川津町西宗寺古墳などいわゆる石棺式石室を持つ古墳が築かれる。持田・川津地区では以上のような石棺式石室が集中している地域であるが、整正のものはほとんどなく、石棺式石室亜流とされるものが多い。このほか坂本町薄井原古墳は片袖横穴式石室を内蔵する全長50mの前方後方墳で、この地方の後期古墳としては最大級の古墳として注目される。また、小規模ではあるが東奥谷町岡山薬師山古墳（方墳 一辺約12m）、塙の内古墳も横穴式石室を内蔵している。岡山薬師山古墳の横穴式石室は中国山地山間部に多いとされる無袖式の石室で、平野部ではほかに同様な石室は確認されていない。

出雲地方は古墳時代後期には横穴墓が多く作られるという特色がみられるが、本遺跡周辺では横穴墓は、穴の口横穴墓群、鍛冶屋谷横穴墓群などが知られる程度である。この付近は横穴墓より横穴式石室が盛行した地域であろうか。

このほか古墳時代の集落遺跡としては西川津町堤跡遺跡、同柴遺跡がある。いずれも丘陵斜面に立地する集落跡で、堤跡遺跡は18棟、柴遺跡は2棟の竪穴住居跡が確認されている。

律令時代の遺跡は、須恵器などが散布する遺跡は多いもののほとんどは実態が不明で、瓦などが出土した坂本町坊床廃寺は性格のわかる数少ない遺跡の一つである。天平5年に勧造された『出雲国風土記』によると、本遺跡の周辺は「烏根郡山口郷」に比定され、ここは島根郡家から秋鹿郡家に至る道すじに当っていたようである。前々回のタテチョウ遺跡の発掘調査では第Ⅲ調査区から「驛」の墨書きが始め奈良～平安時代にかけての須恵器、土師器がまとまって出土することが注目される。

タテチョウ遺跡は概ね以上のような歴史的環境を持つ川津、持田平野の一角に當まれている。

参考文献

- 島根県教育委員会 『タテチョウ遺跡発掘調査報告書』 I・II 1979・1987
島根県教育委員会 『西川津遺跡発掘調査報告書』 I 1980
松江市教育委員会 『山崎古墳』 1984
松江市教育委員会 『柴古墳群』 1985
山本 清 『山陰古墳文化の研究』 1971
加藤義成 『校注出雲国風土記』 1965

III. 調査の経過と遺跡の概要

1987年度（昭和62年度）の調査は1984年度（昭和59年度）調査区の北側、1988年度（昭和63年度）は1987年度調査区の朝駒川を挟んだ対岸（朝駒川の西岸）の発掘調査を行った。これらは1987年度調査区が1977年度（昭和52年度）の第Ⅰ調査区、1988年度調査区が同じく第Ⅱ調査区周辺に当る。調査に当ってはグリッドの設定など発掘年度毎にまちまちにならぬよう国土座標を使用し、基準点、グリッド名は1984年度調査に従つた。即ち、東西の座標軸X = -57,645,000と南北の座標軸Y = +82,170,000の交点をN0E0として基準とし、座標軸に対応するよう一辺10mの方眼を組みグリッドの単位とした。また上述の東西座標軸をN0とし北に向ってN1, N2……、南北座標軸をE0とし東に向つてE1, E2……と呼び、各方眼の東北の交点をグリッド名とした。従つて1988年度ではN9～N20, E3～E9, 1989年度ではN16～26, E4～9がおおよその調査範囲である。

1987年度 1984年度の調査区を参考に当初は砂礫層（第4層・第3図参照）以上を無遺物層として重機により除去する計画であった。ところが耕作土、黒色粘質土（第1～2層）を除去した段階で須恵器が出土し（標高約0.6m）、上部から遺物包含層であることが判明した。出土した須恵器が奈良～平安時代であったことから、この地が陸地化した以後の遺構を想定し遺構検出に努めたが、遺構は確認できなかった。これにより重機掘削は1～2層を除去するにとどめ、以下は人力による掘削とした。須恵器を出土する層は砂層と粘質土層が数cm～10cm前後の厚さで交互に堆積している（調査時には4～7層に細分）が、上部と下部では出土した須恵器に年代差は認められない。この層は次年度の調査で検出された第2河道の堆積層とよく似ており、出土遺物の内容もよく似ていることから本報告では第2河道堆積層とした。この層の下には從来から遺物包含層とされていた砂礫層（第4層）があり、前回同様標高約0 mで検出された。第4層以下の層序は報告Ⅱで10層とした砂層が存在しないこと以外は基本的に前回と同じであったが、茶色粘質土層下部（第5～2層）にヤマトシジミが混入していない部分が多いこと、その下の砂層（第6層）がN14以北では礫を多く含むなど、若干1984年度調査時の七層と様相が異なる。標高約-1 m以下では無遺物層（第7層）であったが、上面では貝殻が集積する箇所が數箇所認められ（図版5）、貝殻に混つて炭化米も出土した。貝類、炭化米については本報告第VI章で詳細が述べられている。なお、遺跡の範囲を知るために、楽山橋の下流に一辺5 mの調査区を設定し調査を行つたが、遺物は出土しなかつた。

調査はグリッド毎に行い、遺物は層ごとに取り上げることに留意した。1987年度の発掘調査は1987年5月6日から1988年1月12日の約8カ月間を要し、以後3月末まで出土遺物の洗浄、註記、分類を行つた。



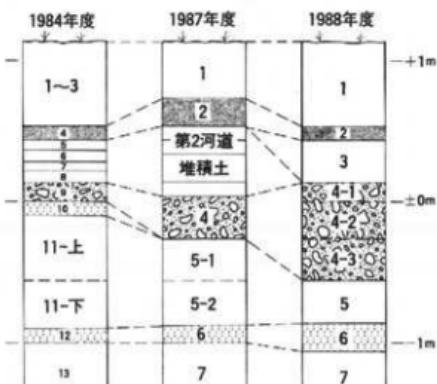
第2図 調査区配置図(「松江圏都市計画図」19 1:2,500 1987に加筆)

1988年度 矢板施工の都合で調査区をN22付近で南北二分し、南側から調査を行うこととした。前年度の調査を参考に1～2層を重機で除去し、以下を人力によって掘削することとした。1988年度からは調査区を朝駒川西岸に移したことから、1984・87年度調査区と土層の堆積状況が違うことが予想されたため、最初に東西方向にトレーナーを入れ土層の把握を行った。その結果耕作土（第1層）、黒色粘質土（第2層）、黄褐色土（第3層）除去直後に砂礫層（第4層）が検出されたが、第4層は調査区全域には広がらず調査区東側は自然河道（第1河道）によって削られていることが判明した。そのため調査は第1河道の調査、測量の後に包含層（第4～6層）の調査を行った。北半部の調査でもまず第1河道の調査から行ったが、調査途中で第1河道に重複してさらに古い時代の自然河道が確認された（第2河道）。これらの河道の発見により本遺跡での土層は基本的に次の順で堆積したと考えられた。①第7層が少なくとも標高-1m以上まで堆積 ②第7層が砂層（第6層）によって-1mまで削られ、同時に第6層が約10cm堆積 ③第5層（茶色粘質土）が少なくとも標高0mまで堆積 ④第4層（砂礫層）が第5層を削りながら標高+1.3mまで堆積 ⑤第2河道が第4層を削り込んで流れる ⑥第2河道埋没 ⑦第1河道が第2河道堆積土を削り込んで流れる ⑧第1河道埋没 このような状況を考えると、1984・87年度では88年度に比べ第4層が薄い、1988年度では84・87年度に比べ5層が薄い、という東西調査区の土層の違いは前者では⑤の作用、後者では④の作用が強く働いたためと理解できる。

1988年度の調査は4月11日から始め12月24日の約8ヶ月間を要し、以後3月まで出土遺物の洗浄、註記、分類を行った。この間、将来の調査に備え、原の前遺跡の試掘調査を行った（7月19日～7月29日）。

1989年度 1989年度は報告書の作成、出土遺物の整理を行った。遺物の整理は木製品、金属器、試掘分を三宅、土器・石器その他を柳浦が分担して行った。

土器、石器その他については、洗浄の終了したものから全てに目を通し、実測可能なものの、特異なものを抽出し、それのみについて註記を行った。さらに時期別、器種別、型式別、文様別に分類を進め、それぞれのグループの中で優先順位をつけ実測するものを決定した。報告書掲載に当っては



1987.88年度 1.耕作土 2.黒色粘質土 3.黄褐色土 4.青灰色砂礫層
5.灰色粘質土 6.灰色細砂層 7.暗茶色粘質土(無遺物層)
1984年度の番号は報告IIで使用した番号と同じ

第3図 土層の対比
(右の数字は標高、点線は同一層を結ぶ) 1:40

できるだけ多くの種類を掲載するよう配慮したが、一つの型式が全体に対して占める比率は時間的な制約もあり求めることはできなかった。

木製品の整理に対しては、まず一点一葉の略図を付したカードを作成し、それに通し番号を記すこととした。これによって器種分類、実測優先順位等を決定する作業を行った。実測に際しては前述した通し番号は実測図の番号と一致させておいた。一方木製品は長年水漬の状態となっているものの中には遺跡名、出土年月日、取り上げ番号等を記入したラベルが腐蝕したり、インクが流出したりすることが多かった。そこで今回はラベルに実測番号（カード作成時の通し番号）を併記し、実測が終了したものから、ラベルにビニールパック加工を施してビニールひもで結びつけることとした。これによって今後収蔵庫内の木製品は実測番号からも、報告書の一覧表からも検索することが可能となると考えた。これらの作業と併行して実測が終了した木製品から樹種鑑定用のプレバーラーを作成する作業を行った。

IV. 第4層～第6層出土遺物の考古学的検討

今回の調査でも、前回同様多量の遺物が出土したが、時間および紙数の制約から掲載できた遺物は約2500点にすぎない。

今回の調査では第1、第2河道が検出され、各河道からも遺物が出土した。これらは遺構内出土遺物として括して扱うのが常套であろうが、明らかに混入と考えられる縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器、石器などは第4～6層出土のものと同じ項目で扱った。木製品についてはそれぞれの時期判定が困難であることから、各河道出土木製品の項で扱った。

1. 縄 文 土 器

早 期（第5図J3～J7 図版21）

胎土に繊維を含み、縄文を施すいわゆる菱根式土器である。J4は表裏縄文の土器である。

前 期（第4図J1・第5図J8～第6図J48 図版21・22）

前期初頭の上器（J1, J8～J35）は刺突文、条痕文、沈線文、隆帯文が施され、口縁部は折返し口縁（J8, 9など）の土器が多い。胎土には繊維が含まれるもののがわずかにある（J1, 9, 10, 12）。文様のうち最も多くみられるのは刺突文で、押し引き状のものを含めるとかなりの量を出土している。これらは棒状、半截竹管状、二枚貝などの工具によって施文される。半截竹管状工具による刺突文は、後出の北白川下層Ia式（羽島下層式）のD字爪形文に似た感じを受ける。隆帯文はJ21, 27

のようにミミズバレ状のものとJ22, 24, 25のように太い隆帯文のものとがある。

前期前葉の土器のうちJ38は3字形の爪形文が施されることから羽島下層Ⅲ式に併行すると考えられる。またJ36, 37はD字爪形文、J39とJ40はC字連続爪形文が施され、前者が羽島下層Ⅲ式古（北白川下層Ia式）、後者が羽島下層Ⅲ式新（北白川下層Ib式）に併行すると思われる。

底部は3点岡示した（J41～43）。いずれも丸底で、主に二枚貝条痕で調整されることから磯ノ森式併行期までは下らず、前期初頭～前葉の土器であろう。

前期後葉～末の土器は出土量が非常に少なく、5点岡示できたにすぎない（J44～48）。J44～46は口縁部内面に粘土帶を貼り付けて肥厚させる土器で近畿地方の大歳山式に併行すると思われる。J45, 46は外面と内面の口縁肥厚部に繩文が施されるが、J44は外面のみに繩文が施される。J47とJ48はともに細い突文が施される土器で、外面にはJ47に繩文、J48に刺突文が施される。ともに彦崎Ⅱ式に併行する土器であろうか。

中期（第4図J2, 第6図J49～第7図J61 国版21～23）

船元式に併行すると思われる土器はJ49～53である。J49は太い沈線文と爪形文で飾られる土器で鷹島式の特徴を持つ。器面が荒れているため定かではないが繩文地であろうか。J52, 53は口縁部外面に粘土帶を貼り付け肥厚させる土器で船元Ⅰ式に併行すると思われる。J51は繩文はみられないが、突文の周辺に円形の刺突文を施すもので船元Ⅱ式の特徴を持つことから、当該時期と判断した。

J54～57は里木ⅡまたはⅢ式に併行すると思われる。J54, 55は繩文地に大きな波状文が施され里木Ⅱ式に併行する。J56は口縁部に細かな波状文が施されるが、器面が摩滅しているため繩文地、条痕地のいずれかであるか不明である。J57は燃糸文土器でやはり里木Ⅱ式に併行すると思われる。

J58～60については併行型式名は不明であるが、一応中期末に位置づけた。J60は仁多郡横田町竜ノ駒遺跡出土土器に似る。

後期（第7図J62～第9図J128, 第10図J138～142 国版23～25）

今回の調査では後期の土器は比較的多く出土した。特に縁帯文土器以後の土器が多い。

J62～71は中津式に併行する土器である。J62は渦状突起で円形刺突文が施され、口縁外面には太い沈線文が施される。他は口縁～胴部片で、いずれも沈線文が施される。J66, 67, 69は磨消繩文である。

J72～77は後期前葉と思われる。このうちJ72, 73は3条の沈線文を基調にすること、J74, 75は福田貝塚資料に同様な口縁突起があることなどから福田K2式に併行する土器であろう。J76は口縁外面がやや肥厚し繩文が施されているように見える。J77は肥厚した口縁部に太い沈線文が施されている。

J78～80, 82～84, 86, 138, 139は彦崎K1式に併行する土器である。J78～80は沈線文が直線

的に描かれ、J 82は肥厚した口縁部上面に山形文が描かれている。J 83, 84はともに胴部片で上部に繩文が施されている。J 138, 139は口縁部が肥厚する鉢で、J 138の胴部に細い斜沈線文、J 139の口縁部には繩文が施される。

J 81, 85は彦崎K2式併行の上器と考えられる。J 81は突帯文を貼り付け、沈線文間に刻目文を施す。J 85は口縁部が肥厚し繩文が施される。

J 87~89は併行型式名は不明だが、概ね後期頃と考えたい。沈線文の形状からJ 87が前半期、J 88が後半期であろうか。

J 90~105は近畿地方の一乘寺K式~元住吉山I式に併行すると思われる。J 92は注口土器、J 140, 142は浅鉢で、他は深鉢である。深鉢は逆「L」字口縁の土器が多く、逆「L」字口縁でないものはJ 95, 102, 104である。文様は細い沈線文を基調とするものが多いが、J 97, 98, 105は連続刺突文が施される。残存状態の良好的な土器には沈線文間に繩文または刻目文が覗える（J 90, 91, 93, 96, 99など）。J 100は沈線文の上下に刻目文が施されている。J 140, 142は浅鉢で、口縁内面に沈線文と繩文が施される。

J 107~113は元住吉山II式に併行する土器である。J 107は卷貝によってひかれた凹線文の端部を刺突している。J 108は逆「L」字口縁で、外面に凹線文が描かれ、J 109, 110, 112, 113は口縁内面に凹線が1~2条と繩文（J 112）または刻目文が施される。またJ 111は注口土器である。

J 114~126, 141は宮窓式に併行する土器と思われる。口縁部は逆「L」字形を呈し、外面に凹線文を施すもの（J 115~120, 123, 126, 141）、内外面に凹線文を施すもの（J 121, 122, 124）、内面に凹線文を施すもの（J 125）がある。凹線文は卷貝によって施文されるものが多く、J 119には扇状圧痕文がみられる。

J 127~131は口縁部の屈曲が宮窓式併行期の土器ほど明瞭ではなく、凹線文も明瞭に施されない上器である。J 114~126との関係は定かではないが形態が比較的似ていることから、ここでは一応後期末~晚期初頭に位置づけたい。

晩期（第9図J 132~137、第10図J 143~第23図J 408 図版25~36）

晩期の上器は繩文土器中最も多く出土しており、272点を図示した。後半の突帯文土器が最も多いのは從来と変わらないが、今回の調査では前半期の土器と浅鉢が比較的多く出土したことが注目される。また、晩期初頭の土器は今回も出土していない。これらは全体の器形から深鉢がI~IV、浅鉢がI~III類に大きく分類できる。また深鉢のうち突帯文土器は突帯の形と位置から1~5類に分類できる。一覧表中の分類名はこの記号の組み合わせである。

I (J 150, 165など) 頸部が緩くくびれ口縁部が外反するもの。

II (J 158, 162など) 頸部がくびれず胴部からそのまま口縁部に至るもの。

III (J 178, 183など) 頸部がくびれず、口縁部のみが外反するもの。

IV (J 196, 197など) 胸部・口縁部が大きく内湾するもの。

深鉢のうち突帯文土器は以下の5類に分類できる。

- 1 (J 163, 240など) 口唇部は面取りされ平坦。突帯は口唇よりやや下った位置に付される。口唇と突帯の2ヶ所に刻目が施される。
- 2 (J 242, 244など) 1類と形状、突帯の位置は同じだが、刻目は突帯のみに施される。
- 3 (J 252, 284など) 口唇部は面取りされず先細で、突帯は口唇のやや下に位置する。
- 4 (J 180, 249など) 口唇部に接して突帯が付されるもので、突帯は高い。
- 5 (J 175, 245など) 口唇部に接して突帯が付されるが、突帯上面と口唇部とが同時に調整されているため口唇は先細で突帯は低い。

中国地方の晩期の土器編年は近年岡山地方で整備されつつある。それによれば谷尻式—(原下層式)—前池式—(黒土BII式)—一沢田式とされ、谷尻式、原下層式が突帯文出現以前、前池式以降が突帯文土器である。本遺跡では突帯文のないI類土器に口唇刻目文、爪形刺突文が施されるものが多く (J 149, 150など)、調整も二枚貝条痕を基調としていることから谷尻式に併行すると考えてよからう。爪形文のない上器群 (J 143~148, 151など) についても調整・器形から同時期と思われる。また J 154, 155の胸部にみられる強いナデによる凹線文は近畿地方滋賀里IIIb~IV式にみられ、やはり突帯文出現前後と思われる。J 214~216は口唇が肥厚し原下層式の特徴をもつが、当地方では一般的とは言い難い。突帯文出現直後の型式は前池式が当たられており、頸部に沈線文、刺突文があることから J 157, 229, 230は前池式併行と考えられる。無文の突帯文土器については細分の根拠はないが、I₁, I₂類 (J 158~165など) が口唇、突帯の形状・調整が谷尻式、前池式に似ていることから突帯文土器の中でも古い時期に位置づけたい。一方II類 (J 176~179など) は条痕がほとんどみられず、刻目文もないものが多い。一見したところではより弥生土器に近い感じであることから、最も新しい突帯文土器と考えたい。II類は様々な要素があり、同一時期とみなしづらいが、大部分はI₁, I₂類とII類の中間に位置するのではないかろうか。以上は『報告』1で述べられている「口唇と突帯に刻目」・「突帯のみ刻目」・「刻目なし」という変化にかなりの部分が対応しているようである。もちろん例外もあり全てをこの図式に当てることはできないが、大勢としては無文化の傾向があることは認められる。詳細な検討を加えれば合理的な細分が可能であろう。

今回の調査ではハケ目またはていねいなナデ調整が施される土器が比較的多く出土した (J 182~197, 298~308)。これらはIII, IV類の大部分、II類の一部にみられる。口唇部が平坦なものが多く突帯がやや下がった位置にあることから古くみる向きもあるが、弥生前期の土器と同一層から出土したとされる鳥取県羽合町長瀬高浜遺跡、同倉古市イキス遺跡、島根県庵島町氏元遺跡などでも

同様の特徴を有していることから、弥生土器に最も近い一群と考えてよからう。なおⅡ₁類との前後関係は不明である。

このほか小数ではあるが胴部に突帯を付すものが2点ある（J 309, 310）。これは2条突帯文深鉢の胴部であろう。管見によれば2条突帯文深鉢は島根・鳥取両県ではほとんど出土例がなく、わずかに大社境内遺跡から出土した1点が知られるのみである。

浅鉢の分類は以下のとおりである。

- I₁ (J 311, 312など) 長頸浅鉢のうち口唇部が丸いもの。
- I₂ (J 313, 324など) 長頸浅鉢のうち口唇部が肥厚し平坦面をなすもの。
- I₃ (J 326, など) 長頸浅鉢のうち口唇部が肥厚し内面に段を持つもの。
- I₄ (J 382, 383など) 長頸浅鉢のうち口唇部が肥厚し、外面が突帯状に膨るもの。
- II₁ (J 316, 317など) 口縁部が内湾するもののうち、口縁部が直立気味にたちあがるもの。
- II₂ (J 355, 358など) 口縁部が内湾するもののうち、口縁部が大きく開くもの。
- III (J 318, 319) 頸部が緩く屈曲し口縁部が外反するもの。J 318, 319とも口唇部近くに沈線文が施される。
- IV (J 329, 330) 口縁部は短く直立し端部は厚い。肩部は強く張る。
- V (J 334, 335など) 頸部は短く屈曲し肩部は強く張る。口唇は肥厚し段をなす。
- VI (J 337, 338など) 口縁部がやや長く、胴部との境は屈曲し逆「く」字形を呈する。
沈線文が描かれるものもある。
- VII (J 339) 口縁部がやや長く胴部との境は屈曲するが明瞭ではない。他類に比べ深身。
- VIII (J 340) 口縁部が逆「く」字形に屈曲し上方に伸びるもの。
- IX (J 344, 346など) 碗形を呈し、口縁部が短く逆「く」字形に屈曲するもの。
- X (J 345) 碗形のもので直頸に似るが、口縁部が長く伸びる。
- XI (J 347, 348など) 口縁部は短く屈曲し、口唇部が肥厚するか外反するもの。
- XII (J 353, 354など) 口縁部がわずかに屈曲するが、外面には綫がつかない。

以上のように浅鉢の器形は多いが、浅鉢は各地の形態差が少なく併行関係を知るのに適していると言われる。これにより各類の併行型式を考えると、I₁, I₂類は谷尻式、I₃, I₄類は谷尻～前池式、III, V₁, X類は近畿地方滋賀里Ⅲb～Ⅳ式、VII類は滋賀里Ⅲ式、VIII類は滋賀里Ⅲb式、XI類が滋賀里Ⅳ式に似たものがみられる。VI類は近畿地方滋賀里Ⅳ式、岡山地方沢田式に似た土器がみられるが、滋賀里Ⅳ式と沢田式は時期的に違うとされることから検討が必要であろう。II₁, III類は浮文や沈線文で飾られることから谷尻式以前と考えたい。II₂類は晩期を通じて存在するが、内面や口唇部に竹管文、刻目文を持つものは深鉢I₁類と似た要素があることから谷尻式以前であろ

うか。壺類は他地方ではあまりみない土器であるが、有文土器（J 391など）の刺突文が深鉢I₁類の刺突文と同じことから谷尻式に併行すると考えられる。壺類は晩期後半を通じて存在するようである。

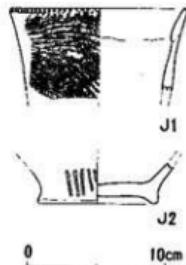
深鉢、浅鉢のほか、今回の調査では壺が3点出土した（J 201～203）。いずれも尖帯文を1条付け、J 202以外は刻目文を施す。併行型式名は不明である。

時期不明の土器（第23図 J 409～第24図 J 420 図版37）

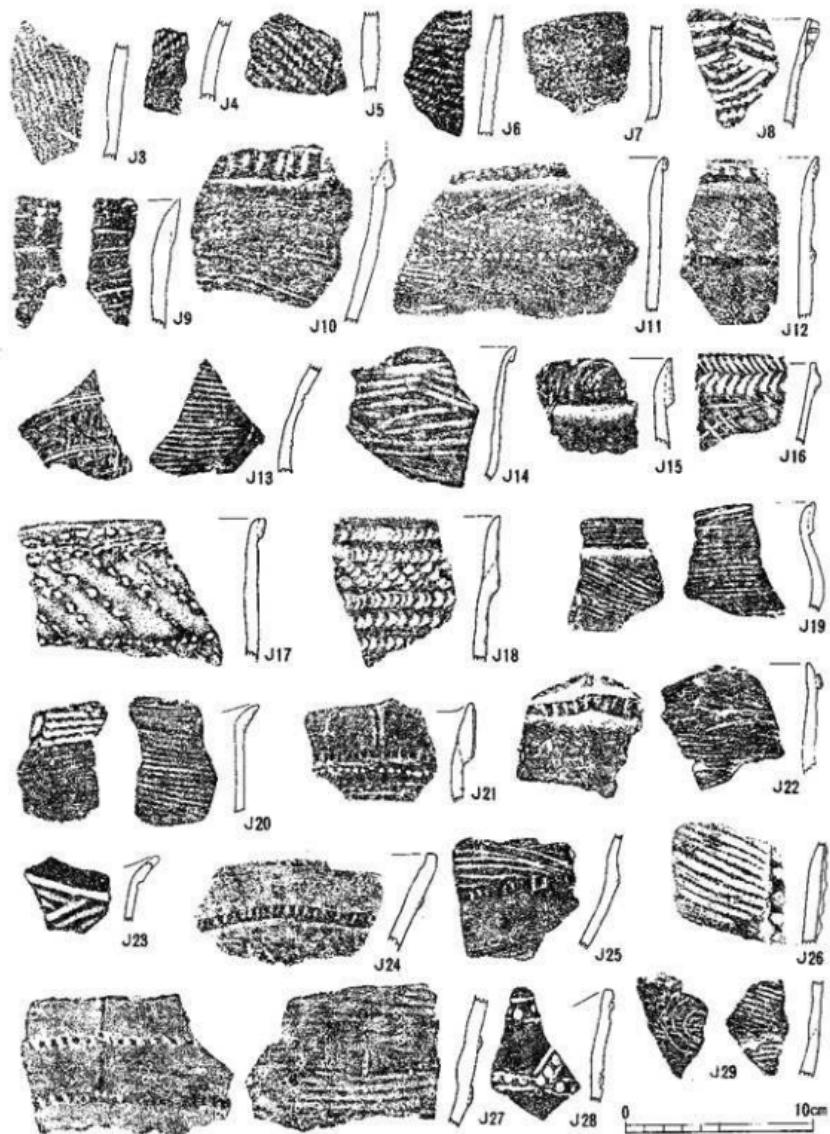
時期を判別しえなかつたものを一括して掲載した。

参考文献

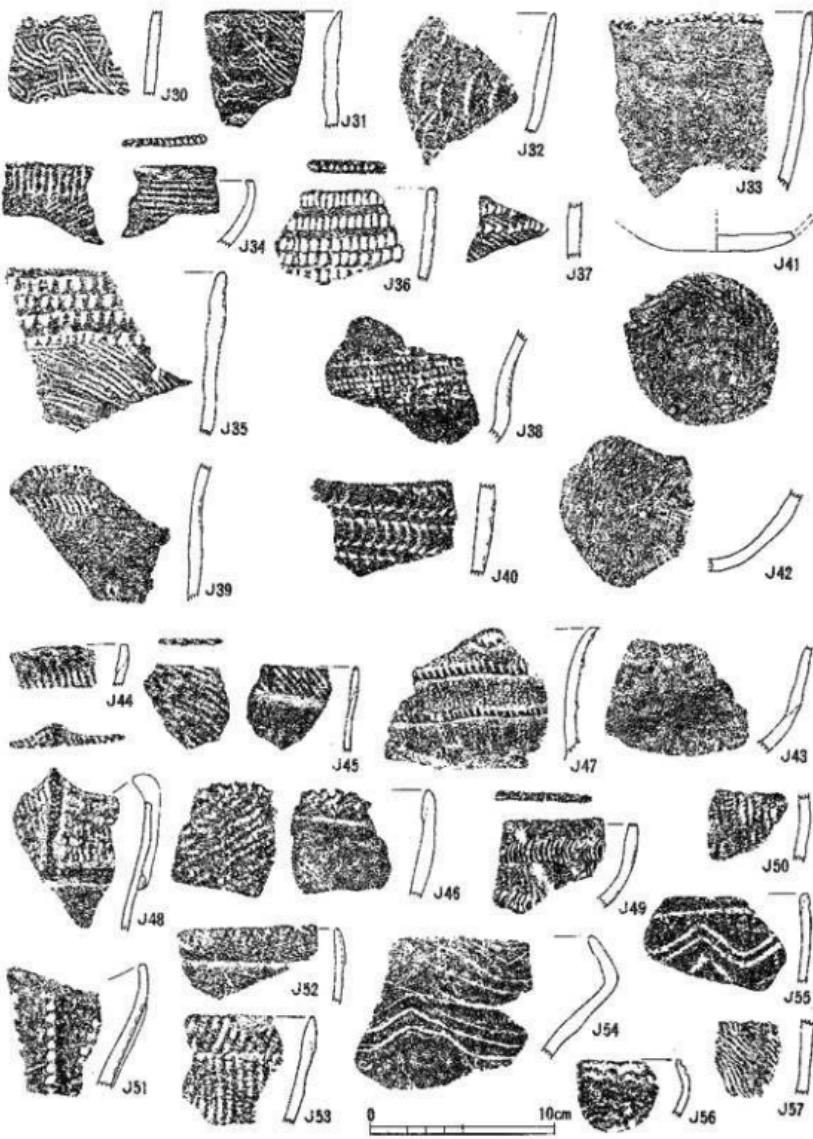
- 新版「考古学講座」3 1969 雄山閣
『日本の考古学』Ⅱ 1965 河出書房新社
『縄文文化の研究』Ⅷ 1981 雄山閣近畿地方晩期の型式名は家根祥多「近畿地方の土器」に載った。
『縄文土器大綱』3・4 1988, 1989 小学館
平井 勝 「岡山県における晩期尖帯文土器の様相」『古代吉備』第10集 1988 古代吉備研究会 岡山県地方晩期の型式名はこれに載った。
宍道正年 「鳥取県の縄文式土器集成Ⅰ」 1974
『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』Ⅳ 1983 鳥取県教育文化財団
『勝武地区県営箇跡整備事業発掘調査報告書4 氏元遺跡』 1989 鳥取県鹿島町教育委員会
『イキス遺跡発掘調査報告書』 1989 鳥取県倉吉市教育委員会
本文、一覧表中の併行型式名は東栄良、宮本・大内氏の指導を得て柳緒が判断した。誤りは全て柳緒に責がある。



第4図 縄文土器(1)
前・中期 1:4



第5図 縄文土器(2) 早・前期 1:3



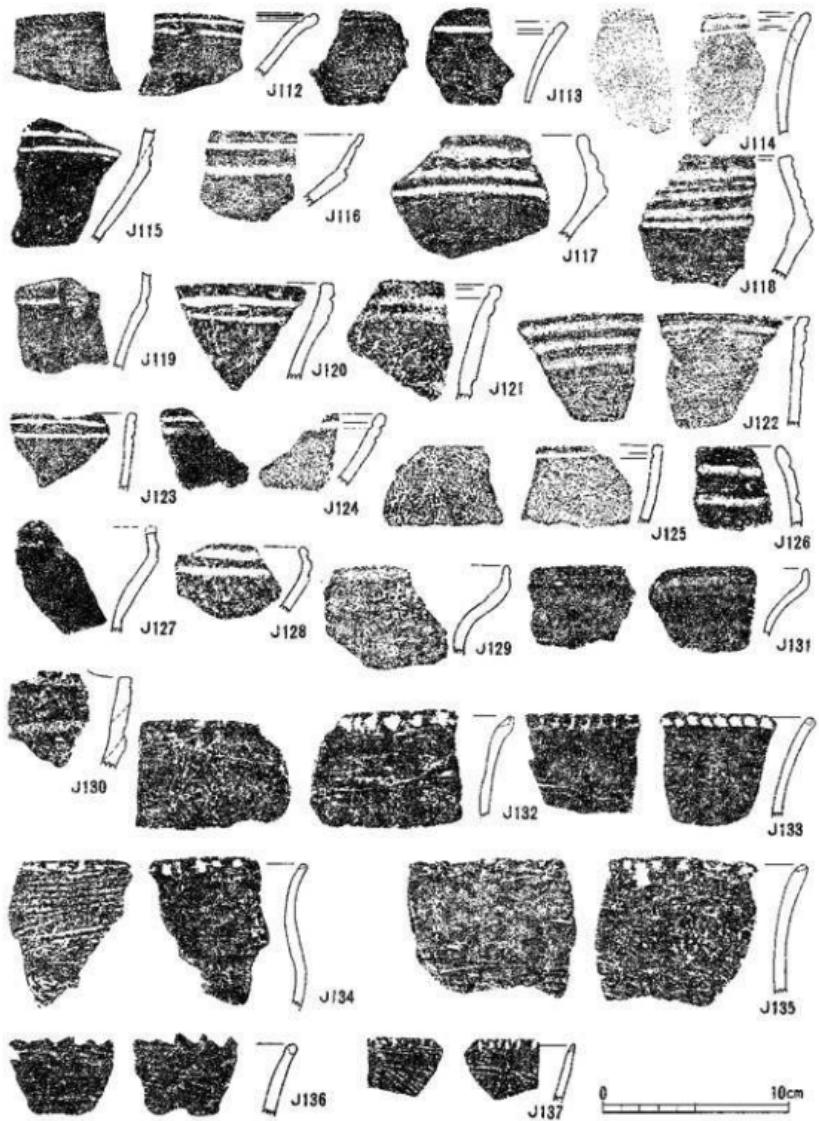
第6図 縄文土器(3) 前・中期 1:3



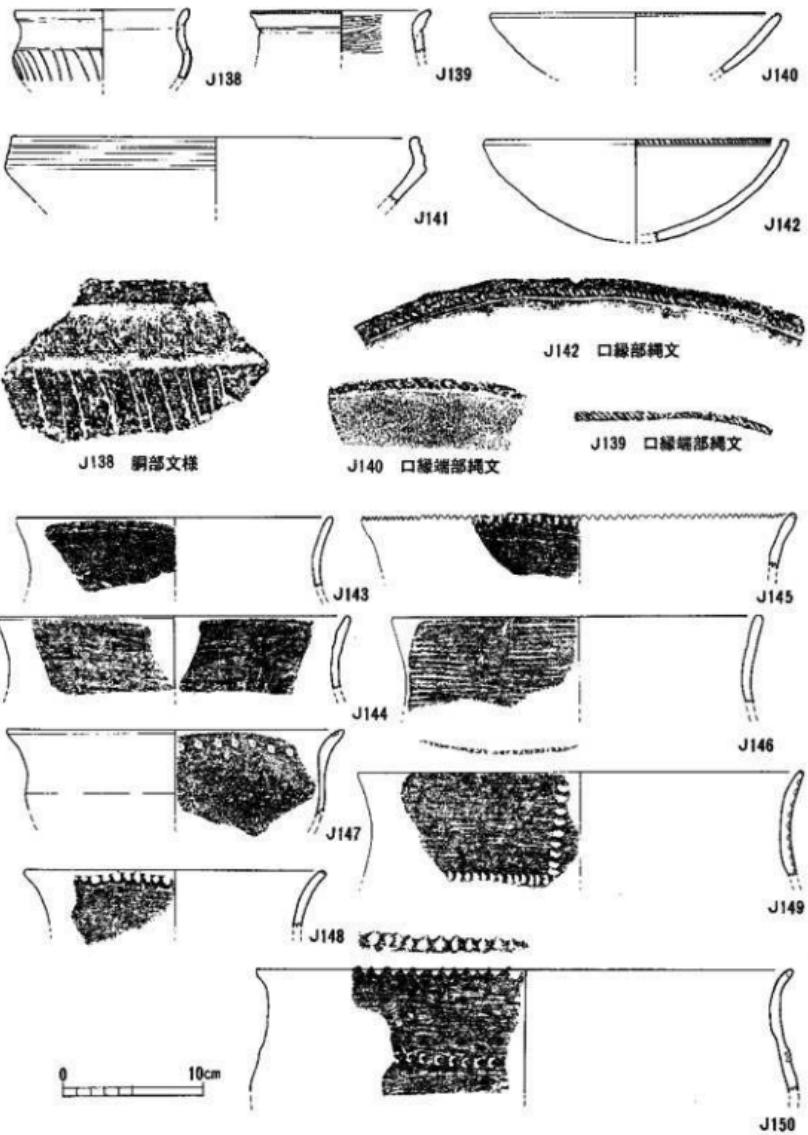
第7図 繩文土器(4) 中・後期 1:3



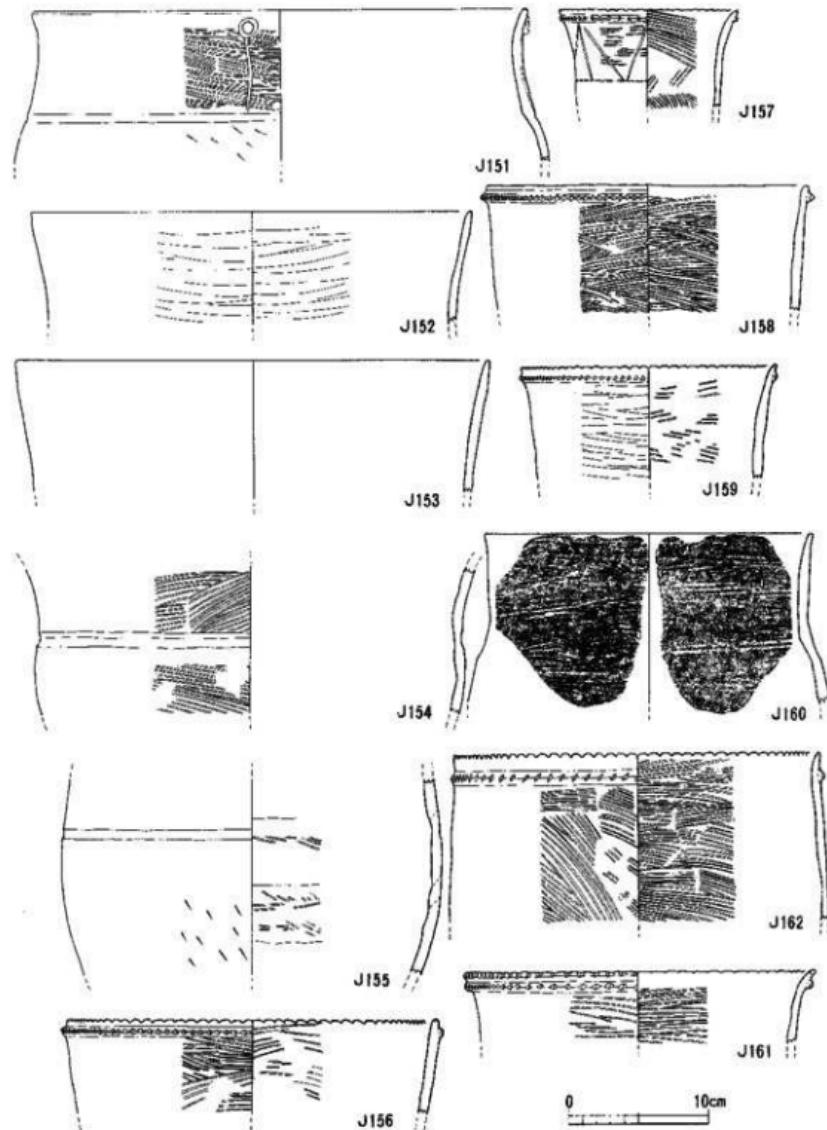
第8図 縄文土器(5) 後期 1:3



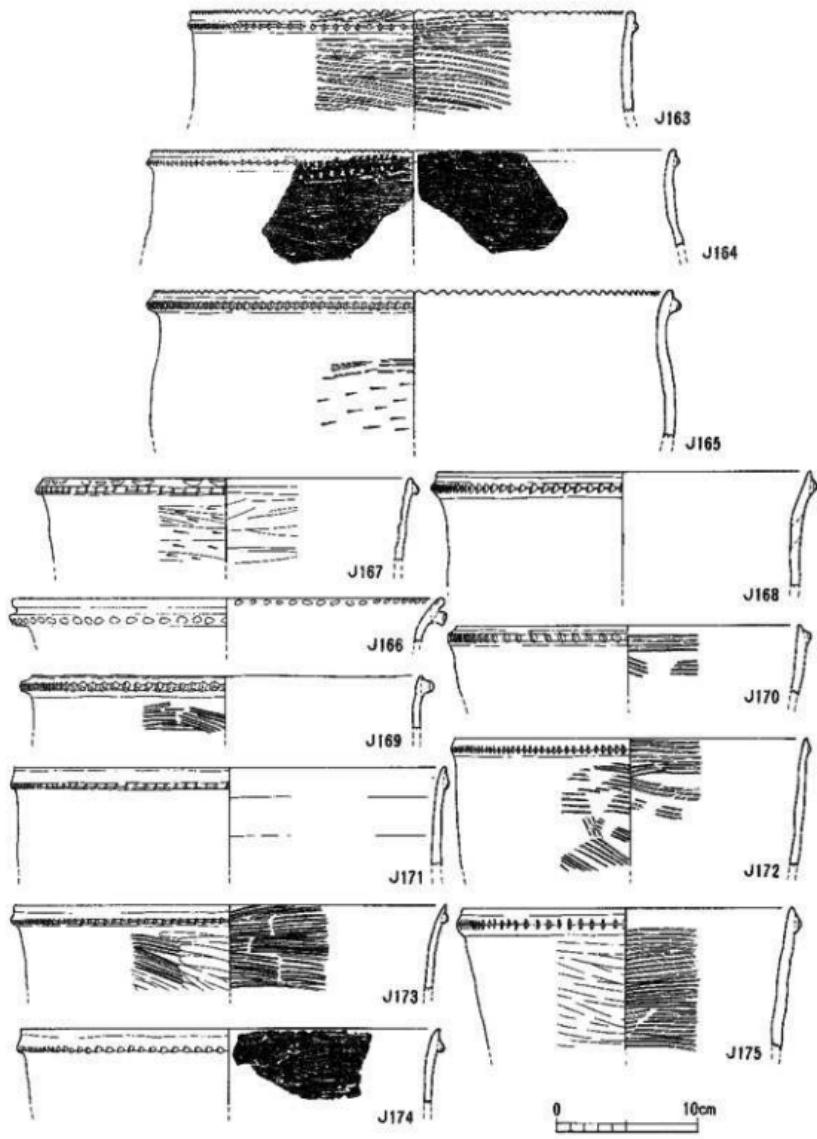
第9図 繩文土器(6) 後・晩期 1:3



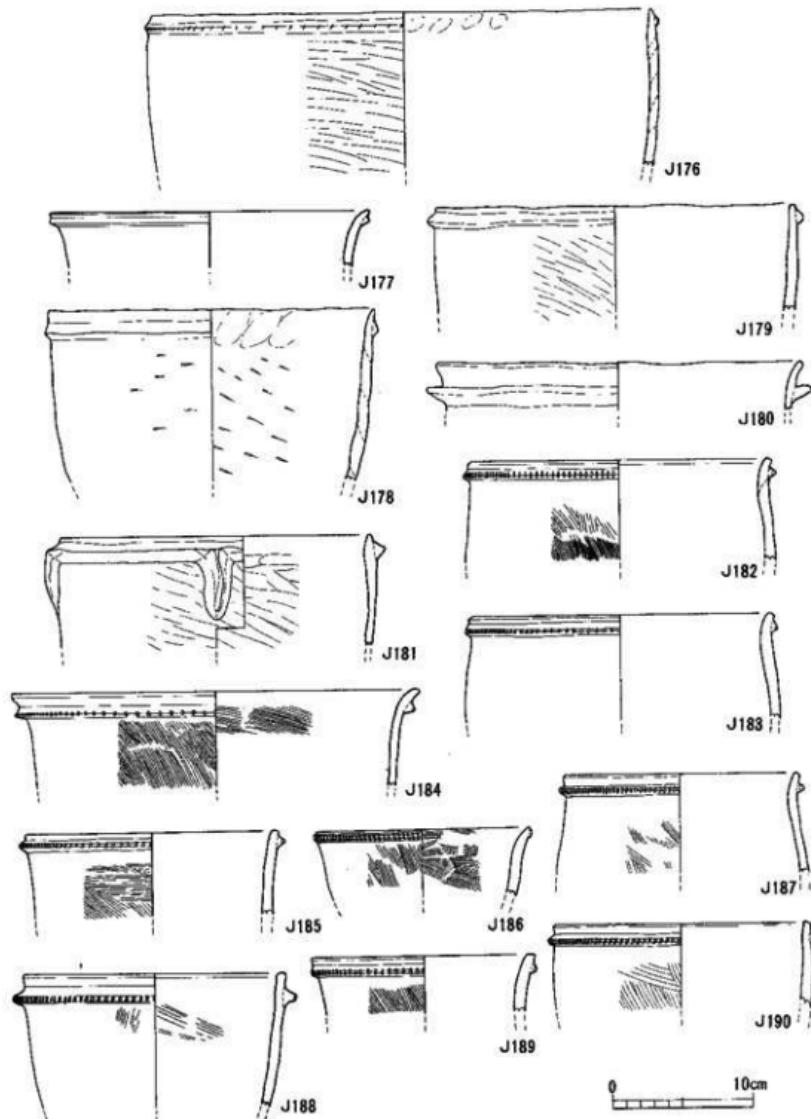
第10図 縄文土器(7) 後期・同細部拓影・晩期 1:4(拓影は1:3)



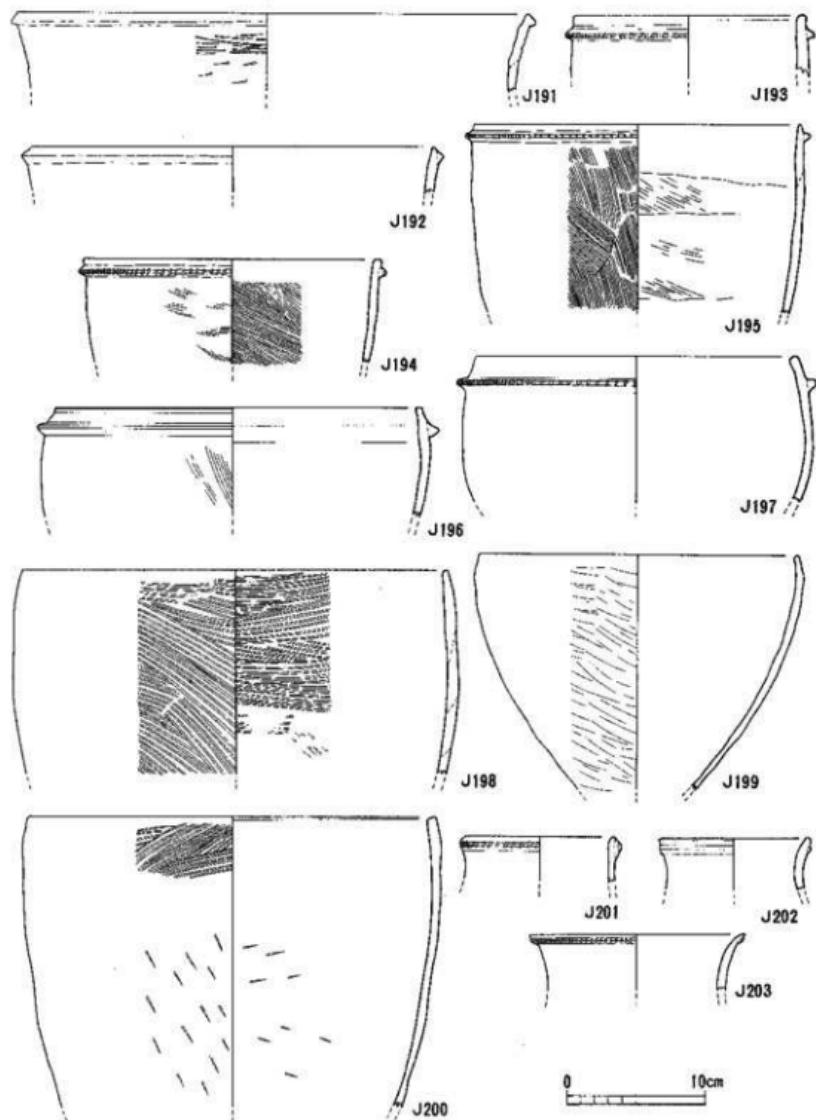
第11図 縄文土器(8) 晩期 1:4



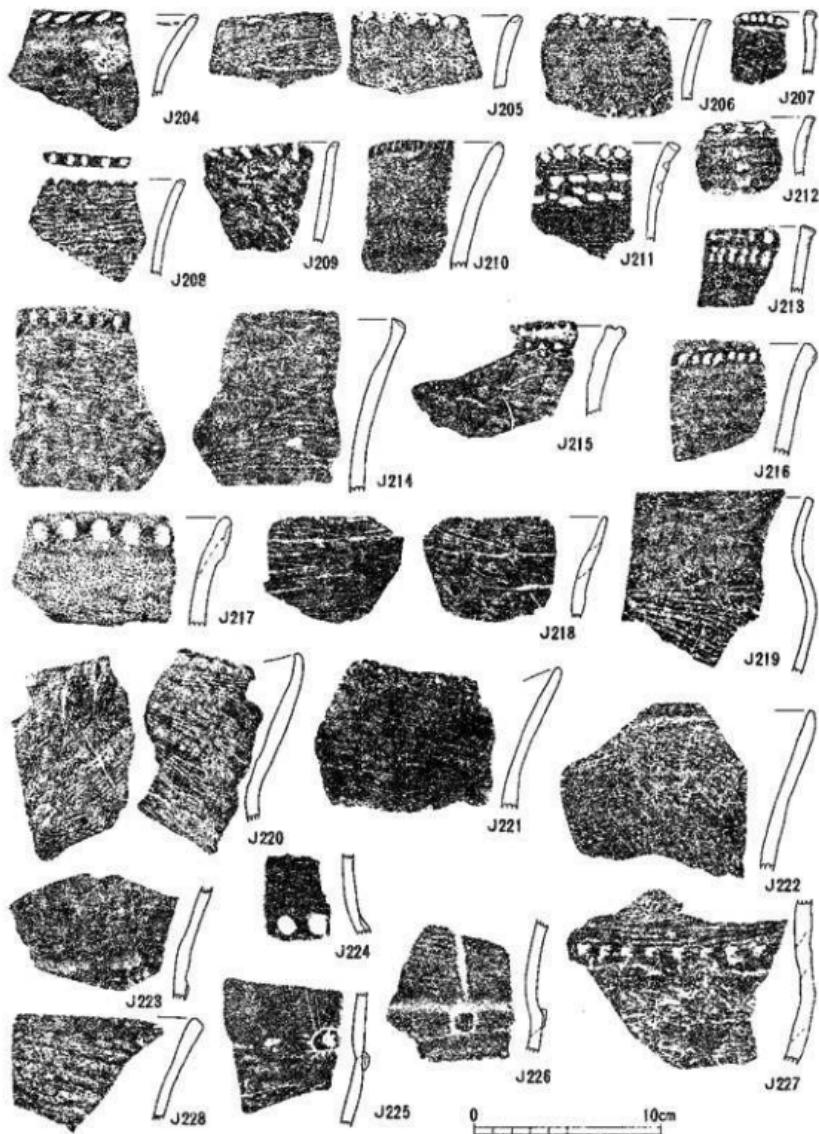
第12図 桶文土器(9) 晩期 1:4



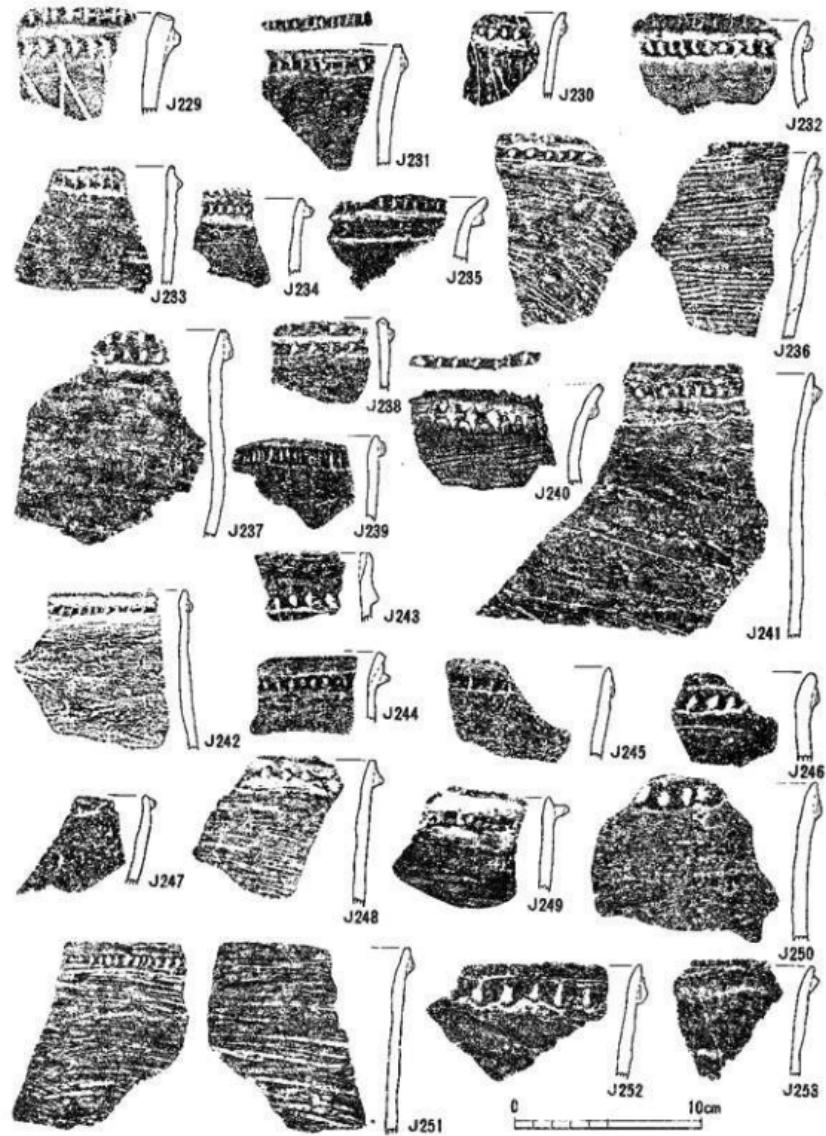
第13図 繩文土器(10) 晩期 1:4



第14図 縄文土器(11) 晩期 深鉢・壺 1:4



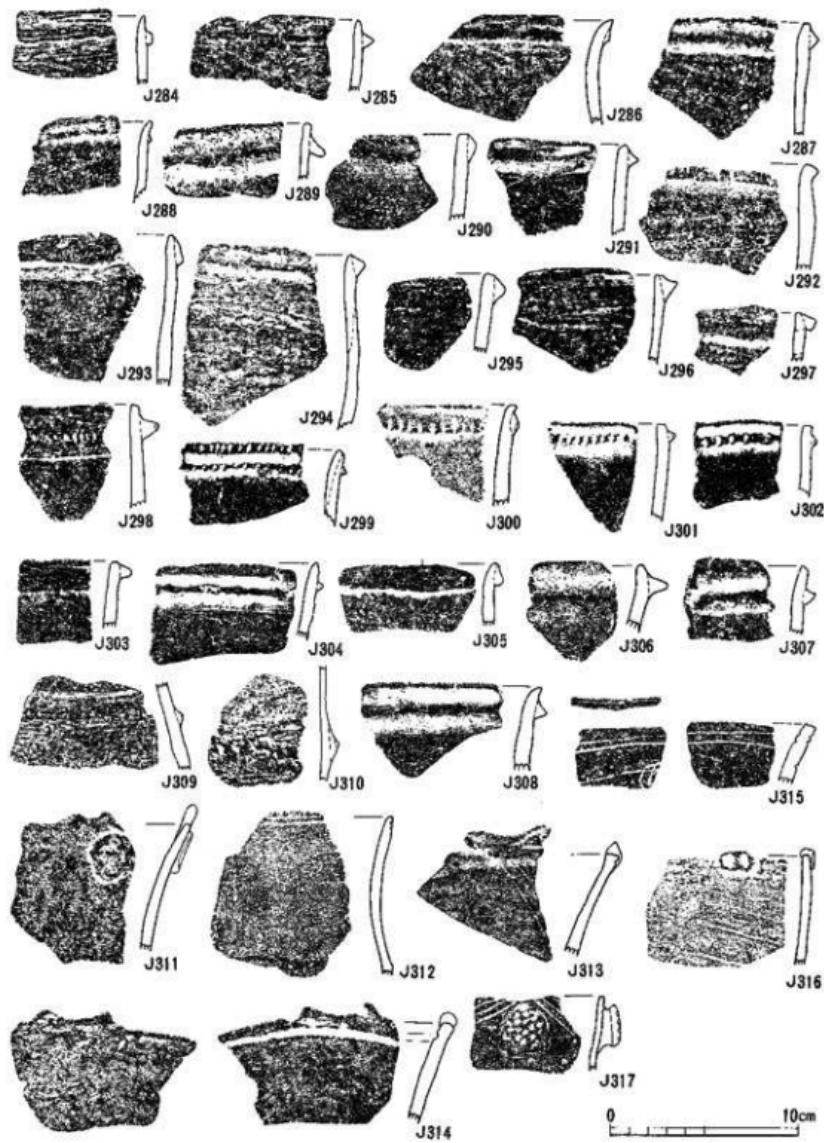
第15図 縄文土器(12) 晩期 钺 1:3



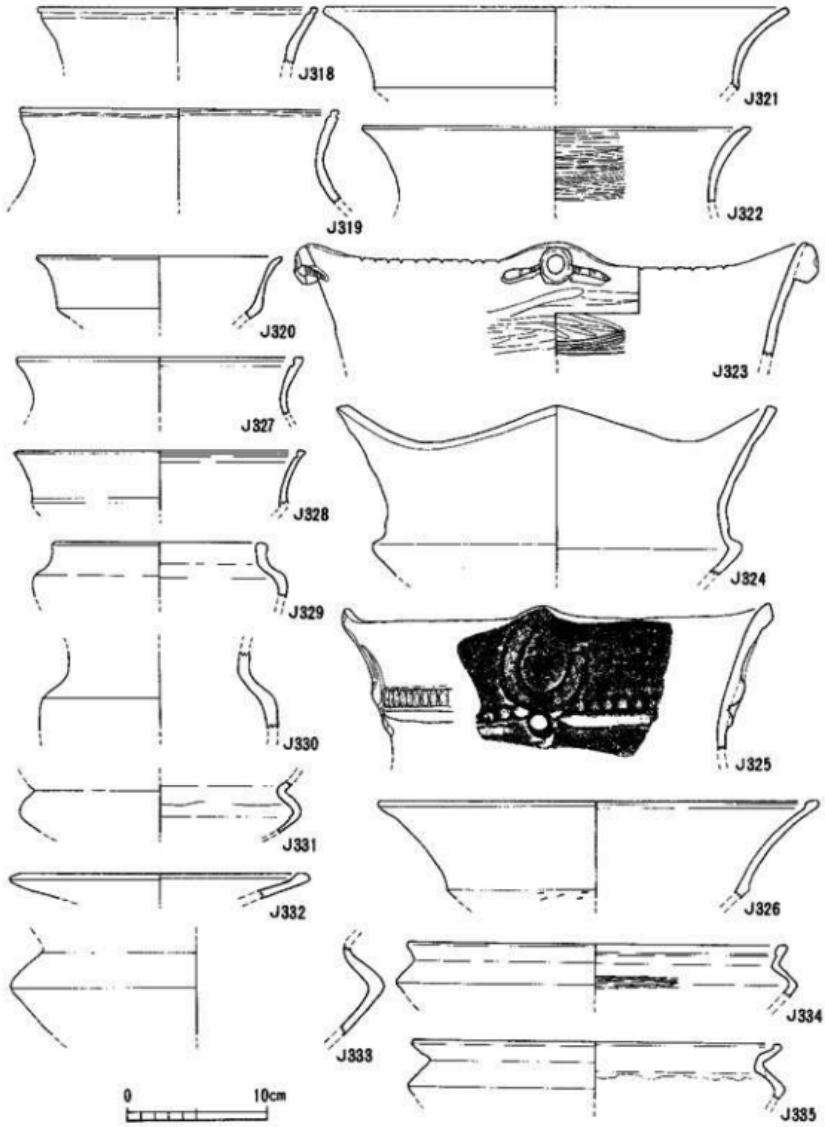
第16図 捺文土器(13) 晩期 深鉢 1:3



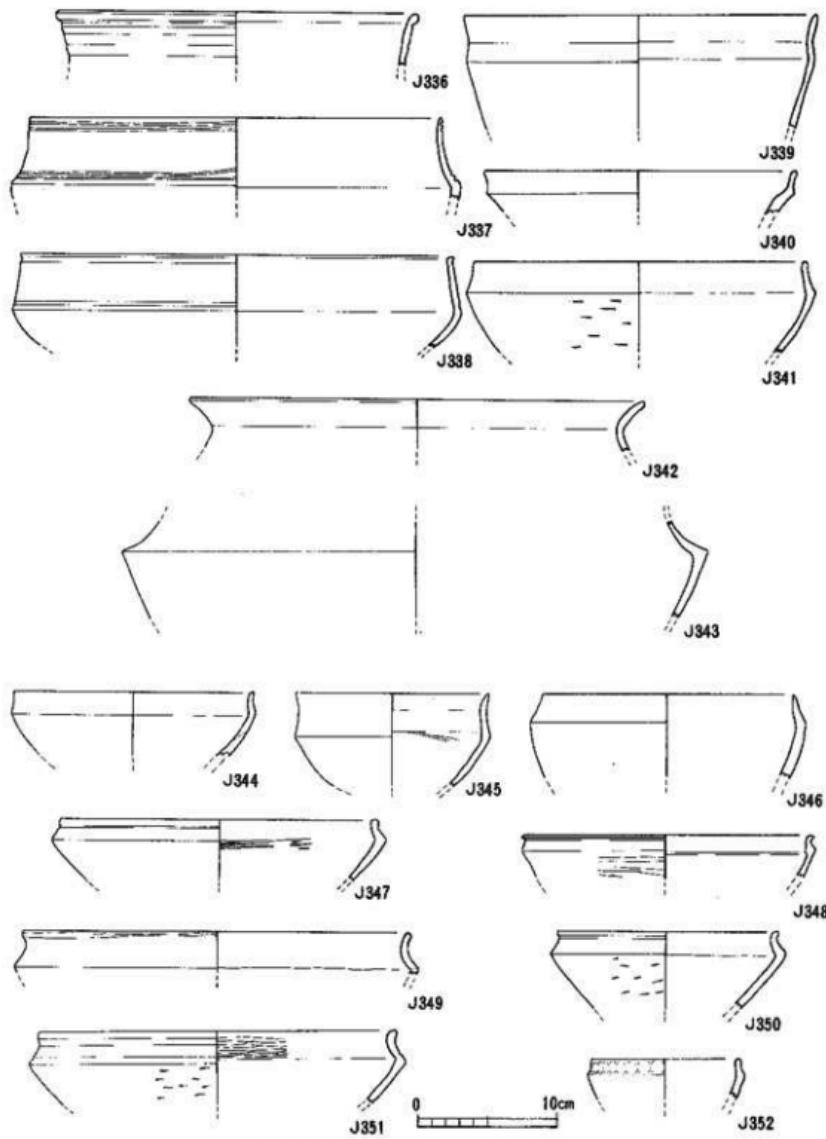
第17図 縄文土器(14) 晩期 深鉢 1:3



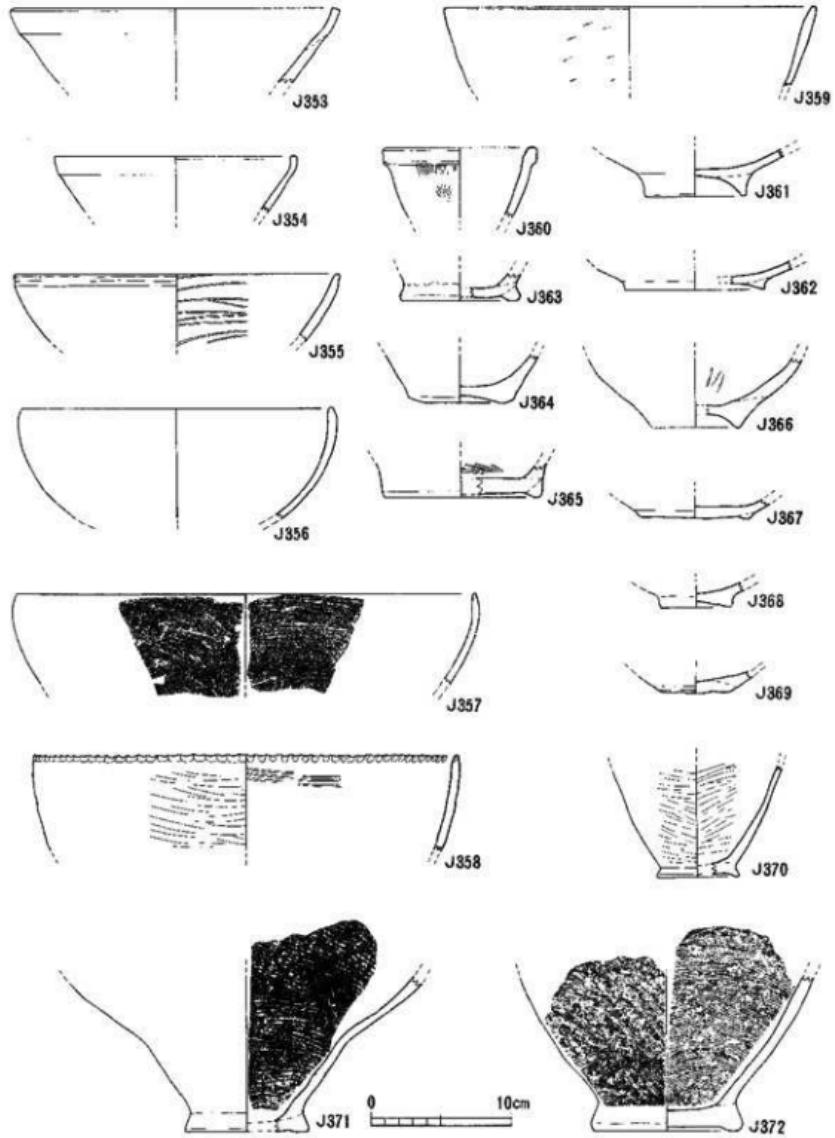
第18図 繩文土器(15) 晩期 深鉢・浅鉢 1:3



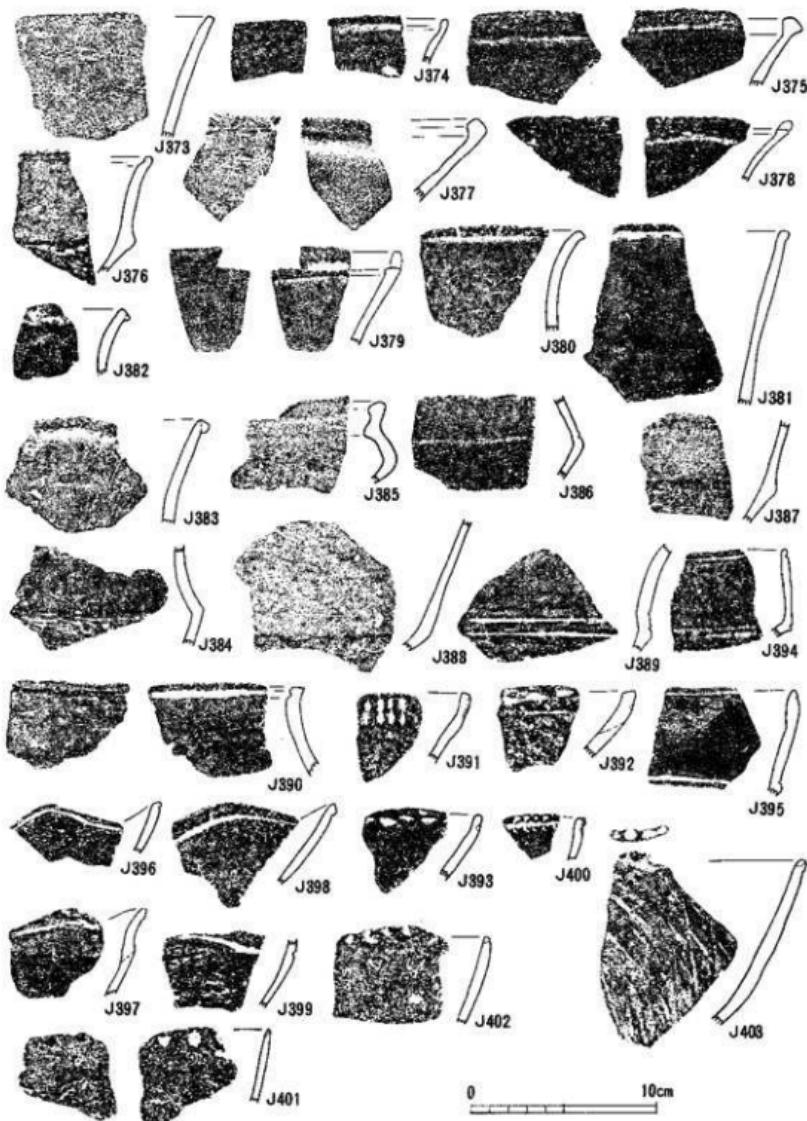
第19図 繩文土器(16) 晩期 浅鉢 1:4



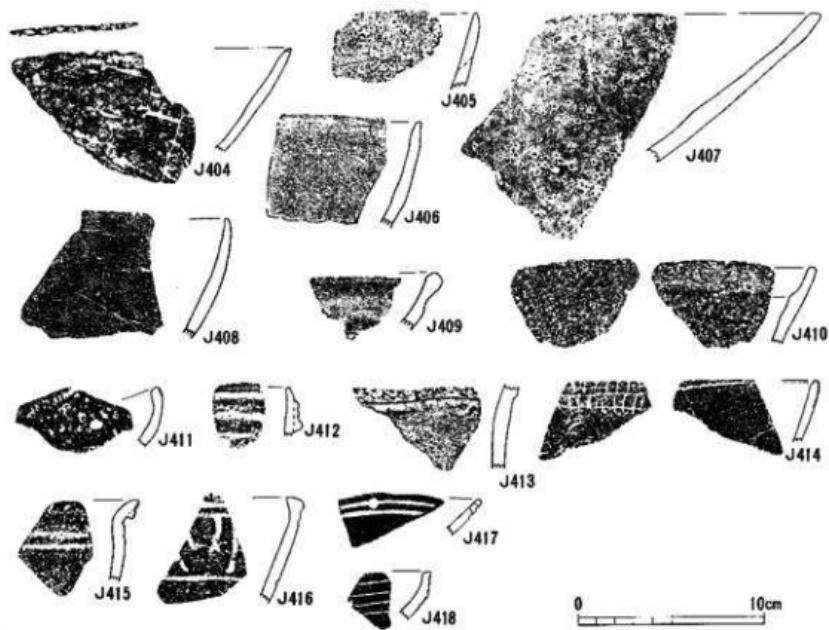
第20図 縄文土器(17) 晩期 浅鉢 1:4



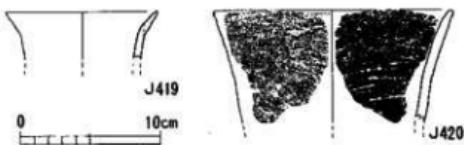
第21図 調文土器(18) 晩期 浅鉢・底部 1:4



第22図 繩文土器(19) 晩期 浅鉢 1:3



0 10cm



第23図 繩文土器(20) 晩期 浅鉢(J404~418) 1:3
時期不明 (J419.420) 1:4

縄文土器一覧表

器種	分類	堆番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
深鉢	J 1	21	N11E4	4		口径12.6 高さ5.9		口縁斜片	外面二枚貝条痕	早期末～前期初頭、 胎土に多量の纖維
	J 2	21	N15E7	4		口径2.9 高さ8.7	高台状の底部		外面に繩文	中期
	J 3	21	N12E4	4					外面に繩文	中期、胎土に纖維
	J 4	21	N13E7	4					内外面繩文	早期、胎土に纖維
	J 5	21	E9	4					外表面繩文	早期、胎土に少量の纖維
	J 6	21							外表面繩文	早期、胎土に多量の纖維
	J 7	21	N16E8	5-1					二枚貝条痕、ナデ	早期、胎土に多量の纖維
深鉢	J 8	21	N16E7	第2回追 堆積上			折返し口縁	押引き文	内面二枚貝条痕、ナ デ	前期
深鉢	J 9	21	N13E6	第2回追 堆積上			折返し口縁	口縁に刺突文か	内面二枚貝条痕 外面ナデ	前期、胎土に多量の 纖維
深鉢	J 10	21	N20E5	4				突起上に刺突文	外面二枚貝条痕	初期、胎土に纖維
深鉢	J 11	21	N16E7	6			折返し口縁	羽状の刺突文	二枚貝条痕、ナデ	初期
深鉢	J 12	21	N12E4	4			折返し口縁	突起文、竹管状工具 による刺突文	ナデ	中期、胎土に少量の 纖維
	J 13	21	N16E7	6				条痕文	内面二枚貝条痕	初期
深鉢	J 14	21	N20E5	4			折返し口縁	沈線文または押引き 文	ナデ?	初期
深鉢	J 15	21	N15E6				折返し口縁	二枚貝による刺突文	ナデ	初期
深鉢	J 16	21	N26E7	4-1			折返し口縁	羽状の刺突文	二枚貝条痕	初期
深鉢	J 17	21	N17E8	6			折返し口縁	斜行刺突文	二枚貝条痕、ナデ	初期
深鉢	J 18	21	N12E4	4			折返し口縁	D字爪彫文	ナデ	初期
深鉢?	J 19	21	N25E7	4-2			折返し口縁		二枚貝条痕	初期
	J 20	21	N21E5	4			波状の折返し口縁	押引き文	内面二枚貝条痕 外面ナデ	初期
	J 21	21	N18E9	6			折返し口縁、部分的 に波状口縁	ミミズ縞れ状の突起 文、刺突文	ナデ	初期
深鉢	J 22	21	N13E7	第2回追 堆積上				突起文上に刺突文	二枚貝条痕、ナデ	初期、胎土に纖維多 く含む
	J 23	21					波状口縁、折返し口 縁	沈線文		初期
	J 24	21	N13E7					突起上に二枚貝によ る刺突文		初期
	J 25	21	N26E7	4-2			胴部屈曲	沈線文、刺突文	二枚貝条痕、ナデ?	初期

器種	分類	所番号	図版 ページ	出土 地點	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
		J 26	21					沈縫文、突帯文上に刺突文		前期
		J 27	22	N26E7	4-2			継縫にミメ縫れ状の突帯文。突帯上に刺突文	内外面二枚貝条痕	前期。沿土にわずかに網目含む
		J 28	22	N20E5	4		波状口縁	沈縫文間に竹管状工具による刺突文	ナゲ	前期
		J 29	22	N20E5	4			弧状の沈縫文	二枚貝条痕	前期
		J 30	22	N16E7	6			羽状の刺突文。条痕文	二枚貝条痕	前期。沿土に織維含む
		J 31	22	N14E5	4			一枚貝による条痕文	ナゲ	前期
深鉢		J 32	22	N17E9	4			一枚貝による刺突文	ナゲ	前期
深鉢		J 33	22	N15E7	6			口縁網目	内五二枚貝条痕。ナゲ 外角ナゲ	早期末～晩期初
		J 34	22	N26E7	4-2		口縁内湾	口縁網目、条痕文	一枚貝条痕	前期
		J 35	22	N18E9	4			I3字形爪形文	二枚貝条痕	前期
		J 36	22	N12E4	4			D字爪形文	二枚貝条痕、ナゲ	前期。羽鳥下層Ⅲ?
		J 37	22	N17E8	4			D字爪形文	二枚貝条痕	前期。羽鳥下層Ⅲ
深鉢		J 38	22	N13E7	4			I3字形爪形文	ナゲ	前期。羽鳥下層Ⅲ
		J 39	22	N11E8	4			一枚貝による連続爪形文	内面生痕、ナゲ	前期。羽鳥下層Ⅲ
		J 40	22	N12E7	5-1			C字爪形文	二枚貝条痕、ナゲ	前期。羽鳥下層Ⅲ たばの森
		J 41	22	N17E7	4		丸底?		二枚貝条痕	前期
		J 42	22	N11E7	4		丸底?		二枚貝条痕	前期
		J 43	22	N26E7	4-2		丸底		ナゲ?	前期?
		J 44	22	N16E8	6		内面肥厚		外面織文 内面ナゲ	前期。大森山
深鉢		J 45	22	N13E5	第2河床堆積土		内面肥厚		外面及び内面肥厚部織文	前期。大森山
深鉢		J 46	22			口徑10.8 高さ5.7	口縁内面肥厚	口縁内面、外面織文		前期。豈崎Ⅱ 松江市保管
深鉢		J 47	22				口縁部平坦	ミミズ縫れ状の突帯文上に刺突文	外面織文 内五ナゲ	前期。大森山
深鉢		J 48	22	N14E6	4		波状口縁	I3字形刺突文。突帯文		前期?
深鉢		J 49	22	N12E7	4		口縁内湾	沈縫文、爪形文	ナゲ、織文?	中期。新元Ⅰ
深鉢		J 50	22	N13E7	4		波状口縁	突帯文に沿って刺突文	外表面織文 内面ナゲ	中期。新元Ⅰ
深鉢		J 51	22	N14E5	4		波状口縁	突帯文	ナゲ	中期?、新元Ⅰ?

器種	分類	押出番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
		J52	22	N16E8	4		二様部外面肥厚			中期、都元I?
		J53	22	N16E8	5-1		二様部外面肥厚		外彫織文	中期、都元I?
深鉢		J54	22	N10E6	4		口縁部大きく内湾	7条の波状文	外彫織文(模擬文?) 内面ナゲ	中期、单木Ⅱ
深鉢		J55	22	N27E7	4-2			手彫竹管による波状文	外彫織文	中期、单木Ⅱ
深鉢		J56	22	N12E4	4			手彫竹管による波状文		中期、单木ⅡまたはⅢ
		J57	22	N16E7	6				捻糸織文	中期、单木Ⅱ
深鉢		J58	23	N11E7	4			沈線文	ナデ	中期末
		J59	23	N18E8	6				外面織文	中期末
		J60	23	N12E4	4			沈線文、刺突文	ナデ	中期末
深鉢		J61	23				波状口縁	凹線文、磨痕織文 (模擬文?)	ミガキ、ナデ	中期末? 近江市保管
		J62	23	N12E5	4		圓巻状の突起	沈線文、刺突文		後期、中津
深鉢		J63	23				波状口縁	沈線文		後期、中津
浅鉢		J64	23	N12E4	4		波状口縁	刺突文、沈線文		後期、中津
		J65	23	N12E7	4			沈線文	ナデ、朱絞	後期、中津
深鉢		J66	23	N25E7	4-2			太い沈線間に縦文	ナデ	後期、中津か?
		J67	23	N17-18 E8	4		波状口縁	沈線文		後期
		J68	23	N18E8	6			沈線文		後期、中津?
		J69	23	N16E8	6			沈線文、磨痕織文		後期、中津
		J70	23	N18E8				沈線文	ナデ?	後期、中津~福田K2
		J71	23	N17H8	5			沈線文		後期、中津
深鉢		J72	23					沈線文		後期、福田K2
		J73	23	N13E4	4			沈線文		後期、福田K2
		J74	23	N12E4	4		縦脊部	沈線文、刺突文		後期、福田K2~彦場K1
		J75	23	N13E5	4		縦脊部	沈線文、刺突文		後期、福田K2
		J76	23	N21E5	4		波状に縁	II縫部上端に縦文?		後期前半
		J77	23	N21E6	4		II縫部肥厚	太い沈線		後期前葉

器種	分類	神園番号	国版番号	出土地	上 下 AA	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
鉢		J 78	23	N18E8				沈線文			後期、彦崎K1～K2
浅鉢		J 79	23	E B 区				唇沿周文			後期、彦崎K1～K2
鉢?		J 80	23	N17E8	5			沈線文			後期、彦崎K1?
		J 81	23	N12E8	4			突帯文、刺突文			後期、彦崎K2
		J 82	23	N26E7	4-2	口縁部肥厚		山形文	ナデ		後期、彦崎K1
		J 83	23	N27E7	4-1				風文、ナデ		後期、彦崎K1
		J 84	23	N30E5	4				網文、ミガキ		後期、彦崎K1
		J 85	23	N17E8	6			口縁部に網文	ナデ?		後期、彦崎K2
		J 86	23	N17E9	6				網文、ナデ		後期、彦崎K1
瓶		J 87	23					沈線文	外面上部に繩文か?		後期
		J 88	23	N16F8	6			直線的な沈線文間に 菱形文?	外底二枚貝条焼、ナ デ?		後期?
		J 89	23	N12E5	4	波状口縁		口縁部に突起	ナデ?		後期?
		J 90	24	N13E8	第2回遺 塚横土	逆L字口縁		沈線間に繩文?	朱模、ナデ		後期、一乗寺K～元 住吉山I
		J 91	24	E8 ワイン	4			沈線文間に繩文			後期、一乗寺K～元 住吉山I
桔梗口 土器		J 92	24	N14E6	4	肩部張る		沈線文			後期、一乗寺K～元 住吉山I
		J 93	24	N17E9	4			沈線間に繩文			後期、一乗寺K
		J 94	24					沈線文	ナデ?		後期、彦崎K1～K2
		J 95	24	N15E6	4			沈線文	ナデ?		後期、彦崎K2
深鉢		J 96	24	N17E8	6	逆L字口縁		沈線間に繩文	朱模、ナデ		後期、一乗寺K～元 住吉山I
		J 97	24	N16E8	6			刺突文、達弧文	ナデ		後期、元住吉山I?
		J 98	24	N20E5	4			押引き状の沈線文			後期? 元住吉山I? 晚期の可能性もあり
		J 99	24	N18E9	6	逆L字口縁		毛散竹管による沈線 間に網目			後期、一乗寺K～元 住吉山I
		J 100	24	N21E5	4	逆L字口縁		沈線文、刺突文			後期、元住吉山I
深鉢		J 101	24	N17E8	4	逆L字口縁		沈線文	ナデ		後期、元住吉山I
		J 102	24	N21E6	4	波状口縁		沈線文、刺突文			後期、元住吉山I
浅鉢		J 103	24	N16E7	6	逆L字口縁		沈線文、唇沿繩文	朱模、ナデ		後期、元住吉山I

器種	分類	拂番	図版 No.-P	出土 地點	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
		J 104	24	N16E7	4			突拵文、沈線文	ナデ	後期、元住吉山I?
		J 105	24	N16E8	6			押引き状の沈線		後期、元住吉山I?
浅鉢		J 106	24	N13E5	4		口縁内面に段	沈線文		後期、春崎K1
		J 107	24	N17E8	6			卷貝による凹線文、刺突文		後期、元住吉山I
深鉢		J 108	24	N12E5	5-2		逆「L」字口縁(波状)	凹線文、円形浮文上に刺突		後期、元住吉山I
浅鉢		J 109	24	N26E7	4-2			口縁内面に沈線文、講文	ナデ、ミガキ	後期、元住吉山I
浅鉢		J 110	24	N16E8	4			口縁内面に凹線文、刺目文		後期、元住吉山I
		J 111	24				往口	沈線文		後期、元住吉山I
浅鉢?		J 112	24	N12E5	4		口縁端外反	口縁内面に卷貝凹線文、講文?		後期、元住吉山I
浅鉢?		J 113	24	N25E7	4-2			口縁内面に沈線文、刺目文?		後期、元住吉山I~宮窪
浅鉢?		J 114	24					口縁内面に沈線文		後期、宮窪 松江市保管
		J 115	24	N16E8	4			卷貝による沈線文	ナデ、条痕	後期、宮窪
		J 116	24	N11E4	4			沈線文	ナデ?	後期、宮窪
		J 117	24	N26E7	4-2		逆「L」字口縁	凹線文		後期、宮窪
		J 118	24	N25 E5.7	4-1		逆「L」字口縁	凹線文(巻貝による?)		後期、宮窪
		J 119	24				逆「L」字口縁?	凹線文、扇状压痕文		後期、宮窪 松江市保管
		J 120	24	N21E5	4			巻貝による沈線文	ナデ	後期、宮窪
		J 121	24	N15E6	4			内外面に凹線文		後期、宮窪
		J 122	24	N16E8	6			内外面に凹線文	ナデ?	後期、宮窪
		J 123	24	N16E7	6			沈線文	ナデ?	後期末~続期初頭
		J 124	25	N19E9	6			内外面に沈線文		後期、宮窪
		J 125	25	N16E8	5-1			内面に沈線	ナデ?	後期、宮窪
		J 126	25	N16E8	6			沈線文		後期、宮窪
		J 127	25	N16E8	5-1		逆「L」字口縁	凹線文		後期、宮窪?
		J 128	25				口縁内面	沈線文		後期末~続期前葉
		J 129	25	N13E5	4		口縁部内面		ナデ	後期末~続期前葉?

器種	分類	種番号	図版 頁	出土 点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
		J 130	25	N11E4	4		波状口縁	四瓣文	ナデ	後期末～後期初頭
		J 131	25	N14E5	5-2		口縁部内側			後期末～後期初頭
深鉢	I	J 132	25	N26E7	4-2			II型内面に刺突文	一枚貝条模。ナデ	後期前半
深鉢	I	J 133	25	N16E8	6			II型内面に刺突文	ナデ	後期前半
深鉢	I	J 134	25	N15E7	5-1		頸部くびれる	II型内面に刺突文	外蓋二枚貝条模 内蓋条模。ナデ	後期前半
深鉢	I	J 135	25	N13E5	4			II型内面に刺突文	一枚貝条模。ナデ	後期前半
深鉢	I	J 136	25	N12E4				口縁端に大きな周目 文	一枚貝条模。ナデ	後期、谷尻
深鉢	I	J 137	25	N22E5	4			口縁内面に菱目文 (「D」字に近い)	一枚貝条模	後期、谷尻
鉢		J 138	25	N26E7	4-1	口径12.4 器高 5.0	頸部・肩部の境に段	斜行枕縞文	ナデ	後期、奈岐K1
鉢		J 139	25	N26E7	4-2	口径12.6 器高 3.0	口縁部肥厚	口縁端に縦文	ミガキ	後期中葉
浅鉢		J 140	25	N13E6	4	口径20.7 器高 4.4		口縁内部に沈線文、 縦文		後期、元住吉山I
浅鉢		J 141	25	N16E7	6	口径20.3 器高 4.8	逆L字口縁	四瓣文	ナデ	後期、宮高
浅鉢		J 142	25	E-9 ベルト	6	口径22.0 器高 7.3		口縁内面に沈線文、 縦文	ナデ	後期、元住吉山T
深鉢	I	J 143	25	N17 E8.9	4	口径22.8 器高 5.0	頸部くびれる		ナデ	後期前半?
深鉢	I	J 144	25	N12E7	4	口径25.4 器高 5.1	頸部くびれる		二枚貝条模。ナデ	後期前半
深鉢	I	J 145	25	N16E7	第2回遺 堆積上	口径31.0 器高 3.9		口縁端に菱目文	条模、ナデ	後期、谷尻
深鉢	I	J 146	26	N16E7	4	口径26.6 器高 6.3	頸部くびれる		外蓋一枚貝条模 内蓋ナデ	後期前半
深鉢	I	J 147	26	N22E5	4	口径24.2 器高 6.3	頸部くびれる	口縁内面に竹管状の 刺突文		後期前半
深鉢	I	J 148	26	N12E5	4	口径21.4 器高 4.0		口縁端に周目	二枚貝条模+ナデ	後期、谷尻
深鉢	I	J 149	26	N16E7	6	口径32.0 器高 7.4	頸部くびれる	口唇刻目文、D字爪 形文	二枚貝条模+ナデ	後期、谷尻
深鉢	I	J 150	26	N15E6	6	口径38.6 器高 8.6	頸部くびれる	口唇刻目文、C字爪 形文	二枚貝条模+ナデ	後期、谷尻
深鉢	I	J 151	26	N16E8	4	口径34.6 器高 10.8	頸部くびれる	円錐形文、下垂尖底、 長いナタによる凹線 文	二枚貝条模。ケズリ	後期前半
深鉢	I	J 152	26	N26E7		口径31.6 器高 7.9			強いナデ?	後期前半?
深鉢	I?	J 153	26	N22E5	4	口径32.0 器高 9.4			ナデ	後期
深鉢	I	J 154	26	N18E9	第2回遺 堆積上		頸部くびれる	強いナデによる凹線 文	二枚貝条模	後期、延喜甲Ⅱb~ Ⅲ
深鉢	I?	J 155	26					強いナデによる凹線 文	二枚貝条模+ナデ。 ケズリ	後期、延喜甲Ⅱb~ Ⅲ?

分類	排番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
深鉢	II.	J156	26	N17E9	6 口径26.5 底高 6.7	直口	口唇刻目文、刻目突 帯文	二枚貝朱塗、ナデ	晚期、前池?
深鉢	I.	J157	26	N13E4	4 口径22.8 底高 6.9	頬部くびれる	口輪刻目文、刻目突 帯文、山形文、網目文	二枚貝朱塗+ナデ	晚期、前池
深鉢	I.	J158	26	N17E8	5 口径22.8 底高 9.0	直口	刻目突帯文	二枚貝朱塗	晚期、前池?
深鉢	I.	J159	26	N20 ~22 E6	4 口径18.2 底高 8.0	頬部くびれ	口唇刻目文、刻目突 帯文	外側強いナデ 内面二枚貝朱塗+ナデ	晚期、前池?
深鉢	I.	J160	26	N16 ライン E7~8	5 口径23.4 底高 16.8	頬部くびれる		二枚貝朱塗	晚期前半?
深鉢	I.	J161	27	N11E4	4 口径24.9 底高 5.2	頬部くびれる	口唇刻目文、刻目突 帯文	二枚貝朱塗+ナデ	晚期、前池?
深鉢	II.	J162	27	N12E4	8 口径26.4 底高 12.0	直口	口唇刻目文、刻目突 帯文	二枚貝朱塗	晚期、前池?
深鉢	I.	J163	27	N21E5	4 口径31.8 底高 7.2	頬部くびれる	口唇刻目文、刻目突 帯文	二枚貝朱塗	晚期、前池?
深鉢	I.	J164	27	N17E8	口径38.0 底高 7.0	頬部くびれる	口唇刻目文、刻目突 帯文	二枚貝朱塗	晚期、前池?
深鉢	I.	J165	27	N16E7	6 口径37.0 底高 10.5	頬部くびれる	口唇刻目文、刻目突 帯文	二枚貝朱塗+ナデ、 ケズリ	晚期、前池?
深鉢	I.	J166	27		口径30.5 底高 3.2		口縁内面に刻文、 帯文	朱塗、ナデ	晚期後半 松江市保管
深鉢	III.	J167	27	N10E7	4 口径26.0 底高 6.0	直口	刻目突帯文	ケズリ、強いナデ	晚期後半
深鉢	I.	J168	27	N16E7	5~1 口径26.9 底高 8.3	頬部くびれる	刻目突帯文		晚期後半
深鉢	II.	J169	27	N12E4	4 口径27.9 底高 3.9	直口?	刻目突帯文	二枚貝朱塗	晚期後半
深鉢	III.	J170	27	N14E5	4 口径24.6 底高 5.0	直口	刻目突帯文	ナデ、二枚貝朱塗	晚期後半
深鉢	II.	J171	27	N13E6	4 口径30.8 底高 7.0	虫歴わずかにくびれ る	刻目突帯文	ナデ?	晚期後半
深鉢	II.	J172	27	N20 ~22 E5,6	4 口径25.4 底高 9.1	直口	刻目突帯文	二枚貝朱塗+ナデ	晚期後半
深鉢	I.	J173	27	N12E4	5~1 口径31.0 底高 6.0	頬部くびれる	刻目突帯文	二枚貝朱塗+ナデ?	晚期後半
深鉢	I.?	J174	27	N12E4	4 口径30.1 底高 5.4	虫歴わずかにくびれ る?	刻目突帯文	二枚貝朱塗+ナデ	晚期後半
深鉢	II.	J175	27	N16E7	6 口径23.6 底高 10.1	直口	刻目突帯文(真によ る)	外側強いナデ 内面二枚貝朱塗	晚期後半
深鉢	II.	J176	27	N20E5	4 口径35.8 底高 11.1	直口	刻目突帯文	外側強いナデ 内面二枚貝朱塗+ナ デ	晚期後半
深鉢	I.	J177	27	N19E9	第2回選 地質士 口径22.4 底高 4.0	頬部くびれる	突帯文		晚期後半
深鉢	I.	J178	27	N17E8	6 口径22.2 底高 12.2	直口	突帯文	ケズリ、ナデ	晚期後半
深鉢	I.	J179	28	N27E6	4 口径25.8 底高 7.5	口縁端平底	突帯文	強いナデ	晚期後半
深鉢	III.	J180	28		口径26.3 底高 3.1	突帯文高い	突帯文	ナデ	晚期後半 松江市保管
深鉢	I.	J181	28	N22E6	4 口径22.9 底高 7.9	口縁端平底	突帯文、垂下突帯文	強いナデ	晚期後半

器種	分類	捲番号	図版 ページ	出土点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
深鉢	II	J182	28	N15E6	4	口径20.8 基高7.1	腹部わずかにくびれる。口縁扁平化	刻目文	ハケ目、ナデ	晩期後半
深鉢	II	J183	28	N16E7	6	口径21.3 基高7.5	口縁外反	刻目文	ナデ	晩期後半
深鉢	II	J184	28	N12E4	6	口径29.2 基高6.7	口縁外反	刻目文	ハケ目	晩期後半
深鉢	II	J185	28	N19E8	5	口径17.9 基高5.9	直口	刻目文	ハケ目、ナデ	晩期後半
深鉢	II	J186	28	N17E8		口径15.2 基高4.9	口縁外反	刻目文	ハケ目、ナデ	晩期後半
深鉢	II	J187	28	N15E6	4	口径16.5 基高7.1	頭部若干くびれる	刻目文	ハケ目、ナデ	晩期後半
深鉢	II	J188	28	N24E6	4	口径18.8 基高9.4	直口	刻目文	ハケ目	晩期後半
深鉢	I,?	J189	28	N14E5	4	口径15.9 基高4.1	口縁外反	刻目文	ハケ目	晩期後半
深鉢	II	J190	28	N16E7	6	口径17.7 基高6.1	口縁若干外反	刻目文	ハケ目、ナデ	晩期後半
深鉢?	I,	J191	28			口径37.0 基高5.6		低い文	二枚貝条模。ケズリ	晩期後半 松江市保管
深鉢	II	J192	28	N12E5	4	口径28.8 基高2.2	直口	文	ハケ目、ナデ	晩期後半
深鉢	II	J193	28	N11E6	4	口径16.2 基高4.4	直口	刻目文	ナデ	晩期後半
深鉢	II	J194	28			口径21.5 基高7.4	口縁平坦	刻目文	ハケ目、ナデ	晩期後半 松江市保管
深鉢	II	J195	28	N22E6	4	口径23.4 基高13.5	直口	刻目文	ハケ目、ナデ	晩期後半
深鉢	IV	J196	28	N11E8	4	口径25.8 基高7.7	口縁内凹	文	ハケ目、ナデ	晩期後半
深鉢	IV	J197	28	N16E8	5-1	口径23.1 基高10.4	口縁内凹	刻目文	ハケ目、ナデ?	晩期後半
深鉢		J198	28	N21E6	4	口径30.5 基高14.5	直口		二枚貝条模	晩期
深鉢		J199	28	N22E8	第1回遺 堆積上	口径23.0 基高16.7	口縁内凹		貝模ト強いナデ	晩期後半?
深鉢		J200	29	N16E7	6	口径29.4 基高20.6	直口		二枚貝条模。ケズリ	晩期後半?
壺		J201	29	N16E8	6	口径10.4 基高3.2	口縁内傾	刻目文	ナデ、ケズリ?	晩期後半
壺		J202	29	N13E5	4	口径10.2 基高3.6	頭部くびれる	文	ナデ	晩期後半
壺?		J203	29	N12E4	第2回遺 堆積上	口径15.6 基高4.1	頭部くびれる	刻目文		晩期後半
深鉢	T	J204	29	N11E4	4		口縁外反	口縁刻目文	ナデ	晩期、谷尻
深鉢	T	J205	29					口縁内面に刻文	二枚貝条模	晩期後半 松江市保管
深鉢	T	J206	29	N12E4	4		口縁外反	口縁刻目文、刻文	ナデ?	晩期、谷尻
深鉢	T	J207	29	N16E7	4			口縁刻目文	二枚貝条模、ナデ	晩期、谷尻?

器種	分類	擇番号	図版 ページ	出土地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
深鉢	I	J 208	29	N13E5	4			口唇刻H文	外面二枚貝条痕 内面ナデ	晚期、谷尻
深鉢	II	J 209	29	N25E7	4-2			口唇刻H文	二枚貝条痕、ナデ	晚期、谷尻？
深鉢	I	J 210	29	N17E9	4			口唇刻H文	ナデ？	晚期、谷尻？
深鉢	I	J 211	29	N16E8	6			口唇刻目文、刻突文	二枚貝条痕	晚期、谷尻
深鉢	I	J 212	29	N13E4	4			口唇刻目文、爪形文	二枚貝条痕	晚期、谷尻
深鉢	I	J 213	29	N21E5	4			口唇刻目文、爪形文	ナデ？	晚期、谷尻
深鉢	I	J 214	29				口唇肥厚	口唇刻目文	二枚貝条痕、ナデ	晚期、原下層
深鉢	I	J 215	29	N25E7	第2河道 堆積土		口唇肥厚	口唇刻目文	ナデ	晚期、原下層
深鉢	I	J 216	29	N27E7	4-2		口唇肥厚	口唇刻目文	ナデ？	晚期、原下層
深鉢	I	J 217	29	N12E7	4		口唇肥厚	円形刻突文	ナデ？	晚期前半？
深鉢	I	J 218	29	N17E8	6		口唇うすい		卷貝条痕？	晚期
深鉢	I	J 219	29	N13E4	4		口唇平坦		ナデ、二枚貝条痕	晚期前半？
深鉢	I	J 220	29	N16E7	6		口唇内凹、波状口縁		ケズリ、ナデ、二枚貝条痕	晚期前半？
深鉢	I	J 221	29	N14E6	4		波状口縁		二枚貝条痕、ナデ	晚期前半
深鉢	I	J 222	29	不明					ナデ、二枚貝条痕	晚期前半？
深鉢	I	J 223	29	N22E6				円形浮文、強いナデ による凹線	ナデ	晚期前半
深鉢	I?	J 224	30	N22E6	4			円形刻突文	ナデ	晚期、谷尻？
深鉢	I?	J 225	30	N15E6	4			円形浮文、沈線文	ナデ	晚期前半
深鉢	I	J 226	30	N22E5	4			沈線文、円形浮文		晚期前半
深鉢	I	J 227	30	N20E5	4			爪形文	二枚貝条痕、ナデ、 ケズリ	晚期、谷尻？
深鉢	I	J 228	30	N26E7	4-2		口唇肥厚		卷貝条痕？ ナデ	晚期、原下層？
深鉢	I	J 229	30	N16E7	6		口唇厚い	口唇刻目文、刻日突 帶文、山形沈線文	ナデ	晚期、前半
深鉢	I	J 230	30					口唇刻目文、刻日突 帶文、沈線文	一枚貝条痕	晚期、前半
深鉢	I	J 231	30	N21E5	4			口唇刻目文、刻日突 帶文	一枚貝条痕、ナデ	晚期、前半？
深鉢	I	J 232	30	N13E5	5-1			口唇刻目文、刻日突 帶文	ナデ	晚期、前半？
深鉢	I	J 233	30	N13E5	4			口唇刻目文、刻日突 帶文	一枚貝条痕、ナデ	晚期、前半？

器種	分類	揮番号	図版 ページ	出土 地點	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
深鉢	II.	J234	30	N12E4	4	—	—	口唇刻印文、刻目突 帶文	二枚貝条模、ナゲ	晩期後半
深鉢	III.	J235	30	N21E5	4	—	—	口唇刻印文、刻目突 帶文	ナゲ	晩期後半
深鉢	II.	J236	30	N27E7	4-2	—	—	口唇刻印文、刻目突 帶文	二枚貝条模、ケズリ	晩期、前半？
深鉢	I.	J237	30	N12E5	4	—	—	口唇刻印文、刻目突 帶文	ナゲ	晩期後半
深鉢	II.	J238	30	N18E8	6	—	—	口唇刻印文、刻目突 帶文	ケズリ、ナゲ、二枚 貝条模	晩期後半
深鉢	II.	J239	30	N21E5	4	口唇やや厚い	—	刻目突帶文	ナゲ	晩期後半
深鉢	I.	J240	30	N16E7	6	—	—	口唇刻印文、刻目突 帶文	二枚貝条模、ナゲ	晩期、前半？
深鉢	II.	J241	—	N22E6	4	—	—	口唇刻印文、刻目突 帶文	二枚貝条模、ケズリ、 ナゲ	晩期後半
深鉢	I.	J242	30	N16E7	6	—	—	刻目突帶文	二枚貝条模、ナゲ	晩期後半
深鉢	II.	J243	30	N19E9	5-2	口唇平坦	—	刻目突帶文	ナゲ	晩期後半
深鉢	I.	J244	30	N26E7	4-2	—	—	刻目突帶文	ナゲ	晩期後半
深鉢	II.	J245	30	N16E7	4	—	—	刻目突帶文	ケズリ、二枚貝条模、 ナゲ	晩期後半
深鉢	III.	J246	30	N13E5	4	—	—	刻目突帶文	二枚貝条模？	晩期後半
深鉢	IV.	J247	30	N11E4	4	—	—	刻目突帶文	ナゲ	晩期後半
浅鉢	II.	J248	30	N21E5	4	口唇厚い	—	刻目突帶文	二枚貝条模	晩期後半
深鉢	II.	J249	30	N13E5	4	—	—	高い刻目突帶文	二枚貝条模、ナゲ	晩期後半
深鉢	I.	J250	30	N16E7	6	—	—	刻目突帶文	ケズリ？	晩期後半
深鉢	II.	J251	30	N26E7	4-1	—	—	刻目突帶文	二枚貝条模	晩期後半
深鉢	II.	J252	31	N21E5	4	—	—	刻目突帶文	高い、ナゲ	晩期後半
浅鉢	II.	J253	31	N21E5	4	口唇がわざかに外反	突帶文	ナゲ	晩期後半	
深鉢		J254	31		—	—	—	刻目突帶文	一枚貝条模	晩期後半 松江市保管
深鉢	II.	J255	31		5-2 1 6	—	—	刻目突帶文	一枚貝条模、ナゲ	晩期後半
深鉢	I.	J256	31	N14E5	6	—	—	刻目突帶文	一枚貝条模+ナゲ	晩期後半
深鉢	II.	J257	31	N20E5	4	—	—	刻目突帶文	ケズリ、ナゲ	晩期後半
深鉢	II.	J258	31	N21E6	4	—	—	刻目突帶文	一枚貝条模	晩期後半
深鉢	II.	J259	31	N17E8	6	—	—	刻目突帶文	ナゲ	晩期後半

器種	分類	排図番号	図版ページ	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
漆鉢	Ⅲ.	J260	31	N21E6	4			刻目突帯文	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J261	31	N17E8	6			刻目突帯文	条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J262	31	N12E5	4			刻目突帯文	ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J263	31					刻目突帯文	ナデ	晩期後半 松江市保管
漆鉢	Ⅲ.	J264	31	N16E8	6			刻目突帯文		晩期後半
漆鉢	Ⅲ.?	J265	31	N21E6	4			刻目突帯文	ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J266	31	N21E6	4		底部わずかにくびれ?	刻目突帯文	ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J267	31				突唇文非常に低い	刻目突帯文	ナデ	晩期後半 松江市保管
漆鉢	Ⅲ.	J268	31	N21E5	4			刻目突帯文	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J269	31	N11E4	4			刻目突帯文	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.?	J270	31	N22E6	4			刻目突帯文	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J271	31	N18E9	6			刻目突帯文 (二枚貝による)	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J272	31	N13E5	4			刻目突帯文	ナデ、二枚貝条痕	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J273	31	N16E8	5-1			刻目突帯文	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J274	31	N16E8	4			刻目突帯文	ナデ、条痕?	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J275	31	N11E4	4			刻目突帯文	ナデ、条痕?	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J276	31	N19E7	4			刻目突帯文	二枚貝条痕	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.?	J277	31	N18E9	6			刻目突帯文	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J278	31	N12E4	4			刻目突帯文	二枚貝条痕、ナデ?	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J279	31	N12E4	4			刻目突帯文	二枚貝条痕、ケズリ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.?	J280	31					刻目突帯文	ナデ?	晩期後半 松江市保管
漆鉢	Ⅲ.	J281	31	N22E6	4			刻目突帯文	二枚貝条痕	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J282	31				突唇文低い	突唇文		晩期後半 松江市保管
漆鉢	Ⅲ.	J283	31	N18E8	第2回選 拂拭七			突唇文	強いナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J284	31	N26E7	4-2			突唇文	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
漆鉢	Ⅲ.	J285	31	N21				突唇文	ナデ	晩期後半

分類	分類番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
深鉢	I.	J 286	32 N27E7	4-2			突帯文	ナデ	晩期後半
深鉢	II.	J 287	32 N26E7	4-2		口唇平坦	突帯文	強いナデ、ナデ	晩期後半
深鉢	III.	J 288	32 N21E5	4			突帯文		晩期後半
深鉢	5	J 289	32 N16E7	4		口唇やや厚い	突帯文	ナデ	晩期後半
深鉢	II.	J 290	32 N13E5	4		口唇平坦	突帯文	ナデ?	晩期後半
深鉢	II.	J 291	32 N21E5	4		口唇平坦	突帯文	ナデ	晩期後半
深鉢	II.	J 292	32 N11E4	4			突帯文	ケズリ	晩期後半
深鉢	II.	J 293	32 N27E7	4-2			突帯文	ナデ	晩期後半
深鉢	II.	J 294	31 N20E5	4			突帯文	強いナデ、二枚貝条痕	晩期後半
深鉢	II.	J 295	32 N22E6	4		口唇平坦	突帯文	ナデ?	晩期後半
深鉢	II.	J 296	32 N13E5	4			突帯文	二枚貝条痕、ナデ	晩期後半
深鉢	II.	J 297	32				突帯文	ナデ	晩期後半
深鉢	II.	J 298	32 N26E7	4-1		口唇平坦	刻非突帯文	ていねいなナデ	晩期後半 男生に近い
深鉢	II.	J 299	32 N25E7	4-2		口唇平坦	口唇胡目文、刻目突帯文	ていねいなナデ	晩期後半 男生に近い
深鉢	II.	J 300	32 N12E4	4			刻目突帯文	ナデ	晩期後半 男生に近い
深鉢	II.	J 301	32 N21E5	4		口唇平坦	刻目突帯文	ナデ?	晩期後半 男生に近い
深鉢	II.	J 302	32 N16E7	第2河道 堆積土	11号平塗		刻目突帯文	ハケナ、ナデ	晩期後半 男生に近い
深鉢	II.	J 303	32 N22E5	4		口唇平坦	突帯文	ナデ	晩期後半 男生に近い
深鉢	II.	J 304	32 N22E5	4			突帯文	ナデ	晩期後半 男生に近い
深鉢	II.	J 305	32 N13E6	5-1		口唇やや厚い	突帯文	ナデ、二枚貝条痕	晩期後半 男生に近い
深鉢	IV.	J 306	32 N12E7	第2河道 堆積土			突帯文	ナデかハケ目	晩期後半 男生に近い
深鉢	III.	J 307	32 N15E7	5-1		口唇平坦	突帯文	ナデ?	晩期後半 男生に近い
深鉢	II.	J 308	32 N17E9	6			突帯文	ナデ	晩期後半 男生に近い
深鉢		J 309	32 N21E5	4			刻目突帯文	一枚貝条痕、ナデ	晩期後半、二条突帶
浅鉢		J 310	32 N25E7	4-1			刻目突帯文	二枚貝条痕	晩期後半、二条突帶
浅鉢	I.	J 311	33 N27E7	4-1			円形浮文、リボン状突起	ナデ	晚期、谷底?

器種	分類	捲番号	図版 ページ	出土 地點	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
浅鉢	I.	J 312	33		5-2 1 6			沈線文?	朱痕? ナデ	晩期前半?
浅鉢	I.	J 313	33	N16E8	6			リボン状突起	二枚貝条痕。ナデ	晩期, 谷尻
浅鉢	I.	J 314	33	N21E5	4			内面凹線文(巻貝に よる?)	ナデ	焼成, 谷尻?
	I.?	J 315	33	N14E6	4			細かい沈線文	ナデ	晩期前半?
	II.	J 316	33	N11E4	6			円形浮文上に刺突文	二枚貝条痕。ナデ	晩期前半
	II.	J 317	33	N16E8	6			円形浮文上に小さな 刺突文。斜行沈線文	ナデ, 二枚貝条痕	晩期前半
浅鉢	III.	J 318	33	N16E7	4	口径20.0 器高 4.0		内外面, 沈線文		晩期前半?
	III.	J 319	33	N16E8	4	口径22.7 器高 6.7		内外面, 沈線文		晩期前半?
	IV.	J 320	33	N26E7	4-1	口径17.4 器高 4.6			二枚貝条痕。ナデ	晩期, 谷尻?
	I.	J 321			口径33.2 器高 5.9					晩期前半 松江市深井
	I.	J 322	33	N16E7	6	口径27.6 器高 5.6		内面沈線文	ミガキ	晩期, 谷尻~薪池
浅鉢	I.	J 323	33	N16E8	6	口径35.8 器高 8.2	波状口縁	プロペラ沈浮文, 刺 突文, 口唇斜削文	ナデ, 二枚貝条痕	晩期前半
浅鉢	I.	J 324	33	N11E4	4	口径30.1 器高12.0	波状口縁		ナデ?	晩期, 谷尻
浅鉢	I.	J 325	33	N24E8	第1河道 堆積土	口径30.3 器高10.4		山形突起, 内面浮文上 に凹線文と刺目文	ナデ	晩期, 谷尻?
浅鉢	I.	J 326	34	N21E6	4	口径31.3 器高 7.0			ミガキ, ナデ, ケズ 9	晩期, 谷尻~薪池
浅鉢	I.	J 327	34	N16E7	6	口径20.5 器高 4.2		内面沈線文		晩期, 谷尻~薪池
浅鉢	I.	J 328	34	N15E7	6	口径20.0 器高 4.0		内面沈線文		晩期, 谷尻~薪池
浅鉢	II.	J 329	34	N13E5	第2河道 堆積土	口径14.5 器高 3.9				晩期, 滋賀県東b~ B
浅鉢	II.	J 330	34			器高 5.6				晩期, 滋賀県東b~ B
浅鉢	V	J 331	34	N12E4	4	器高 3.8				晩期, 滋賀県東b~ B
浅鉢	V	J 332	34	N10E7	4	口径19.6 器高 1.9				晩期, 滋賀県東b~ B
浅鉢	V	J 333	34	N20E5	4	器高 6.6				晩期, 滋賀県東b~ B
浅鉢	V	J 334	34	N13E7	4	口径27.1 器高 3.7			ミガキ	晩期, 滋賀県東b~ B
浅鉢	V	J 335	34	N19E9	第2河道 堆積土	口径26.3 器高 4.0				晩期, 滋賀県東b~ B
浅鉢	VI	J 336	34	N11E6	4	口径25.7 器高 3.8	口脣肥厚		強いナデ	晩期, 滋賀県東
浅鉢	VI	J 337	34	N18E8	6	口径29.5 器高 5.7		沈線文		晩期, 滋賀県東

器種	分類	博物館番号	図版番号	出土地点	層位	法寸 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
浅鉢	V	J 338	34	N25E7	5	口径31.0 基高 6.5	口唇平坦	円錐文(器底による?)	ナデ。ミガキ	晩期、滋賀県
浅鉢	V	J 339	34	N12E4	4	口径26.1 基高 8.0				晩期、滋賀県
浅鉢	V	J 340	34	N13E5	4	口径22.4 基高 3.2			ナデ	晩期、滋賀県
浅鉢	X	J 341	34	N21E5-6	4	口径23.8 基高 6.5			ナデ。ケメリ	晩期後半
浅鉢	■?	J 342	34			口径31.0 基高 3.5	口縁細い		ナデ?	晩期後半 松江市保管
浅鉢	■?	J 343		N26E7	4-1	基高 6.9				晩期、滋賀県?
浅鉢	X	J 344		N21E6	14	口径17.0 基高 4.6			ナデ。ミガキ	晩期後半
浅鉢	X	J 345		N10E7	第2河運 堆積土	口径13.8 基高 6.6				晩期、滋賀県
浅鉢	X	J 346		N12E4		口径18.0 基高 6.0			ナデ	晩期後半
浅鉢	II	J 347	35	N17E8	6	口径22.8 基高 4.5	口縁肥厚		一枚貝条痕。ミガキ	晩期、滋賀県
浅鉢	II	J 348	35	N12E4	4	口径20.6 基高 3.2	口縁肥厚		ナデ	晩期、滋賀県
浅鉢	II	J 349	35	N16E8	6	口径27.6 基高 3.0	頸部や長い			晩期後半
浅鉢	II	J 350	35	N21E6	4	口径15.9 基高 5.5	口縁肥厚		ナデ。ケズリ	晩期、滋賀県?
浅鉢	II	J 351	35	N14E5	5-1	口径25.5 基高 5.4	口縁肥厚		ミガキ。ナデ。ケズリ	晩期、滋賀県
浅鉢	II	J 352	35	N18E9	4	口径10.6 基高 2.9			ナデ	晩期後半
浅鉢	II	J 353	35	N11E4	4	口径22.5 基高 5.2			ナデ	晩期?
浅鉢	II	J 354	35	N10E7		口径17.3 基高 4.0				晩期?
浅鉢	II	J 355	35	N12E4		口径23.1 基高 4.8	浅身		ナデ?ミガキ?	晩期
浅鉢	II	J 356	35	N10E7	4	口径22.4 基高 7.9			ナデ。ミガキ	晩期
浅鉢	II	J 357	35	N17E9	6	口径32.9 基高 6.4			ナデ。ケズリ。二枚 貝条痕	晩期
浅鉢	II	J 358	35			口径30.4 基高 6.8	口縁内面に柄突文	ナデ。二枚貝条痕	晩期前半? 松江市保管	
浅鉢	II	J 359				口径26.0 基高 5.6			ケズリ	晩期
浅鉢	II	J 360	35	N16E8	5-1	口径10.7 基高 5.0	口縁肥厚		ハケ目。ナデ	晩期後半
浅鉢		J 361		N13E4		基高 3.4 底径 6.9			ミガキ。ナデ	晩期
浅鉢		J 362		N17E9	4	基高 2.0 底径 10.2			ナデ。ケメリ	晩期
浅鉢?		J 363		N12E4	4	基高 2.0 底径 8.3			ナデ	

器種	分類	掲 図	図版番号	出 土 地 点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
深鉢		J364		N16E7	6	基高 3.5 底径 5.5			ナデ	
深鉢?		J365		N12E8	4	基高 2.4 底径 10.9			一枚貝条模、ナデ	
深鉢?		J366		N16E7	6	基高 4.9 底径 6.4			ナデ、ハケ目	晩期後半
浅鉢?		J367		N11E4	5	基高 1.4 底径 7.9			ナデ	晩期?
浅鉢		J368		N16E8	6	基高 1.7 底径 5.0			ナデ、ケズリ	晩期
浅鉢		J369		N13E4	4	基高 1.6 底径 5.5			ナデ	晩期?
浅鉢		J370		N16E7	6	基高 7.8 底径 5.8			強いナデ	晩期
浅鉢		J371		N27E7	4-2	基高 10.9 底径 8.7			一枚貝条模、ナデ	晩期
浅鉢		J372		N17E9	4	基高 10.9 底径 10.6			一枚貝条模	晩期
浅鉢	I.	J373	35	N16E7	6				ナデ?	晩期、谷尻
浅鉢	V?	J374	35	N26E7	4-2				ナデ	晩期、滋賀県重b?
浅鉢	I.	J375	35	N27E7	4-1		口縁肥厚		ミガキ?	晩期、谷尻~前池?
浅鉢	I.	J376	35	N26E7	4-1		口縁や短い			晩期、谷尻~前池
浅鉢	I.	J377	35	N11E7			口縁斜曲			晩期、谷尻~前池?
浅鉢	I.	J378	35	N20E5	4			リボン状突起	ナデ?	晩期、谷尻~前池?
浅鉢	I.	J379	35	N13E4	4			リボン状突起		晩期、谷尻~前池
浅鉢	I.	J380	35	N11E7	4-1				ナデ	晩期、谷尻~前池
浅鉢	I.	J381	35	N25E7	4-2				ナデ、ミガキ	晩期、谷尻~前池?
浅鉢	I.	J382	35	N22E6	4				ナデ	晩期、谷尻~前池?
浅鉢	I.	J383	35	N13E7	4		口唇突出状		ハケ目	晩期後半?
浅鉢	V?	J384	36	N16E7	5-2				ナデ、ケズリ	晩期、滋賀県重?
浅鉢	V?	J385	36	N16E7	地盤土					晩期、谷尻~前池?
浅鉢	V?	J386	36	N21E5	4		脚部逆「L」の字形	沈線文		晩期、滋賀県重b?
浅鉢	I.	J387	36	N11E4	5				ナデ、ケズリ	晩期、谷尻~前池?
浅鉢	I.	J388	36	N17E9	6				ミガキ、ナデ、一枚貝条模?	晩期、谷尻~前池?
浅鉢	I.	J389	36	N26E7	4-1			沈線文		晩期、谷尻?

分類	番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
浅鉢?	J 390	36	N26E7	4-2		口縁内弧、口唇平坦	内面沈線文	ナデ	晩期。谷底? 深鉢の可能性あり
浅鉢	J 391	36	N25E7	4-2			刺突文	ナデ	晩期前半?
浅鉢	J 392	36	N10E6	4			だ円形の刺突文	条痕。ナデ	晩期前半?
浅鉢	J 393	36	N20 ~22 E5-6	4			だ円形の刺突文	ナデ	晩期前半?
浅鉢	J 394	36	N21E6	4			沈線文		晩期。波賀里吉?
浅鉢	J 395	36	N21E5	4			沈線文	ミガキ?	晩期。波賀里吉
浅鉢	J 396	36	N27E7	4-2		波状口縁	沈線文	ケメリ。ナデ	晩期後半?
浅鉢	I J 397	36	N27R7	4-2		波状口縁	沈線文		晩期後半?
浅鉢	J 398	36	E5-6	4		波状口縁	沈線文		晩期後半?
浅鉢	J 399	36	N26E7	4-2			沈線文	ミガキ。ケズリ	晩期後半?
浅鉢	J 400	36	N21E5	4			泥条の刺突文	ケズリ	晩期前半?
浅鉢	II J 401	36		4			内面に円形刺突文		晩期。谷底?
浅鉢	II J 402	36	N14E6	4			内面に刻目文	ナデ?	晩期。谷底?
浅鉢	II J 403	36	N15E7	6			口唇刻目文	条痕。ナデ。ミガキ	晩期。谷底?
浅鉢	II J 404	36	N27R7	4-1			口唇刻目文	ケメリ? 二枚貝条痕	晩期。谷底?
浅鉢	II J 405	36	N17E8 N17E7	4				ナデ	晩期
浅鉢	II J 406	36	N15E6	4				ナデ。巻貝条痕?	晩期
浅鉢	II J 407	36	N11E4	4				ナデ	晩期
浅鉢	II J 408	36						ナデ	晩期
浅鉢?	J 409	36	N12E4	6			凹縁?	ナデ。ケメリ	晩期?
浅鉢	J 410	37	N13E7	第2河床 堆積上		口縁内側大きく凹む			晩期?
浅鉢	J 411	37	N13E7	第2河床 堆積上		口縁内湾	円形刺突文	ナデ	時期不詳(中期か?)
浅鉢?	J 412	37	N18E9	4			突唇文上に凹縁	ナデ	時期不詳(後期か?)
浅鉢	J 413	37	N16E8	6			上端に屬文、段	ナデ	時期不詳(後期か?)
浅鉢?	J 414	37	N27E7	4-1			沈線文。格子状文 (一枚貝刺突文に上る?)	ナデ? ミガキ?	時期不詳
浅鉢	J 415	37	N10E7	4		口縁外反	突唇文上に沿伏の刺突文。 花瓶文(千葉 竹宮?)		時期不詳 (晩期前半?)

器種	分類	補番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
		J 416	37	N27E7	4-2		口唇肥厚	沈線文		時期不詳(後期?)
浅縁		J 417	37	N26E7	4-2			沈線文(半纏竹管)		時期不詳(後期?)
		J 418	37	N25E7	第2河通 堆積上		深L字口縁	細い沈線文	ナデ	時期不詳(後期?)
深縫		J 419	37	N26E7	4-1	口径10.6 基底 3.4	口唇肥厚		一枚貝条模。ナデ	時期不詳 (前期または後期)
深縫		J 420	37	N26E7	4-1	口径16.9 基底 8.0			一枚貝条模。ナデ	時期不詳 (前期または後期)

2. 弥生土器

弥生土器の出土量は今回も多く、時期の判別できるものはコンテナ約150箱に上るが、そのうち約950点を図示した。実測にあたってはできるだけ多くの器種・型式・形態を掲載することを念頭において類型化を進め、さらに細部、文様の違いを考慮して分類した。実測図は從来の編年に従って前期～後期に分けて掲載し、各器種ごとにまとめた。また型式とは別に文様の種類を把握するため、復元実測図の後に拓影を掲載した。

前期(第24～47図 図版37～64)

I₁ (第24図Y1・2, 第27図Y44) 口縁部が短く外反し、胴部下に最大径がある土器のうち、比較的長胴のもの。肩部、頸部の段以外は文様はない。

T₁ (第24図Y3) 口縁部が短く外反し胴部が強く張る。全体に扁平な感じを受ける。肩部の段以外に頸部にヘラ描き直線文が施される。

I₂ (第24図Y4～第26図Y36) 口縁部が短く外反し、胴部下に最大径があるもの。I₁より胴部が張る。頸部、肩部に段または直線文を持つが、段以外には無文のもの(Y4～14など)と有文のもの(Y15～36など)がある。文様はほとんどが肩部段直下に施され、頸部に直線文(Y16, Y28～32)羽状文(Y19), 突帯文(Y23, 27)が施されるものもある。また羽状文と直線文を組み合わせた文様が逆倒的に多いが、鋸齒文、波状文、重弧文など文様の種類が多い。突帯文はY23, 27の2点のみにみられるが、Y23が貼り付け、Y27は削出しによる。

I₃ (第27図Y43) 口縁部が短く外反し、胴部はあまり張らず、最大径が胴部中程にある。頸部はI₁～I₂より短い。頸部と肩部には段が施される。

Ⅲ₁ (第27図Y51・54, 第28図56・58~63・70, 第29図84・90) 胸部があまり張らないものうち, 口縁部が漏斗状に大きく広がるもの。文様は頸部, 胸部にヘラによる直線文が多く施されるが, 4条以上のものがほとんどである。直線文の直下に刺突文のものもみられるが, 刺突文の形状は三角形が多い。また口唇部にも羽状文, 刻目文, 斜格子文などの文様が施されるものもある。突帯文は貼り付けによるものが多いが, Y60は削出突帯文である。口縁内面は基本的には無文であるが, Y51には三角形刺突文, Y62には突帯文, Y63には直線文, 鋸歯文が描かれる。また1例ではあるが, 直線文直下に段を持つものがある (Y61)。

Ⅲ₂ (第28図Y55・64, 第30図Y111) 胸部があまり張らないもののうち, 口縁部が短く広がるもの。

Ⅲ₃ (第26図Y42, 第27図Y45・46, 第28図Y73・74) 口縁部が漏斗状に開き胸部が強く張るが, Ⅲ₁に比べやや口縁部が短いもの。文様は肩部に段 (Y45), 頸部にヘラ描き直線文 (Y46) が施される。

Ⅲ₄ (第27図Y47~50, 第28図67~74) 口縁部が漏斗状に長く大きく開くもので, 完形は出土していないが, 西川津遺跡, 烏取県日久美遺跡などの出土例をみると, 胸部は強く張ると思われる。口縁部片ではⅢ類との区別は難しいが, 頸部から肩部にかけて比較的急に広がるものをⅢ₄類とした。文様は口唇部に直線文, 羽状文, 刻目文, 頸部に直線文, 突帯文で飾るが, それ以外の文様は少ない。直線文はほとんどが4条以上で, 突帯文は貼り付けが多いがわずかに削出突帯文がある (Y67・72など)。

Ⅳ (第27図Y52, 第28図76, 第29図Y85~87・91, 第30図Y110・112・115, 第31図Y119) 口縁部は短く外反し, 胸部があまり張らないもの。完形は報告Ⅱの第14図にある。無文のものが多いが, 文様は頸部に直線文 (3条以上が多い) が施されるものが多く, 他には直線文間に刺突文が施される程度である。また, 直線文直下に段を持つものが少數ある (Y100~102)。口縁部は無文が多く, 鋸歯文 (Y103), 直線文 (Y110) が施されるものがわずかにある。

Ⅴ (第30図Y113・116, 第31図Y118・120~122・124) 口頸部は短く外反し, 胸部が球形に強く張るもの。無文の土器が多く, 中期前葉とすべきものもあるかもしれないが, 脂上, 調整などから一応前期に入れておく。文様はY121の頸部, 肩部に5~7条のヘラ描き直線文が施される程度である。

Ⅵ (第26図Y39, 第32図Y140) 胸部がほぼ球形をなすものだが, 完形が出土していないため口縁部の形態は不明である。Y39の底部は円板状を呈す。文様はY39に羽状文, 重弧文, 直線文, Y140に細い貼り付け突帯文が施される。

Ⅶ (第31図Y123・126・128・129) 頸部の短い短頸壺とも言うべき土器で, 胸部はあまり張ら

ない。いずれも中～小型で、ほとんどが無文である。

Ⅳ（第31図Y134・135） 口縁部が逆「L」字形を呈し、頸部が「ハ」字形に広がるもので2点出土している。口縁上面と頸部に3～5条のヘラ描き直線文が施されている。

このほか、胴部片であるが胴部が屈曲し稜ができるものがある（第32図Y142・第42図Y334・335）。特異な器形であるがⅠ類またはⅢ類の変形かもしれない。文様は羽状文（Y142）、直線文（Y334・335）で飾る。

無頸壺（第33図Y155・157～第34図Y163） 胴部が張り、口縁部が強く内湾する。無文の土器が多いが、口縁部近くに突帯文（Y155・177）や、羽状文（Y159）を施すものもある。

短頸壺（第33図Y156、第45図Y391 図版51～62） 口縁部が短く内傾しているものを短頸壺とした。肩部はかなり張るようである。肩部にヘラ描き直線文が描かれている。

壺I（第34図Y164～第37図Y216、第45図Y403～第47図Y452 図版51～55・58～64） 口縁部が緩く短く外反する。いわゆる如意形口縁の壺である。胴部が張らず直線的なもの（Y174など）と胴部がやや張るもの（Y186など）がある。文様は段を基調とするもの（Y164～172など）、直線文を基調とするもの（Y173～Y196など）、直線文間に刺突文を施すもの（Y198～203）、直線文直下に刺突文を施すもの（Y203・206・207など）などが多い。段を持つ土器は口唇部の刻目文以外に文様がないものが一般的であるが、段直上または直下に直線文や刺突文を加えるものが少数ある。（Y164・197・393・394・402～413）。また突帯文が付されるものもわずかにあり、Y210には削出突帯文、Y211～214・216には貼り付け突帯文が付されている。なおY210には突帯上にさらに刺突文も施される。このほか羽状文・重弧文を施すものが1点出土している（Y209）が、小片で鉢の可能性もある。口唇部には刻目文、羽状の刺突文が施されるものもあるが、無文のものも多い。

Ⅱ（第38図Y218～230、第45図Y395・397～401） 口縁部が逆「L」字形に屈曲するもので、出土量は少ない。文様は段（Y218・395）、直線文（Y219・221・223～225・228・400）、直線文直下に刺突文（Y220・222・227）、直線文間に刺突文（Y226・397・401）、竹管文（Y230）が施される。口唇部には刻目文（Y221・223～229など）や羽状の刺突文（Y398・399）が施されるものがある。

このほか、口縁部が逆「く」字形に屈曲し頸部内面に稜ができる壺がある（Y217）。貼り付け突帯文を付すだけで他の文様を持たないため、前期である確証はないが、胎土、調整から一応前期としておく。

鉢I（第38図Y231～第39図Y246） 口縁部が短く外反するもので、壺I類と同様の口縁の鉢である。いずれも破片のため壺I類のものもあるが、口縁が大きく広がっていることから、鉢と判断した。また文様が施されない土器については前期でないものもあるかもしれない。文様があるも

のは少なく、直線文（Y231・232）、直線文間に竹管文（Y238）、貼り付け突帯文（Y241）が付される程度である。また口唇に刻日文が施されるものも少ない。わずかながら、把手が付くものもある（Y243・244・246）。調整は堀よりていねいで、内外をていねいなヘラミガキ調整されるものがある（Y240・242など）。

Ⅰ（第39図Y247・248） 口縁部が直線に広がるもので、小型の鉢である。内外面ともヘラミガキやナデでていねいに調整される。

Ⅲ（第39図Y249～254） 口縁部が内湾するものである。浅身のものが多いが、Y255はやや深身である。Y249・251には把手が付けられ、Y251の口唇部には直線文が施される。

蓋（第39図Y256～第40図Y273、第47図Y453～455） 笠形に口縁部が大きく開く蓋が多いが、小型の蓋も少数ある（Y256・257・260～265）。Y256は大井部につまみを付ける蓋である。文様が施されるものは非常に少なく、直線文（Y266）、直線文間に竹管文（Y259）、円形刺突文（Y273）、羽状文（Y454）、重弧文（Y455）、木葉文（Y453）などが描かれるが一般的ではない。

底部（第40図Y274～292、第47図Y458） 底部外面は文様が描かれるものがわずかにある（Y274・275・277・278・279・457）。直線文（Y275・277～279）のはか重弧文（Y274）が施される。またY457の裏面には弧状文が描かれ、Y458には木葉痕が残る。

文様（第41図Y293～第47図Y455） 前期の土器には直線文、羽状文を中心多く文様が描かれる。工具はヘラによるものが多いが、二枚貝腹縁によるものもかなりみられる。

羽状文（第41図Y293～第42図Y309） 有軸羽状文と無軸羽状文の2種類あるが、有軸羽状文は少なく、多くは無軸羽状文である。一覧表では便宜上無軸のものをA、有軸のものをBと表記した。Y305は有軸羽状文と無軸羽状文の両者が描かれる土器で、1点しか出土していない。また無軸羽状文には横方向に施されるもの（aと表記、Y293など）と縦方向に施されるもの（bと表記、Y301など）があるが、後者は非常に少ない。施文具はヘラ、二枚貝の2者があるが、両者はほぼ1対1の割合である。ヘラによるものは刺突状に施されるもの（Y293など）がほとんどで、Y295のようにヘラで引いて描かれるものは少ない。羽状文は段とともに肩部から胴部上半に施されることが多く、また壺T類に最も多いようで、前期でも古い時期に盛行した文様であろうか。ただし口縁部の羽状刺突文についてはⅠ類、Ⅲ類上器に限られ頸部に多条化した直線文や貼り付け突帯文を持つことから前期後半以降の文様であろう。Y297は壺口縁部内面に描かれているが、この部分に描かれるものは非常に少ない。またY209・Y447（堀）やY454（蓋）に施される例もあるが、壺以外の器種に羽状文が描かれることも希である。

鋸歯文（第42図Y310～319、第47図Y449～451） 単独で施されるものは少なく、直線文や羽状文の直下に施されるものが多い。Y310～313は一つの単位が小さい鋸歯文で、ヘラ状工具の先端で

刺突したもの（Y310・313）もある。Y26・Y314～319は一単位が比較的大きく描かれるもので、Y449～451は壺である。Y26はいわゆる複合鋸齒状文が描かれる。Y315は削出突帯文直下に描かれ、下向の鋸齒文内をさらに平行線で埋めるものである。鋸齒文はほとんどが壺胴部に施されるが、壺口縁内面に施されるもの（Y63）が少數あり、また壺胴部に直線文と組み合わせて描かれるもの（Y449～451）もわずかながらある。

弧状文（第42図Y320～326）　いわゆる連弧文である。2つの半円形を向き合わせるもの（Y323～325）と半円形を連続させるだけのもの（Y320～322？）などがあり、施文具もヘラと貝の両者がある。また、弧文端部に区画線を入れるものも多い（第26図Y39・41など）。Y35は双曲線状に文様が描かれたもので、1箇所のみに施文され連続した文様ではない。この文様も壺胴部に施されるものが多く、ほかの器種は蓋（第47図Y455）、壺（第37図Y209）に各1点を確認したにすぎない。

短線文（第25図Y26、第42図Y327～330）　縱方向または横方向にヘラ状工具によって刺突状に施文されるが、刺突文に比べやや長い文様である。Y327・328は直線文に直交して施され、Y327は格子状の文様となる。Y330～332は直線文直下に施文される。Y26・Y333は直線文間に縦横に施され、一見雷文に見える。壺以外の器種には短線文が施されるのは希で、第47図Y446・448（ともに壺）にみられる程度である。

格子文（第43図Y336～338）　斜格子文（Y336・337）と方眼状の格子文（Y338）があり、前者が圧倒的に多い。施文工具はヘラ（Y336）、貝（Y337・338）の両者があるが、ヘラ描きのものが多く一般的のようである。Y337は貝殻腹縁によって施文され、各格子中央に小さな円形刺突文が施される特異なものである。いずれも壺に施文されている。

木葉文（第43図Y339～353）　いずれも小片で不明瞭なものが多いが、無軸、有軸の両者がある。図示したもののうち無軸木葉文とわかるものはY340のみで、他は有軸と思われる。有軸木葉文は斜軸のもの（Y339・341・342・344・346・348・349～353）と縱軸のもの（Y343・345・347・350）とがある。施文具はヘラ、貝の両者があるが、ヘラ描きのものが多く貝殻腹縁によるものはY345・349・350・352の4点である。

流水文（第43図Y360・361、第47図Y452）　いずれも小片で全体の形状・文様構成は不明である。Y360は貝殻施文によるもので、他に例を見ないといわれる。Y361・452は櫛細片のため流水文である確証はないが、一部の沈線文が反転していることから流水文の可能性を考えた。施文具はともにヘラ状工具である。

刺突文（第43図Y354～359、第46図Y414～第47図Y445）　三角形刺突文、円形刺突文、竹管文などがあるが、壺に施文されるのは比較的少なく、壺に多くみられる。いずれも直線文間あるいは直下に施されるものが多く、段との組み合わせはY354・355・437で少ない。Y418～422のように

羽状に刺突文を施すものもある。前期では壺に三角形刺突文が施されるものは少ないよう、円形刺突文、竹管文が一般的である。三角形刺突文は木口で施文されると思われるが、Y359は工具の向きを変えながら施文した珍しい例である。またY358は円形刺突文を鋸歯状に連続刺突するもの、Y413は円形刺突文が垂下するもので、ともに1例のみ出土している。

突帯文（第44図Y362～第45図Y392） 削出しによるもの（一覧表ではBと表記）と貼り付けによるもの（Aと表記）があり、さらに削出し突帯文は1条削出すもの（Y362など、Ba）、太い削出し突帯文上に直線文を施し多条に見せるもの（Y367など、Bb）とがある。貼り付け突帯文は1条ずつ貼り付けるもの（Y372など、Aa）、貼り付ける部分に下引き沈線を施した上に突帯を貼り付けるもの（Y375など、Ab）、太い突帯文上に直線文を施し多条に見せかけるもの（Y378～380など、Ac）がある。削出し突帯文ではBb類が多く、貼り付け突帯文ではAa類が多い。突帯文上を羽状文（Y369）、刺突文（Y368）で飾るものもあるが、突帯文上は刻目文で飾るものが多い。Ac類は突帯状にヘラ描き沈線文が施されるのが一般的だが、まれにY378、379のように貝殻腹縁で施されるものもある。突帯文は壺の肩部を横走するものがほとんどであるが、口縁内面に施されるもの（Y383・47・78・79など）、垂下させるもの（Y388・389）、渦巻状のもの（Y392）などが少数ある。壺・無頸壺以外の器種では甕にも少数ながら施されるものがあり、これらには削出し突帯文は少なく（第37図Y210・215）、貼り付け突帯文がほとんどである（Y211～217など）。

中期（第48～第69図 図版65～94）

従来どおりクシ描き沈線文以降の土器を中期とした。

中期では中葉以降、壺、甕の口縁部が拡大する傾向があり、また後葉以降は複合口縁化の傾向が認められる。どのように拡大変化していくかは明らかにされていないが、口縁端部の形態は多様であるため繁雑ではあるが分類を試みた。以下口縁部の説明はこれに従う。

- a (第50図Y499・505・第61図Y674など) 口縁端部は平坦面をなすが、拡張しないもの。
- b (第51図Y514・第55図Y592・第62図Y697など) 口縁端部が上下方に肥厚するもの。
- c (第50図Y503・第61図Y677・第62図Y690など) 口縁端部が上方に肥厚するもの。
- d (第50図Y506・第62図Y694など) 口縁端部が下方に肥厚するもの。
- e (第52図Y529・532など) 口縁端部が大きく拡大し、下垂するもの。
- f (第52図Y537～539など) 口縁端部が大きく拡大し、斜下方に屈曲するもの。
- g (第55図Y587・第63図Y701など) 複合口縁のうち口縁端部が短く内傾するもの。
- h (第63図Y706・第72図Y910など) 複合口縁のうち口縁端部が短く直立気味なもの。
- i (第70図Y860・866など) 複合口縁のうち口縁端部が外傾するもの。

j (第70図Y868) 複合口縁のうち口縁端部が直立するもの。

k (第72図Y894~898など) 複合口縁のうち口縁端部が外反するもの。

全体の器形は次のように分類できる。

壺II, (第48図Y459~461), IV(第48図Y465~第49図Y491) 前期のII類, IV類と同形態であるが、文様がクシ描きによるものである。これらはY479のようにやや特異な形態の土器もあるが、前期後半以降の形態と考えてよからう。從来から中期前葉と考えられてきた土器である。

III (第50図Y492~496・498・499・501・502・505) 口縁部は大きく広がるが、頸部が短いもの。中型のものが多い。口縁端部の形態はa・b・d類であるが、口縁端部の拡張の傾向は顕著ではない。なおY492は口縁端部に羽状文を施すなど他の上器に比べ古い様相を持つが、前葉の土器に似た形態のものがなく胎土も粗い砂粒を含まないことなどから、中葉に近い時期と考えた。

X, (第50図Y504・506・511・513) 口縁部が朝顔形に大きく広がるもので、頸部がやや短いもの。口縁部が若干屈曲して広がるため、口縁部の断面形が逆「コ」字形になるものが多い。口縁端部はa~e類があり口縁部拡張の傾向は認められる。

X, (第50図Y497・507・509・510・512, 第51図514~526) 口縁部が朝顔形に大きく広がるもので、頸部が長いもの。口縁端部はa~f類があるが、口縁端部の拡張傾向は顕著でb~d類も幅広く肥厚している。

X類は口縁端部に文様を入れる土器が多く、特に斜格子文の多用が目立つ。口縁内面にも文様が多く見られ、一般的とは言えないが口縁内面に突帯文を施すものもよくみられる。頸部に突帯文を施すものも多いが、頸部、肩部には他の文様はあまり施されないようである。またY515・516・518・530のように口縁端部に四線文、沈線文が施されるものは他の土器より新しいと思われる。

II (第52図Y531・533~536, 第53図Y540~550) 口縁部が漏斗状に大きく広がるが、頸部はX類のように筒状にならない。口縁端部は肥厚するb~c類が多いが、f類もわずかながらある。全体に口縁端部はX類はほど拡張しないが、この部分に文様を施すものも多い。III類は頸部に突帯文を多条に施すのが特徴的で、Y548のように突帯文を垂下せるものもある。またY553のように頸部に直線文、波状文が施されるものもあり、頸部の文様はX類より多いようである。

III, (第54図Y556・558・559) 口縁部がやや短く外反するもので、口縁端部は単純に終る。文様はほとんど施されず、わずかにY556の肩部に刺突文が施される程度である。

IV, (第53図Y554) 全体の器形はIII類とあまり変わらないが、口縁端部が肥厚すること、大型であることなどIII類と趣きが大きく異なる。III類とは別とすべきかもしれないが一応同類としておく。口縁端部には只殺施文による羽状文、頸部には指頭による刻目突帯文が施される。1点のみの出土で、他には西川津遺跡で少數出土しているにすぎない。なお、西川津遺跡出土の1点はY554

と同一個体である。

Ⅹ（第55図Y574～578・583） 口縁部は短く外傾し、頸部は「く」の字形を呈する。口縁端部は肥厚し上面は平坦面をなす。頸部に突帯文が施されるものが多いが、他の文様は少ないようである。

Ⅺ（第55図Y581・584） 口縁部が逆「L」字形を呈し、頸部が「ハ」字形に伸びるもの。瞿頬に似るが、時期が離れており、同一系統の土器ではないと思われるため別類とした。

以上のⅨ～Ⅺ類は從来中期中葉として扱ってきた土器とほぼ同一の内容と考えられるが、凹線文を多用するY586は後葉の可能性がある。

Ⅻ（第55図Y585・587・588） 口縁部、頸部は明瞭に屈曲するもので、口頸部の断面形が逆「コ」の字形を呈するもの。胴部は強く張ると思われる。口縁端部の形態はY585, 587がg, Y588がbであるが、Y588も口縁部の複合化が窺える。文様は口縁部、頸部に凹線文が施される以外はY588の胴部に刺突文が施される程度である。

Ⅼ（第55図Y580・589～592・594） 頸部が短く外反し、胴部があまり張らないもの。口縁部はb・c・e・gがあり、口縁部の複合化が窺える。口縁端部、頸部に凹線文が施されるが、他の文様はほとんど施されずY594肩部の凹線文間に斜線文が施される程度である。

Ⅽ, Ⅾ類は概ね中期後葉と思われる。

短頸壺（第54図Y557・560・564～570・第54図Y579） 頸部の屈曲が緩く胴部があまり張らないもの（Y557）と頸部の屈曲が強く胴部が張るもの（Y564～567・569・570）がある。文様が施されるものは少ないが、Y569, 570は直線文が施される。Y566は漆塗土器である。

無頸壺（第54図Y561・562・571～573、第55図Y582、第56図Y595～598） 胴部が強く張るもの（Y561・562）とあまり張らないもの（Y595～598）がある。前者は口縁端部が肥厚し平坦面をなすもの（Y561はか）と丸く終るもの（Y571）がある。口縁端部が肥厚するものはこの部分に鋸歯文や凹線文を入れるものが多い。Y571は口縁部内面に段ができ、折り返し口縁状を呈する。胴部が張らないもののうち、Y597はクシ描き直線文が施され、中期前葉の可能性がある。

直口壺（第54図Y563） 口縁部がやや長く直口するもので、凹線文が施されている。

壺I（第56図Y601～第59図Y643）、II（第59図Y644～第60図Y661） 前期I, II類と同じ形態である。有文の土器はクシ描きのものを中期としたが、無文の土器は前期と中期の区別は不可能であるが、一応括して中期とした。これらはほとんどが中期前葉と考えられるが、II類のうちY656～661は胎土、調整など中葉の特徴を持つ。Y656などが前期II類の系譜をひくものか中期中葉の独自の器種であるかは不明である。またY655, 658は突帯や蒲鉾形の口縁を持つなど特異な形態であり、別系統の土器かもしれない。

Ⅲ、(第59図Y634) 頸部が細く締まり、肩部は強く張るが長胴のもの。

Ⅲ、(第60図Y662～第61図Y677・679～第62図Y684・686、第63図Y704～706・708) 頸部は「く」字形に屈曲し口縁部は短く外傾するもので、胸部はあまり強く張らない。口縁端部の形態はY662～665などがa、Y676・681などがb、Y666～668・675などがc、704～706・708がgである。口縁端部の拡張傾向は認められ、Y679・680(c)のように複合口縁化の進んだものもある。文様は口縁部に刻目文、凹線文、頸部に突帯文、肩部に刺突文が施されるが、総じて文様は少ない。口縁端部の凹線文はc類の中でも幅が広がったものに施されることが多く、さらに頸部に突帯文が施されるものは口縁端部に凹線文が入る土器に多くみられる。口縁端部に凹線文が施されない土器に突帯文が付けられるのは非常に少ない(Y673・681)。凹線文が施されない土器は中葉、口縁端部gの上器は後葉と考えて差支えないと思われるが、口縁端部に凹線文が施される一群(b・c)が中葉、後葉のいずれか(あるいは連続して存在するか)は不明である。

Ⅲ、(第61図Y678・第62図Y688～703) 頸部は「く」字形に屈曲し、胸部が強く張るもの。口縁端部はb～d、gがあるが、b～dは肥厚して面をなし、羽状文(Y696)、刻目文(Y690・691)斜格子文(Y697)を施すものが多い。また頸部に突帯文が施されるものも多い。口縁端部gのもの(Y698～703)は一層複合口縁化が進んだ形態で、凹線文が施される。

Ⅳ(第62図Y687) Ⅲ類に似るが口縁部がやや長く外反する。外面には叩き痕が観察され、後期の可能性もあるが、内面にハケ目調整がみられることから一応中期とした。

鉢I(第63図Y709～第64図Y718・720・722・723) 口縁部が「く」字形に屈曲する變形のものである。Y709～718は前葉、Y720・722・723は中葉と思われる。

Ⅴ(第64図Y721・725～第65図Y732・734～737・740～746) 無頭の鉢で、口縁部が単純なものもあるが(Y721・724・725・734～737)、多くは肥厚し上面は平坦面をなす。刻目突帯文が多用され、凹線文が施されるものもある(Y726・732・736～744)。多くは中葉～後葉と思われるが、Y734は直線文直下と口唇部に三角形刺突文が施されることから前葉と思われる。

Ⅵ(第64図Y719・724) 口縁部が逆「L」字口縁のものである。

Ⅶ(第65図Y738・739) 頸部が「く」字形を呈し、口縁部が拡張するもの。

以上のはか、Y733のように頸部が屈曲する特異な鉢がある。

高环I(第65図Y747～第66図Y752) 壺部が碗形に内湾し、口縁部が屈曲し鉗状に広がるもの。

Ⅷ(第66図Y753～758) 壺部が碗形に内湾し、口縁部が肥厚するもの。肥厚した口縁端部には円形浮文、斜格子文などで飾ることも多い。

Ⅸ、(第66図Y762・763・765) 壺部が皿形のもので、口縁部は内湾気味に直立するもの。口縁端部は肥厚し平坦面をなす。口縁部および壺部には凹線文が施されるものがある。

Ⅲ₁ (第66図Y759~762) 坏部が皿形のもので、体部と口縁部の境に稜がつくもの。

Ⅳ (第66図Y764・766) 坏部は内湾し、口縁端部を内側に摘み上げるもの。

このほか脚部も多数出土している。端部が単純なもの (Y767~777)、端部が広がり文様を施すもの (Y779~782)などがあるが、完形が少ないと坏部との対応は不明である。

その他の器種としては蓋 (Y787~789)、コップ形土器 (Y794~799)などがある。

文様 (第69図Y825~849) 中期前葉の文様は前期後半の文様とさほど変化はないが、直線文間または直下に波状文が施されるものが多くなる (Y845~848など)。また円形刺突文、竹管文は少なくなり三角形刺突文が多用されるようである (Y839・840など)。中葉の土器は壺の口縁部を中心に文様が施され、特に斜格子文、波状文、突帯文が多用される。同一文様が何回も繰り返し施され (Y512など)、口縁内面に施文されるものが多いため、一見装飾性に富むように見えるが、文様の種類そのものは前期が多いようである。後葉の土器では凹線文とクシ状工具による刺突文が多用されるほかは文様は少ない。突帯文は全て貼り付けで下引き沈線を施す例は確認していない。工具については前期で多用された貝殻施文は中期前葉では確認しておらず、中葉になって再び登場するようである (Y517・671)。貝殻施文は中葉以降連続と続くが、施文具の主流ではない。

後期 (第70~73図 図版95~98)

頭部までヘラ削り調整が施されるものを後期とした。

壺Ⅶ (第70図Y851・855) 中期壺Ⅵ類と同形態のもの。口縁端部はb類で凹線文が施される。

Ⅲ₁ (第70図Y852・856・858・859) 口頭部は「く」字形に外反するが、頭部の屈曲は緩い。胸部はあまり張らない。口縁端部はb、h類があり、凹線文が施される。

Ⅲ₂ (第70図Y853・854・857・862) 口頭部は崩れと同じだが、胸部が強く張るもの。口縁端部はb、c、g類があり、凹線文が施される。

Ⅲ₃ (第70図Y861・863・866) 口頭部が長く外反するものである。口縁端部はi類で、弥生土器ではもっとも複合口縁化が進んだものである。Y861・863には凹線文、Y866にはクシ描き直線文が施される。

Ⅲ₄ (第70図Y869~871) 胸が強く張り口縁部は直口または外傾する。肩部に凹線文、クシ描き直線文が施される。

壺 (第71図Y872~第72図Y907) 全体の器形はⅢ₂ (Y872~878・885~907)、Ⅲ₃ (Y879・880)、Ⅳ (Y882~884) があり、中期とあまり変わらないが、口縁端部はg~i、kのいわゆる複合口縁が多くなる。a~c類もやや幅広で凹線文を入れるものが多い。a~c類は中期後葉に多くみられ、中期後葉とすべきものもあるかもしれない。また複合口縁は内傾または直立するg~h類が後期前

半、外反する k 類が後半とされる。k 類の口縁部の文様はクシ書き直線文が多いが a～c 類は凹線文が多いようである。IV (Y882～884) は後期としてはあまり例のないもので、いずれも口縁部は単純に外反する。Y882には叩き痕が残る。

鉢 (第72図Y908～912) 頭部が「く」字に屈曲するので、口縁端部は a 類 (Y908) と h (Y909～911) があり、後者は複合口縁と呼ぶべきものである。

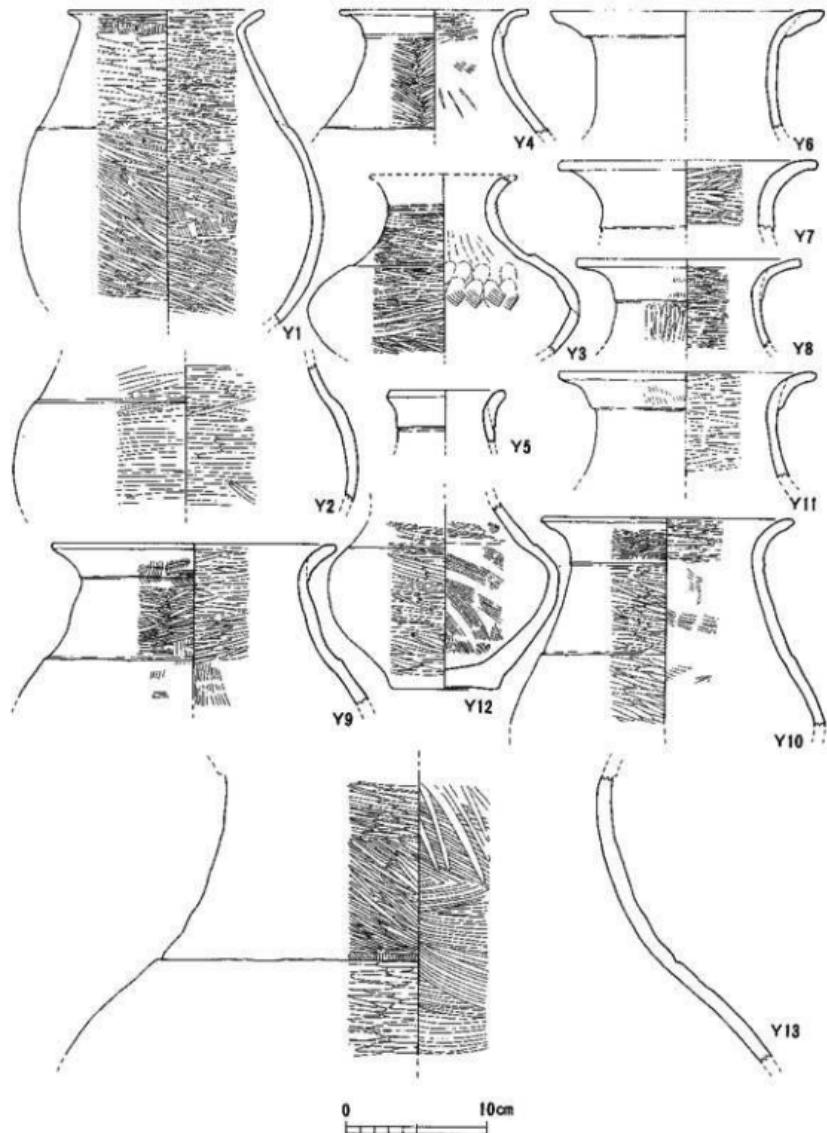
高杯 (第72図Y911～915・917～第73図Y919) 杯部はⅡ類 (Y913), Ⅲ類 (Y911・912・914・915) のほかに、口縁端部が大きく外反するIV類 (Y917・918) がある。Ⅱ・Ⅲ類は口縁端部が複合口縁化したものが多く、凹線文 (Y913・914) ヘラまたはクシ書き直線文 (Y915) などが施される。脚部も端部が肥厚し凹線文を施すものが多い (Y919)。

器台 (第73図Y920～923) 脚部が出土しているが、高杯脚部の可能性もある。Y920～923の端部は拡張し、複合口縁化し凹線文が施される。Y923は鼓形器台である。

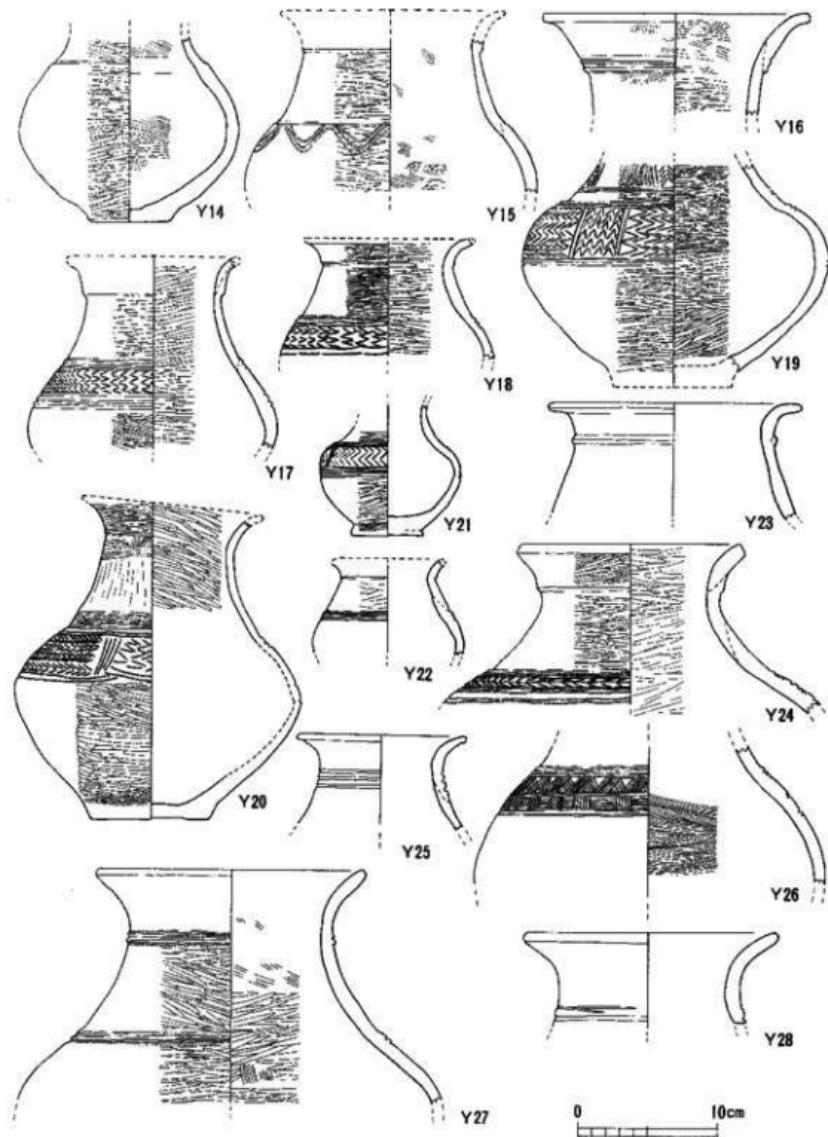
その他の弥生土器 (第73図Y924～947) 特異なもの、時期不明なものを一括した。Y924～926は注口土器、Y927は瓶である。Y928～930は漆塗土器で、中期中葉と思われる。Y931・932・941・943・945は口縁上端に突帯文を施すものである。Y943は攜文時代晚期の突帯文土器によく似るが、上端の鋸歯文が特異である。Y934は壺、Y933は鉢と思われるが、同様な突帯文を施すものはない。Y935は高杯と思われるが弥生上器に一般的な円板充填によるものではなく、接合式のものである。Y937・938は脚付の長頸壺であろうか。Y942は段を有することから前期であることがわかるが、波状口縁の土器である。摩滅が著しいため欠損となった可能性もある。Y944は口縁端部が玉縁状になるもので弥生土器である確証はない。Y947は有軸羽状文を弧状に配した土器で後期の様相を持つ。

参考文献

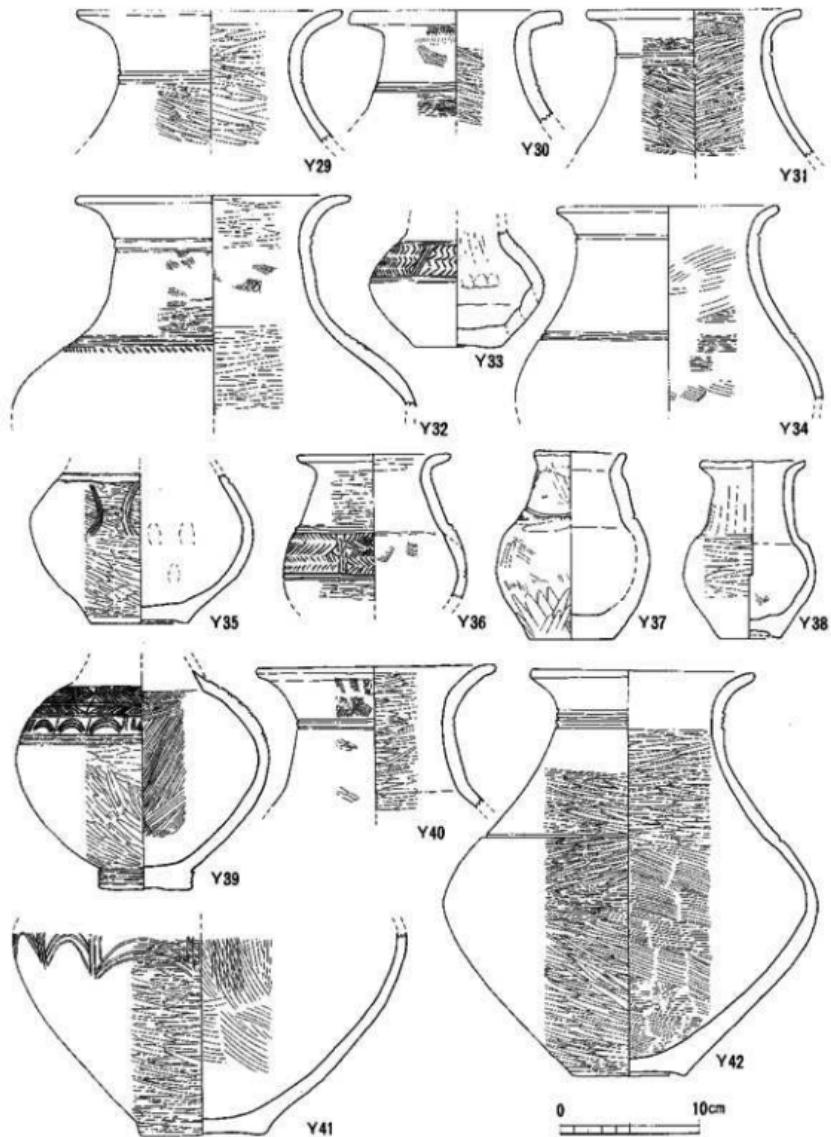
- 東森市良 他 『島根県弥生式土器集成』 八雲立つ風土記の丘研究紀要 I 1977
金間 細・佐原 真 編 『弥生文化の研究』 3・4 1986
日本考古学協会編 『日本農耕文化の生成』 1960
小林行雄 編 『大和古跡遺跡の研究』 1943
佐原 真 他 『紫雲出』 1964



第24図 弥生土器(1) 前期 壺 1:4



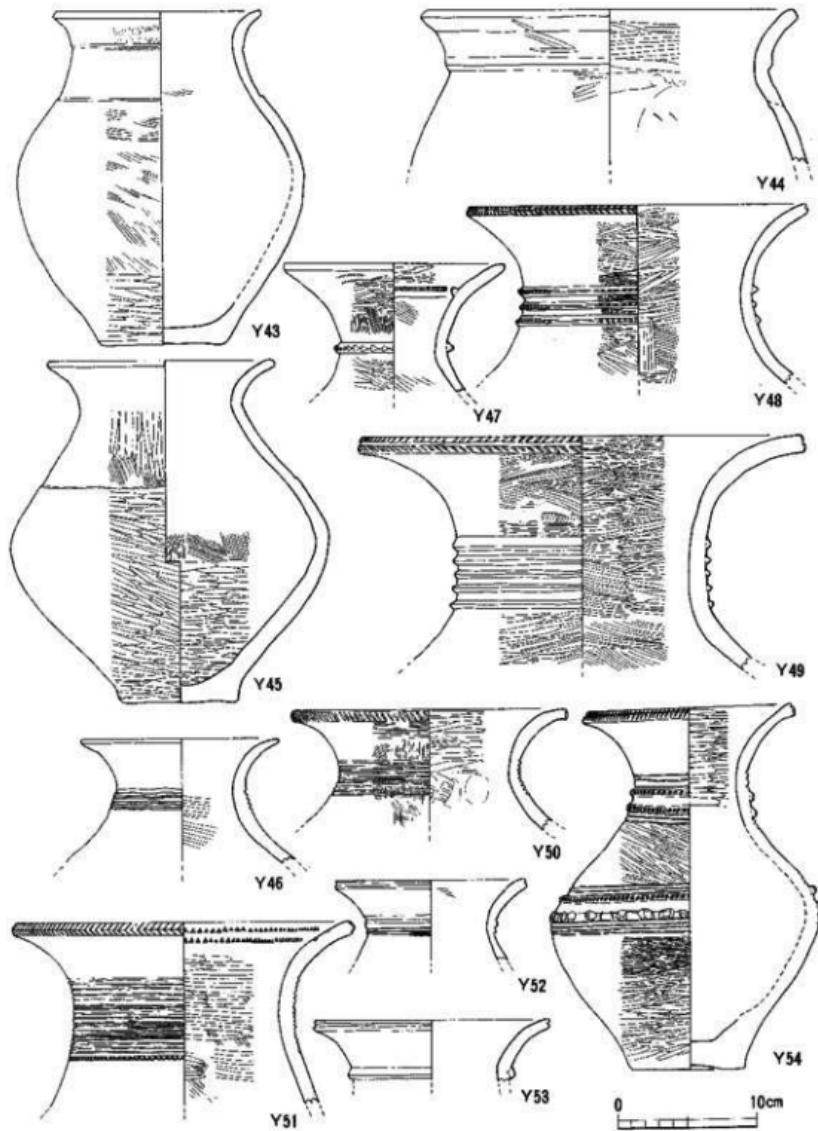
第25図 弥生土器(2) 前期 壺 1:4



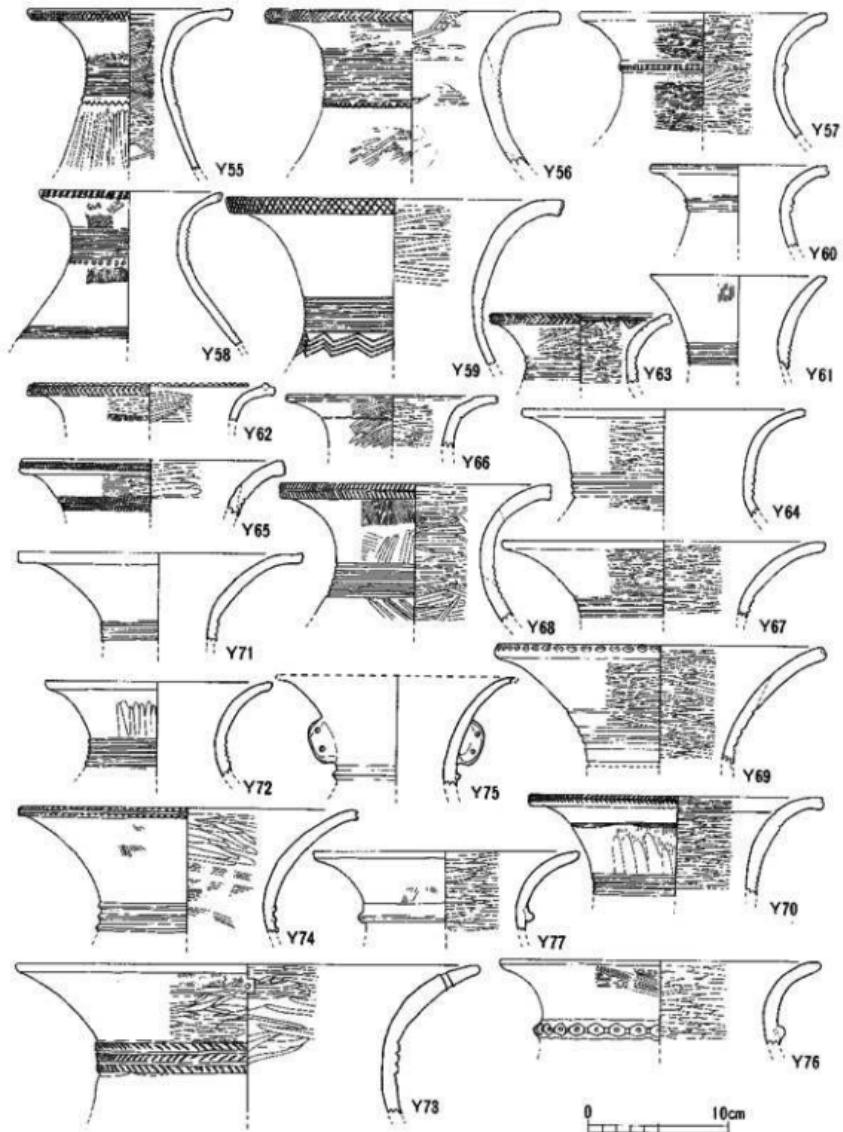
第26図 弥生土器(3) 前期 壺

1:4

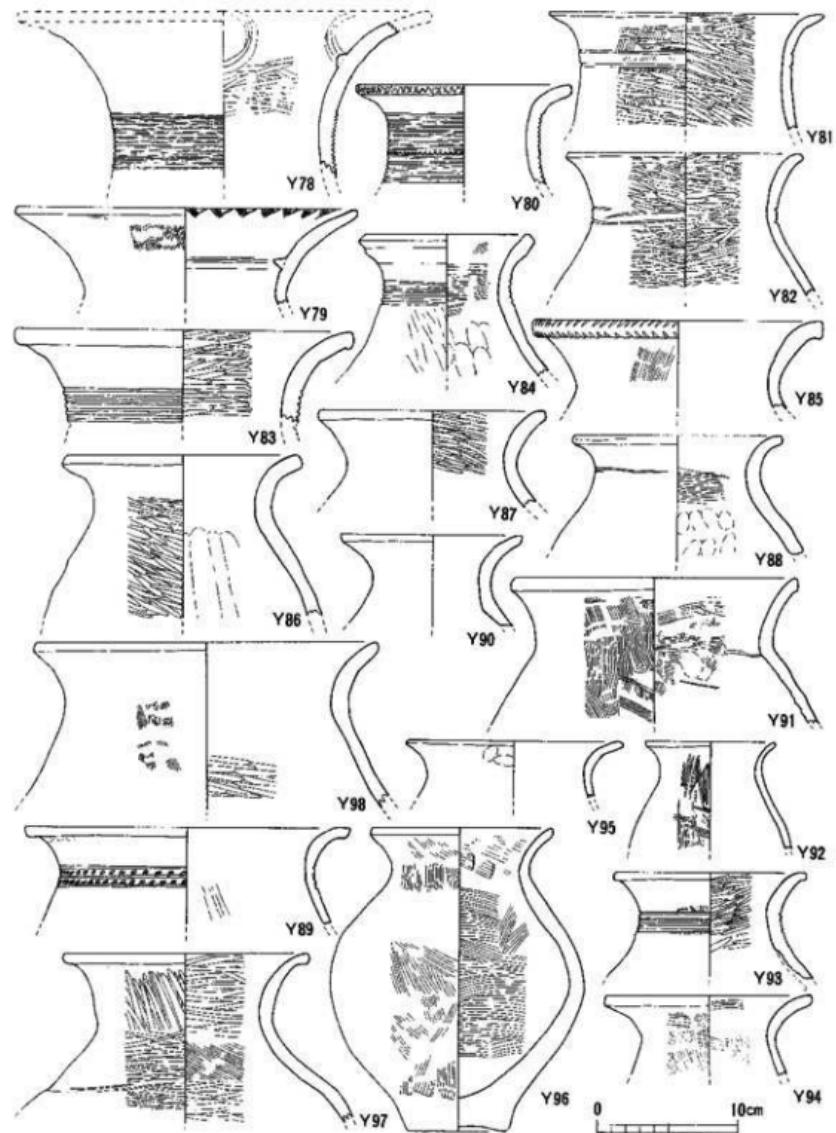
0 10cm



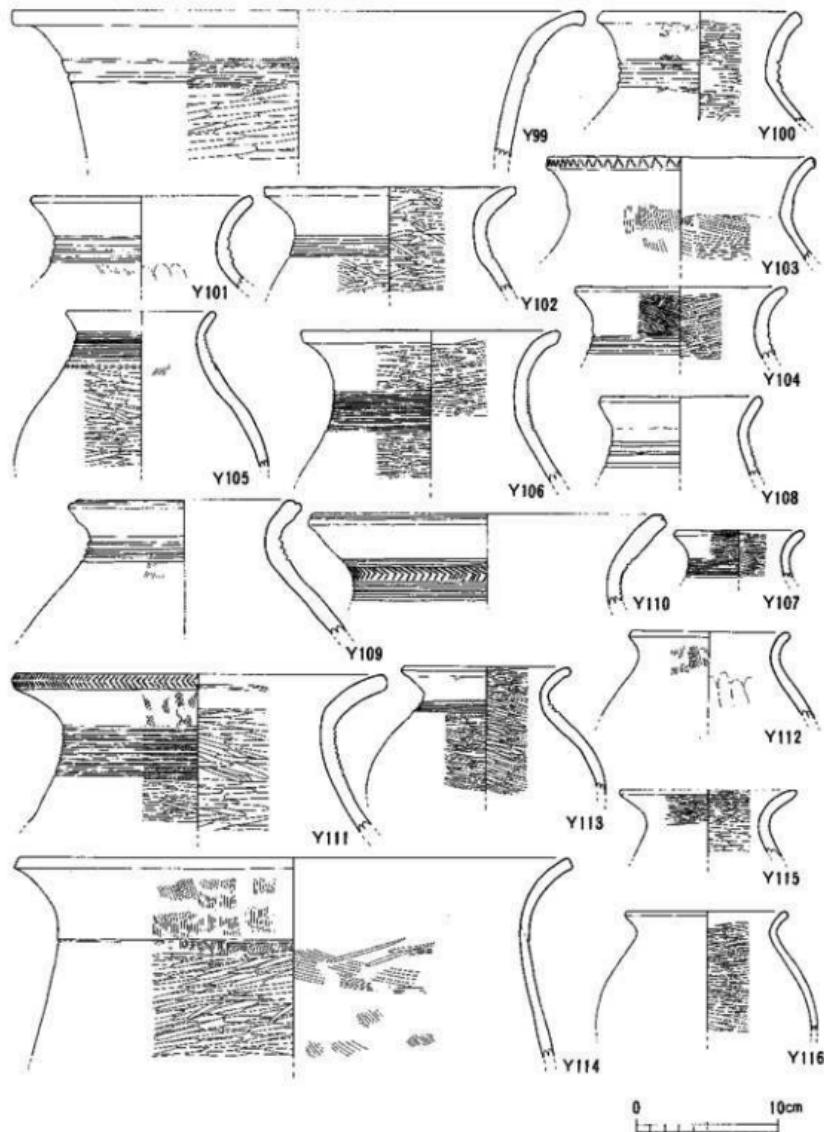
第27図 弥生土器(4) 前期 壺 1:4



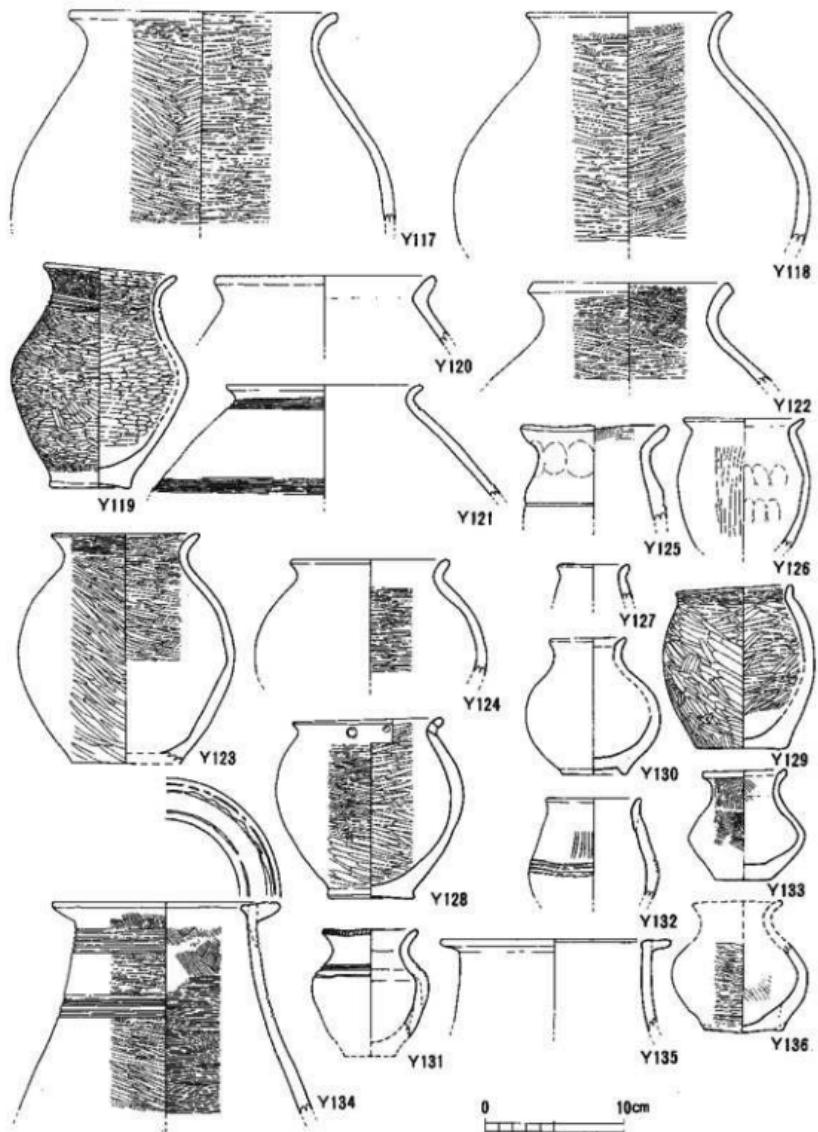
第28図 弥生土器(5) 前期 収 1:4



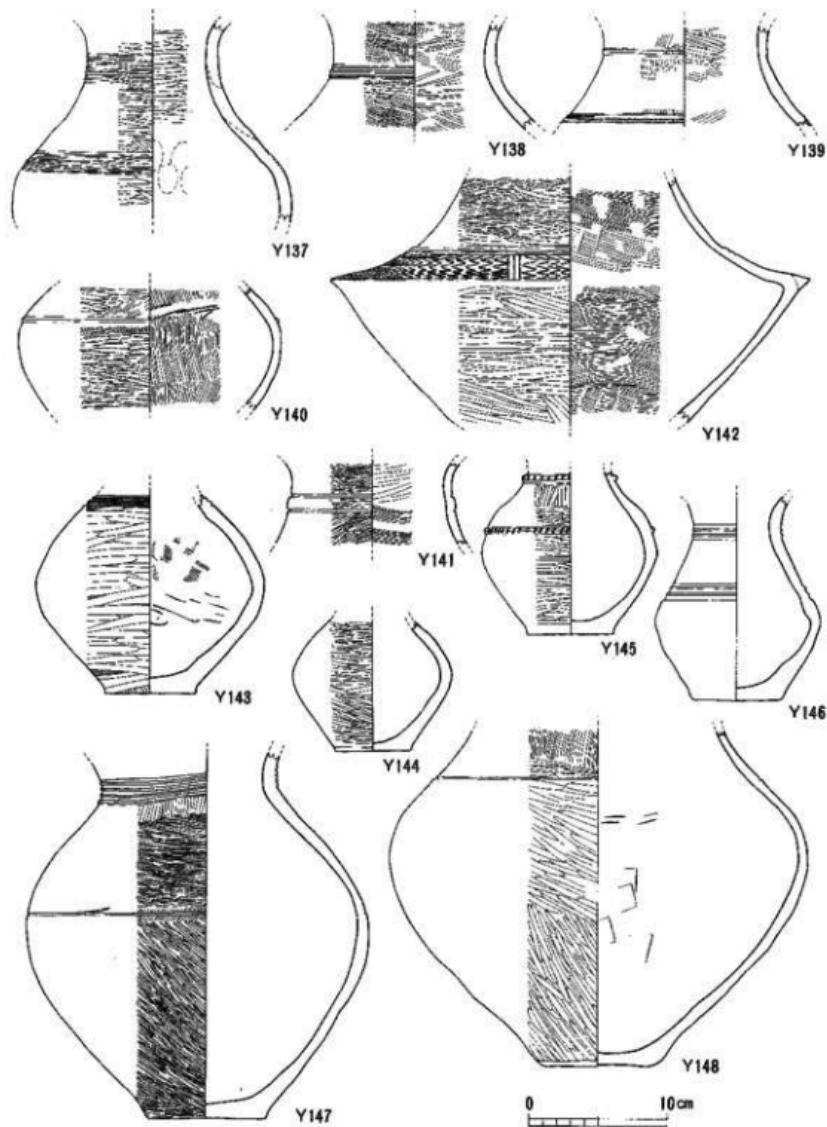
第29図 弥生土器(6) 前期 壺 1:4



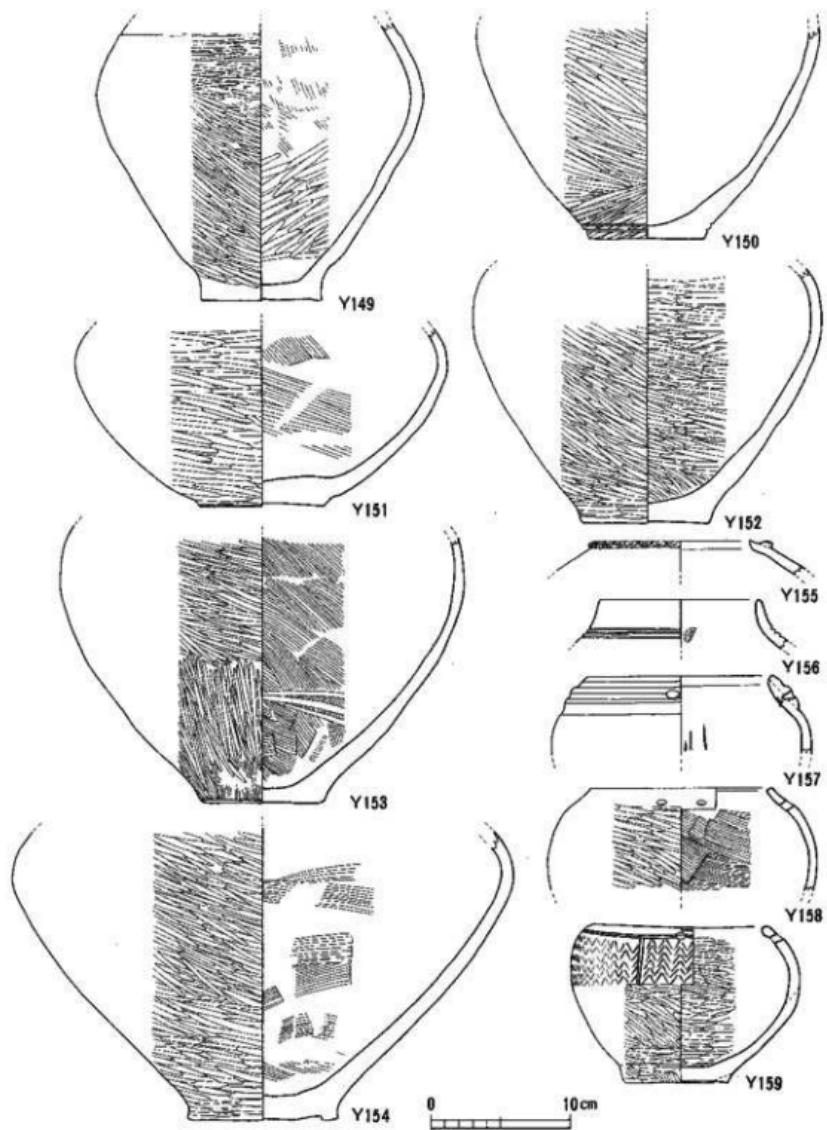
第30図 弥生土器(7) 前期 壺 1:4



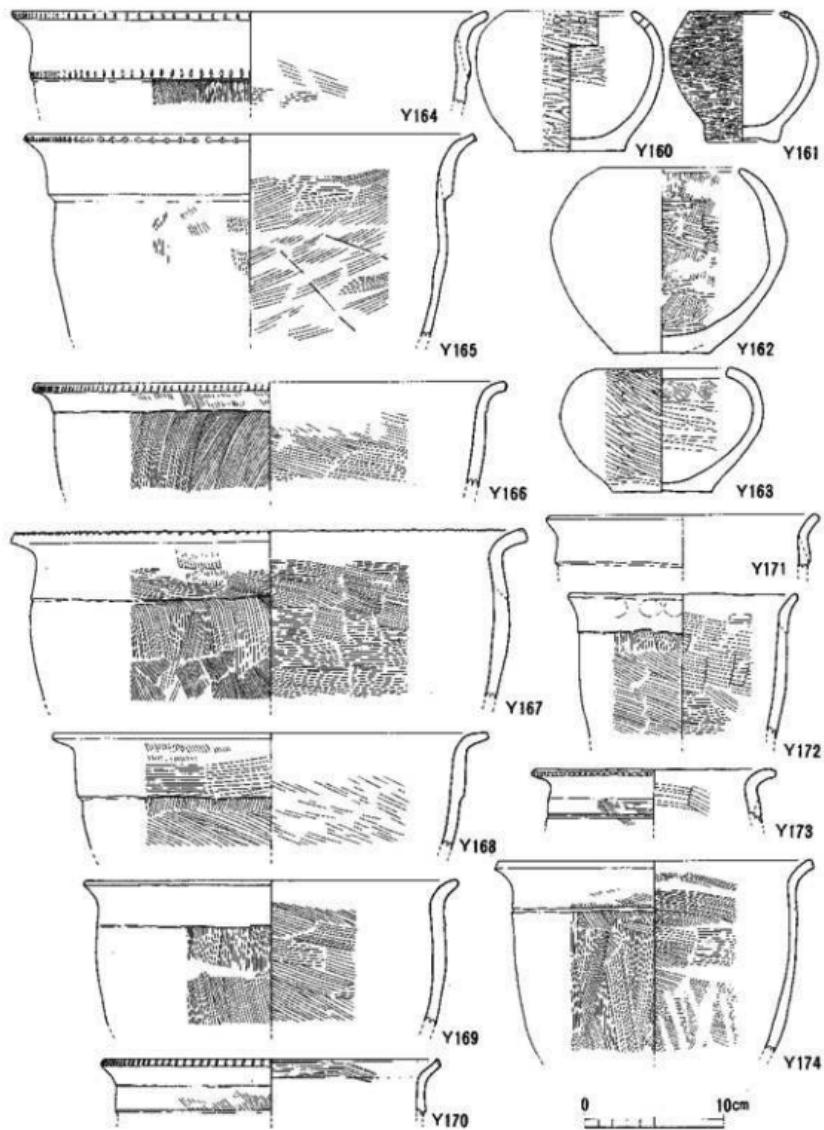
第31図 弥生土器(8) 前期 壺 1:4



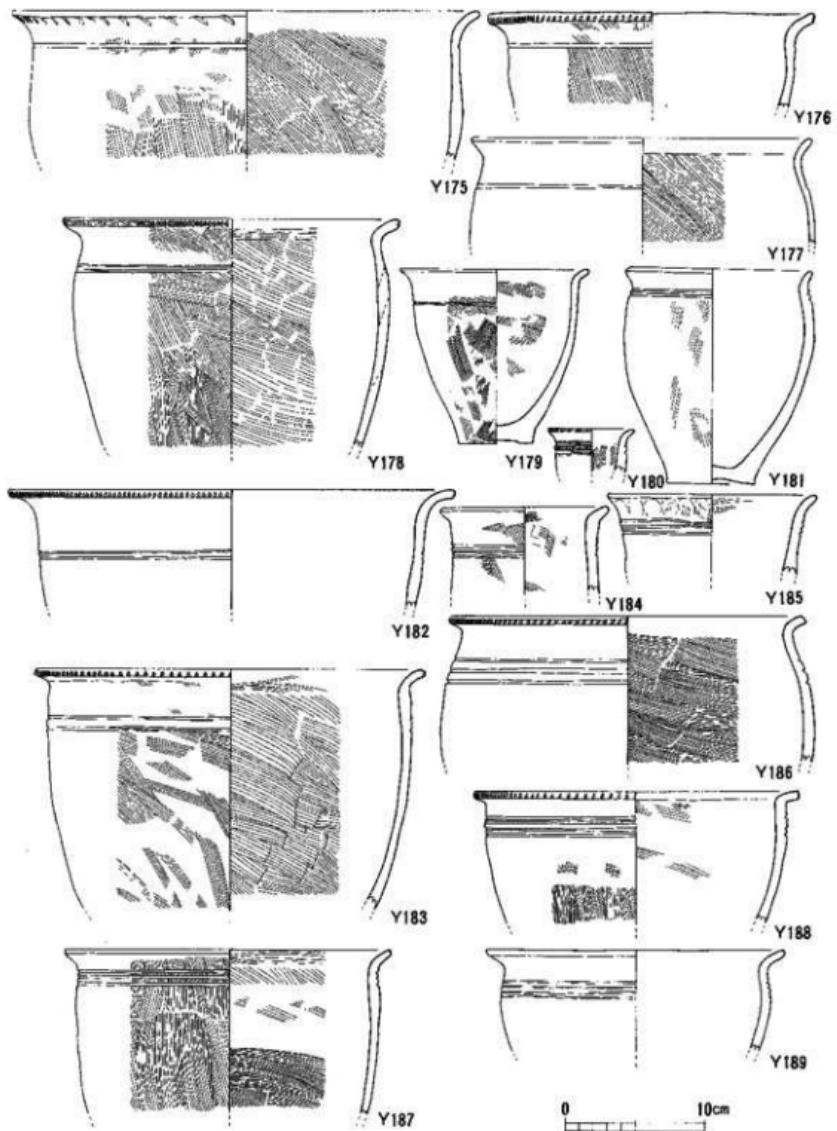
第32図 弥生土器(9) 前期 壺 1:4



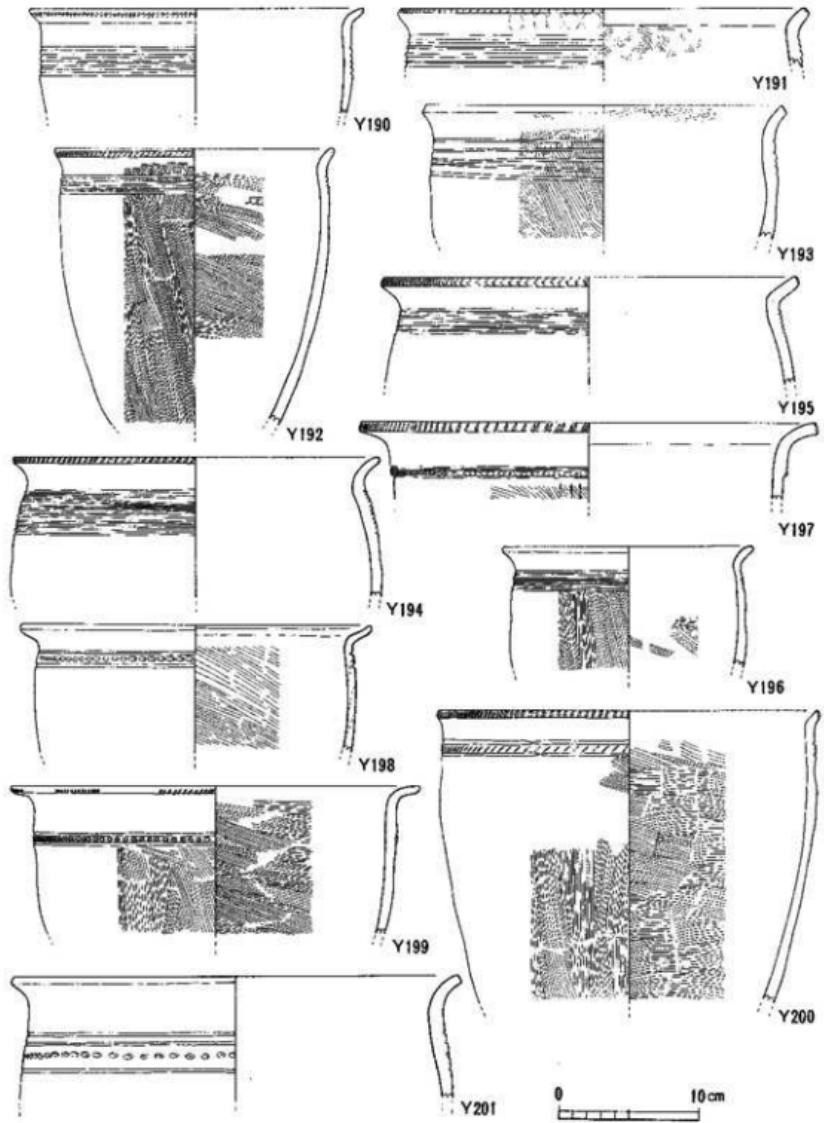
第33図 弥生土器(10) 前期 無頸壺・甕 1:4



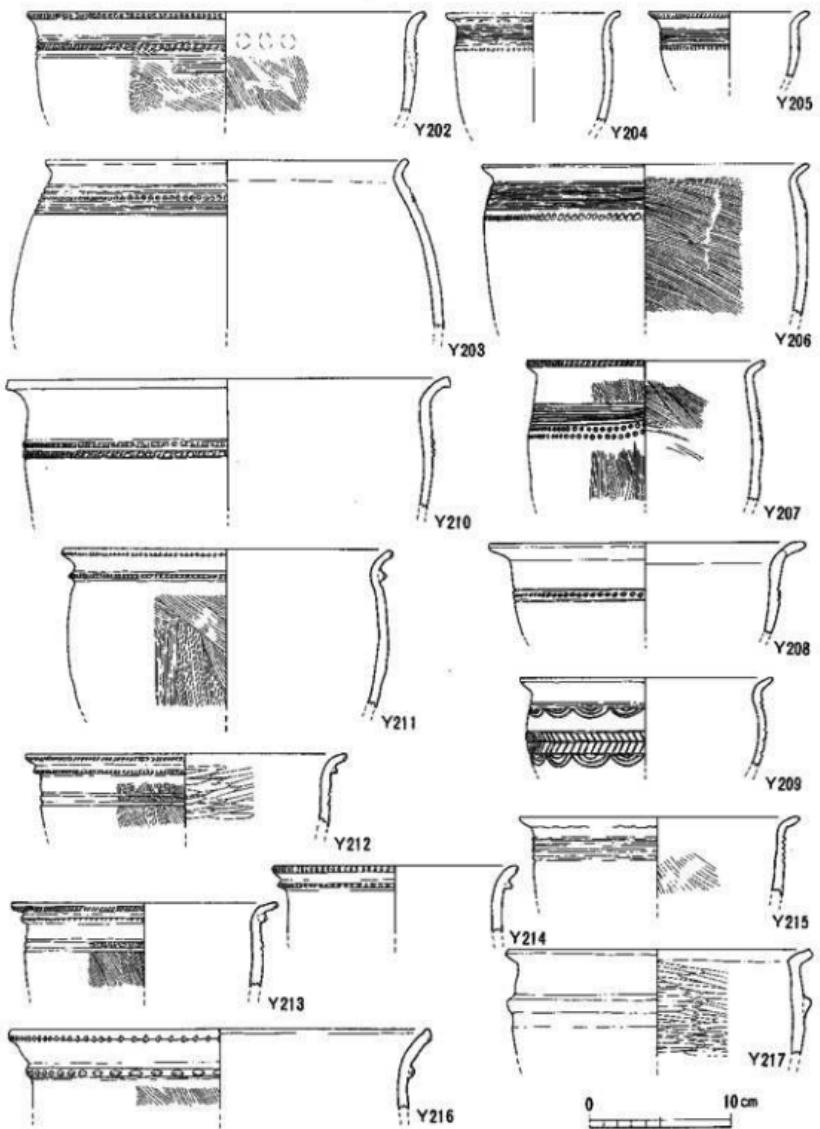
第34図 弥生土器(11) 前期 無頭壺・甕 1:4



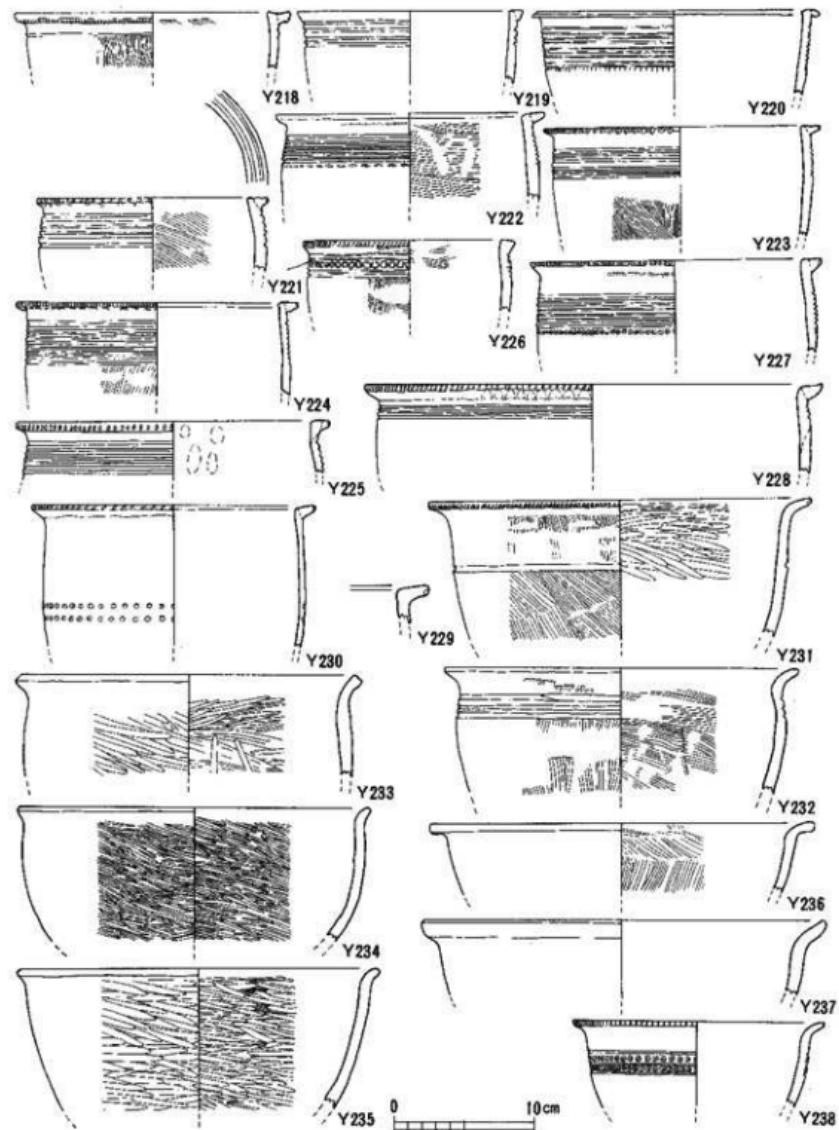
第35図 弥生土器(12) 前期 瓢 1:4



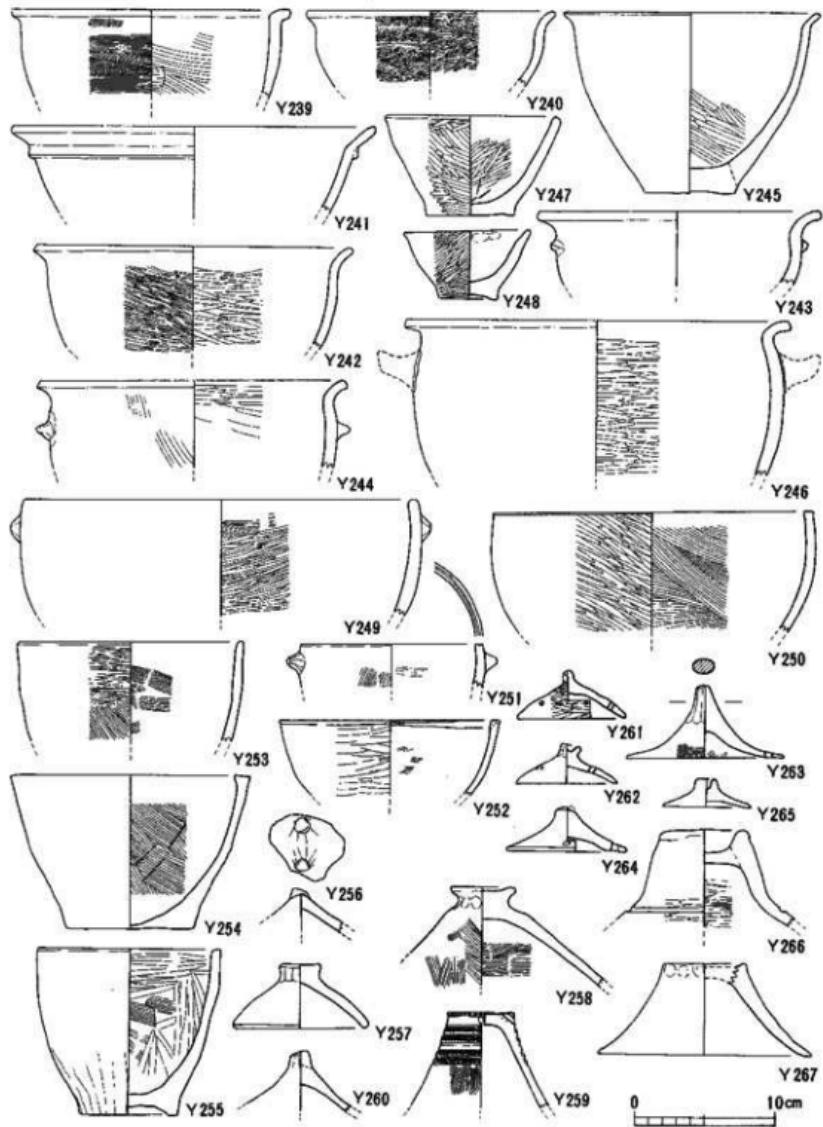
第36図 弥生土器(13) 前期 磁 1:4



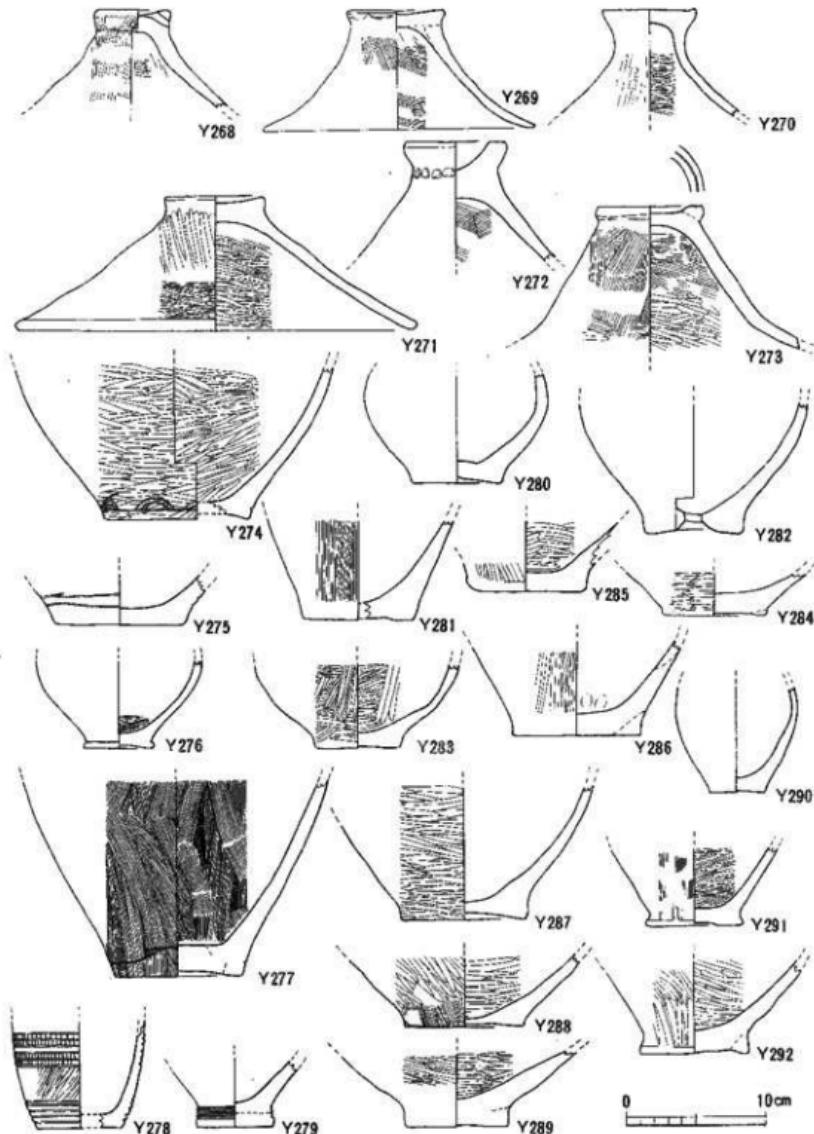
第37図 弥生土器(14) 前期 瓢 1:4



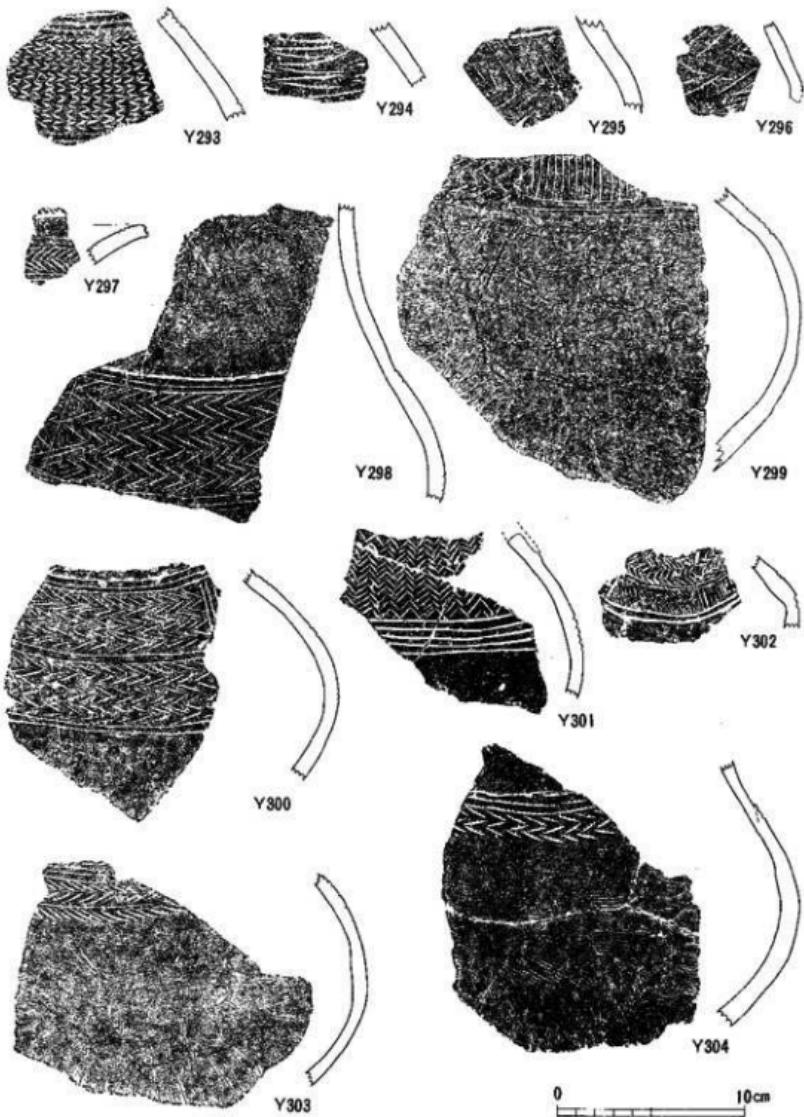
第38図 弥生土器(15) 前期 瓢・鉢 1:4



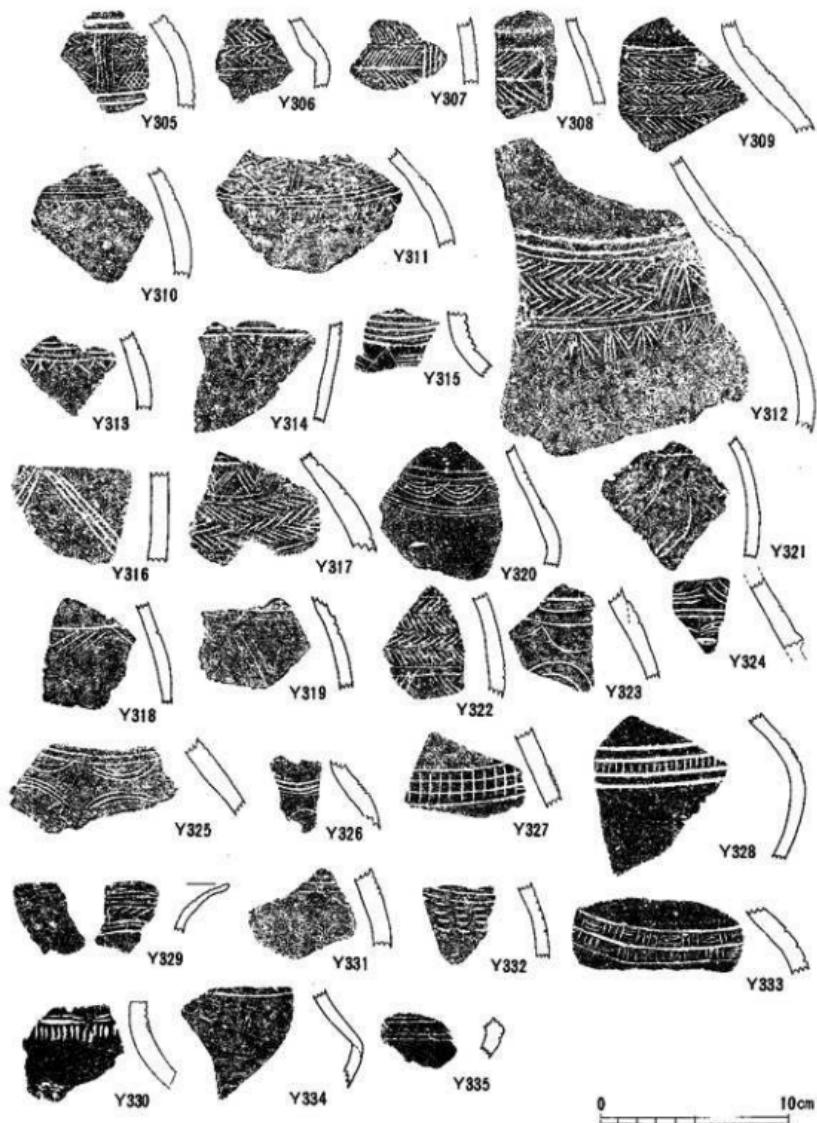
第39図 弥生土器(16) 前期 鉢・蓋 1:4



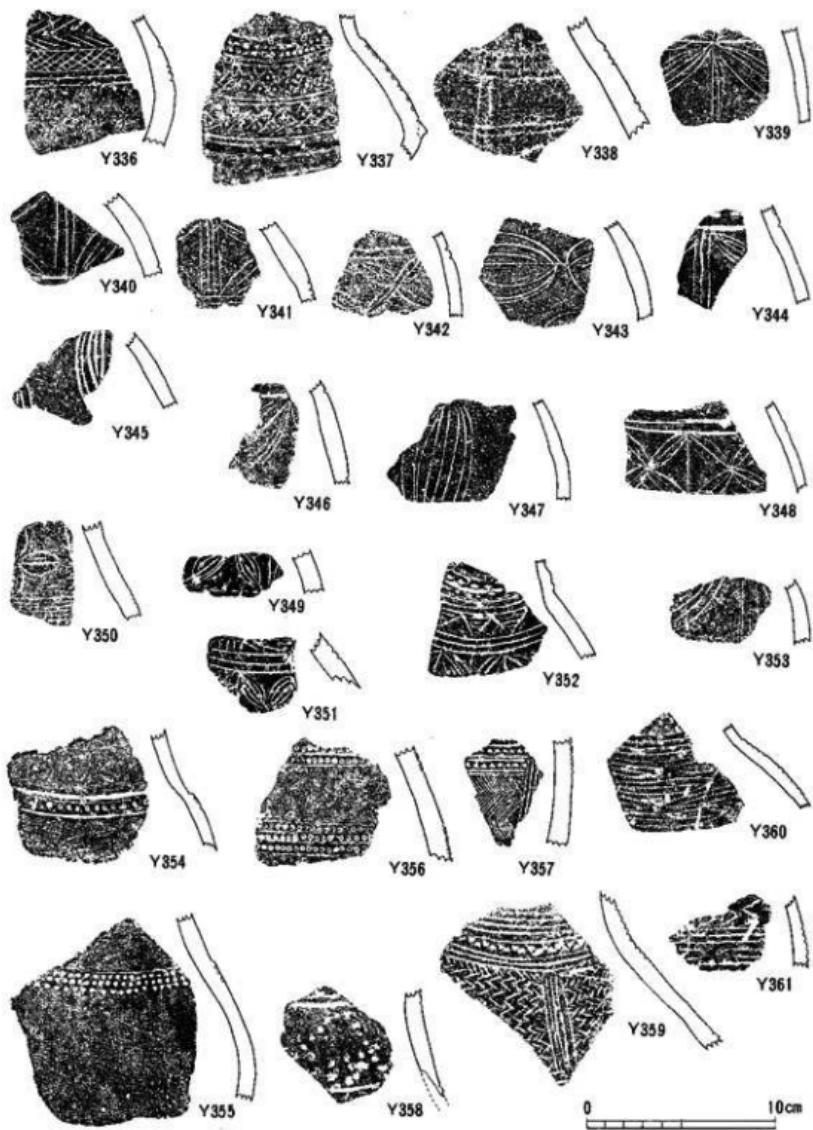
第40図 弥生土器(17) 前期 蓋・底部 1:4



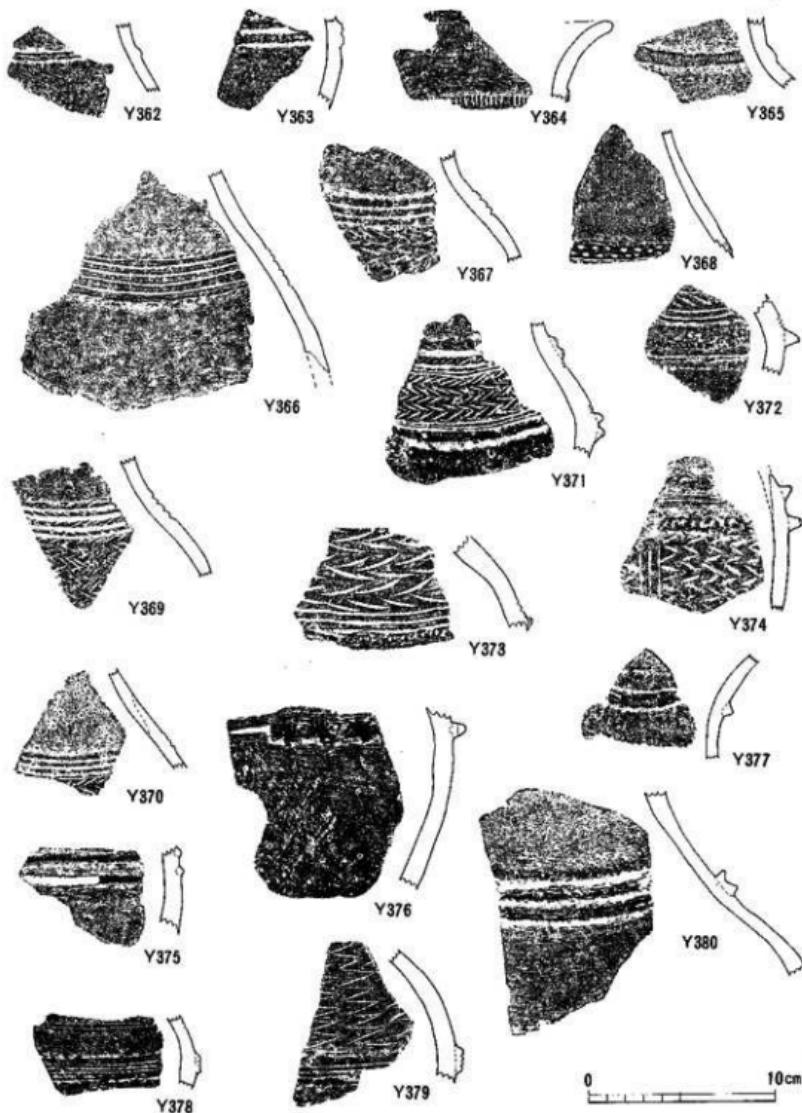
第41図 弥生土器(18) 前期 壺拓影 1:3



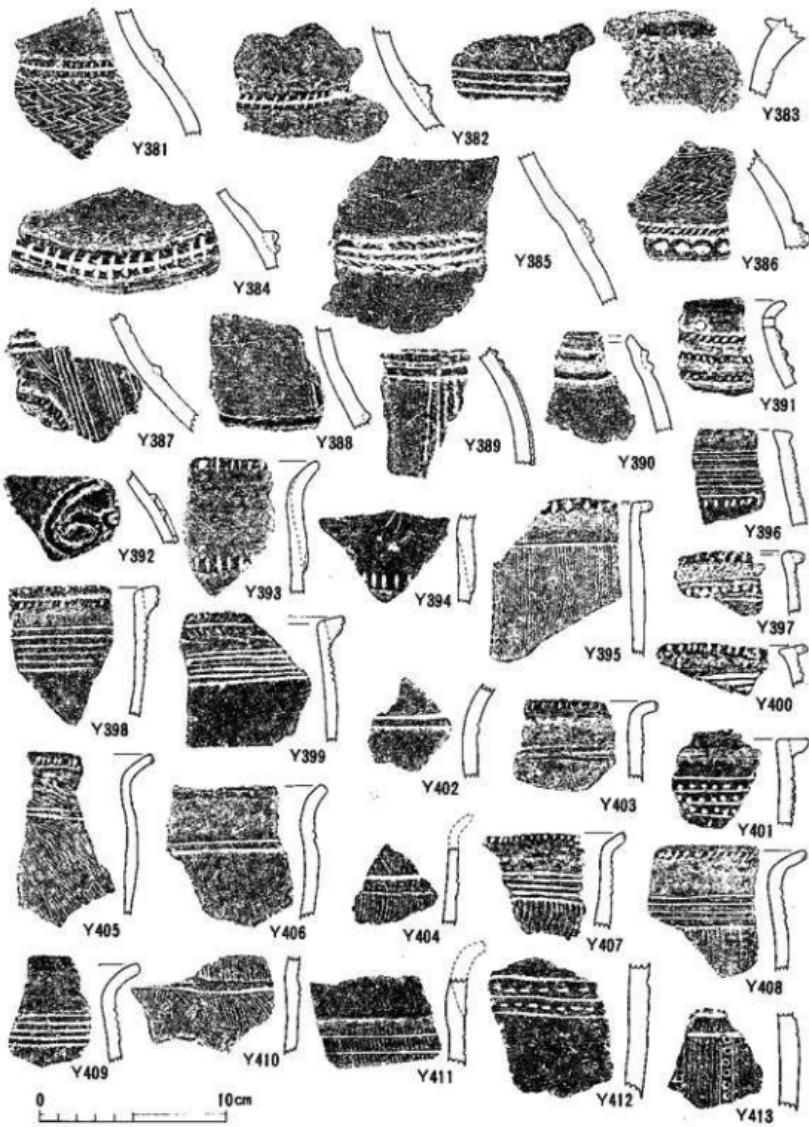
第42図 弥生土器(19) 前期 壺拓影 1:3



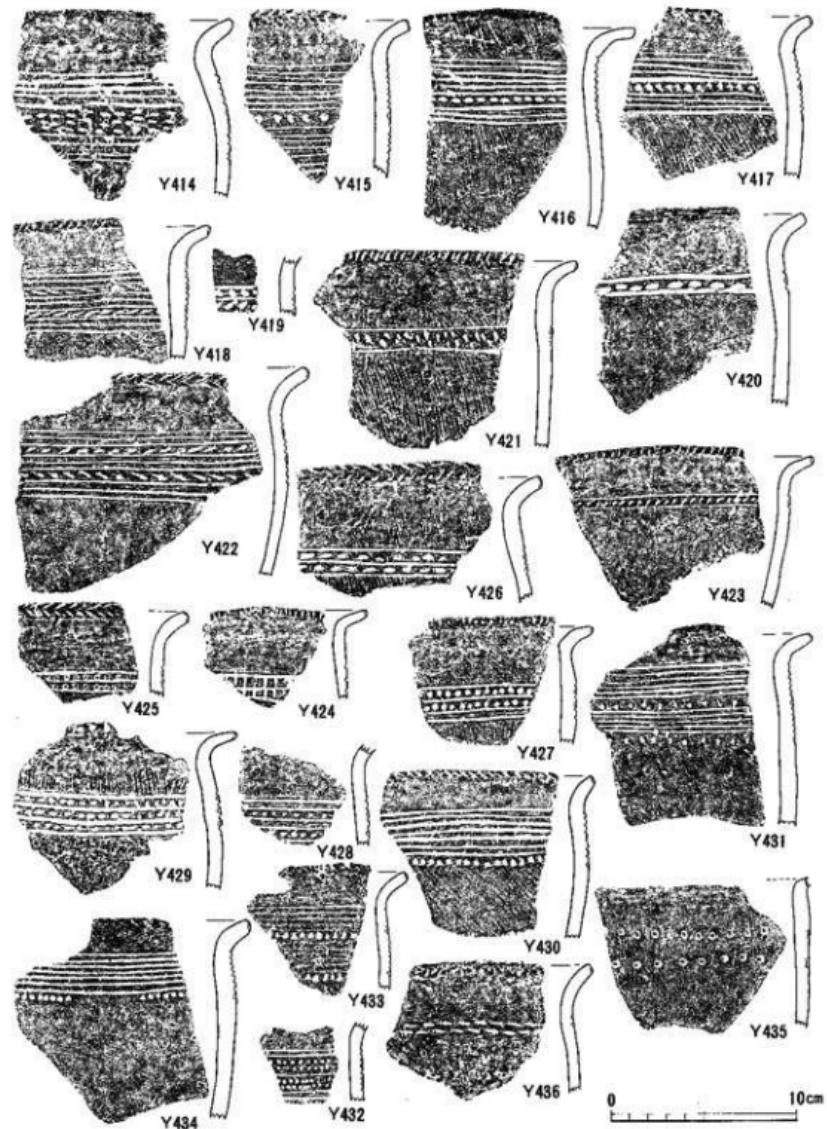
第43図 弥生土器(20) 前期 壺拓影 1:3



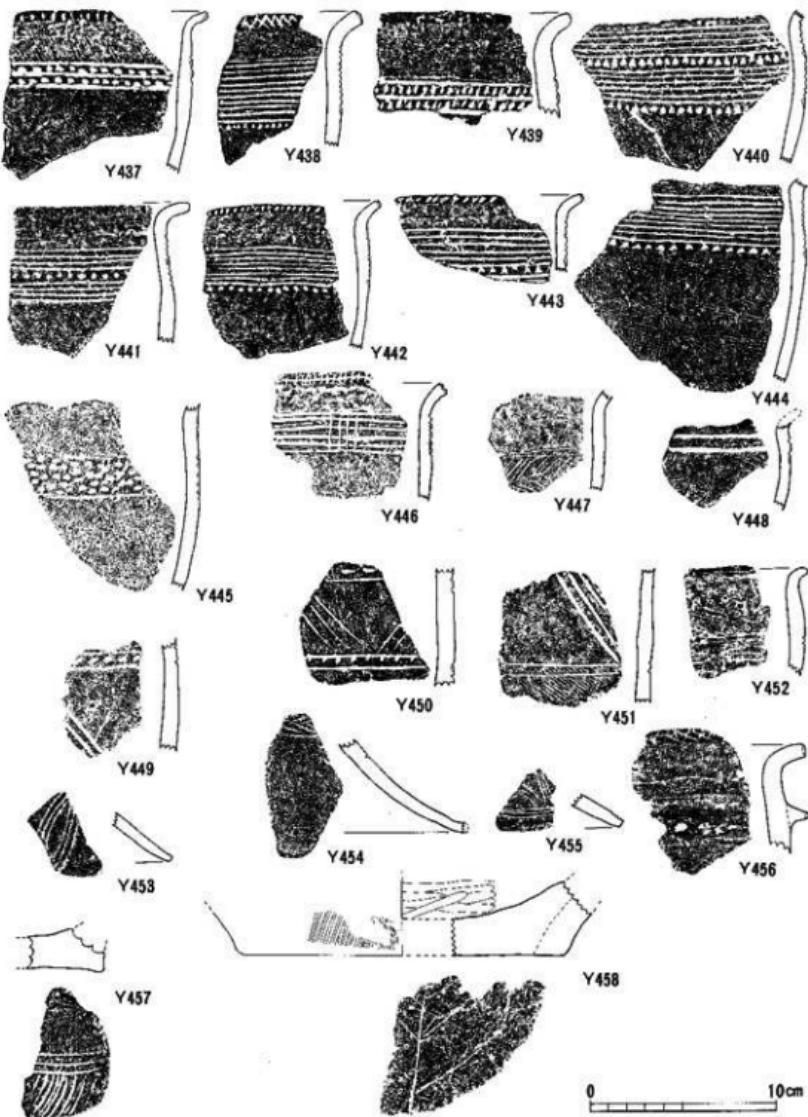
第44図 弥生土器(21) 前期 壺拓影 1:3



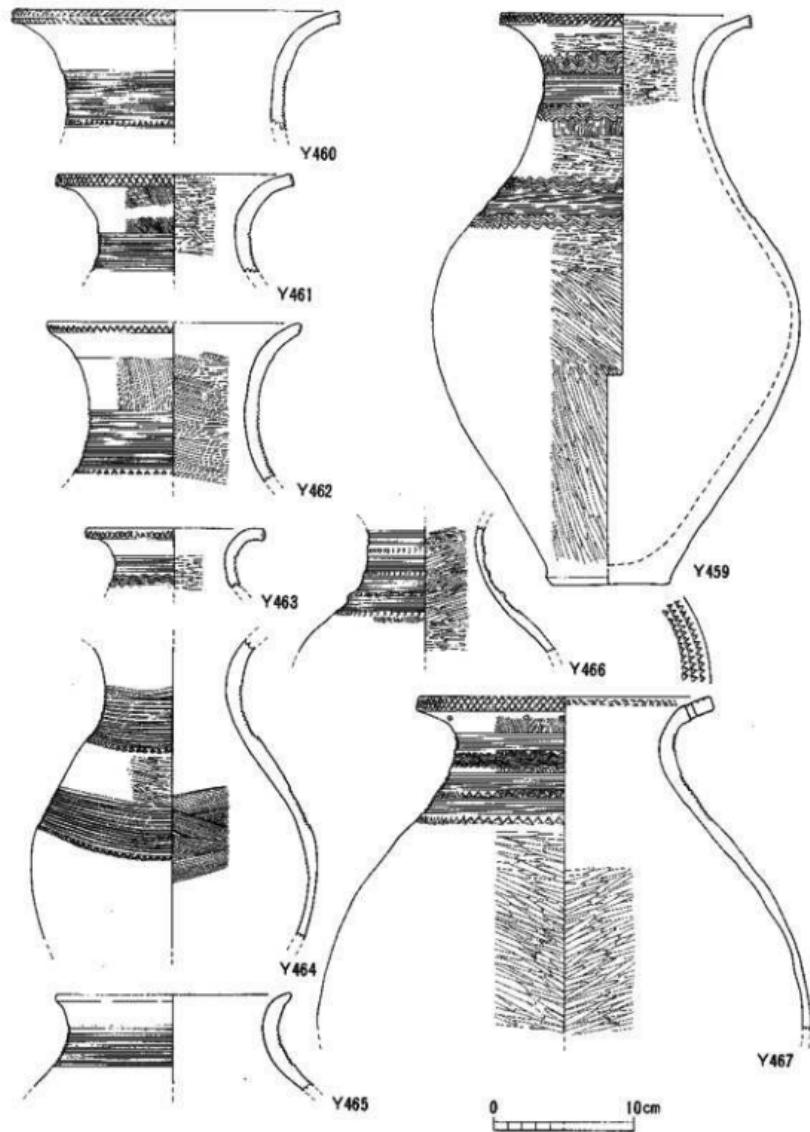
第45図 弥生土器(22) 前期 壺・無頸壺・壺拓影 1:3



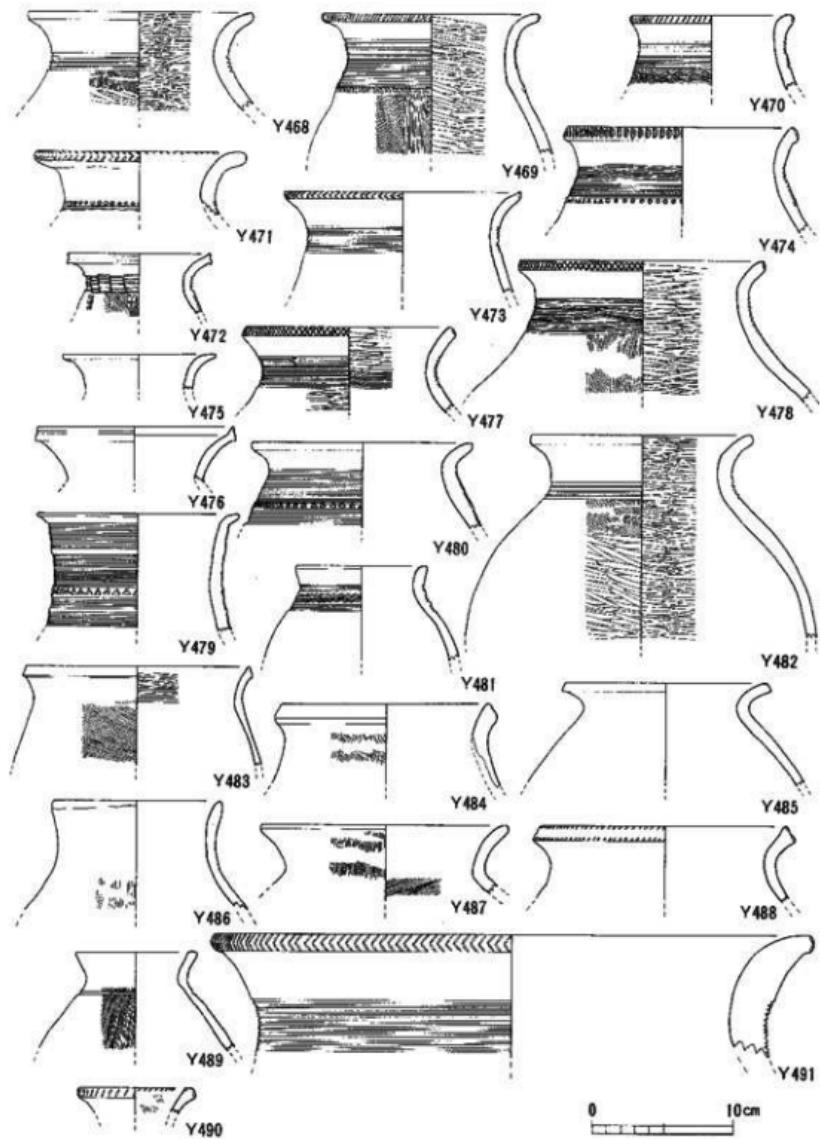
第46図 弥生土器(23) 前期 鏊拓影 1:3



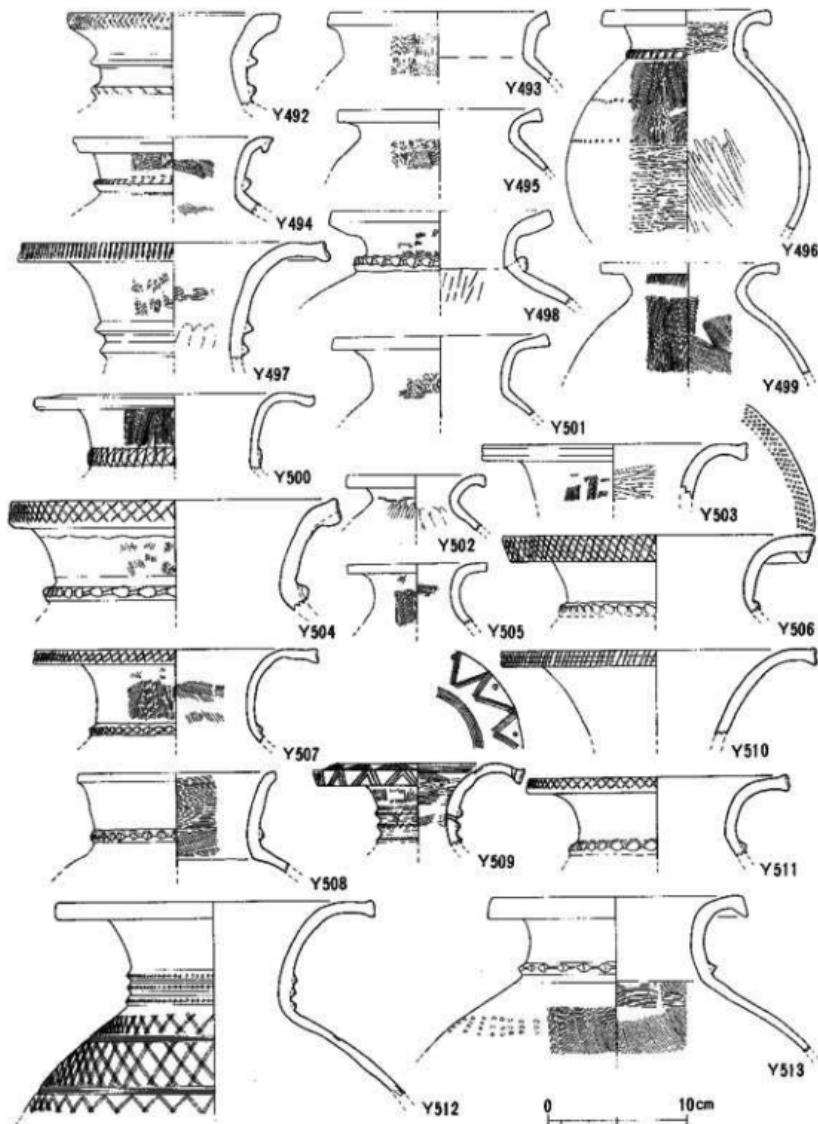
第47図 弥生土器(24) 前期 瓢・蓋・底部拓影 1:3



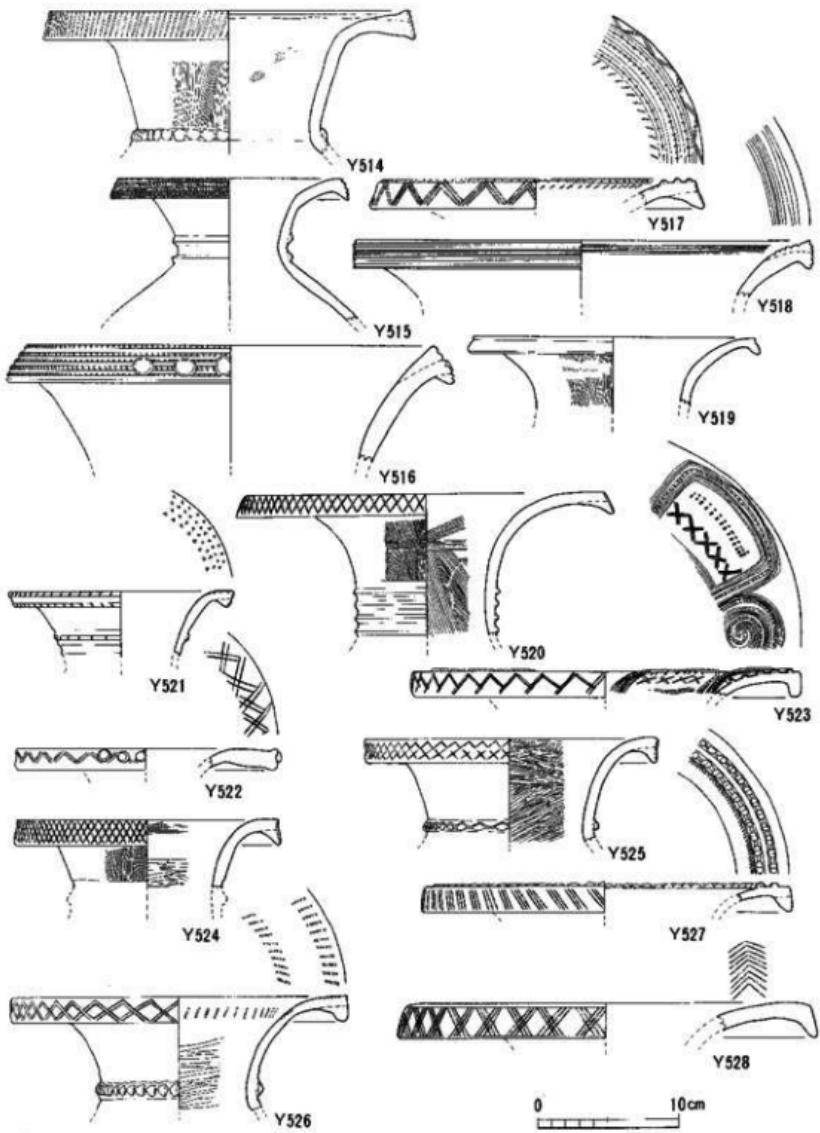
第48図 弥生土器(25) 中期 壺 1:4



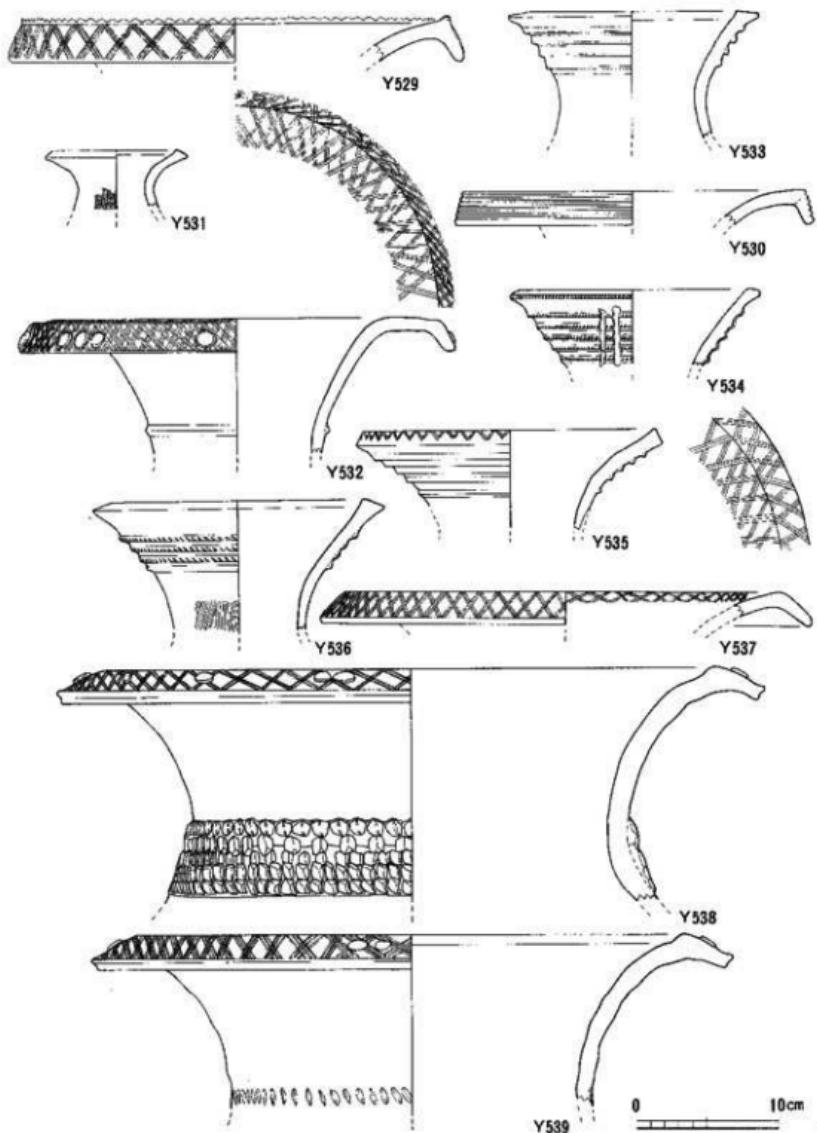
第49図 弥生土器(26) 中期 壺 1:4



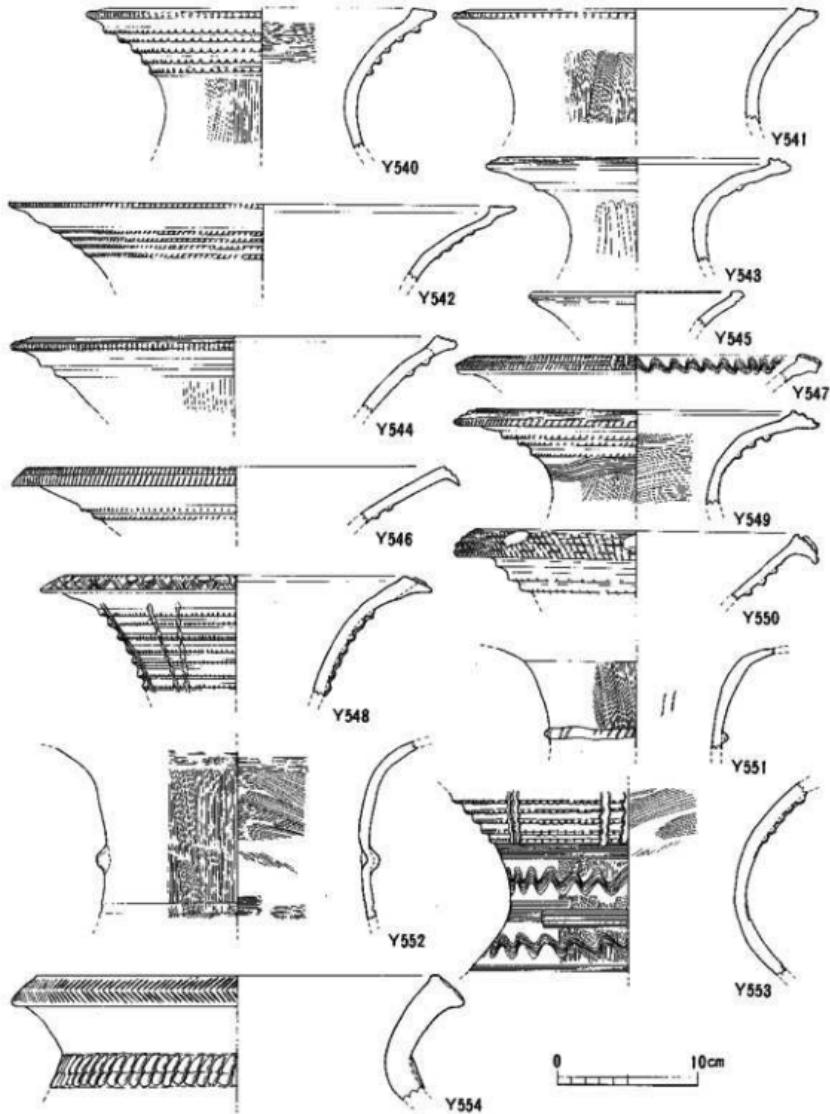
第50図 弥生土器(27) 中期 壺 1:4



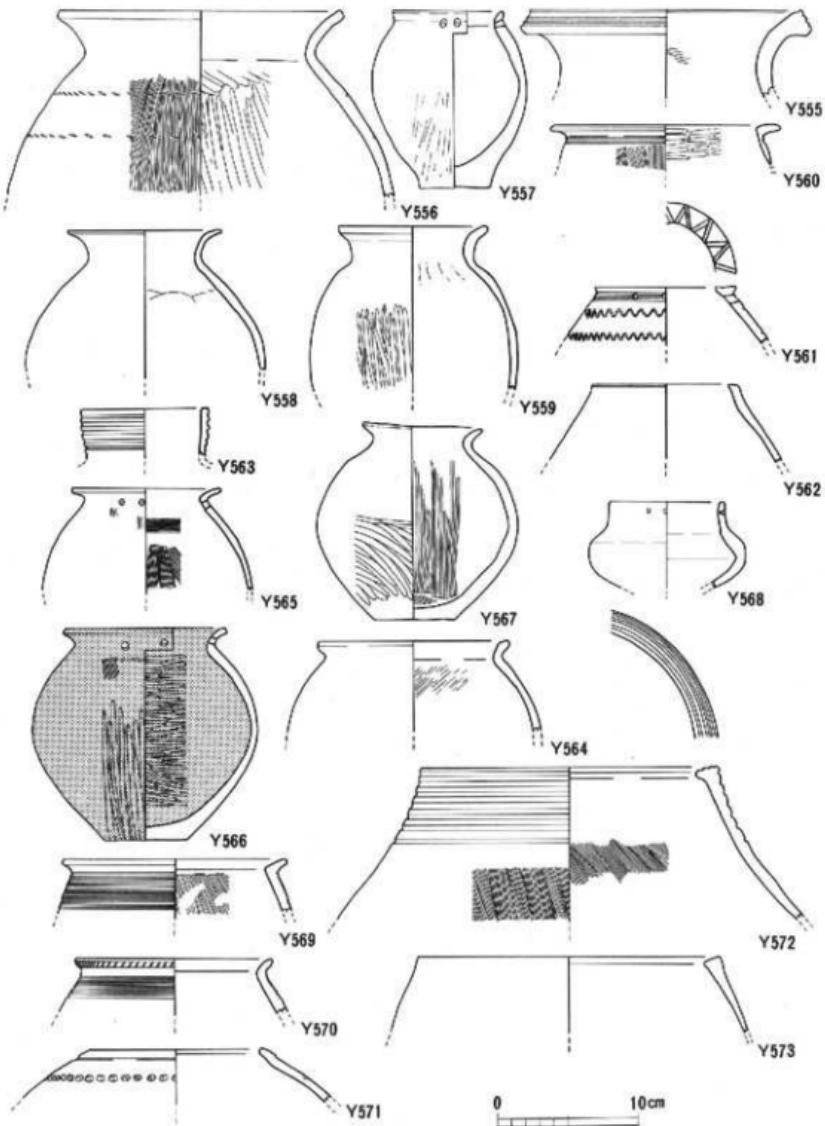
第51図 弥生土器(28) 中期 壺 1:4



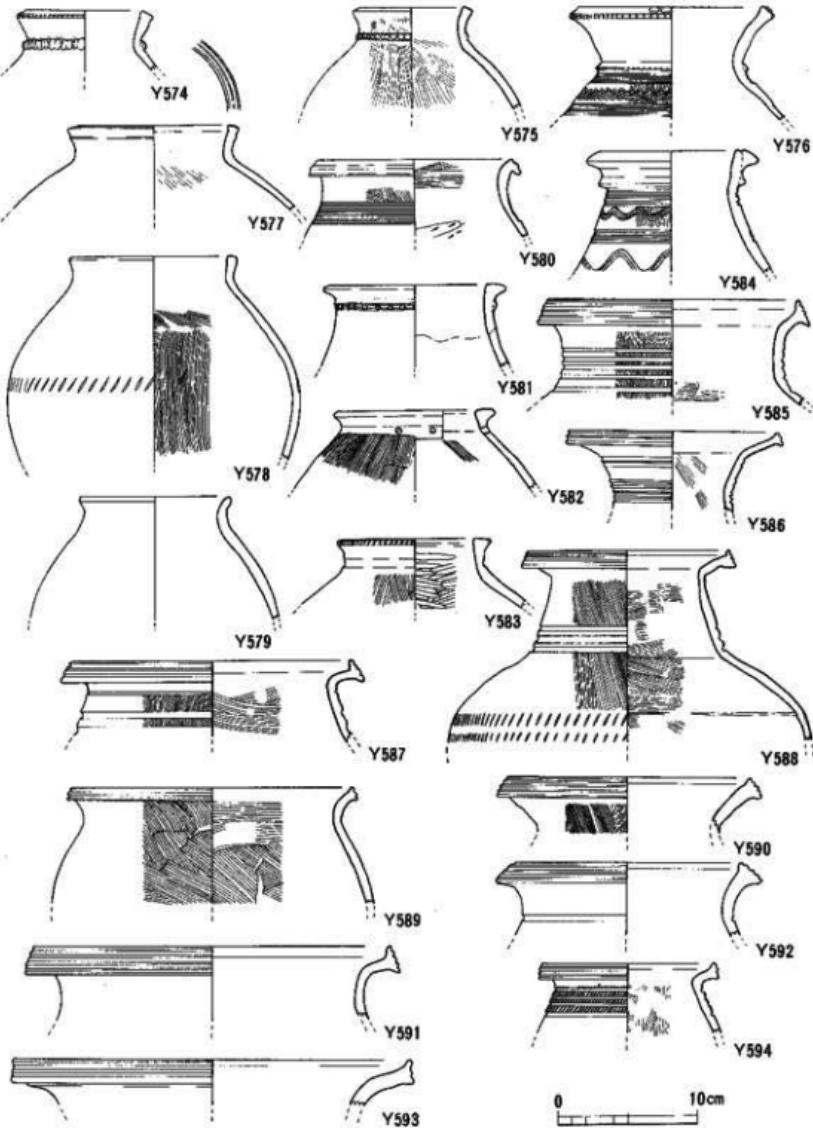
第52図 弥生土器(29) 中期 壺 1:4



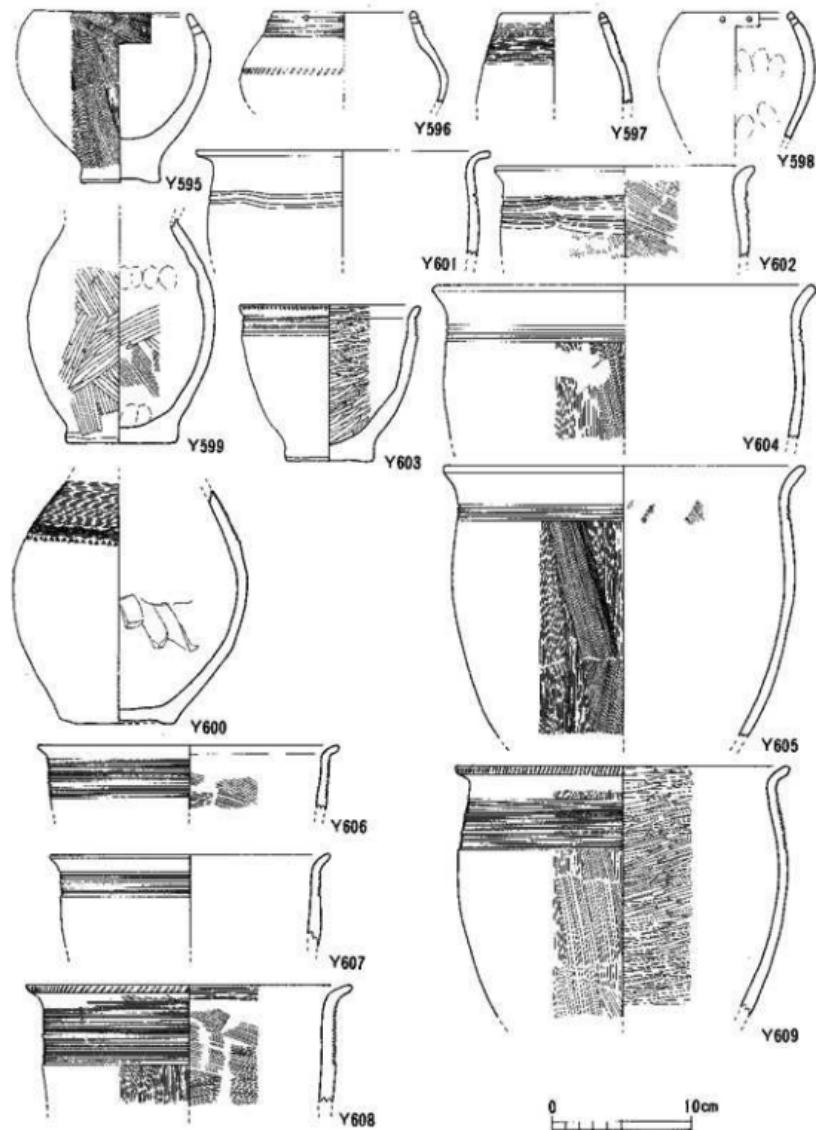
第53図 弥生土器(30) 中期 壺 1:4



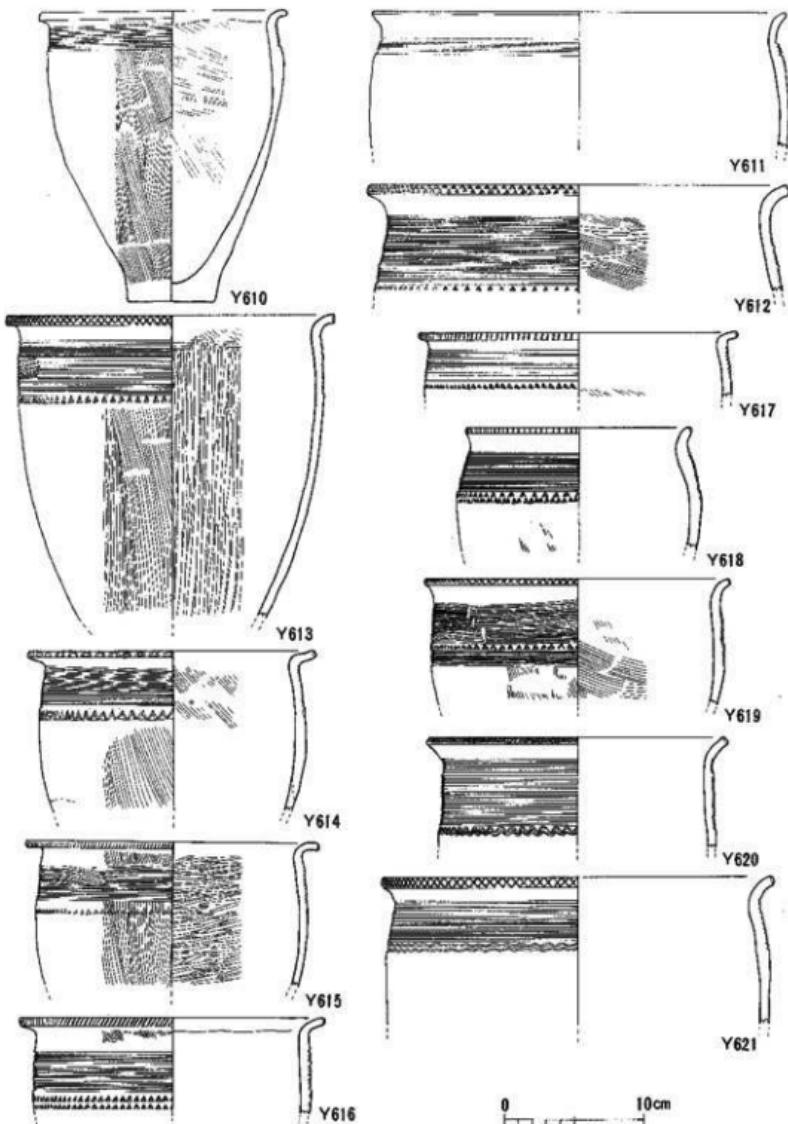
第54図 弥生土器(31) 中期 壺・短頸壺・無頸壺 1:4



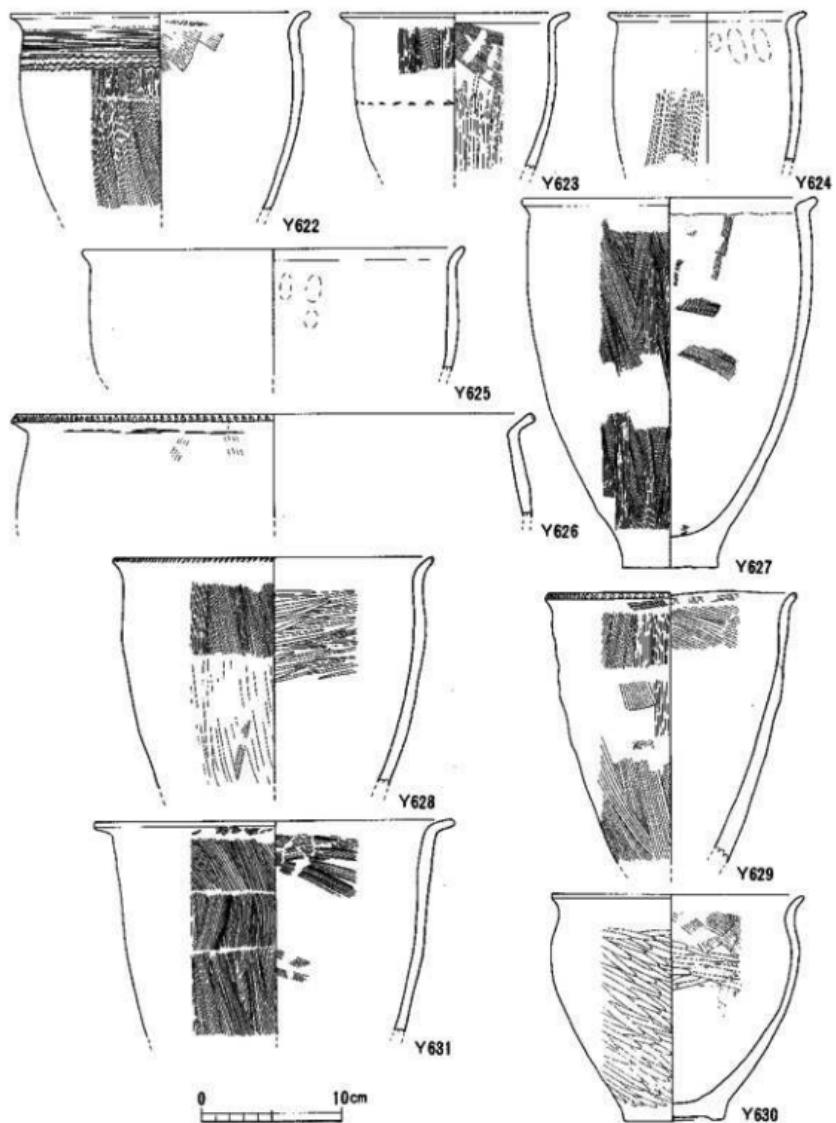
第55図 弥生土器(32) 中期 壺 1:4



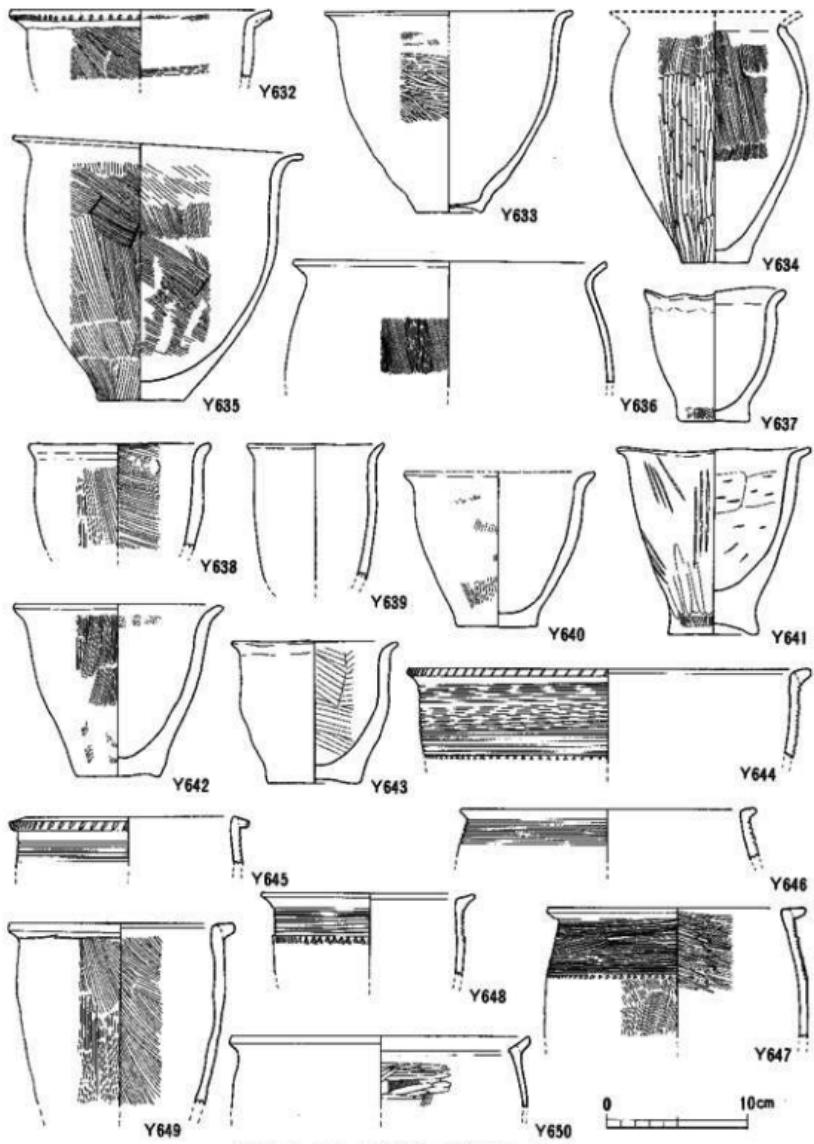
第56図 弥生土器(33) 中期 無頸壺・甕 1:4



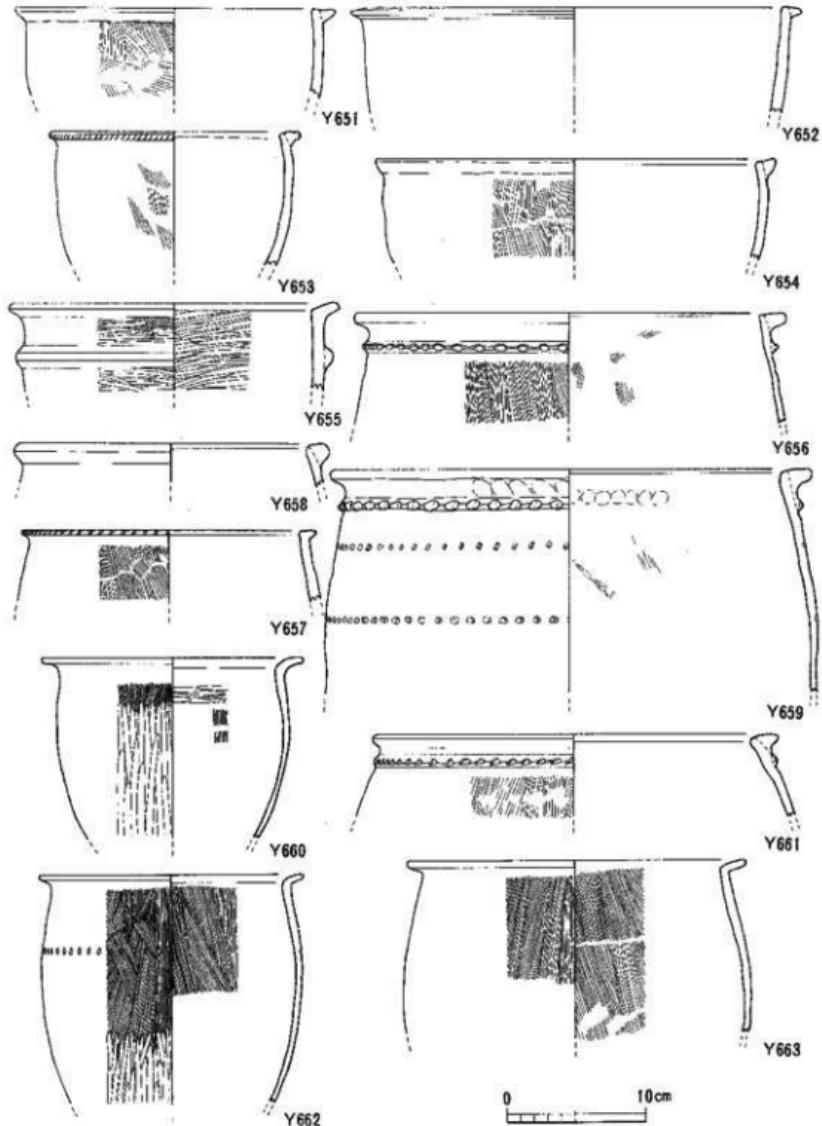
第57図 弥生土器(34) 中期 壺 1:4



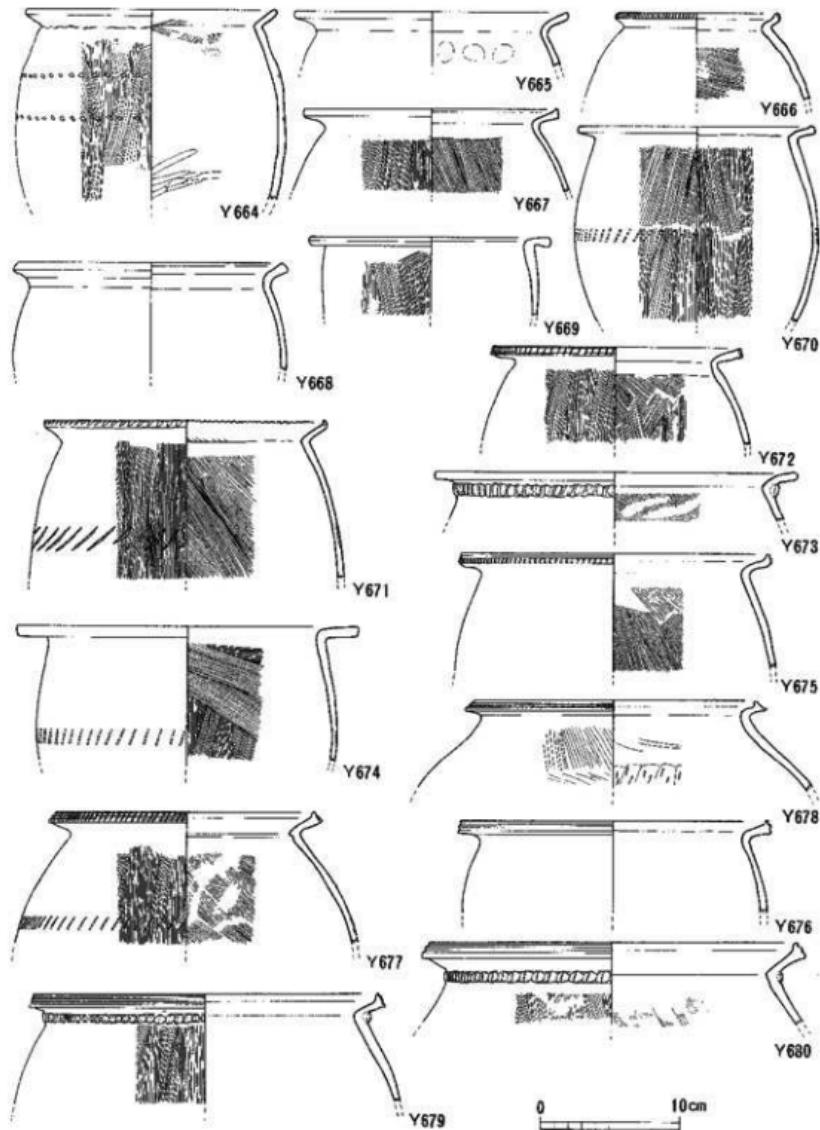
第58図 弥生土器(35) 中期 壺 1:4



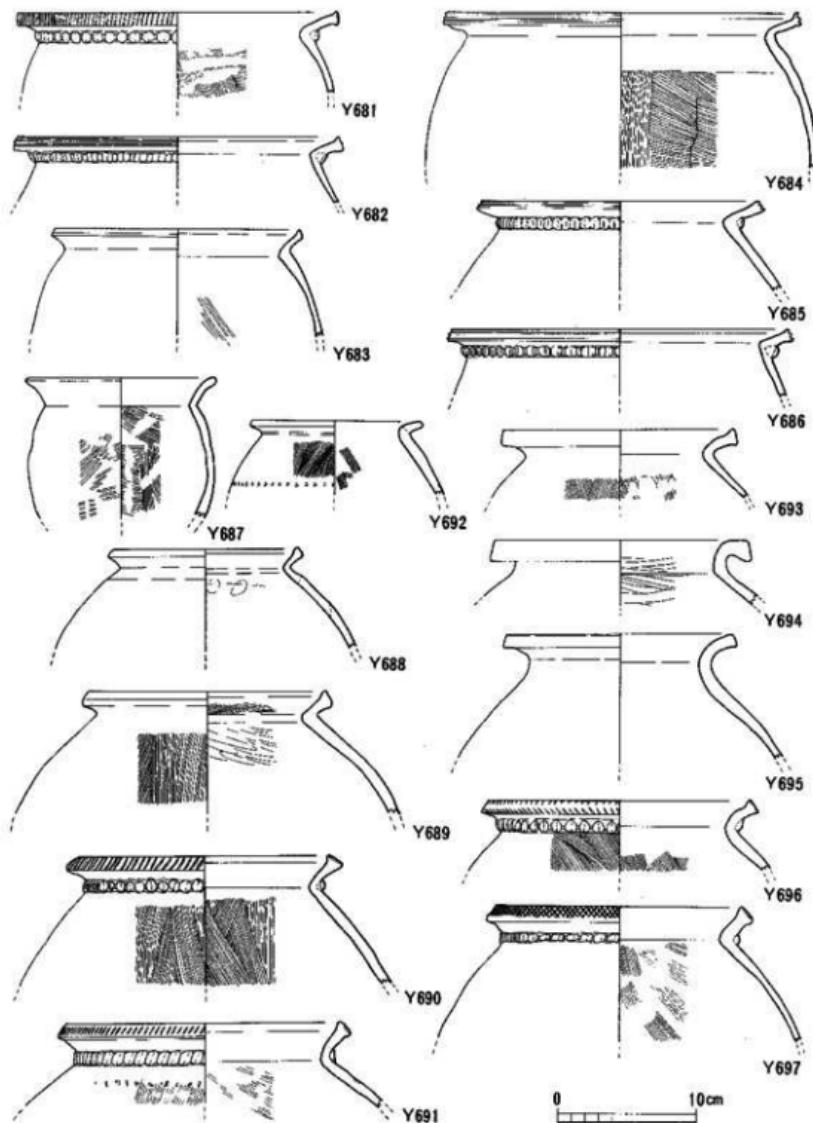
第59図 弥生土器(36) 中期 壺 1:4



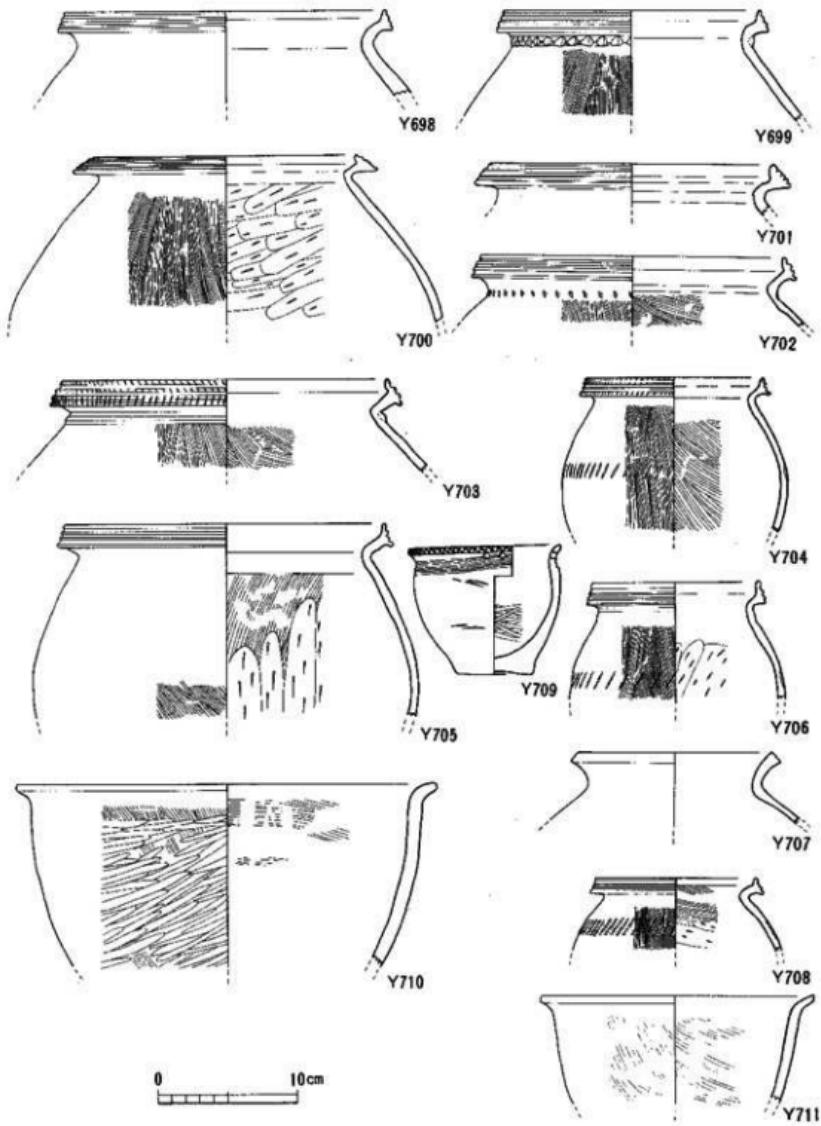
第60図 弥生土器(37) 中期 壺 1:4



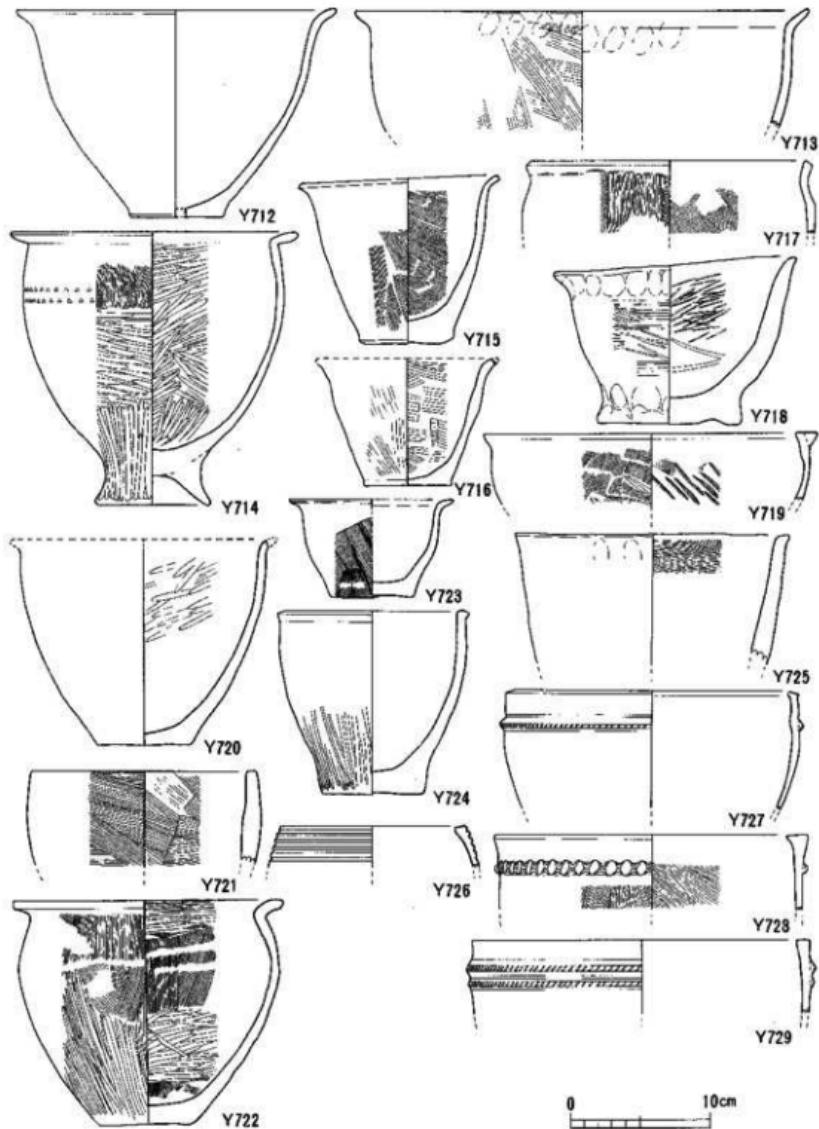
第61図 弥生土器(38) 中期 麦 1:4



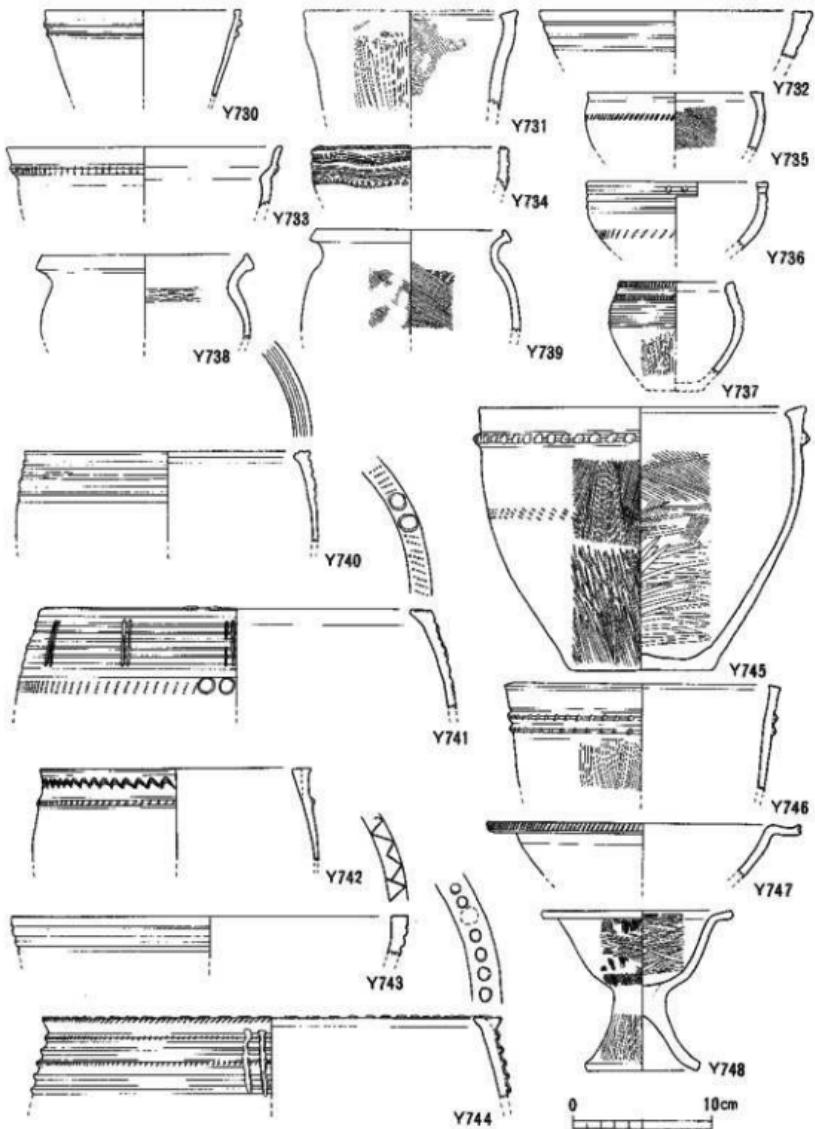
第62図 弥生土器(39) 中期 墓 1:4



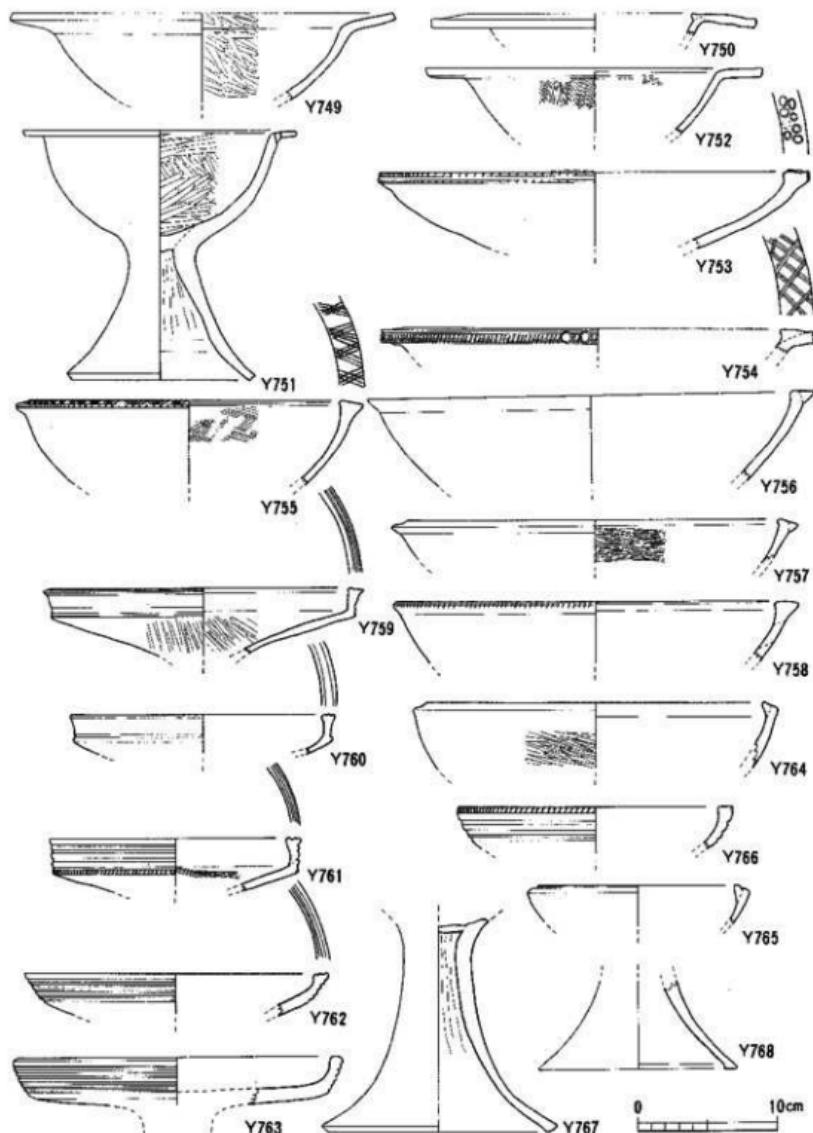
第63図 弥生土器(40) 中期 鉢 1:4



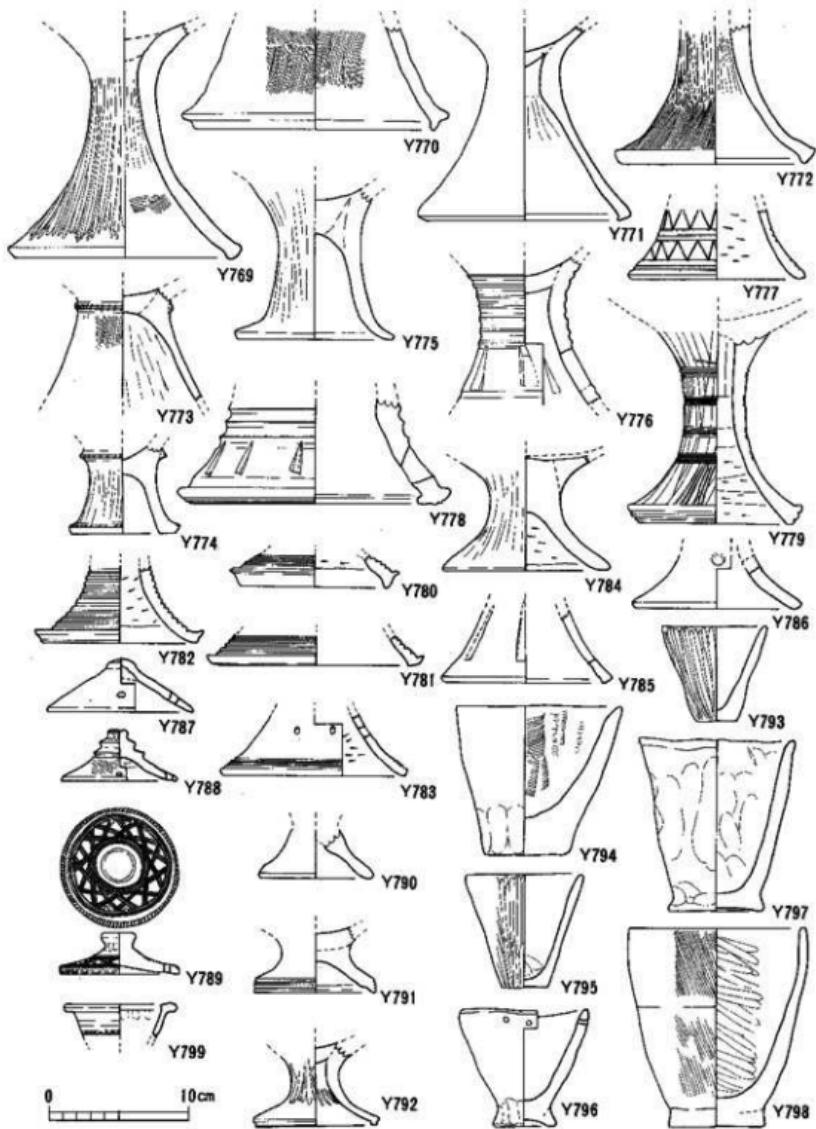
第64図 弥生土器(41) 中期 鉢 1:4



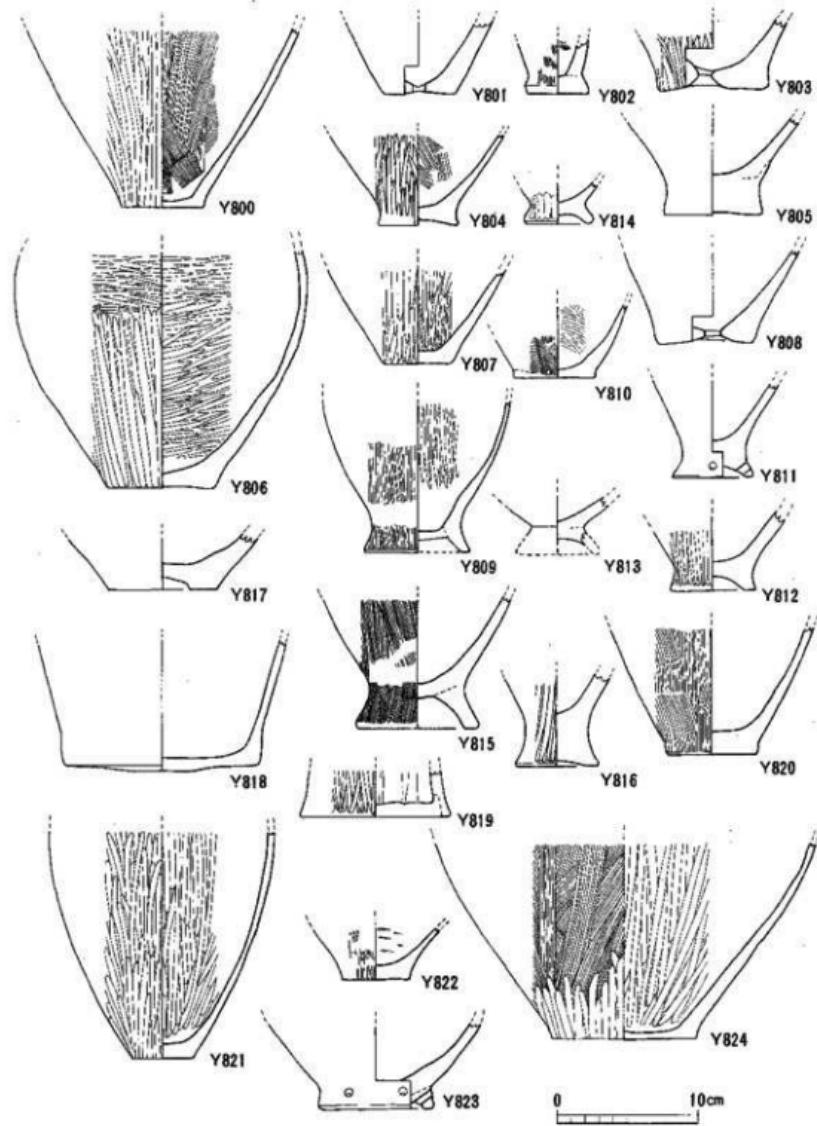
第65図 弥生土器(42) 中期 鉢・高环 1:4



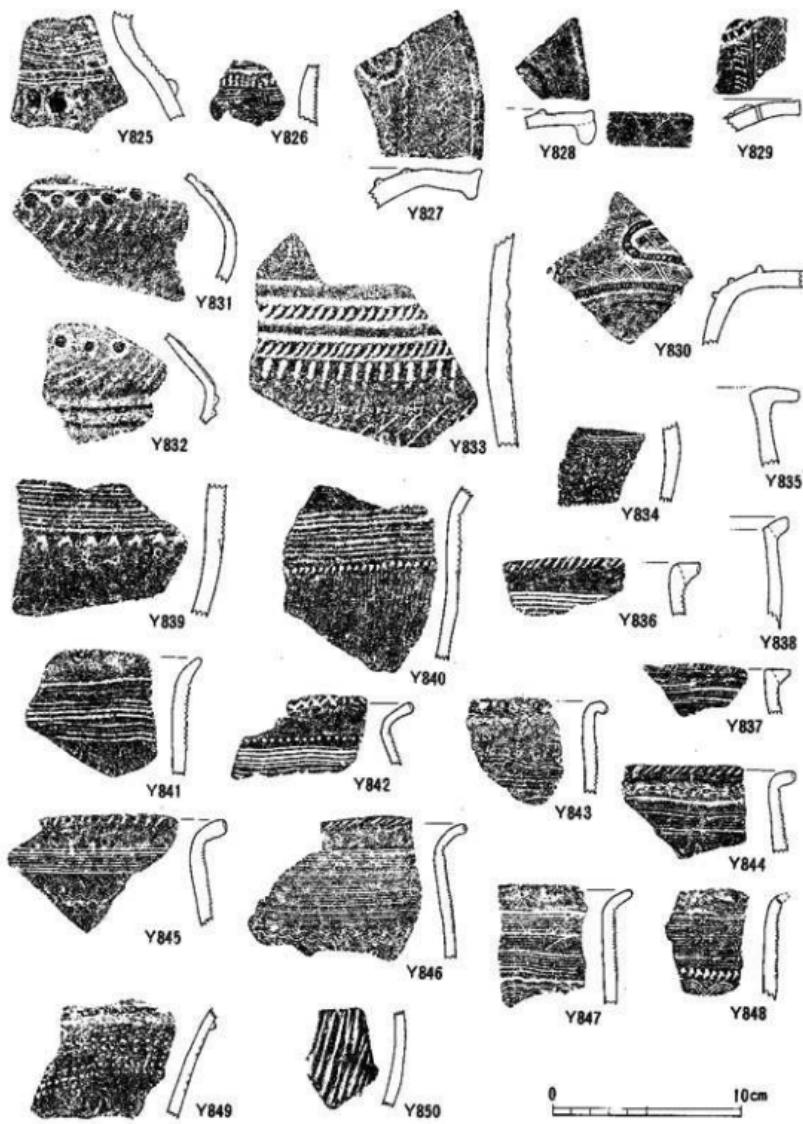
第66図 弥生土器(43) 中期 高坏 1:4



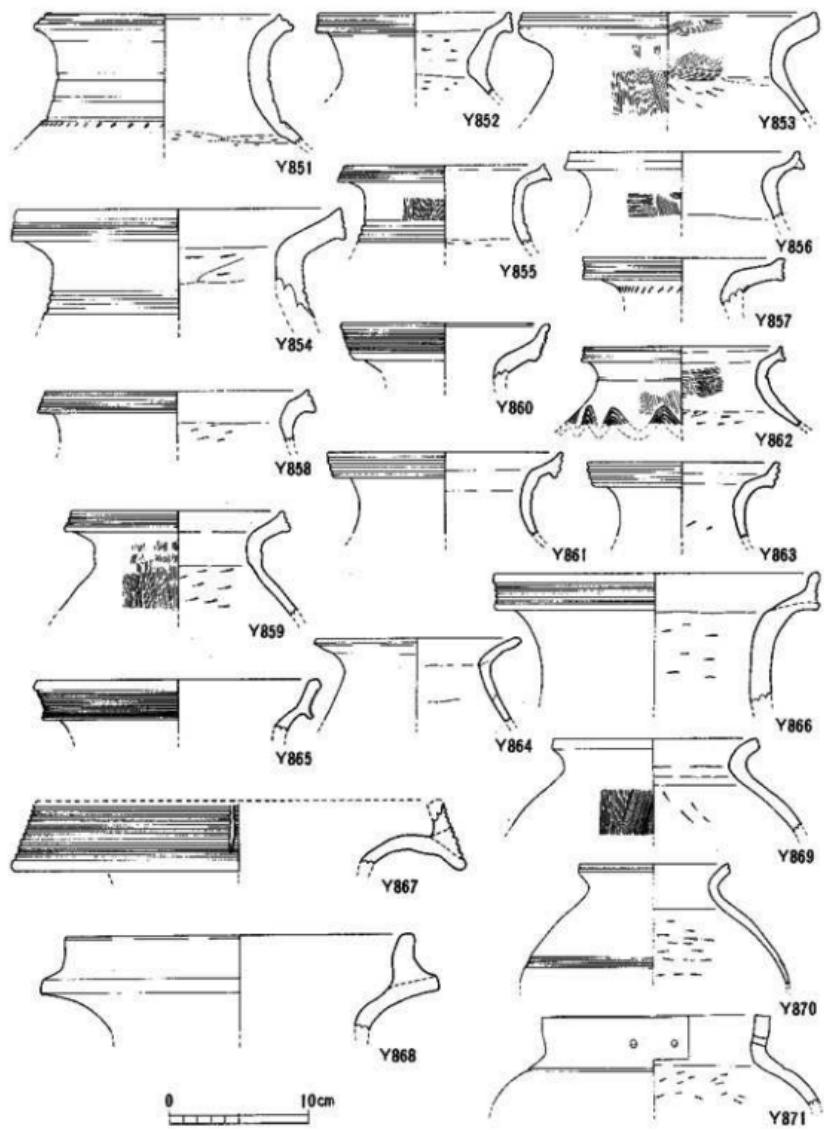
第67図 弥生土器(44) 中期 高坏・蓋・その他 1:4



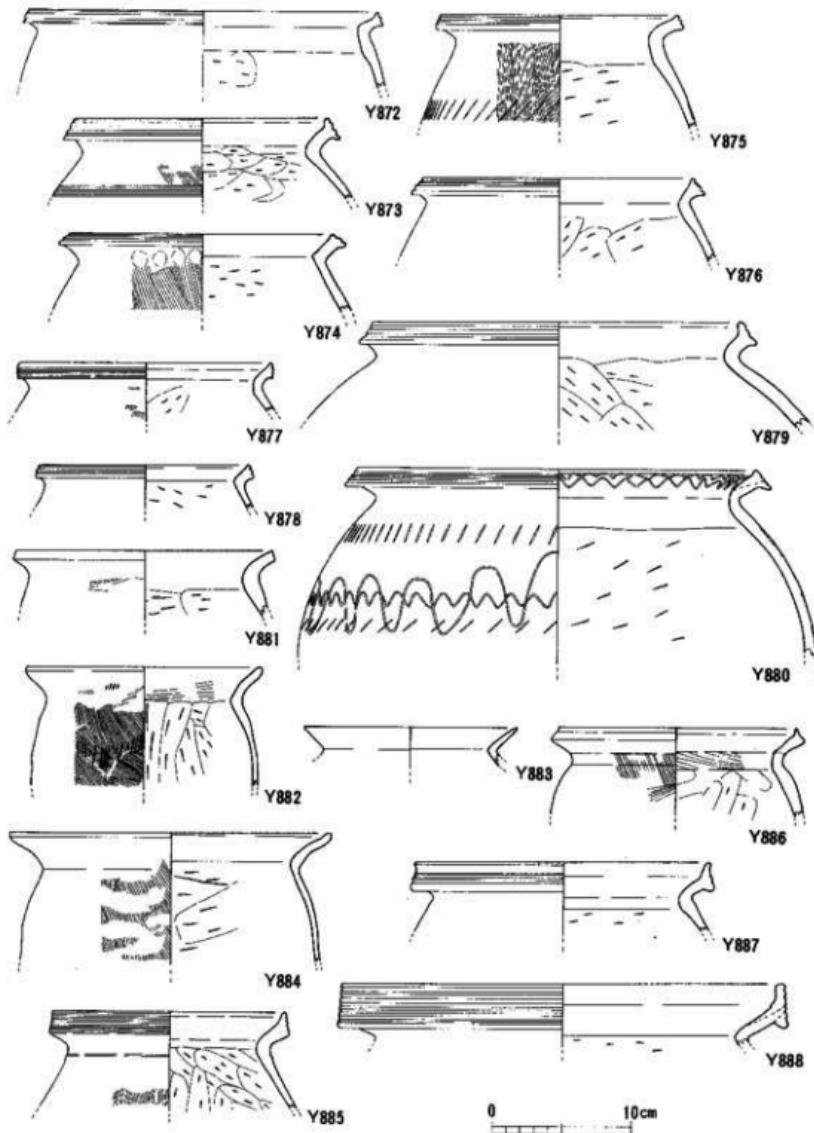
第68図 弥生土器(45) 中期 底部 1:4



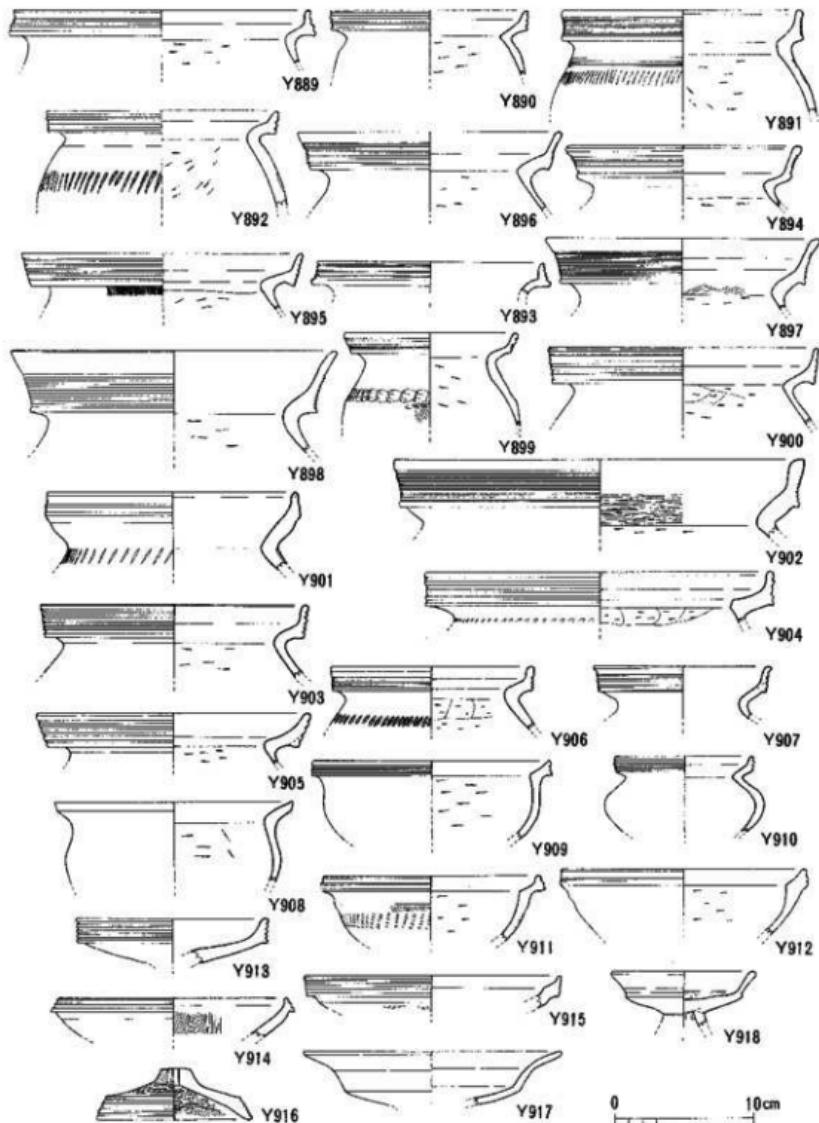
第69図 弥生土器(46) 中期 拓影 1:3



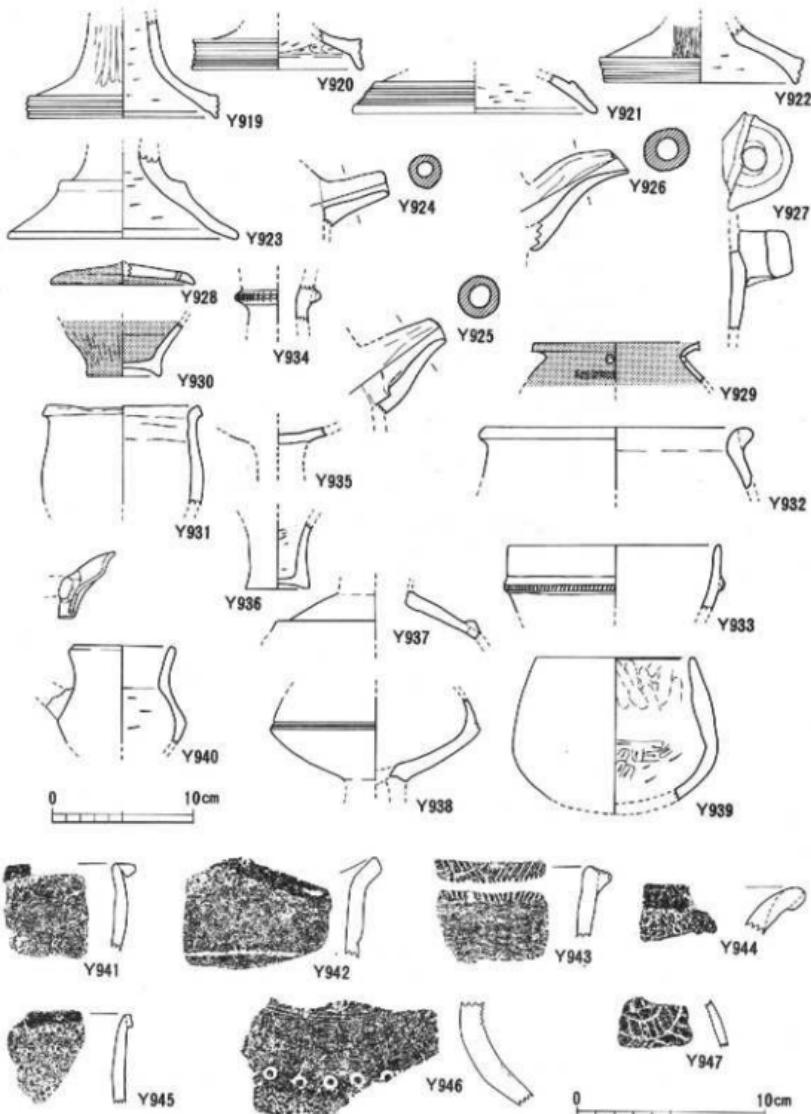
第70図 弥生土器(47) 後期 壺 1:4



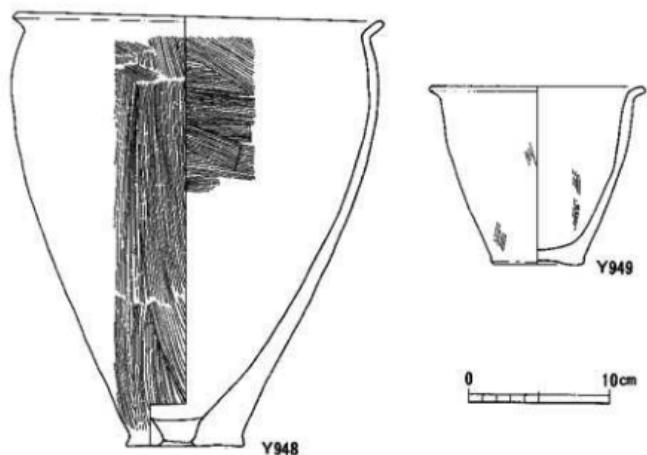
第71図 弥生土器(48) 後期 壺 1:4



第72図 弥生土器(49) 後期 壺・鉢・高環 1:4



第73図 弥生土器(50) 後期 器台・注口土器・飯および漆塗土器 1:4
時期不明 土器 1:3 (網目は漆)



第74図 弥生土器(51) 1:4

弥生土器一覧表

(直線文の後の数字は条数、()は施文具)

器種	分類	排番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
壺	I ₁	Y1	38	N26E7	6	口径14.0 器高20.3		段	ハケ目後、ヘラミガキ	夜日系
壺	I ₁	Y2	37					段	ヘラミガキ	夜日系 松江市保管
壺	I ₂	Y3	38	N25E7	4-2	口径10.3 器高12.2		平行沈線文3条(ヘラ)	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y4	37	N22E6	5	口径13.4 器高8.3		段	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y5	37	N21E5	4	口径8.8 器高3.7	口唇厚い	段	ナデ、ヨコナデ	
壺	I ₂	Y6	37	N16E7	4	口径19.6 器高8.2	口縁肥厚	段		
壺	I ₂	Y7	46	N20E5	4	口径14.6 器高5.1		段	ヘラミガキ、ナデ	
壺	I ₂	Y8	37	N18E5	5	口径16.0 器高6.0	口唇面取	段	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y9	37	N21E5	4	口径20.4		段	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y10	38	N25E7	4-2	口径18.0 器高14.7		段	ハケ目、ヘラミガキ、ナデ	
壺	I ₂	Y11	37	N13E4	4	口径16.4 器高7.4		段	ハケ目、ヘラミガキ、ナデ	
壺	I ₂ ? Y12	38	N16E8			器高13.2 底径7.6		段	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	I ₂	Y13		N26E7	4	器高19.9		段	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I ₂ ? Y14		N22E6	4		器高12.0 底径6.0		段	ハケ目、ナデ、ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y15	38	N17E8	4	器高10.8		段、波状文(ヘラ)	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	I ₂ ? Y16	38	N12E5	4		口径19.6 器高7.2	直線文2条(ヘラ)+段	ハケ目、ヘラミガキ		
壺	I ₂	Y17	38	N27E7	6	口径12.0 器高13.3		段+直線文(ヘラ)+羽状文Aa(ヘラ?)	ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y18	38	N26E7	5	口径12.0 器高8.4		段+直線文(貝)+羽状文Aa(貝)	ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y19	39		5-2 6			羽状文Aa、Ab(ヘラ)+区画直線文(ヘラ)	ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y20	40	N26E7	4-2	口径22.2 底径8.6	腹部最大幅やや上部 にあり	段+羽状文Aa(貝)+区画直線文(貝)	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	I ₂	Y21	40	N25E7	5	器高9.2 底径4.9		段+羽状文Aa(ヘラ)+区画直線文(ヘラ)	ヘラミガキ	
壺	I ₂	Y22	39	N21E6	4	口径8.0 器高7.9		段+直線文(ヘラ)	ヘラミガキ	
壺	I ₂ ? Y23	39	N21E6	6		口径18.2 器高7.8		突唇文Ab	ナデ?	
壺	I ₂	Y24	39			口径16.4 器高11.3	口唇面取	段+直線文(貝)+羽状文B(貝)	ヘラミガキ	
壺	I ₂ ?	Y25	39	N12E5	4	口径12.0 器高6.3		直線文3(ヘラ)	ヘラミガキ?	

器種	分類	埋 番号	岡版 ページ	出 土点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
壺	I ₃	Y26	39	N25E9	4-2	器高10.8		幾十直線文、複数継 青文、波浪の波線文 (いずれもヘラ)	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I ₃	Y27	39	N16E8	6	口径19.4 器高16.5	口縁の外反張り	突帯文Bb	ハケ目、ヘラミガキ、 ヨコナダ	
壺	I _{3?}	Y28	39	N21E5	4	口径17.8 器高6.4		直線文2(ヘラ)	ヘラミガキ	
壺	I ₃	Y29	39	N22E6	4	口径18.6 器高9.1		直線文2(ヘラ)	ヘラミガキ、ヨコナ ダ	
壺	I _{3?}	Y30	39	N14E5	4	口径15.4 器高7.4		直線文3(ヘラ)	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I ₃	Y31		N26E5	4	口径15.4 器高22.0		直線文1	ヘラミガキ	
壺	I ₃	Y32	39	N25E7	4-2	口径18.6 器高10.0		直線2、直線文3 (ヘラ)+刻文(見)	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I _{3?}	Y33	40	N21E6	4	器高8.4 底径6.0		羽状文Aa(ヘラ)+ 区綱直線文(ヘラ)		
壺	I ₃	Y34	39	N13E5	4	口径16.0 器高13.9		直線文3(ヘラ)	ハケ目	
壺	I _{3?}	Y35	40	N26E7	5	器高10.5 底径5.8		直線文2(ヘラ)、双 曲線状文(ヘラ)	ヘラミガキ、ナデ	
壺	I ₃	Y36	41	N22E6	6	口径11.0 器高10.3		波+波状文Aa(見?) +区綱直線文(ヘラ)	ヘラミガキ。ハケ目、 ナデ	
壺	I ₃	Y37	40	N16E7	6	口径6.6 器高13.3 底径6.0	II縫外縫	直線文1条(ヘラ)	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	I ₃	Y38	40	N25E9	5	口径7.2 器高12.5 底径4.5		波	ヘラミガキ、ナデ	
壺	V ₁	Y39	41	N18E9		器高15.5 底径6.4		羽状文B+重葉文+ 区綱直線文(いずれ もヘラ)	ヘラミガキ。ハケ目、 ナデ	
壺	I _{3?}	Y40	41	N24E7	第2回遺 地層土	口径16.8 器高10.3		直線文2(ヘラ)	ハケ目、ナデ、ヘラ ミガキ	
壺		Y41	41	N27E7	6	器高14.3 底径9.0		重葉文、区綱直線文 (ともにヘラ)	ヘラミガキ。ハケ目	
壺	III ₁	Y42	40	N26E7	6	口径16.1 器高28.5 底径8.0		直線文3-1(ヘラ)	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	I ₃	Y43	41	N20E5	6	口径14.9 器高23.7 底径9.4		波	ハケ目、ヨコナデヘ ラミガキ	
壺	I _{3?}	Y44	41			口径26.0 器高11.2	II唇面取	波	ヘラミガキ	松江市保管
壺	III ₁	Y45	42	N12E7	5-2	口径16.3 器高14.2 底径8.6		波	ヨコナデ。ハケ目、 ヘラミガキ	
壺	III _{1?}	Y46	41	N10E5		口径14.0 器高8.6		直線文4(ヘラ)	ヨコナデ?	
壺	III ₁	Y47	41	N12E7	5-1	口径7.8 器高9.0		内外に刻日重葉文Aa	ヘラミガキ。ハケ目、 ナデ	II縫に二枚貝の圧痕?
壺	III ₁	Y48	42	N19E9	5-1	口径24.0 器高12.1		刻日重葉文A、羽状 文B	ヘラミガキ。ハケ目	
壺	III ₁	Y49	42	N10E7	5-2	口径32.0 器高15.7		羽状文B、重葉文Aa	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	III ₁	Y50	42	N12E7	5-1	口径19.8 器高8.6		口易削目文(ヘラ)、 直線文9(ヘラ)	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	
壺	III ₁	Y51	43	N14E6	4	口径23.4 器高13.2		羽状文A、直線文+ 三角形刻文。内側 刻文	ヘラミガキ。ハケ目	

器種	分類	排	図版番号	出上地	上点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
壺	Ⅳ	Y52	42	N11E7		4	口径13.8 器高5.7		直線文、突帯文Bb	ヨコナデ？、ハケ目	
壺	Ⅲ	Y53	42	N13E7		5-2	口径17.0 器高4.2		直線文(ヘラ)、安帝 文Ab	ヨコナデ	
壺	Ⅲ	Y54	42	N12E4		4	口径14.7 器高6.8		直線文(ヘラ)、刻目 安帝文Ab、口唇周 目文	ヘラミガキ	
壺	Ⅲ	Y55	43				口径14.4 器高11.6		刻目子文(ヘラ)、直 線文(ヘラ)+二角形 刻文	ヘラミガキ、ハケ目	松江市保管
壺	Ⅲ	Y56	43	N12E4		4	口径21.2 器高11.0		羽状文Ab(ヘラ) 直線文(ヘラ)+三角 形刻文	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	Ⅲ?	Y57	43	N22E6		5	口径16.8 器高8.6		刻目安帝文Ab	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	Ⅲ	Y58	43				口径12.6 器高11.2		口唇周目文、直線文(ヘラ)+刻文	ハケ目	松江市保管
壺	Ⅲ	Y59	43	N12E5		4	口径24.0 器高11.6		羽状文子文、直線文8 +刻文(いずれも ヘラ)	ヨコナデ、ヘラミガ キ	
壺	Ⅲ	Y60	43	N11E7		4	口径12.8 器高6.8		直線文(ヘラ)、突帯 文Bb	ハケ目	
壺	Ⅲ	Y61	43			4	口径12.8 器高6.4	口縁あまり広がらな い	直線文4(ヘラ)+段	ハケ目、ナデ？	
壺	ⅢかⅡ	Y62	43	N13E7		5-1	口径17.4 器高2.8		羽状文Ab(ヘラ) 内側刻目安帝文Ab	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	Ⅲ?	Y63	43	N17E8		6	口径13.0 器高4.8		羽状文B(直)、直線 文5(ヘラ)、内側厚 壁+刻文(ともに 直)	ヘラミガキ	
壺	Ⅲ?	Y64	43	N18E8	第2回造 地盤土		口径20.4 器高7.2		直線文(ヘラ)+段	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	ⅢかⅡ	Y65	44	N11E7		4	口径19.0 器高4.1		直線文(ヘラ)上に刻 文	ヘラミガキ	内面に突帯直線風 (A)
壺	ⅢかⅡ	Y66	44	N22E6		4	口径15.2 器高4.1	口縁内面に段	直線文1(ヘラ)	ヘラミガキ(施文後)	
壺	Ⅲ	Y67	44	N11E4		4	口径23.2 器高5.4		突帯文Bb	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	Ⅲ	Y68	44				口径19.0 器高9.8		羽状文B(直)、直 線文6(ヘラ)	ヘラミガキ、ハケ目	松江市保管
壺	Ⅲ	Y69	44	N25E7		4-2	口径23.8 器高8.4		円形刻文、段+直 線文(ヘラ)	ヘラミガキ	
壺	Ⅲ?	Y70	44	N18 E8-9		4	口径21.2 器高7.0		羽状文D(ヘラ)、直 線文4(ヘラ)+段？	ヘラミガキ、ハケ目	
壺	ⅢかⅡ	Y71	44	N12E5		4	口径20.2		突帯文Bb		
壺	Ⅲ?	Y72	44	N25E7		4-2	口径16.2 器高7.4		突帯文Bb	ヨコナデ、ナデ、ハ ケ目	
壺	Ⅲ	Y73	44	N13E5		6	口径33.0 器高10.5		突帯文Bb上に羽状 文(直)	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	
壺	Ⅲ	Y74	44	N15E6		4	口径24.2 器高8.7		直線文(ヘラ)+刻目 文、突帯文Ab	ナデ、ハケ目、ヘラ ミガキ	
壺	Ⅲ?	Y75	44	N26E7		4-2	口径17.0 器高7.8	耳袋状のつまみ	突帯文Aa	ヘラミガキ？ ナデ？	
壺	Ⅲ?	Y76	44	N25E7		4-2	口径23.0 器高5.5		刻目突帯文Ab上に 円形刻文	ハケ目、ヘラミガキ	
壺	Ⅲ	Y77	44	N22E6		4	口径9.2 器高5.7		突帯文Ab	ナデ、ハケ目、ヘラ ミガキ	

器種	分類	抽選番号	図版	出土地点	土層	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
鏡	ⅢかⅣ	Y78	44	N15E7	5-1	口径10.5		直線文12(へり), 内側に反曲線状に突起 Aa	ヘラミガキ	
鏡	Ⅲ	Y79	45	N21E5	4	口径24.2 基高6.6		内面に鉛錆文(只), 文面文Aa	ハケ目, ナデ	
鏡	Ⅲ	Y80	45	N16E7	4	口径15.2 基高7.0		直線子文(へり), 直線文9(へり)→直線文8(へり)→直線文6(へり)	ナデ	
鏡	Ⅲ, ?	Y81	45	N18E9	5	口径19.8 基高8.1	頭部径大きい	直線文2(へり)	ハケ目, ヘラミガキ	
鏡	IV	Y82	45	N15E6	6	口径17.2 基高9.8		直線文2(へり)	ヘラミガキ	
鏡	ⅢかⅣ	Y83	45	N12E7	4	口径24.4 基高6.4		直線文6(へり)	ヨコナデ, ヘラミガキ	
鏡	II,	Y84	45	N17E8	6	口径12.8 基高9.8	口縁肥厚, 狹い	直線文5(へり)	ヨコナデ, ヘラミガキ, ハケ目	
鏡	IV	Y85	45			口径20.4 基高6.5		羽筋文Aa	ハケ目	西川津報告書566 と同一個体, 中期 松江市保管
鏡	IV	Y86	45	N17E4	5-1	口径17.6 基高11.5			ヨコナデ, ヘラミガキ, ナデ?	
鏡	IV	Y87	45	N22E6	5	口径16.4 基高6.4			ヘラミガキ	
鏡	IV	Y88	45	N14E6	4	口径14.8 基高8.2		直線文?(へり)一列 せず	ハケ目	
鏡	IV	Y89	45	N12E6	4	口径23.2 基高6.7		直線文(へり), 間に 斜文文		
鏡	II, ?	Y90	48	N12E6	4	口径13.0 基高6.4				
鏡	IV	Y91	45	N16E8	6	口径20.0			ハケ目	
鏡	IV	Y92	45	N17E9	6	口径9.8 基高7.7	頭部やや長い		ハケ目, ヘラミガキ	
鏡	IV	Y93	45	N16E7	6	口径13.8 基高7.5		直線文4(へり)	ヘラミガキ, ハケ目	
鏡	IV	Y94	37	N21E6	4	口径14.8 基高5.6			ハケ目, ナデ	
鏡	IV	Y95	46	N25E8	第2河岸 堆積上				ナデ	豊み著しい
鏡	IV	Y96	48	N14E6	5-2	口径13.2 基高21.5 底高7.4			ハケ目, ヨコナデ, ヘラミガキ?	
鏡	IV	Y97	48	N20E5		口径17.4 基高11.6		直線文?(へり)一列 せず	ヘラミガキ, ハケ目	
鏡	IV	Y98	45	N16E7	6	口径24.6 基高10.8			ハケ目, ヨコナデ, ヘラミガキ	
鏡	ⅢかⅣ	Y99	45	N22E6	4	口径41.0 基高10.4		突起文Bb	ハケ目, ヘラミガキ, ヨコナデ	
鏡	IV	Y100	46	N16E7	6	口径14.6		直線文3(へり)+段	ハケ目, ヘラミガキ	
鏡	IV	Y101	46	N12E5	4	口径16.0 基高5.9		直線文3(へり)+段	ナデ, ハケ目	
鏡	IV	Y102	46			口径17.9 基高7.3		直線文3(へり)+段	ヘラミガキ, ヨコナデ	
鏡	IV	Y103	46	N11E7	4	口径19.2 基高6.9		鋸齒文(へり)	ハケ目, ヨコナデ	

器種	分類	標番号	図版	出土地点	ページ	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
壺	IV	Y104	46	N25E7	4-2	口径15.2 器高4.8		実底文Bb	ヘラミガキ		
壺	IV	Y105	46	N19E9	5	口径10.6 器高11.0	胴部やや張る	直線文7(へラ)+竹管文	ヘラミガキ。ナデ		
壺	IV	Y106	46	N16E7	5-2	口径18.6 器高10.4		直線文10(へラ)	ヘラミガキ		
壺	IV	Y107	46	N15E6	6	口径9.6 器高3.5		直線文7(へラ)	ヘラミガキ		
壺	IV?	Y108	46	N22E6	4	口径11.6 器高5.6		直線文3(へラ)	ヘラミガキ? ナデ?		
壺	IV?	Y109	46	N25E7	第2回通 堆積上	口径16.6 器高9.4	胴部かなり張る	直線文4(へラ)	ヘラミガキ。ヨコナ デ, ナデ		
壺	IV	Y110	46	N11E4	4	口径25.8 器高6.1		直線文(へラ)間に羽 状文Aa(へラ)	ナデ?		
壺	II	Y111	47	N25E7	4-2	口径26.8 器高10.6		羽状文Aa, 直線文10 (へラ)	ハケ目, ヨコナデ, ヘラミガキ		
壺	IV?	Y112	46		4	口径11.4 器高6.1	胴部やや張る		ハケ目, ナデ		
壺	V	Y113	47	N17E8 1 N17E7 2 ベルト	6	口径12.2 器高9.0	胴部張る	直線文3(へラ)	ハケ目, ヨコナデ, ヘラミガキ		
壺	I,?	Y114	47	N20 -22 ES-6	4	口径40.0 器高14.0		波	ハケ目, ナデ, ヘラ ミガキ		
壺	IV	Y115	46	N13E5	4	口径12.6 器高4.7			ヘラミガキ		
壺	V	Y116	47	N25E7	4-2	口径11.6 器高8.4			ヘラミガキ		
壺	V	Y117	47	N10E7	5-2	口径19.4 器高15.0			ヘラミガキ		
壺	V	Y118	47	N12E4	4	口径14.8 器高16.5			ヘラミガキ, ハケ目		
壺	IV	Y119	49	N18E9	5	口径9.5 器高11.0 底径5.8		直線文3(へラ)	ヘラミガキ, ハケ目		
壺	V?	Y120	47	N16E7	5-1	口径15.4 器高4.3	口縁細い		ヨコナデ?		
壺	V?	Y121	47	N26E7	4-1	口径14.0 器高7.6	口縁細い	直線文(へラ)			
壺	V	Y122	47	N16E7	6	口径14.6 器高7.0			ヘラミガキ		
壺	VI	Y123	49	N17E9	6	口径10.6 器高16.3 底径7.8	胴部張る		ヘラミガキ		
壺	V	Y124	48	N22E5	6	口径11.4 器高8.2			ヘラミガキ		
壺	IV?	Y125	48	N26E7	4-1	口径10.6 器高6.7		直線文1(へラ)	ハケ目, ナデ?, 全体にいびつ		
壺	VI	Y126	48	N16E8	4	口径8.4 器高9.2	肩部張らず		ハケ目, ナデ		
壺	I?	Y127		N16E7	4	口径5.0 器高3.0			ヨコナデ?		
壺	VI	Y128	49	N22E6	5	口径11.8 器高12.8			ヘラミガキ		
壺	VI	Y129	49	N10E5	5-1	口径8.3 器高11.6 底径6.3	肩部張らず		ヘラミガキ		

器種	分類	所蔵 番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法 長 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
甕	V	Y130	48	N16E8	4	口径 5.2 基高 10.6 底径 4.6	底部高台状		ナデ	
甕	VI	Y131	48	N11E4	4	口径 6.8 基高 7.8		口唇有目文、直線文 3(ヘラ)	ナデ	
甕	II?	Y132	48	N12E8	4	口径 6.8 基高 7.1		直線の直線文(ヘラ)		
甕	V?	Y133	49	N21E5	5	口径 5.7 基高 7.9 底径 3.8			ハケ目、ナデ	
甕	IV	Y134	48	N16E8	6	口径 16.4 基高 14.7	透し口字口縁	直線文5(ヘラ)	ハケ目、ヘラミガキ、 ナデ	
甕	IV	Y135	48	N10E7	4	口径 16.6 基高 5.9	透し口字口縁			
甕	V?	Y136		N22E6	5	基高 6.4 底径 5.7			ヘラミガキ、ハケ目	
甕	II?	Y137	49	N12E5	6	基高 14.1		直線文8~9(ヘラ)	ヘラミガキ	
甕	II?	Y138	49			基高 7.0		突帯文Bb	ヘラミガキ、ハケ目	
甕		Y139	48	N12E5	6	基高 6.7		突帯文Ba、段+直 線文(貝)	ハケ目、ヘラミガキ?	
甕	VI?	Y140	49	N21E5	6	基高 8.8		突帯文Aa	ヘラミガキ、ハケ目	
甕		Y141	49			基高 5.8		突帯文Ba	ヘラミガキ、ハケ目	松江市保管
甕		Y142	50	N22E6	5	基高 17.5	脚部側く張る	段+直線文2(ヘラ) +羽状文Aa(ヘラ)	ヘラミガキ、ハケ目、 ナデ	
甕	II?	Y143	49			基高 14.1 底径 6.5		直線文3(ヘラ)	ハケ目、ヘラミガキ、 ナデ	
甕	II?	Y144		N22E5	4	基高 9.1 底径 5.4			ヘラミガキ	
甕	II?	Y145	50	N21E6	4	基高 11.6 底径 6.2		刺目突帯文Aa	ヘラミガキ	
甕	II	Y146	50			基高 14.0 底径 6.0		直線文3(ヘラ)		松江市保管
甕	IIかIII	Y147	50	N21E7	4-2	基高 25.8 底径 8.6		直線文4(ヘラ)+段、 直線文1(ヘラ)	ハケ目、ヘラミガキ、 ナデ	
甕	I	Y148		N16E7	6	基高 23.8 底径 9.0		ヘラ直線文を調整し て段とする	ハケ目、ヘラミガキ、 ナデ	
甕	I?	Y149	50	N22E5	4	基高 19.7 底径 8.8		段	ヘラミガキ、ハケ目、 ナデ?	
甕	I?	Y150		N22E5	4	基高 15.1 底径 8.4		直線文2(ヘラ)	ヘラミガキ、ナデ	底部に施文
甕	IかII	Y151	50	N20E5	4	基高 12.6 底径 9.0			ヘラミガキ	
甕	I?	Y152		N22E5	4	基高 18.1 底径 9.0			ヘラミガキ	
甕	I?	Y153		N26E7	5	基高 13.8 底径 9.0			ヘラミガキ、ハケ目	
甕	II	Y154		N20E5	4	基高 20.4 底径 11.0			ヘラミガキ、ハケ目、 ナデ	
甕		Y155	51	N26E7	4-1	口径 10.0 基高 2.1		刺目突帯文Aa	ナデ、ヘラミガキ	

器種	分類	採集番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
無縫甕		Y156	51	N12E5	4	口径11.5 器高3.0		直線文3(ヘラ)		
無縫甕		Y157	51	N12E5	4	口径13.4 器高5.6		突帯文Ac		
無縫甕		Y158	51	N17E9	4	口径13.0 器高7.3			ヘラミガキ、ハケ目、ヨコナデ	
無縫甕		Y159	51	N26E7	5	口径12.6 器高11.0 底径7.4		羽状文Ab(ヘラ)、 区画縦文(底)	ヘラミガキ	
無縫甕		Y160	51	N13E4 N13E5	4	口径9.2 器高9.9 底径7.9			ヘラミガキ	
無縫甕		Y161	51	N16E7	6	口径5.1 器高6.6 底径3.7			ヘラミガキ	
無縫甕		Y162	51	N26E7	4-1	口径9.8 器高13.2 底径7.2			ハケ目、ヘラミガキ	
無縫甕		Y163	50	N25E6	4-2	口径9.8 器高8.8 底径7.2			ヘラミガキ、ハケ目、 ナデ	
要	I	Y164	51	N21E5	4	口径34.2 器高6.7	口唇期昌文。段上に 刻印文	ハケ目、ナデ?		
要	I	Y165	51	N16E8	4	口径32.4 器高14.4	口唇期日文。段	ハケ目、ナデ		
要	I	Y166	51	N22E6	4	口径34.0 器高7.6	段	ハケ目、ナデ		
要	I	Y167	52	N16E7	6	口径37.0 器高12.0	口唇期日文。段	ハケ目、ヨコナデ		
要	I	Y168	51	N13E5	第2河道 堆積土	口径31.2 器高8.2	段	ハケ目、ナデ		
要	I	Y169	52	N10E7	4	口径27.0 器高10.3	段	ハケ目、ヨコナデ		
要	I	Y170	51			口径23.8 器高4.0	口唇期日文。段	ハケ目	松江市保管	
要	I	Y171	52	N21E5	4	口径19.6 器高3.9	段	ヨコナデ?		
要	I	Y172	52	N15E6	4	口径16.6 器高10.3	段	ハケ目		
要	I	Y173	52			口径16.4 器高4.0	口唇期日文、直線文 1(ヘラ)	ハケ目、ナデ		
要	I	Y174	52	N16E8	6	口径22.6 器高13.6	直線文1(ヘラ)	ハケ目、ヨコナデ		
要	I	Y175	52	N26E7	4-2	口径33.6 器高10.6	直線文1(ヘラ)	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ		
要	I	Y176	52	N26E7	4-2	口径23.4	口唇期日文、直線文 1(ヘラ)	ハケ目、ナデ?		
要	I	Y177	52	N25E7	第2河道 堆積土	口径24.2 器高7.3	網底張る	直線文1(ヘラ)	ハケ目、ナデ	
要	I	Y178	52	N25E7	第2河道 堆積土	口径24.0 器高16.2		口唇期日文、直線文 2(ヘラ)	ハケ目	
要	I	Y179	51	N21E5	5	口径13.5 器高12.4 底径5.4		直線文1(ヘラ)	ハケ目、ナデ	
要	I	Y180	52	N12E5	4	口径6.2 器高3.1		口唇期日文、直線文 2(ヘラ)	ハケ目、ナデ	
要	I	Y181	51	N11E4	4	口径13.6 器高15.4 底径6.5		直線文2(ヘラ)	ハケ目、ナデ	

器種	分類	博物館番号	出土地点	出土層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要	I	Y182	52	N21E7	4-1	口径31.8 器高8.4	口唇刻目文。直線文2(へラ)	ヨコナデ。ナデ?	
亞	I	Y183	52	N17E9	4	口径28.0 器高17.0	口唇刻目文。直線文2(へラ)	ハケ目。ナデ	
要	I	Y184	52	N16E7	6	口径12.0 器高6.1	直線文3(へラ)	ハケ目。ナデ	
要	I	Y185	53	FB N17-18 ライン	4	口径14.8 器高5.7	直線文3(へラ)	ハケ目。ナデ	
要	I	Y186	53	N24E5	4	口径25.6 器高10.3	側部張る	直線文3(へラ)	ナデ、ハケ目
要	I	Y187	53	N16E7	6	口径43.4 器高11.7		直線文3(へラ)	ハケ目。ナデ
要	I	Y188	53	N17E8	6	口径23.4 器高9.4		口唇刻目文。直線文4(へラ)	ハケ目。ヨコナデ、ナデ
要	I	Y189	53	N16E8	4	口径21.4 器高7.2		直線文4(へラ)	ナデ
要	I	Y190	53			口径23.6 器高7.6	口唇刻目文。直線文5(へラ)	ヨコナデ	松江市保管
要	I	Y191	53	N25E7	第2河道 堆積土	口径28.8 器高4.2	口縁細い	口唇刻目文。直線文5(へラ)	ナデ、ハケ目
要	I	Y192	53	N27E7	4-1	口径30.0 器高19.6		口唇刻目文。直線文5(へラ)	ハケ目。ナデ。ヨコナデ
要	I	Y193	53			口径25.6		直線文5(へラ)	ハケ目。ナデ
要	I	Y194	53	N11E4	4	口径26.2 器高9.9	側部やや張る	口唇刻目文。直線文11(へラ)	ナデ、ヨコナデ
要	I	Y195	53	N15E6	5-1	口径29.6 器高7.5		羽状文Aa(へラ)、 直線文6(へラ)	ヨコナデ
要	I	Y196	53	N27E7	4-1	口径18.0 器高8.6		直線文6(へラ)	ハケ目。ヨコナデ
要	I	Y197	53			口径31.8 器高5.4		口唇刻目文。直線文(へラ)と、底の間に刺 突文。紙の直線文3(へラ)	ハケ目。ヨコナデ、 ナデ?
要	I	Y198	54	N26E8	6	口径24.8 器高9.1		直線文(へラ)間に円 形刻突文	ナデ、ハケ目
要	I	Y199	53	N16E7	4	口径29.4 器高10.5		口唇刻目文。直線文(へラ)間に竹管文	ハケ目。ヨコナデ
要	I	Y200	54	N22E5	4	口径27.4 器高20.7		口唇刻目文。直線文(へラ)間に刺 突文。	ハケ目。ナデ
要	I	Y201	54	N18E8	4	口径32.4 器高8.8		直線文(へラ)間に精 円形刻突文	ナデ?
要	I	Y202	54	N16E7	6	口径28.6 器高7.2		直線文(へラ)間に刺 突文。口唇刻目文	ハケ目。ヨコナデ
要	I	Y203	54	N25E7	4-1	口径32.0 器高12.2	側部張る	直線文2~3(へラ) 間に竹管文	ナデ?
要	I	Y204	54	N14E4	5	口径22.6 器高6.0		直線文8(へラ)+円 形刻突文	
要	I	Y205	54	N17 EB-7	6	口径11.4 器高4.8		口唇刻目文。直線文 5-6(へラ)+円形 刻突文	ナデ
要	I	Y206	54	N27E7	4-1	口径23.4 器高11.1		直線文10(へラ)+円 形刻突文	ヘラミガキ。ヨコナ デ、ハケ目
要	I	Y207	54	N19E9	4	口径17.0 器高10.0		口唇刻目文。直線文 7(へラ)+竹管文2 列	ハケ目。ナデ

番号	分類	相図番号	国版ページ	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要 I	I	Y208	54			口径22.6 器高 6.6		直線文(へラ)間に刻 実文		松江市保管
要 I	I	Y209	54	N27E7	4-2	口径17.8 器高 6.4		直線文(へラ)+横 直線文(へラ)+竹管 文(へラ)		
要 I	I	Y210	54	N20E5	4	口径31.6 器高 9.4		実帶文Bb上に竹管 文		
要 I	I	Y211	54	N18E9	4	口径23.4 器高 11.3		口唇刻目文、実帶文 Aa	ハケ目、ナデ	
要 I	I	Y212	54		4	口径22.6 器高 5.3		口唇刻目文、周日実 帶文Aa、直線文(へラ)	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	松江市保管 鉢の可能性有り
要 I	I	Y213	54	N15E4	4	口径19.2 器高 6.1		口唇刻目文、周日実 帶文Aa、直線文(へラ)	ハケ目	
要 I	I	Y214	54	N16E7	6	口径17.4 器高 4.7		口唇刻目文、周日実 帶文Aa		
要 I	I	Y215	55	N16E7	6	口径20.0 器高 5.6		実帶文Bb	ヨコナデ、ハケ目	
要 I	I	Y216	55	N17E8	6	口径30.0 器高 5.6		口唇刻目文、実帶文 Aa上に刺実文	ハケ目、ヨコナデ	
要 II?	II?	Y217	55			口径21.2 器高 7.1		実帶文Aa	ヨコナデ、ヘラミガ キ	
要 II	II	Y218	55	N22E6	4	口径19.8 器高 4.0		口唇刻目文、段	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
要 II	II	Y219	55	N14E5	4	口径16.0 器高 5.2		直線文(へラ)		
要 II	II	Y220	55	N21E5	4	口径20.5 器高 6.1		直線文(へラ)+段 +刺実文		
要 II	II	Y221	55	N20F5	4	口径16.6 器高 5.3		口唇刻目文、直線文 (へラ)	ナデ、ハケ目	
要 II	II	Y222	55	N16E7	4	口径19.0 器高 6.5		直線文(へラ)+横 円形刻実文	ナデ、ハケ目	
要 II	II	Y223	55	N20-22- E5-6	4	口径19.8 器高 7.8		口唇刻目文、直線文 2帯(各3条、へラ)	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
要 III	III	Y224	55	N20E5	4	口径20.2 器高 6.7		直線文(へラ) 口唇刻目文	ハケ目、ヨコナデ	
要 III	III	Y225	55	N25E7	第2河道 堆積土	口径22.4 器高 4.1		口唇刻目文、直線文 (へラ)+段	ナデ	
要 III	III	Y226	55	N13E7	4	口径15.0 器高 5.2		口唇刻目文、直線文 2-3(へラ)間に竹 管文	ハケ目、ナデ?、ヨ コナデ	
要 III	III	Y227	55	N12E4	4	口径20.8 器高 6.5		口唇刻目文、直線文 (へラ)+竹管文	ナデ、ヨコナデ、ハ ケ目	
要 III	III	Y228	55	N25E7	第2河道 堆積土	口径32.6 器高 6.4		口唇刻目文、直線文 3(へラ)	ナデ	
要 III	III	Y229	55	N26E7	4-2			口唇刻目文、段?	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
要 III	III	Y230	55	N18E8	5	口径22.0 器高 10.1		口唇刻目文、竹管文 2列		
鉢 I	I	Y231	55	N13E5	4	口径27.2 器高 10.6		口唇刻目文、直線文 1(へラ)	ハケ目、ナデ、ヨコ ナデ	
鉢 I	I	Y232	55	N21E6	4	口径25.4 器高 8.9		直線文3(へラ)	ハケ目、ナデ、ヨコ ナデ	
鉢 I	I	Y233	55	N16E7	4-1	口径23.0 器高 7.2	口唇面取		ヘラミガキ	

器種	分類	桜岡 番号	國版 番号	出 土 地 点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
鉢	I	Y234	55	N25E7	4-2	口径25.4 器高 9.5			ヘラミガキ	
鉢	I	Y235	55	N20E5	4	口径26.0			ヘラミガキ、ハケ目	
鉢	I	Y236	56	N27E7	4-2	口径27.6 器高 5.0			ハケ目、ナデかヘラ ミガキ	
鉢	T	Y237	56	E4 ワイン NI2E3	4	口径28.7 器高 5.4			ヨコナゲ、ヘラミガ キ?	
鉢	T	Y238	56	N25E7	4-2	口径18.0 器高 6.1		口唇刻目文、直線文 (へう)間に竹管文	ナデ	
鉢	T	Y239	56	N19E9	4	口径19.0 器高 6.4			ハケ目	
鉢	T	Y240	56	N16E7	6	口径17.4 器高 5.5			ヘラミガキ、ハケ目	
鉢	T	Y241	56	N25E7	4-2	口径26.1 器高 6.2		突唇文Aa		
鉢	T	Y242	56	N26E7	5	口径23.0 器高 5.2	口唇面取		ヘラミガキ	
鉢	I	Y243	56	N15E6	5	口径20.4 器高 5.3	つまみ、口唇面取		ヘラミガキ?	
鉢	I	Y244	56			口径22.2 器高 6.3	つまみ、口唇面取		ヨコナゲ、ハケ目、 ヘラミガキ	
鉢	I	Y245		N25E7	4-1	口径18.4 器高12.8 底径 6.6			ヘラミガキ	
鉢	I	Y246	56	N18E9	4	口径27.2 器高11.0	つまみ、口唇面取		ヘラミガキ	
鉢	II	Y247	57	N26E7	6	口径12.1 器高 7.1 底径 6.4			ヘラミガキ、ナデ	
鉢	II	Y248	57	N25E7	4-2	口径 9.0 器高 5.0 底径 4.2			ヘラミガキ、ナデ	
鉢	II	Y249	56	N15E6	4	口径28.0 器高 8.3	つまみ		ハケ目、ヘラミガキ	
鉢	III	Y250	56	N13E4	4	口径22.8 器高 8.6	口唇面取		ヘラミガキ、ハケ目	
鉢	III	Y251	56	N12E7	4	口径13.0 器高 3.1	つまみ	直線文(へう)	ハケ目	
鉢	III	Y252	56	N18E9	5-1	口径15.8 器高 5.4	浅身、口唇面取		ハケ目、強いナデ	
鉢	III	Y253	56	N17E9	6	口径16.2 器高 7.1			ヘラミガキ、ハケ目、 ヨコナゲ	
鉢	III	Y254	57	N18E8	4	口径17.2 器高10.9 底径 9.0	口唇肥厚		ハケ目	
鉢	III	Y255	57	N16E7	5-1	口径13.0 器高11.8 底径 6.9	凹み底		ナデ、ハケ目、ヘラ ミガキ?	
蓋		Y256	56	N12E5	7		つまみ 2個		ヘラミガキ、ナデ	
蓋		Y257	57	N17E9	4	口径 9.8 器高 4.6 天井径2.8			ヨコナゲ	
蓋		Y258	57	N21E5	4	器高 6.5 天井径4.5			ハケ目、ナデ	
蓋		Y259	57	N22E5	4	器高 6.7 天井径4.8		直線文、直線文(へ う)間に竹管文	ハケ目、ナデ	

基盤	分類	括弧番号	図版番号	出土地点	層位	法寸 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
蓋		Y260	56	N13E6	4	器高 4.8	つまみ			
蓋		Y261	57	N15E6	6-1	口徑 7.8 器高 3.4	つまみ		ヘラミガキ	
蓋		Y262	57	N15E7	6	口徑 7.4 器高 2.8 天井径 1.4	つまみ		ナデ	
蓋		Y263	57			口徑 11.2 器高 5.2	扁平なつまみ		ハケ目、ナデ	
蓋		Y264	57	N13E7	4	口徑 8.2 器高 3.2 天井径 1.5				
蓋		Y265	56	N12E5	4	口徑 6.4 器高 2.0 天井径 1.5	環状のつまみ			
蓋		Y266	57	N18E8	6	器高 6.6 天井径 6.2	環状のつまみ	直線文 1(へラ)	ヘラミガキ、ハケ目、ナデ	
蓋		Y267	56	N16E8	4	口徑 15.2 器高 6.6 天井径 6.2				
蓋		Y268		N12E7	4	器高 6.8 天井径 5.2			ハケ目、ナデ	
蓋		Y269	57	N15E7	6	口徑 19.6 器高 8.5 天井径 6.9			ハケ目、ナデ	
蓋		Y270	57	N16E7	4	器高 7.3 天井径 6.6			ヘラミガキ	
蓋		Y271	57	N21E6	6	口徑 28.8 器高 9.5 天井径 7.2			ヘラミガキ、ナデ	
蓋		Y272		N20E5	6	器高 8.3 天井径 7.0	環状のつまみ		ハケ目、ナデ、ヘラミガキ?	
蓋		Y273	57	N22E6	5	器高 20.2 天井径 7.6	環状のつまみ	円形の刺繡文	ハケ目、ヘラミガキ	
蓋		Y274	56	N17E9	6	器高 10.6 底径 10.4		重複文+直線文(ともにへラ)	ヘラミガキ、ナデ	底部に裏文
		Y275	56	N15E7	4	器高 3.0 底径 9.0		直線文 2(へラ)	ナデ、ヘラミガキ?	底部に裏文
蓋		Y276		N13E6	4	器高 5.2 底径 5.0	円板状の底部		ヘラミガキ、ハケ目、ナデ	底部に裏文
		Y277		N15E7	5-1	器高 13.9 底径 9.0		直線文(へラ)	ハケ目、ナデ	底部に裏文
		Y278	56	N16E8	6	器高 7.6 底径 6.0		縱横の直線文(へラ)	ヘラミガキ、ナデ	
蓋		Y279	56	N12E7	堆積上	器高 4.5 底径 5.4	円板状の厚い底部	直線文 4(へラ)	ナデ	底部に施文
蓋		Y280		N12E5	4	器高 7.8 底径 6.2			ヘラミガキ	
		Y281		N22E5	6	器高 7.1 底径 7.8	高台状の底部		ハケ目、ナデ	
蓋		Y282		N17E8	6	器高 9.2 底径 7.0			ヘラミガキ?	
蓋		Y283		N27E7	4-2	器高 5.7 底径 6.0			ヘラミガキ	
蓋		Y284		N22E6	6	器高 2.9 底径 7.4			ヘラミガキ、ナデ	
		Y285		N25E9	堆積上	器高 5.0 底径 7.6			ハケ目、ヘラミガキ、ナデ	

器種	分類	博番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
		Y286		第2河道 地盤7.		器高 6.8 底径 4.6			ハケ目	
甕		Y287		N21E5	4	器高 9.4 底径 8.8			ヘラミガキ	
甕		Y288		N22E6	4	器高 4.8 底径 8.5			ハケ目、ヘラミガキ	
甕		Y289				器高 5.3 底径 7.2	底部厚い		ヘラミガキ、ハケ目、 ナゲ	
甕		Y290		N10E6	4	器高 7.5 底径 3.9				
		Y291		N22E5	4	器高 5.3 底径 6.6			ハケ目、ヘラミガキ	
		Y292		N12E8	5-1	器高 6.0 底径 7.8			ヘラミガキ	
甕	T ₁	Y293	58	N27E7	4-2			段+直線文3(へラ) +羽状文Aa(へラ) +直線文3(へラ)	ナゲ	
甕		Y294	58	N13E4	4			羽状文Aa(貝)+直 線文1(貝)		
甕		Y295	58	N17E8	5			直線文1(へラ)+羽 状文Aa(へラ)	ナゲ	
甕		Y296	58	N11E7	4		肥部鋸く凹曲	羽状文Aa(へラ)+ 直線文2(へラ)	ナゲ?	
甕	ⅢかⅣ	Y297	58	N16E8	6			口縁羽状文B、内面 直線文間隔:羽状文CAa (い・ぞれも貝)	ヨコナゲ、ハケ目	
甕	I	Y298	58	N26E7	4-2			段+羽状文Aa(貝?) +区画直線文(へラ?)	ハケ目、ナゲ、ヘラ ミガキ	
甕	I	Y299	58	N15E7	6			羽状文Aa(へラ)+ 区画直線文?(へラ)	ヘラミガキ、ナゲ、 ハケ目	
甕	I	Y300	58	N26E7	4-1			段+羽状文Aa(貝) +区画直線文(貝)	ヘラミガキ	
甕	I ₁	Y301	58	N12E4	4-5-1			羽状文Ab(へラ)+ 直線文5(へラ)	ヘラミガキ、ハケ目	
甕		Y302	58	N16E7	6			羽状文Aa(へラ)、川 形柄文A、区画直線文 (い・ぞれも貝)	ナゲ	
甕	T ₁	Y303	58	N25E7	4-2			段+直線文3(へラ) +羽状文B(へラ)		
甕	T ₁	Y304	58	N25E7	4-2			段+直線文2(貝)+ 羽状文Aa(貝)	ヘラミガキ、ハケ目	
甕		Y305	59	N18E8	6			羽状文Aa、B、斜 角羽状文+区画直線文 (い・ぞれも貝)	ハケ目、ナゲ	
甕		Y306	59	N21E5	4			羽状文B(へラ)	ナゲ	
甕		Y307	59	N15E6	4			羽状文B(貝)+区画 直線文(貝)		
甕		Y308	59	N22E6	4			段+羽状文B(へラ) +区画直線文(へラ)		
甕		Y309	59	N21E5	4			段+羽状文B(貝)	ヘラミガキ、ハケ目	
甕		Y310	59	N26E7	4-1			段+直線文4(へラ) +直線文(へラ)	ヘラミガキ	
甕		Y311	59	N13E5	4			羽状文Aa+区画直 線文+斜角文(い・ぞ れも貝)	ヘラミガキ、ナゲ	

整理	分類	捕獲番号	図版ページ	出土点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
壺	I ₂	Y312	58	N13E4	4			縦+直線文(2~4)に 羽状文Aa+網目文 (ともにへラ)+斜線 文Cb,Cd(へラ)	ヘラミガキ。ハケ目。 ナデ	
壺		Y313	59	N26E7	4-1			直線文4(只)+網目 文(只)	ヘラミガキ	
壺?		Y314	59	N25E7	4-1			直線文2(へラ)+網 目文(へラ)		
壺		Y315	59	N17E8	6			直線文4(へラ)+斜 線+網目文(只)		
		Y316	59	N15E7	第2河道 堆積土			網目文		
壺	I ₂	Y317	59	N16E8	4			直線文(へラ)+網目 文(只)+羽状文Aa (只)		
壺		Y318	59	N17E8	6			直線文1(へラ)+網 目文(へラ)	ヘラミガキ。ナデ	
壺		Y319	59	N18E9	4			縦+直線文2(へラ) +斜線文(網目文? へラ)	ヘラミガキ?ハケ用。 ナデ	
壺		Y320	59	N17E9	6			直線文3(へラ)間に 直線文(へラ)	ヘラミガキ。ナデ	
壺?		Y321	59	N21E5	4			直線文1+直線文 (ともに只)	ナデ	
壺		Y322	59	N12E6	4			直線文2+羽状文 Aa+直張文(いずれ もへラ)	ヘラミガキ。ハケ目	
壺	I ₂	Y323	59					縦+直線文3(へラ) +直張文(へラ)		
壺		Y324	59	N16E8	6			直張文、直線文(と もに只)、直帶文Aa	ヘラミガキ。ハケ目。 ナデ	
壺		Y325	59	N16E7	6			直線文+直張文(と もにへラ)	ナデ	
壺		Y326	59	N14E5	4			直線文4(へラ), 箔 文(只)		
壺		Y327	59	N26E7	4-2			突帯文Bb上に格子 文(へラ)	ヘラミガキ	
壺		Y328	59					直線文4(へラ)+網 目文(へラ)	ヘラミガキ。ハケ目	新江南保管
壺	ⅡかⅢ	Y329	59	N18E9	4			内面直線文(3~4) 間に網目文(いずれ も只)	ナデ	
壺		Y330	59	N17E9	4			直線文2(へラ)+網 目文(へラ)	ハケ目。ナデ	
壺		Y331	59	N17E8				横 矩線文(へラ)		
壺		Y332	59	N12E4	4			直線文2(只)+網目 文(只)突出文(に上る)	ヘラミガキ	
壺		Y333	59	N20E5	4			直線文2(へラ)間に 網目文	ヘラミガキ。ナデ	
壺		Y334	59	N27E7	4-2		網目網目	弧文(へラ)	ヘラミガキ。ナデ	
壺		Y335	59	N26E7	4-2		網目網目	直線文4(只)	ヘラミガキ。ナデ	
壺		Y336	60	N17 E8~7	4			羽状文Aa+斜格子 文+直線文3(いずれ もへラ)	ヘラミガキ。ナデ	
壺		Y337	60	N11E4	4			縦+内斜斜筋文2(只) +斜格子文。斜張文(いす れも只)直張文Ab?	ナデ	

器種	分類	揮園番号	図版ページ	出土点	層位	法皇(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
壺		Y338	60					段+落子文(具)		松江市保管
壺		Y339	60	N16E7	5-1			斜輪木葉文(へラ)	へラミガキ。ハケ目。 ナデ	
壺		Y340	60	N16E7	6			斜輪木葉文(へラ)区 直線文(へラ)	へラミガキ。ナデ	
壺		Y341	60	N12E4	4			斜輪木葉文(へラ)区 直線文(へラ)		
壺		Y342	60	N19E9	4			斜輪木葉文(へラ)区 直線文(へラ)		
壺		Y343	60	N15E7	6			旋輪?木葉文(へラ)	へラミガキ。ハケ目	
壺		Y344	60	N16E8	6			斜突文+斜輪木葉 (へラ)+区直線文 (へラ)	ナデ?	
壺		Y345	60	N17E9	5-1			旋輪?木葉文(具)	へラミガキ?	
壺		Y346	60	N18E9	4			直線文+斜輪木葉文 (ともにへラ)		
壺		Y347	60	N22E6	4			旋輪?木葉文		
壺		Y348	60	N17E7	6			斜輪木葉文+区直線 文(ともにへラ)	ハケ目。ナデ	
壺		Y349	60	N11E4	4			斜輪木葉文+区直線 文(ともに凡) 突帝文A	へラミガキ。ナデ?	
壺		Y350	60	N12E4	5-1			斜輪木葉文(具)+直 線文(具) 斜突文		
壺		Y351	60	N16E8	第2河道 堆積土			羽状文Aa, 区直線 文, 斜輪木葉文 (いずれも具)		
壺		Y352	60					空筒文, 剣齒文, 木 葉文(へラ)		松江市保管
壺		Y353	60	N15E6	4			木葉文+区直線疊 とにも(へラ)		
壺 I	I	Y354	60	N10E5	4			段+竹管文+直線文 1(へラ)	へラミガキ	
壺 I	I	Y355	60					段+円形刺突文3列	へラミガキ。ナデ	
壺		Y356	60	N12E4	4			直線文(へラ)間に竹 管文		
壺		Y357	60	N13E8	4			直輪文(へラ)間に三 列刺突文(具)と斜輪文 Aa(具)と区直線疊 文(へラ)		
壺		Y358	60	N12E6	第2河道 堆積土			直線文(へラ)間に山 形に円形刺突文		
壺		Y359	60					直輪文(へラ)十 角形刺突文+直線文 Aa(具)と区直線疊 文(へラ)		
壺		Y360	60	N7E8	6			段+流水文(具)		
壺		Y361	60	N11E4	4			羽状文Aa+流水文?		
壺		Y362	60	N17E8	6			突帝文Ba	へラミガキ。ナデ	
壺		Y363	61	N22E6	4			突帝文Ba		

器種	分類	揮	国番号	国版	出土地点	層位	法 直 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
壺	ⅡかⅢ	Y364	61	N27E7	4-1				奥帯文Ba上に割目文	ヘラミガキ	
壺		Y365	61	N17E8	6				突帯文Ba	ハケ目	
壺		Y366	61	N12E4	4				突帯文Bb	ヘラミガキ, ハケ目, ナデ	
壺	I	Y367	61	N1AE5	4				突帯文Bb, 羽状文 Aa(見)		
壺	I?	Y368	61	N17E8	6				突帯文Ba上に円形 刻文2列	ヘラミガキ, ナデ	
壺	I	Y369	61	N18E8	6				突帯文Bb上に羽状 文B(見), 羽状文Ab (見)	ナデ, ヘラミガキ	
壺	T	Y370	61	N25E7	第2河邊 堆積土				突帯文Bb, 羽状文 Aa(ヘラ?)		
壺	Ⅲ	Y371	61	N12E4	4				突帯文Ac, 羽状文 Aa(見)		
壺		Y372	61	N26E7	4-2				羽状文B(見)+直線 文(見) 割目突帯文Aa	ナデ	
壺		Y373	61	N26E5	4				羽状文Aa+直線文 3(ともに見) 割目突帯文Ab	ハケ目, ナデ	
壺		Y374	61	N17E8	4				割目突帯文Aa, 羽 状文Aa(ヘラ?) + 直線文(ヘラ?)	ナデ	
壺		Y375	61	N16E7	4				突帯文Ab	ヘラミガキ, ナデ	
壺		Y376	61	N11E4	4				割目突帯文Ab	ヘラミガキ?	
壺	ⅡかⅢ	Y377	61	N17E8	5				突帯文Ab?	ハケ目, ナデ	
壺		Y378	61		4				直線文2(見), 突帯 文Ac(直線文は見)	ハケ目, ナデ, ヘラ ミガキ	
壺		Y379	61	N12E5	6				羽状文Aa(見) 突帯文Ac(見)		
壺	I	Y380	61	N14E5	4				突帯文Ac	ヘラミガキ, ハケ目, ナデ	
壺		Y381	61	N19E9	4				割目突帯文Ac, 羽 状文Aa(見)	ナデ	
壺		Y382	61	N17E8	6				割目突帯文Ac	ハケ目, ヘラミガキ	
壺	ⅡかⅢ	Y383	61						直線文3(ヘラ), 内 面に突帯文Ab		
壺		Y384	61	N27E7	4-2				割目突帯文Ac	ヘラミガキ, ナデ	
壺		Y385	61	N17E8	6				突帯文Ac上に羽状 文B(見)	ナデ, ヘラミガキ	
壺		Y386	62	N16E8	6				羽状文Aa+直線文 (2, 4, 6, 8), 突帯 文Ac(大小の割目文を 複数)	ナデ	
壺		Y387	62	N16E7	6				直線文(ヘラ), 羽 状文?(見), 突帯 文Ab		
壺		Y388	62	N18E9	4				横 売帯文Ab 縦 突帯文Aa	ヘラミガキ	
壺		Y389	62	N13E4	4				縱横の割目突帯文A	ヘラミガキ	

器種	分類	排番号	図版	出土点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
縄彌文		Y390	62	N16E7	4			実垂文Ac	ヘラミガキ、ナデ	
縄彌文		Y391	62	N11E4	4			點目実垂文Ac	ヨコナデ	
彌		Y392	62	N21E6	4			滴状穴帶文Aa		
彌	I	Y393	62	N27E7	4-2			版上に刻目文。口唇 直線文	ヘラミガキ	
彌	I	Y394	62	N27E7	4-1			版上に刻目文	ナデ?	
彌	II	Y395	62	N16E8	6			版	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
無彌文		Y396	62	N17E8	第2河通 堆積土			直線文10(ヘラ)+刻 突文	ヨコナデ、ナデ	
彌	II	Y397	62	N12E8	4			口唇刻目。直線文2 (ヘラ)間に円形刻突 文		
彌	II	Y398	62	N12E7	4			口唇羽状文B、直線 文6(ヘラ)	ナデ?	
彌	II	Y399	62	N11E4	4			口唇羽状文B、直線 文6(ヘラ)	ハケ目、ナデ	
彌	II	Y400	62	N10E7	第2河通 堆積土			口唇刻目文。直線文 3(ヘラ)	ヨコナデ、ナデ	
彌	I	Y401	62	N16E7	第2河通 堆積土			直線文(ヘラ)間に円 形刻突文	ヨコナデ、ナデ	
彌	I	Y402	62	N16E8	第2河通 堆積土			直線文(ヘラ)+段	ハケ目。ナデ?	
彌	I	Y403	62	N21E5	4			口唇刻目文。直線文 2(ヘラ)+段	ハケ目、ヨコナデ	
彌	I	Y404	62	N25E7	第2河通 堆積土			直線文1(ヘラ)+段	ハケ目。ナデ	
彌	I	Y405	62					段を2回施す。口唇 刻目文	ハケ目。ナデ	
彌	I	Y406	62	N17E8	6			直線文(ヘラ)+段	ハケ目。ナデ?	
彌	I	Y407	62	N16E8	6			口唇刻目文。直線文 4(ヘラ)+段	ハケ目。ヨコナデ、 ナデ	
彌	I	Y408	62	N16E8	6			口唇刻目文。直線文 4(ヘラ)+段	ヨコナデ。ハケ目	
彌	I	Y409	62	N21E7	4			直線文4(ヘラ)+段	ハケ目。ナデ	
彌	I	Y410	62					段+直線文1(ヘラ)	ハケ目	
彌	I	Y411	62	N27E7	4-2			段+直線文2(ヘラ)	ハケ目。ナデ	
彌		Y412	62	N19E9	4			段+斜突文+直線文 (ヘラ)	ハケ目。ナデ	
彌		Y413	62	N17E8	6			段+直線文1(ヘラ), 斜方向の直線文(ヘ ラ)間に竹管文	ハケ目。ハケ目、ヨ コナデ?	
彌	I	Y414	63	N27E7	4-1			直線文4~5(ヘラ) 間に刻突文3例	ヘラミガキ、ヨコナ デ	
彌	I	Y415	63	N17E9	4			口唇羽状文D、直線 文7~8(ヘラ)間に円形 刻突文	ヨコナデ	

器種	分類	標番号	出土地點	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要	I	Y416	63 N12E4	4			直線文3~6(へら)間に刺突文	ハケ目、ヨコナデ	
要	I	Y417	63 N16E8	5~1			口唇期日文、直線文4~5(へら)間に三角形刺突文		
要	I	Y418	63 N17E8	4			口唇期日文、直線文3(へら)間に羽状の刺突文	ヨコナデ、ナデ?	
要	I	Y419	63 N25H7 第2河道堆積土				直線文(へら)間に羽状の刺突文	ハケ目、ナデ	
要	I	Y420	63 N21E5	4			直線文(へら)間に刺突文	ハラミガキ、ヨコナデ、ハケ目	
要	I	Y421	63 N22E6	4			口唇期日文、直線文(へら)間に刺突文	ハケ目、ヨコナデ	
要	I	Y422	63 N16E8	6			口唇期羽状文Aa、直線文3(へら)間に羽状の刺突文	ハケ目、ヨコナデ、ナデ	
要	I	Y423	63 N21E5	4			口唇期日文、直線文(へら)間に刺突文	ハケ目、ヨコナデ、ナデ	
要	I	Y424	63 N16E8	5~1			口唇期日文、直線文(へら)間に刺突文		
要	I	Y425	63 N22E6	4			口唇期羽状文Aa、直線文(へら)間に竹骨文	ハケ目、ヨコナデ、ナデ	
要	I	Y426	63 N13E4	4			口唇期羽状文Aa、直線文(へら)間に刺突文	ハケ目、ヨコナデ	
要	I	Y427	63 N22E6	4			口唇期日文、直線文(へら)間に円形刺突文+直線文1(へら)	ハケ目、ヨコナデ、ナデ	
要	I	Y428	63 N19E9	4~2			直線文1(へら)+直線文(へら)間に刺突文	ハケ目、ハラミガキ、ナデ	
要	I	Y429	63 N16E8	6			口唇期日文、直線文(へら)間に円形刺突文	ハケ目、ヨコナデ	
要	I	Y430	63 N18E9	4			口唇期日文、直線文(へら)+三角形刺突文	ハケ目、ヨコナデ	
要	I	Y431	63 N12E4	4			直線文5~6(へら)+三角形刺突文	ハケ目、ナデ、ヨコナデ	
要	I	Y432	63 N27E7	4~2			直線文1~2(へら)間に竹骨文	ナデ	
要	I	Y433	63 N26E7	4			口唇期弦子文、直線文5~6(へら)+二角形刺突文		
要	I	Y434	64 N12E7	4			口唇期日文、直線文7(へら)+四形刺突文(不連続)		
要	I?	Y435	63 N16E7	第2河道堆積土			竹骨文2列		
要	I	Y436	64 N16E7	4			口唇期日文、だ円形刺突文2列		
要	T	Y437	64	4			口唇期日文、直線文(へら)に円形刺突文	ハケ目、ナデ	
要	I	Y438	64 N12E5	6			直線文11(へら)+三角形刺突文	ハケ目	
要	I	Y439	64 N18E9	第2河道堆積土			直線文(へら)間に刺突文	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	
要	I	Y440	64 N26H7	4~1			直線文5~6(へら)+三角形刺突文	ハケ目、ナデ	
要	I	Y441	64 N11E8	4			直線文4(へら)間に竹骨文	ハケ目、ヨコナデ、ナデ	

形種	分類	拂圖番号	図版ページ	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要	I	Y442	64	N13E5	第2河道堆積土			直線文(へラ)十三角形斜文、口唇面 日本文	ナデ	
要	I	Y443	64	N16E9	4			直線文(へラ)間に 三角形斜文、口唇 面日本文	ヨコナデ、ナデ	
要	I	Y444	64	N26E7	4-1			直線文(へラ)十 三角形斜文	ハケ目、ナデ	
要	I?	Y445	64	N16E8	5-1			直線文(へラ)間に円 形斜文5列		
要	I	Y446	64	N26E7	4-1			口唇直線文(へラ)十 直線文、直線文4 (へラ)上に縱方向に 直線文(へラ)	ハケ目、ナデ、ヨコ ナデ	
要	I	Y447	64	N11E4	5			渐状文B(へラ)	ナデ	
要	I	Y448	64	N18E8	第2河道 堆積土			直線文2(へラ)十 渐状斜文		
要	I	Y449	64	N17E9	6			直線文(へラ)間に 日本文十斜線文(縦書 文、へラ)	ヘラミガキ、ナデ	
要	I	Y450	64	N13E4	4			直線文(へラ)間に斜 文十斜曲文	ハケ目、ナデ	
要	I	Y451	64	N16E8	6			斜曲文十直線文2 (へラ)	ハケ目、ナデ	
要	I	Y452	64					波文文?(貝)	ヨコナデ、ナデ	松江市保管
要	I	Y453	64	N22E6	4			無輪 木葉文	ヘラミガキ、ナデ	
要	I	Y454	64	N26E7	4-2			羽状文Aa(貝)十直 線文(貝)	ハケ目、ヘラミガキ	
要	I	Y455	64	N18E9	4			重底文+区曲直線文 (いぐれも貝)		
要	I	Y456	64	N16E7	第2河道 堆積土			口唇斜格子文(へラ), 斜曲文Aa	ヨコナデ、ヘラミガ キ	
		Y457		N14E5	6			波線文(へラ)	ナデ	
		Y458	64	N17E7	5-2	器高 2.2 底径 17.4			ナデ、ヘラミガキ, ハケ目	木葉痕
要	II	Y459	65	N18E9	5-2	口径18.0 深幅40.8 底径 8.0		口唇斜格子文(へラ), 直次文(クシ5)間に 直線文10(クシ5条 を2回)	ハケ目、ヘラミガキ	
要	II,?	Y460	66	N18 E8-9		口径23.6 器高 8.4		口唇斜格文(クシ), 直次文(クシ5条 を2回)間に△角 形斜文		
要	II	Y461	66	N12E7	4	口径16.5 器高 7.0		口唇斜格子文、直線 文11(クシ5～6条を 2回)	ハケ目、ヘラミガキ, ヨコナデ	
要	II	Y462	66	N10E7	4	口径18.1		口唇斜格文、直線 文16(クシ5～6条を 3回)+△内部斜 文	ヨコナデ、ハケ目	
要	II	Y463	66	N26E7	4-1	口径12.4 器高 4.0		口唇斜格子文、直線 文5(クシ5)間に波状 文4(クシ)	ヨコナデ、ヘラミガ キ	
要	II	Y464	66	N17E7	4	器高21.8		直線文14～18(クシ 6～7条を2～3回) 十△角形斜文	ヘラミガキ、ハケ目	
要	IV	Y465	66			口径16.4 器高 6.5		直線文12(クシ)	ヨコナデ	松江市保管
要	II	Y466	67	N13E7	6	器高 8.9		直線文7(クシ)十爪 形斜文、直線文Aa	ハケ目、ヘラミガキ	
要	II,?	Y467	66	N16E7	5	口径20.8 器高23.7		口唇斜格子、内面△角 形斜文、直線文7(クシ 5～6条を2～3回) 二重 波状文(いぐれもクシ)	ハケ目、ヘラミガキ	

番号	分類	呼団号	国版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
寮	吉	Y468	67	N15E7	6	口径15.9 器高 6.5		直線文イ(クシ)	ハケ目、ヘラミガキ	
寮	吉	Y469	67	N11E4	4	口径15.6 器高 10.0		口縁直文、直線文21(クシ3条を3回) +三角形刺突文	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	
寮	吉	Y470	67	N16E8	6	口径11.8 器高 5.0		口唇直目文、直線文8(クシ4条を2回) +波状文5(クシ)		
寮	吉	Y471	67	N19~16 E7	5	口径14.8 器高 4.3		口縁直文 竹青文+直線文(クシ)		
寮	吉?	Y472	67	N12E5	4	口径10.3 器高 4.1		體状文? 4(クシ) 墨下直線文(クシ2条)	ヨコナデ、ハケ目	
寮	吉	Y473	67	N17E8	第2河道 堆土	口径17.2 器高 7.0		口唇羽状文Aa、直線文8(クシ4条を2回)	ヨコナデ、ナデ?	
寮		Y474	67	N17E9	5~1	口径16.8 器高 7.0		口縁直目文、直線文 (クシ5条を2回)+直線文(片、内角有)	ヨコナデ、ヘラミガ キ	
寮	吉	Y475	67	N10E7	4	口径11.0 器高 2.5				
寮	吉	Y476	67	N21E6		口径14.0 器高 3.9				
寮	吉	Y477	67	N17~16E9~6	4	口径15.2		口唇斜格子文、直線文10(クシ5条を2回)	ヘラミガキ、ハケ目	
寮	吉	Y478	67	N10E6	4	口径17.6 器高 9.4		口唇斜格子文、直線文12(クシ4条を3回)	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	
寮	吉?	Y479	67	N12E7	4	口径16.5 器高 7.0		直線文12~25(クシ6~8条を2~4回) 間に三角形刺突文		
寮	吉	Y480	67	N11E7	4	口径15.8 器高 5.9	頭部短く屈曲	直線文16(クシ8条 を2回)間に三角形 刺突文		
寮	吉	Y481	67	N17~18 E8	4	口径 9.4 器高 6.5		直線文3(クシ)間に 波状文3(クシ)		
寮	V	Y482	67	N15E7	6	口径16.0 器高 14.4		直線文4(クシ)	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	
寮	X	Y483	67	N11E4	4	口径16.0 器高 6.9			ハケ目、ヨコナデ	
寮	X	Y484	67	N12E7	4	口径15.2 器高 5.7	口輪肥厚		ハケ目、ヨコナデ	
寮		Y485	67	N26E7	4~1	口径14.4 器高 7.1			ヨコナデ、ナデ	
寮		Y486	68	N16E7	4	口径12.0 器高 7.7			ハケ目、ナデ?	
寮		Y487	68	N17E7	第2河道 堆土	口径17.6 器高 4.3			ハケ目、ヨコナデ	
寮	吉?	Y488	68	N18E9	5~1	口径17.6 器高 5.2	口唇肥厚	口唇直目文		
寮		Y489	68	N11E4	4	口径 8.8 器高 6.8		凹線状の直線文	ハケ目、ヨコナデ	
寮		Y490	68	N17E8	4	口径 8.6 器高 1.9		口唇内外面刺目	ハケ目、ヨコナデ	
寮	吉	Y491	68	N11E4	4	口径43.2 器高 8.7		口唇羽状文Aa、直 線文12(クシ4条を 3回)	ヨコナデ	
寮	吉	Y492	68	N12E7	4	口径15.2 器高 6.4		口唇羽状文Aa、突 唇文Aa	ヨコナデ	
寮	吉?	Y493	68	N26E7	4~1	口径15.4 器高 5.0	口輪 a		ハケ目、ヨコナデ	

器種	分類	通 国	図版 番号	出 土 地點	層位	法 墓 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
壺	匂?	Y494	68	N17E8	4	口径14.4 器高4.9	口縁d 口縁a	刻目突帯文Aa	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
壺	匂	Y495	68	N15E6		口径14.4 器高4.8	口縁a		ハケ目、ヨコナデ	
壺	匂	Y496	65	N12E6	5-2	口径10.1 器高15.7	口縁d	菊目突帯文Aa、円 形刺突文	ハケ目、ヘラミガキ、 ナゲ	
壺	X ₁	Y497	69	N17E9	4	口径21.6 器高8.4	口縁b 口縁a	口唇刻日文、突帯文 Aa		
壺	匂	Y498	68	N17E10 ノイソ E8~9	4	口径15.6 器高6.4	口縁a	刻目突帯文Aa	ヨコナデ、ハケ目	
壺	匂	Y499	68	N13E7	5-2	口径12.6 器高7.8	口縁a		ハケ目、ヨコナデ	
壺	X ₁	Y500	68			口径19.8 器高5.3	口縁a	刻目突帯文A	ヨコナデ、ハケ目	松江市保管
壺	匂	Y501	68	N27E7	4-1	口径15.0 器高5.7	口縁c		ハケ目	
壺	匂	Y502	69	N15E7	4	口径9.8 器高5.7	口縁d		ヨコナデ、ヘラミガ キ	
壺	X	Y503	68	N12E4	4	口径18.8 器高4.0	口縁c		ハケ目、ヘラミガキ	
壺	X ₁	Y504	68			口径23.2 器高7.3	口縁d	口唇斜格子文、刻H 突帯文	ハケド、ヨコナデ	
壺	匂	Y505	68	N11E4	5-1	口径10.0 器高4.3	口縁a		ハケ目	
壺	X ₁	Y506	69	N18E7		口径22.6 器高5.7	口縁d	口唇斜格子文、クシ 刺突文、刻日突帯文 Aa	ヨコナデ	
壺	X ₁	Y507	69	N10E7	5-2	口径20.0 器高6.3	口縁b	口唇斜格子文、刻日 突帯文Aa	ハケ目、ヨコナデ	
壺		Y508	68	N21E5	4	口径14.2 器高6.7	口縁a	刻目突帯文Aa	ヨコナデ、ハケ目	
壺	X ₁	Y509	69	N26E7	4-1	口径15.2 器高5.8	口縁c	口唇斜格文(クシ)、 内側斜格文(クシ)、直 線文(ともにクシ)、刻H 突帯文Aa	ハケ目、ヨコナデ	
壺	X ₁	Y510	69	不明		口径22.5 器高6.0	口縁b	口唇斜格子文		
壺	X ₁	Y511	68	N11E8	4	口径18.4 器高5.5	口縁b	口唇斜格子文、刻日 突帯文		
壺	X ₁	Y512	70	N13E5	5-1	口径23.0 器高14.8	口縁b	斜格子文(クシ)+直 線文(ともにクシ) 刻日突帯文Aa		
壺	X ₁	Y513	70			口径17.8 器高11.2	口縁d	刻日突帯文Aa、刻 突文(クシ)	ハケ目	松江市保管
壺	X ₁	Y514	71	N18E9	4		口縁b	口唇刻目文、刻日突 帯文Aa	ハケ目、ナデ、ヨコ ナデ	
壺	X ₁	Y515	71	N21E5	4	口径16.0 器高10.0	口縁d	口唇凹縫5の上に刻 日文、突帯文Aa	ヨコナデ	
壺	X ₁	Y516	72	N13E7	4	口径29.0 器高8.3	口縁e	口唇直縫文(ヘラ) 上に刻日、円形浮文		
壺	X	Y517	70	N14E5	4		口縁d	口唇斜格文(クシ)、 内側斜格文(クシ)+直 線文(ともにクシ)		
壺	X	Y518	71	N13E7	4	口径32.6 器高4.3	口縁d	口唇内圓、直縫文5 (クシ)		
壺	X ₁	Y519	70	N12E5		口径19.0 器高5.0	口縁e		ハケ目、ヨコナデ	

器種	分類	揮番号	国駿文	出土地点	地點	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
甕	X	Y520	70	N15R7	5-1	口徑25.5 器高10.1	口縁d	口唇斜格子文、突唇文Aa	ハケ目、ヨコナデ		
甕	X	Y521	71	N11R7		口徑16.0 器高4.7	口縁d	口唇羽状文Aa、刻日突唇文Aa、三角形斜格子文	ヨコナデ?		
甕	X	Y522	71	N13R7	4	口徑18.8 器高1.5	口縁b	口唇斜格子文(クシ)、円形浮文、内面斜格子文(クシ)			
甕	X	Y523	71	N13R4	4	口徑28.0 器高1.8	口縁e	口唇斜格子文(クシ)、内面斜格子文(クシ)、内面刻日突唇文Aa、内面斜格子文(クシ)	ヨコナデ		
甕	X	Y524	70	N16R7	4	口徑18.6 器高4.9	口縁d	口唇斜格子文、突唇文	ハケ目、ヘラミガキ、ヨコナデ		
甕	X	Y525	70		4	口徑21.0 器高6.1	口縁d	口唇斜格子文、刻日突唇文Aa	ヨコナデ、ヘラミガキ		
甕	X	Y526	72	N12E4	5-2	口徑24.0 器高8.0	口縁d	口唇斜格子文(クシ)、刻日突唇文Aa、内面斜格子文(クシ)	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ		
甕	X	Y527	71			口徑25.6 器高2.2	口縁e	口唇斜格子文(クシ)、内面斜格子文(クシ)	ナデ	松江市保管	
甕	X	Y528	71			口徑28.4 器高2.5	口縁e	口唇斜格子文(クシ)、内面羽状文Aa	ヨコナデ	松江市保管	
甕	X	Y529	72	N10E7	4	口徑30.6 器高3.2	口縁e	口唇斜格子文(クシ)、内面刻日突唇文	ハケ目、ナデ、ヨコナデ		
甕	X	Y530	72	N18E8	4	口徑24.5 器高2.1	口縁e	口唇直横文5(ヘラ?)	ヨコナデ		
甕	XI	Y531	72	N17E9	4	口徑8.8 器高4.2			ハケ目		
甕	XI	Y532	73			口徑29.2 器高9.6	口縁e	口唇内面斜格子文(クシ)、円形浮文、突唇文Aa		松江市保管	
甕	XI	Y533	72		4	口徑14.8 器高9.0		突唇文Aa	ヨコナデ		
甕	XI	Y534	72	N12E7	4	口徑16.4 器高5.5		口唇刻目文、刻日突唇文Aa上に墨下突唇文			
甕	XI	Y535	72	N11E7	4	口徑21.0 器高7.0		口唇斜格文、突唇文Aa	ヨコナデ		
甕	XI	Y536	72			口徑17.9 器高9.2		刻日突唇文Aa	ヨコナデ、ハケ目		
甕	X	Y537	72	N21E5	4	口徑31.2 器高2.4	口縁f	内外直斜格子文(クシ)	ヨコナデ		
甕	X	Y538	74			口徑30.4 器高12.2	口縁f(端部剥取)	口唇斜格子文(クシ)、円形浮文、刻目文	ヨコナデ	松江市保管	
甕	X	Y539	73	N13R7	5-1	口徑43.4 器高16.5	口縁f(端部剥取)	口唇斜格子文(クシ)、円形浮文、刻日突唇文Ac			
甕	XI	Y540	74	N11F5	5-2	口徑24.0 器高9.9					
甕	XI	Y541	74	N17F8	5	口徑26.0 器高8.2		口唇刻目文	ハケ目、ヨコナデ		
甕	XI	Y542	74	N12E4	4	口徑35.4 器高5.4		口唇刻目文	ヨコナデ		
甕	XI	Y543	74	N19F9	4	口徑21.9 器高7.4		口縁四線3、突唇文Aa	ヘラミガキ、ヨコナデ		
甕	XI	Y544	74	N12-13 F4		口徑28.4 器高5.6		口縁四線4、刻目文、突唇文Aa	ハケ目	松江市保管	
甕	XI	Y545	74		5	口徑15.4 器高2.6		四線文?			

器種	分類	補圖番号	図版	出土地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
壺	X	Y545	74	N10E7	4	口径29.6 器高4.1	口縁d	二重凹縁文2上に刻 目文、刻目突起文Aa		
壺	X	Y547	75	N27E7	4-1	口径23.2 器高2.0	口縁b(周凹面取)	口縁b(周凹面取)	ヨコナデ	
壺	X	Y548	74	N25E7	第2河道 堆積上	口径21.0 器高8.4	口縁d	内輪刻目文、斜路文 Aa、円溝文Bb、外 輪突起文Aa上に刻 目文	ナデ	
壺	X	Y549	74	N12E5	6	口径22.8 器高6.6	口縁b	口縁刻目文、凹縁文 3、刻目突起文Aa、 直縁文7(クシ)	ハケ目、ヨコナデ	
壺	X	Y550	74	N18E9	4	口径23.0 器高4.7	口縁d	口縁凹縁文4上に刻 目文、刻目突起文Aa	ヨコナデ	
壺	X	Y551	74	N25E8	第2河道 堆積上	器高7.3		刻目突起文Aa	ハケ目、ナデ	
壺	X	Y552	75	N27E7	4-1	器高12.5		幅状の浮文(内側刺 突)	ハケ目、ヨコナデ	
壺	X?	Y553	75	N17E7	5-1	器高12.6		刻目突起文Aa上に 直縁文、直縁文 (クシ) + 幅状文 (クシ)	ハケ目	
壺	X?	Y554	75	N18E4	第2河道 堆積上	口径28.6 器高8.1	口縁d	直状文Aa(只), 高 脚突起文Ac	ヨコナデ	
壺	X?	Y555	76	N12E7	4	口径19.6 器高5.5	口縁d	凹縁文3	ヨコナデ	
壺	X?	Y556	76	N17E8	5	口径19.8 器高13.1		刻突文	ハケ目、ナデ	
短 縦 壺		Y557	75	N18E8	5	口径8.0 器高12.7 底径5.0			ヘラミガキ	
壺	X?	Y558	76	N16E8	5-1	口径11.0 器高10.0				
壺	X?	Y559	76	N17E8	5	口径10.4 器高11.6			ヘラミガキ、ナデ	
短 縦 壺		Y560	76	N16E8	5-1	口径16.4 器高2.9	口縁粗面	直縁文4(クシ)	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	
無 縦 壺		Y561	76	N12E4	4	口径10.0 器高3.9		直縁文5(クシ)、鋸 齒文、波状文	ナデ?	
無 縦 壺		Y562	76	N16E7	4	口径10.6 器高5.4			ナデ	
直 口 壺		Y563	76			口径9.0 器高3.4		凹縁文5		
短 縦 壺		Y564	76	N13E4	4	口径13.6 器高6.5			ハケ目、ヨコナデ?	
短 縦 壺		Y565	76	N20E6	4	口径10.4 器高7.3			ハケ目、ナデ	
短 縦 壺		Y566	75	N16E7	5-2	口径11.2 器高15.0 底径5.8			ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	抹室
短 縦 壺		Y567	75	N13E7	5-2	口径6.8 器高5.7 底径4.1			ヘラミガキ、ヨコナ デ、ハケ目	
短 縦 壺		Y568	76	N12E4	4	口径8.4 器高6.1	直口気味の口縁		ヘラミガキ?	脚付蓋か
短 縦 壺		Y569	76	N15 ライン E7-8	4	口径15.6 器高3.8		直縁文12(クシ4条 を3回)	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
短 縦 壺		Y570	76	N25E7	4-1	口径14.0 器高3.8		口縁刻目文、直縁文 8(クシ)	ヨコナデ	
無 縦 壺		Y571	76	N19E9	4	口径12.2 器高3.5		直縁文1?, 凹縁刺 突文		

器種	分類	採番号	図版	出土 地點	層位	法 算 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
無縫接合		Y572	76	N18 E8~9		口径21.0 器高10.8		口唇凹縫文3、内縫文7	ハケ目	
無縫接合		Y573	76	N12E7	4	口径21.4 器高5.4				
漆	漆	Y574	77	N11E4	5	口径8.4 器高4.0		口唇底目文、刻日文 帶文Aa	ヨコナデ、ナゲ	
漆	漆	Y575	77	N26E7	4~1	口径8.4 器高9.1		刻日文帶文Aa	ハケ目、ヨコナデ	
漆	漆	Y576	77	N17E9	5~1	口径13.0 器高7.6		口唇凹縫文、内縫文5 刻日文帶文Aa 波綱文9(クシ)間に 波状文(クシ)	ヨコナデ、ハケ目	
漆	漆	Y577	77	N12E5	4	口径12.2 器高5.9		口唇凹縫文2	ヨコナデ、ナゲ、ハ ケ目	
漆	漆	Y578	77	N16E7	4	口径11.0 器高14.5		刻文文	ヨコナデ、ハケ目	
包縫接合		Y579	77	N17 E8~9	第2回遺 堆積土	口径10.6 器高8.6				
漆	漆	Y580	77	N14E5	4	口径13.7 器高5.5	口縫e	口唇凹縫?、直縫文 12(クシ)	ヨコナデ、ハケ目、 ナゲ、ケズリ	
漆	漆	Y581	77			口径11.8 器高5.9		刻日文帶文Aa		松江市保管
無縫接合		Y582	77			口径9.8 器高5.7			ハケ目、ヨコナデ	松江市保管
漆	漆	Y583	77	N17+18 E8	第2回遺 堆積土	口径11.0 器高4.6		口唇底目文	ハケ目、ヨコナデ、 ヘサミガキ	
漆	漆	Y584	77	N14E5	4	口径12.4 器高8.5		直縫文3~7(クシ) 十字状文4(クシ)	ハケ目、ヨコナデ	
漆	漆	Y585	77	N16E7	第2回遺 堆積土	口径17.8 器高7.1	口縫g	口唇凹縫文4、直縫 文5		
漆	漆?	Y586	77	N10 E7	4	口径14.8 器高5.7	口縫b	口唇凹縫文2、内縫 文7	ヨコナデ、ハケ目	
漆	漆	Y587	77	N16E8	5~1	口径20.0 器高5.3	口縫g	口唇凹縫文3、内縫 文3	ハケ目、ヨコナデ	
漆	漆	Y588	77	N18E9	5	口径14.4 器高13.5	口縫b	口唇凹縫文3、内縫 文3、刻文文	ヨコナデ、ハケ目	
漆	漆	Y589	77	N16E8	4	口径20.2 器高8.2	口縫b	口唇凹縫文2	ハケ目	
漆	漆	Y590	77	N18E9	4	口径17.6 器高3.8	口縫b	口唇凹縫文	ヨコナデ、ハケ目	
漆	漆	Y591	78	N18E8	第2回遺 堆積土	口径25.4 器高5.3	口縫g	口唇凹縫文5	ヨコナデ	
漆	漆	Y592	78	N16E8	4	口径16.2 器高5.2	口縫b	口唇凹縫文4、内縫 文1	ヨコナデ	
漆	X	Y593	78	N19E9	第2回遺 堆積土	口径28.4 器高2.3	口縫c	口唇凹縫文2	ヨコナデ	
漆	漆	Y594	78	N11E4	4	口径12.4 器高5.0	口縫b	口唇凹縫文3、刻縫 文上に凹縫文4	ヨコナデ	
無縫接合		Y595	78	N26E7	4~2	口径8.0 器高8.4 直径4.0			ハケ目、ナゲ	
無縫接合		Y596	78	N12E8	4	口径10.4 器高6.5		凹縫文5、刻文文		
無縫接合		Y597	78			口径7.2 器高6.5		直縫文2(クシ4条 を3回)	ナゲ?	

器種	分類	種別	図版番号	出土地点	地	層位	法 cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
無縫合			Y598	78	ES クイン N16-17	4	口径 7.8 器高 9.1			ヘラミガキ？ナデ？	
甕			Y599		N11E4	4	口径 15.9 器高 7.6			ヘラミガキ、ハケ目、 ナデ	
甕			Y600		N13E5	5-1	口径 16.4 器高 7.8		直線文22(クシ5~ 9条を3回) + 斜状 文(2回) + 三角形刺 突文	ナデ	
甕	I		Y601	78	N16E8	5-1	口径 21.0 器高 7.5		直線文2(平歛口付)	ナデ？	
甕	I		Y602	78	N11E4	4	口径 18.6 器高 6.5		直線文2(クシ3条 を2回)	ヨコナデ、ハケ目	
甕	I		Y603		N17E9	5-2	口径 13.0 器高 11.1 底径 6.4		口唇斜目文。直線文 6(クシ)	ヘラミガキ	
甕	I		Y604	78	N17E8	6	口径 27.6 器高 11.0	口唇面取	直線文3(クシ)	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
甕	I		Y605	78	N15E6	6	口径 25.6 器高 9.3		直線文4(クシ)	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
甕	I		Y606	78	N16 E7-8	5	口径 21.6 器高 4.6		直線文14(クシ5条 を3回)	ヨコナデ、ハケ目	
甕	I		Y607	78	N11E7	4	口径 20.0 器高 6.6		直線文7(クシ)		
甕	I		Y608	78	N11E4	4	口径 23.4 器高 8.4		直線文20(クシ5~ 6条を4回) 口唇斜目文	ハケ目、ナデ	
甕	I		Y609	79	N13E7	4	口径 24.0 器高 17.8	やや開部張る	口唇斜目文15(クシ 5条を3回)	ハケ目、ヘラミガキ	
甕	I		Y610	80	N16E8	6	口径 17.7 器高 20.8 底径 6.8		直線文8(クシ4条 を2回)	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
甕	I		Y611	79	N26E8	第2河岸 堆積土	口径 29.4 器高 9.7		直線文4(クシ)		
甕	I		Y612	79	N17E9	4	口径 30.4 器高 7.5		口唇三重斜刺突文。 直線文25(クシ5条を4 回) + 十二角形刺突文	ハケ目、ヘラミガキ	
甕	I		Y613	79	N16E8	5-2	口径 23.4 器高 21.1	口唇面取	口唇斜格子文。直線 文14(クシ5条を3回) + 三角形刺突文	ハケ目、ヘラミガキ	
甕	I		Y614	79	N16E7	4	口径 20.5 器高 11.5		口唇斜目文。直線文 10(クシ5条を5回) + 三角形刺突文	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
甕	I		Y615	79	N13E4	4	口径 21.0 器高 20.3	口唇面取	口唇斜目文。直線文 10(クシ5条を3回) + 三角形刺突文	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	
甕	I		Y616	79	N11E7	4	口径 21.8 器高 6.9	口唇面取	口唇斜目文。直線文 14(クシ5条を4回) + 十二角形刺突文2列	ハケ目、ヨコナデ	
甕	I		Y617	79	N11E4	4	口径 22.8 器高 4.6	口唇面取	口唇斜目文。直線文 8(クシ4条を2回) + 十二角形刺突文2列	ハケ目、ナデ	
甕	I		Y618	79	N18E9	4	口径 16.2 器高 8.7	脚部やや張る	口唇斜目文。直線文 15(クシ5条を3回) + 三角形刺突文2列	ヨコナデ、ナデ	
甕	I		Y619	79	N13E4	4	口径 22.0 器高 9.0	口唇面取	口唇斜格子文。直線 文16(クシ5条を6回) + 三角形刺突文	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
甕	I		Y620	80			口径 21.0 器高 7.8	口唇面取	口唇斜格子文。直線 文28(クシ5条を4回) + 波状文(クシ)	ヨコナデ、ナデ	
甕	I		Y621	80	N11E4	4	口径 24.2 器高 10.5	口唇面取	口唇斜格子文。直線 文12(クシ4条を3 回) + 波状文(クシ)		
甕	I		Y622	81	N11E8	4	口径 21.4 器高 14.2		直線文8(クシ4条 を2回) + 枝状文3 (クシ)	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
甕	I		Y623	80	N19E9		口径 26.4 器高 10.3		二角形刺突文	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	

器種	分類	標図番号	図版ページ	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
甕	I	Y624	80			口径13.8 器高10.8			ハケ目	松江市保管
甕	I	Y625	80	N26E7	第2河邊 堆積土	口径27.0 器高9.0			ナデ	鉢か?
甕	I	Y626	80	N16E7	6	口径36.2 器高9.6	口唇面取	口唇刻目文	ハケ目、ナデ	
甕	II	Y627	80	N13E5	5-2	口径20.8 器高26.2 底径7.0			ハケ目、ナデ、ヨコナデ	
甕	I	Y628	81	N16E8	4	口径21.8 器高16.3		口唇刻目文	ハケ目、ヘラミガキ、 ヨコナデ	
甕	I	Y629	81	N16E7	5-2	口径17.6 器高19.4		口唇刻目文	ハケ目、ナデ?	
甕	I	Y630	81	N21E5	4	口径18.1 器高15.9 底径7.2			ハケ目、ヘラミガキ、 ヨコナデ?	鉢か?
甕	I	Y631	83	N21E5	4	口径25.8 器高15.1			ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
甕	I	Y632	83	N10E6	4	口径9.8 器高4.9	口唇面取	口唇刻目文	ハケ目、ナデ?	
甕	I	Y633	81	N14E6	5-2	口径17.6 器高14.3 底径5.0			ハケ目、ヨコナデ、 ヘラミガキ	
甕	II	Y634	81	N27E7	4-1	器高17.0 底径2.8			ハケ目、ヘラミガキ、 ナデ	
甕	I	Y635	82	N21E5	6	口径20.8 器高18.8 底径6.2			ハケ目、ヨコナデ	鉢?
甕	III?	Y636	83	N16E8	4	口径22.4 器高8.6	口唇面取		ハケ目	
甕	I	Y637	82	N12E4	5-2	口径10.9 器高9.3 底径5.0			ハケ目、ナデ	全体にいびつ
甕	I	Y638	83	N25E7	第2河邊 堆積土	口径13.4 器高7.5			ハケ目、ヨコナデ	
甕	I	Y639	83	N18E9	5	口径9.6 器高9.8				
甕	I	Y640	82	N21E5	4	口径9.8 器高7.8 底径4.1			ハケ目、ナデ	
甕	I	Y641	82	N10E7	4	口径10.8 器高9.3 底径4.5			ハケ目、ヘラミガキ、 ケズリ?	全体にいびつ
甕	I	Y642	82	N19E9	6	口径15.0 器高12.2 底径6.0			ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	鉢?
甕	I	Y643		N13E5	4	口径8.5 器高7.0 底径4.6			ハケ目、ナデ	全体にいびつ
甕	II	Y644	83	N13E4		口径29.0 器高6.3		口唇刻目文、直線文 18(クシ5~7条3 回)+三角形刻突文		
甕	II	Y645	83	N18E9	5	口径17.1 器高3.5		口唇刻目文、直線文 5(クシ)	ヨコナデ	
甕	I	Y646	83			口径20.6 器高3.8		直線文9?(クシ)		松江市保管
甕	I	Y647	83	N19E9	4	口径18.6 器高9.3		直線文19(クシ6~ 7条を3回)+三 角形刻突文	ハケ目、ヘラミガキ	
甕	II	Y648		N19E9	4	口径15.4 器高5.8		直線文8(クシ)+三 角形刻突文	ナデ	
甕	I	Y649		N26E7	4-1	口径16.2 器高13.9			ハケ目、ヨコナデ	

形態	分類	押岡 番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
要	II	Y650		N18E8	4	口径17.1 器高3.5			ハケ目、ヘラミガキ	
要	II	Y651	83	N26E7	4-1	口径22.8 器高6.3			ハケ目、ナデ	跡?
要	I	Y652	83	N13E4		口径29.6 器高7.5				
要	II	Y653	83			口径18.0 器高9.5	口唇刻三文	ハケ目		
要	I?	Y654	83	N27E7		口径28.6 器高7.1			ハケ目、ヘラミガキ、 ヨコヅナ	跡?
要	II?	Y655	83	N12E4	4	口径23.4 器高6.3	夷日文Aa	ハケ目、ヘラミガキ		
要	II?	Y656	83	N17E4	4	口径31.9 器高7.9		夷日夷西文Aa	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	跡?
要	II	Y657	83	N15E6	4	口径21.6 器高5.0	口唇刻三文	ハケ目、ナデ?		
要	I?	Y658	83			口径21.6 器高1.8	口縁かまぼこ形の断 面形			
要	II	Y659	84	N18E9	4	口径34.4 器高15.9		夷日夷番文Aa、円 形刻文	ハケ目、ナデ、ヨコ ヅナ	
要	II	Y660	84	N10E6	4	口径18.8 器高12.8	口縁18.8 に近い口縁		ハケ目、ヘラミガキ、 ナデ	
要	II	Y661	84	N16E7	4	口径29.0 器高5.8		夷日夷番文Aa	ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
要	II	Y662	84	N27E7	4-1	口径18.8 器高16.2	口縁a	刺突文	ヨコナデ、ハケ目、 ヘラミガキ	
要	II	Y663	84	N17E6	5	口径24.0 器高12.3	口縁a		ハケ目	
要	II	Y664	84	N14E6	5-2	口径17.8 器高13.5	口縁a	刺突文	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ、ヘラミガキ	
要	II	Y665	84			口径18.4 器高3.8	口縁a			松江市保管
要	II	Y666	84	N19E8	第2河道 堆積土	口径11.2 器高6.1	口縁c	口唇刻目文	ハケ目	
要	II	Y667	84	N16-17 E8	第2河道 堆積土	口径18.2 器高5.8	口縁c		ハケ目、ヨコナデ	
要	II	Y668	84			口径18.6 器高7.8	口縁c			松江市保管
要	II	Y669	84			口径16.8 器高5.6	口縁a		ハケ目	松江市保管
要	II	Y670	87	N11E4	5-2	口径16.8 器高5.6	口縁a	刺突文(クシ)	ハケ目、ヨコナデ	
要	II	Y671	84	N15E7	5-1	口径20.2 器高11.2	口縁c	口唇刻目文、刺突文 (クシ)	ハケ目、ヨコナデ	
要	II	Y672	85	N11E5	5-2	口径17.8 器高6.8	口縁a	口唇刻目文	ヨコナデ、ハケ目	
要	II	Y673	85	N13E4	4	口径25.8 器高3.1	口縁a	刺突番文Aa	ハケ目、ナデ	
要	II	Y674	85	N17E8	5	口径24.4 器高9.6	口縁a	刺突文(クシ)	ヨコナデ、ハケ目	
要	II	Y675	85	N14E6	5-2	口径22.0 器高8.3	口縁c	口唇内縁(?)七に筋 目文	ハケ目、ヨコナデ	

器種	分類	擇岡 番号	國版 番号	出上 地點	層位	法 長 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
甕	Ⅲ.	Y676	85	N14E5	4	口径22.0 器高 6.7	口縁b	口縁四輪文3		
甕	Ⅲ.	Y677	85	N15-16 R7~8	5	口径19.1 器高 9.3	口縁c	口縁四輪文3 上に刻 日文、刻文(真?)	ハケ目、ヨコナデ	
甕	Ⅲ.	Y678	85	N12E4	5-1	口径20.0 器高 6.1	口縁c	口縁四輪文3	ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	Ⅲ.	Y679	85			口径24.8 器高 7.8	口縁c	口縁四輪文3、刻日 突帯文Aa	ハケ目、ナデ	
甕	Ⅲ.	Y680	85			口径26.2 器高 6.0	口縁c	刻日突帯文Aa、口縁 四輪文2	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
甕	Ⅲ.	Y681	85	N19E9	4	口径23.0 器高 5.8	口縁b	口縁丸日文、刻日突 帯文Aa	ハケ目、ヨコナデ	
甕	Ⅲ.	Y682	85			口径22.6 器高 4.8	口縁c	口縁四輪文2、刻日 突帯文Aa	ヨコナデ	松江市保管
甕	Ⅲ.	Y683	85			口径17.4 器高 7.4	口縁c		ハケ目	松江市保管
甕	Ⅲ.	Y684	85	N20E5	4	口径25.0 器高 10.9	口縁c	口縁四輪文3	ハケ目、ヨコナデ	
甕	Ⅲ.	Y685	85			口径19.8 器高 6.4	口縁c	口縁四輪文、刻日突 帯文Aa	ナデ	
甕	Ⅲ.	Y686	85			口径23.8 器高 1.8	口縁b	口縁四輪文2、刻日 突帯文Aa	ナデ	松江市保管
甕	Ⅳ.	Y687	85	N10E6	4	口径13.6 器高 10.0	口縁a		叩き、ヨコナデ、ハ ケ目、ナデ	後期?
甕	Ⅲ.	Y688	86			口径13.0 器高 7.0	口縁c			松江市保管
甕	Ⅲ.	Y689	86	N18E8	第2回流 埴燒土	口径17.0 器高 8.8	口縁c		ヨコナデ、ハケ目、 ヘラミガキ	
甕	Ⅲ.	Y690	86	N10E7	第2回流 埴燒土	口径18.0 器高 9.1	口縁c	口縁刺目文、刻日突 帯文Aa	ハケ目、ヨコナデ	
甕	Ⅲ.	Y691	86	N15E7	5-2	口径19.8 器高 5.7	口縁c	口縁刺目文、刻日突 帯文Aa、不整形の 刺突文	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
甕	Ⅲ.	Y692	86	N12E8		口径12.0 器高 5.3	口縁a	三角形刺突文	ハケ目	
甕	Ⅲ.	Y693	86	N14E5		口径16.6 器高 4.9	口縁b		ハケ目、ヨコナデ	
甕	Ⅲ.	Y694	86	N13E7	5-2	口径18.0 器高 4.0	口縁d		ヨコナデ、ヘラミガ キ	
甕	Ⅲ.	Y695	86			口径16.0 器高 8.2	口縁a			松江市保管
甕	Ⅲ.	Y696	86	N13E7	第2回流 埴燒土上	口径18.8 器高 5.0	口縁c	口縁羽状文Aa、刻 日突帯文Aa	ハケ目、ヨコナデ	
甕	Ⅲ.	Y697	86	N11E4	4	口径17.5 器高 9.5	口縁b	口縁羽格子文、刻日 突帯文Aa	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
甕	Ⅲ.	Y698	86	N16E7	4	口径23.0 器高 5.9	口縁g	口縁四輪文3	ヨコナデ	
甕	Ⅲ.	Y699	86	N12E4	5-1	口径18.4 器高 7.5	口縁g	口縁四輪文3	ヨコナデ、ハケ目、 ナデ	
甕	Ⅲ.	Y700	86			口径18.6 器高 11.5	口縁g	口縁四輪文5	ハケ目、ヨコナデ	松江市保管
甕	Ⅲ.?	Y701	86			口径20.2 器高 3.7	口縁g	口縁四輪文4、突帯 文?	ヨコナデ	松江市保管

器種	分類	捕獲番号	図版	出土地点	土	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
甕	Ⅲ	Y702	86	N17-18 E8			口径21.8 器高 4.7	口縁g	口縁凹輪文3、刺突文	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	
甕	Ⅲ	Y703	86	N11E6	4		口径23.2 器高 6.2	口縁g	口縁凹輪文3上に刺突文、文帝文Aa	ハケ目、ヨコナデ	
甕	Ⅲ	Y704	87	N14E5			口径12.6	口縁g	口縁凹輪文3上に刺突文	ヨコナデ、ハケ目	
甕	Ⅲ	Y705	87	N17E8	4		口径22.8 器高 13.7	口縁g	口縁凹輪文3朱	ハケ目、ヨコナデ、ケズリ	
甕	Ⅲ	Y706	86	不明			口径12.0 器高 8.4	口縁h	口縁凹輪文3、刺突文(真)	ハケ目、ヨコナデ、ケズリ	
甕	Ⅲ	Y707	87	N19E9	5-1		口径13.8 器高 4.8	口縁d			
甕	Ⅲ	Y708	87	N22E5	4		口径11.6 器高 5.2	口縁g	口縁凹輪文3、刺突文(クシ)	ハケ目、ヨコナデ、ケズリ	
鉢	I	Y709	87	N20E5	4		口径10.7 器高 9.2 底径 5.5		口縁斜格子文、直線文4(クシ)	ヘラミガキ、ヨコナデ	
鉢	I	Y710	88	N17E8	6		口径30.0 器高13.0			ハケ目、ヘラミガキ	
鉢	I	Y711	87	N21E6	4		口径19.6 器高 7.7			ハケ目、ナデ	
鉢	I	Y712	88	N26E7	4-2		口径12.9 器高14.7 底径 6.8			ナデ	
鉢	I	Y713	88	N20E5	4		口径32.6 器高 8.8			ハケ目、ヨコナデ	
鉢	I	Y714	87	N17E8	4		口径20.6 器高15.4 底径 8.2	脚付	三角形刺突文2例	ハケ目、ヘラミガキ	
鉢	I	Y715	89	N22E6	5		口径14.2 器高12.0 底径 6.8			ハケ目	
鉢	I	Y716	87	N21E5	6		口径13.0 器高 9.0 底径 6.6			ハケ目	
鉢	I	Y717		N16E8	6		口径19.6 器高 5.2	口縁面取		ハケ目、ヨコナデ	
鉢	I	Y718	87	N21E5	4		口径12.6 器高 8.0 底径 7.3			ヘラミガキ、ナデ	全体にいびつ
鉢	IV	Y719	88	N16E7	5-2		口径24.0 器高 4.9			ハケ目、ヘラミガキ、ヨコナデ	
鉢	I	Y720	88	N22E6	4		器高14.5 底径 6.6			ヘラミガキ	
鉢	III	Y721	88	N26E7	4-2		口径16.0 器高 6.7			ハケ目、ナデ	
鉢	I	Y722	89	N12E5	5-2		口径19.2 器高16.0 底径 6.6			ハケ目、ヘラミガキ	
鉢	I	Y723	91	N16E8	6		口径11.2 器高 6.9 底径 6.9			ハケ目、ヨコナデ	
鉢	IV	Y724	89	N18E9	4		口径 9.8 器高 9.2 底径 5.0			ナデ、ヘラミガキ	
鉢	III	Y725	88	N17E9	4		口径19.6 器高 9.3			ハケ目	
鉢	III	Y726	88	N16E8	5-1		口径13.2 器高 3.0	四輪文5	ナデ		
鉢	III	Y727	88				口径20.2 器高 8.5	刺突文Aa	ナデ?		

器種	分類	拂図番号	図版 ページ	出土 地點	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
鉢	Ⅲ	Y728	88	N26E7	4-1	口径22.6 器高 5.4		刻目突帯文Aa	ヨコナデ、ハケ目	
鉢	Ⅲ	Y729	88	N18E8	第2回通 堆積土	口径24.2 器高 5.2		刻目突帯文A c		
鉢	Ⅲ	Y730	88	N11E7	5-1	口径14.0 器高 6.2		突帯文Aa	ナデ?	
鉢	Ⅲ	Y731	88	N20E5	4	口径15.0 器高 7.1			ハケ目、ヘラミガキ	
鉢	Ⅲ	Y732	88	N18E9	4	口径19.4 器高 3.4		凹線文3条	ヨコナゲ	
鉢?		Y733	89	N13E4	4	口径19.8 器高 4.1	口縁凸出	刻目突帯文Aa	ヨコナデ	
鉢	Ⅲ	Y734	89	N11E4	4	口径12.0 器高 3.3		凸縁三角形刺突文、 凹線文8(クシ4条 を除く) + 二角形刺 突文		
鉢	Ⅲ	Y735	89	N15E7	5-1	口径12.6 器高 4.2		刺突文	ハケ目、ヨコナデ	
鉢	Ⅲ	Y736	89	N13E5	4	口径12.6 器高 5.0		凹線文4、刺突文		
鉢	Ⅲ	Y737	89	N17E8		口径 8.2 器高 6.7		刻目文、凹線文7	ヘラミガキ、ナデ?	
鉢	V	Y738	89	N14E5	5-2	口径14.6 器高 6.1	口縁c		ヨコナデ、ヘラミガ キ	
鉢	V	Y739	89	N12E7	4	口径13.4 器高 7.2	口縁c		ハケ目、ナデ、ヨコ ナゲ	
鉢	Ⅲ	Y740	89	N16E8	4	口径20.4 器高 6.5		口縁凹線文2、凹線 文5		
鉢	Ⅲ	Y741	89	N16E7	第2回通 堆積土	口径28.0 器高 7.0		口縁刺突文(クシ)、凹 線文8、凹線文7のト トに施下突帯文+刺突 文(クシ)、凸縁付文	ヨコナゲ	
鉢	Ⅲ	Y742	89			口径19.4 器高 6.7		波状文、刻目突帯文	Aa	
鉢	Ⅲ	Y743	89	N11E4	4	口径28.4 器高 2.8		口縁凹線文、凹線文 4		
鉢	Ⅲ	Y744	89	N13E5	4	口径23.0 器高 5.8		凸縁凹線文、突帯 文Aa上に施下突帯 文	ナデ?	
鉢	Ⅲ	Y745	89	N13E7	5	口径23.0 器高18.7 直径 9.8		刻目突帯文Aa、刺 突文(クシ)	ハケ目、ヘラミガキ、 ヨコナゲ	
鉢	Ⅲ	Y746	90	N11E4	4	口径19.8 器高 7.6		刻目突帯文Aa	ハケ目	
高 环	I	Y747	90	N10E6	4	口径22.3 器高 3.8		口縁刻目文	ヘラミガキ?	
高 环	I	Y748	89	N12E5	5-2	口径13.7 器高11.4 直径 7.9			ヘラミガキ、ハケ目、 ナデ	
高 环	I	Y749	90	N17E9	4	口径27.3 器高 6.2			ヘラミガキ	
高 环	I	Y750	90	N12E4	4	口径23.0 器高 1.6	口縁内面に突帯		ヨコナゲ	
高 环	I	Y751	91	N13E7	6	口径19.6 器高17.7 直径 12.6			ヘラミガキ	
高 环	I	Y752	90	N19E9	4	口径22.2 器高 9.8			ハケ目、ヨコナゲ	
高 环	Ⅲ	Y753	90	N16E7	4	口径31.0 器高 5.5		口縁刻目文後直線文、 凸縁浮文		

器種	分類	採集番号	国版ページ	出土点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
高环	I	Y754	90	N14E5	4	口径31.0 器高1.8		内側縦文2の上に 刻目文、円形浮文、 斜格子文	ヨコナデ	
高环	II	Y755	90	N12E5	4	口径25.0 器高6.0		内側目文、斜格子 文(タシ)	ハケ目、ナデ	
高环	II	Y756	90	N18E9	8	口径32.0 器高6.3				
高环	II	Y757	90	N17E9	4	口径29.2 器高1.8			ヘラミガキ、ヨコナ デ	
高环	II	Y758	90			口径26.4 器高4.4		口唇刻目文		松江市保管
高环	III	Y759	90	N11E7	4	口径22.8 器高4.8		内縦文3	ヘラミガキ	
高环	III	Y760	90	N17E7	第2回通 地盤土	口径19.0 器高2.8		口縁凹線文2		
高环	III	Y761	90	N16E7	4	口径17.4 器高3.8		内唇凹線文2、凹線 文4	ヨコナデ、ハケ目	
高环	III	Y762	90	N16E7	第2回通 地盤土	口径21.8 器高3.0	口縁の片曲線やか	口縁凹線2、凹線5	ヨコナデ	
高环	III	Y763	90	N25E9	第2回通 地盤土上	口径23.6 器高3.4	口縁削食無い	直線文6(ヘラ)	ヘラミガキ	
高环	IV	Y764	90	N13E6	4	口径21.2 器高4.8			ヘラミガキ、ナデ	
高环	IV	Y765	90	N16E6	4	口径13.8 器高2.7				
高环	IV	Y766	90	N15E6	4	口径19.6 器高3.0		口唇刻目文、凹線文 3	ヘラミガキ?	
高环		Y767	92	N19E9	4	器高15.2 直径14.6			ヨコナデ	
高环		Y768	90	N25E7	第2回通 地盤土	器高6.3 直径14.2				
高环		Y769	91	N21E5	4	器高11.0 直径15.4			ヘラミガキ、ハケ目	
高环		Y770	91	N19E9	第2回通 地盤土	器高7.2 直径17.2	端部肥厚		ハケ目、ヨコナデ	
高环		Y771	92	N26E7	4-1	器高13.5 直径15.4			ヘラミガキ?	
高环		Y772	92	N11E7	4	器高10.1 直径13.0	端部肥厚		ヘラミガキ、ハケ目、 ヨコナデ	
不規		Y773	N11E4	4	器高7.8	脚底太い	刻目突唇△▲	ハケ目、ナデ		
不規		Y774	91	N18E7	4	器高6.1 直径7.4	塊部平坦。加脚	刻目突唇文、刻目文	ヘラミガキ、ヨコナ デ	
不規		Y775	92	N10E8	4	器高11.2 直径11.0			ヘラミガキ、ナデ	
高环		Y776	91	N12E5	4	器高6.1 直径10.0		凹線文7、三角形透 孔		
高环		Y777	91	N12E4	4	器高5.0 直径12.0		板曲文(ヘラ)+直線 文3(ヘラ)	ケズリ	
高环		Y778	91	N16E8	4	器高7.2 直径19.6	端部肥厚	凹線文3、三角形透 孔、端部凹線文	ヨコナデ	
高环		Y779	92	N13E6	5-1	器高13.6 直径11.1	端部肥厚	直線文4-5(タシ)、 垂下文6(タシ)	ヘラミガキ、ケズリ 端部凹線文2	

器種	分類	捲番号	図版 ページ	出土地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
高环?		Y780	91	N12E5	第2河道 堆積土	器高 2.3 底径 10.6	腹部肥厚	回線文 5	ヨコナデ、ケズリ	
高环?		Y781	91	N14E5	4	器高 2.1 底径 14.0	腹部肥厚	直線文 5(へラ)	ヨコナデ	
高环?		Y782	91	N26E7	4-1	器高 5.5 底径 11.0	腹部肥厚	直線文 13(へラ)	ヨコナデ、ケズリ	
高环?		Y783	91	N26E7	4-1	器高 4.3 底径 13.1		回線文 3	ケズリ	
高环?		Y784	92	N16E7	第2河道 堆積土	器高 7.7 底径 12.0			ヘラミガキ、ケズリ	
高环?		Y785	91	N17E8	第2河道 堆積土	器高 5.2 底径 11.2		三角透孔		
高环?		Y786	91	N11E8	4	器高 3.8 底径 12.2		円形透孔	ヨコナデ	
高环?		Y787	91			口径 10.4 器高 3.7 天井径 1.6				
高环?		Y788	92	N12E4	5-1	口径 8.3 器高 3.7 天井径 1.4		段状の突唇文	ハケ目、ナデ	
高环?		Y789	92	N18E9	4	口径 8.6 器高 3.0 天井径 2.4	柱状のつまみ	船形文(クシ)	ヘラミガキ	
高环?		Y790	91	N10E6	4	口径 3.5 底径 8.0				
高环?		Y791	92	N11E7	4	器高 3.8 底径 8.8	腹部肥厚	腹部直線文 3(へラ)		
高环?		Y792	92	N16E8	4-2	器高 5.9 底径 8.7	腹部肥厚	腹部回線文	ヘラミガキ、ナデ、 ヨコナデ	
上コップ 横縫目		Y793	91	N11E4	4	口径 7.4 器高 6.8 底径 2.8			ヘラミガキ、ナデ	
上コップ 横縫目		Y794	92	N26E7	4-1	口径 8.4 器高 7.5 底径 4.1			ハケ目	凹凸彫著
上コップ 横縫目		Y795	92	N16E8	4	口径 8.6 器高 6.1 底径 3.3			ヘラミガキ	
上コップ 横縫目		Y796	92	N21E6	4	口径 8.9 器高 8.3 底径 4.2	口縁開く		ナデ	凹凸彫著
上コップ 横縫目		Y797	92	N17E8	5	口径 8.0 器高 8.6 底径 4.7			指押圧	凹凸彫著
上コップ 横縫目		Y798	E8 91	ライアン N17~18	5	口径 12.6 器高 14.1 底径 6.8	口縁や内肉		ハケ目、強いナデ	
上コップ 横縫目		Y799	91			口径 8.0 器高 2.4	二縁逆「L」字形	回線文、三角形削突文		松江市保管
上コップ 横縫目		Y800	93	N27E7	4-1	器高 12.5 底径 6.0			ヘラミガキ、ハケ目	
上コップ 横縫目		Y801				器高 4.8 底径 5.0			ヘラミガキ?	底部穿孔
上コップ 横縫目		Y802		N12E5	4	器高 3.2 底径 4.3			ハケ目、ナデ	ミニチュアか
上コップ 横縫目		Y803		N16E8	第2河道 堆積土	器高 4.7 底径 7.4			ヘラミガキ	底部穿孔
上コップ 横縫目		Y804	93	N16E7	4	器高 6.4 底径 5.6			ヘラミガキ、ハケ目、 ナデ	
上コップ 横縫目		Y805	93	N18E9	4	器高 6.8 底径 6.8			ヘラミガキ?	底部穿孔

器種	分類	番号	図版 ページ	出土点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
甕?		Y806	93	N17E8	4	器高17.0 底径7.8			ヘラミガキ	
甕		Y807		N26E7	6	器高6.8 底径4.8			ヘラミガキ	
		Y808		N13E5	4	器高6.6 底径6.6			ヘラミガキ?	底部穿孔
		Y809	93	N15E6	4	器高10.6 底径7.5			ハケ目、ヘラミガキ	底部削脱
甕?		Y810		N24E7	第2河遺 堆積土	器高5.2 底径5.4			ハケ目、ナデ	
		Y811	93	N11E7	4	器高6.5 底径5.8	高台状の底部			
		Y812	93	N16	第2河遺 堆積土	器高5.1 底径6.1	高台状の底部		ヘラミガキ、ヨコナ ギ	
瓶		Y813		N20 ~22 15~6	4	器高2.2 底脚付				
		Y814		N25E7	4~1	器高3.0 底径4.6	高台状の底部			
		Y815	93	N5E6	4	器高9.2 底径8.4	高台状の底部		ハケ目、ナデ	
		Y816	93			器高6.3 底径5.7	底部厚い		ヘラミガキ、ナデ	
甕?		Y817		N19E9	第2河遺 堆積土上	器高3.6 底径7.8	凹み底		ヘラミガキ	
瓶?		Y818		N17E8	5	器高9.0 底径13.7	底径大きい			
吸管 + 把手		Y819		N15E7		器高3.3 底径10.6			ヘラミガキ	
		Y820	93	N22E5	4	器高8.9 底径6.2			ハケ目、ヨコナギ	
		Y821	93	N12E7	5~2	器高16.0 底径4.8			ヘラミガキ、ヨコナ ギ	
甕?		Y822		N12E5	4	器高3.5 底径4.8			ハケ目、ナデ、ヘラ ミガキ、ケズリ	
甕?		Y823	93	N12E5	第2河遺 堆積土					
甕?		Y824	93	N16E8	4	器高13.8 底径10.4			ハケ目、ヘラミガキ	
甕 I?		Y825	94	N16E8	4		直線文6~8(クジ 4条を2回)間に波 状文、円形浮文		ハケ目	
甕 I		Y826	94	N16E7	5~1		直線文9(クジ5角 を2回)間に円形浮 文3列			
甕 X		Y827	94	N19E9		II線b	内面斜格子文(クジ), 内面直横文+直横文+ 波状文(イザレモクシ), 亂状文(ヨロイヌタテ)		ヨコナギ	
甕 X		Y828		N15E6	4	II線b	内面斜格子文(クジ), 内面直横文A+周辺 にクジ		ヨコナギ	
甕 I		Y829	94	N25E7	第2河遺 堆積土	II線b	内面斜格子文(直横 文+斜横文(イザレ モクシ), 斜横文(ヨ ロイヌタテ))		ハケ目	
		Y830	94	N26E7	第2河遺 堆積土		内面斜格子文, 間に 波状文(ともにクジ), 割目交密文Aa			
		Y831	94	N11E4	4		直線文2(ヘリ)上に 円形浮文列+斜横文 (員)		ヨコナギ	

番号	分類	所蔵番号	国版 出上 点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
		Y832	94 N13E4	4			円形浮文列+斜線文, 文序文Aa		
並		Y833	94 N10E7	第2河遺 堆積土			圓線文5間に斜度文 +斜文文+斜線文	ナデ	
		Y834	94 N11E4	4			溝文? (クシ)	ケズリ?	
要?	II?	Y835	94 N12E5	4					
要	I	Y836	94 N16E7	5-1			口唇刻目文、直線文 5 (クシ)		
要	I	Y837	94 N17E8	4			口唇刻目文、直線文 5 (クシ)		
要	I	Y838	94 N22E5	4					
要		Y839	94 N17E9	第2河遺 堆積土			直線文9 (クシ5条 1単位)+三角形刺 突文	ナデ	
要	I	Y840	94 N26E7	4-1			直線文9 (クシ5条 1単位)+三角形刺 突文	ハケ目、ナデ	
要	I	Y841	94 N16E7	第2河遺 堆積土			直線文12 (クシ4条 を3回)	ハケ目	
要	II	Y842	94 N11E7	4			口唇刻目文、円形刺 突文+直線文9 (ク シ)	ヨコナデ	
要	II	Y843	94 N18E9				口唇刻目文、直線文 9 (クシ3条を3回?)	ナデ	
要	I	Y844	94 N17E9	4			口唇刻目文、直線文 13 (クシ4~5条を 3回)	ヨコナデ	
要	I	Y845	94				口唇刻目文、直線文 8 (クシ)間に波状文 (クシ8)	ハケ目、ナデ	
要	I	Y846	95 N17E9	4			口唇刻目文、直線文 24 (クシ6条を4回) +波状文(クシ)	ヨコナデ、ナデ	
要	I	Y847	95 N12E5	6			直線文19 (クシ6~ 7条を3回)+波状 文(クシ5条)	ヨコナデ	
要	I	Y848	95 N17E8	4			直線文24 (クシ5 条を3回)+波状文 (クシ)	ハケ目、ナデ	
要?		Y849	95 N16E8	5-1			斜目尖突文Aa、刺 突文(クシ)	ハケ目、ナデ	
要?		Y850	95 N22E8	4				叩き、ハケ目	後期か?
要	IV	Y851	95			口縁b	口縁凹線文2、凹線 文3+斜突文	ヨコナデ、ケズリ	
要	III	Y852	95 N12E5	4	口径13.8 器高 5.5	口縁h	口縁凹線文3	ヨコナデ、ケズリ	
要	III	Y853	95 N11E7	4	口径21.0 器高 7.2	口縁b	口縁凹線文2	ハケ目、ケズリ	
要	III	Y854	95 N14E6	4	口径23.0 器高 7.9	口縁b	口縁凹線文3、凹線 文3	ヨコナデ、ケズリ	
要	IV	Y855	95 N16E7	4	口径14.2 器高 5.5	口縁b	口縁凹線文4、凹線 文3	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	III	Y856	95 N18E8	第2河遺 堆積土	口径16.4 器高 5.7	口縁b		ハケ目、ヨコナデ、 ハケ目、口縁下端は 貼付け	
要	IV?	Y857	95 N12E4	4	口径14.4 器高 2.5	口縁c	口縁凹線文3、刺突 文		

器種	分類	排図番号	国版ページ	出土点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
甕	III?	Y858	95	N13E6	4	口径18.8 器高3.7	口縁b	口縁四線文4	ヨコナデ、ケズリ	
甕	III?	Y859	96	N11E4	5	口径15.2 器高7.1	口縁b	口縁四線文3	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	?	Y860	95	N14E6	4	口径14.6 器高3.8	口縁i	口縁直線文6(貝?)	ヨコナデ	
甕	?	Y861	95	N10E7	4	口径16.6 器高5.8	口縁i	口縁四線文3		
甕	?	Y862	95	N10E7	4	口径14.2 器高5.6	口縁g	口縁直線文3(ヘウ)、 波状文(クシ)	ヨコナデ、ハケ毛、 ヘラミガキ、ケズリ	
甕	?	Y863	95	N12E4	5-1	口径13.7 器高5.3	口縁i	口縁四線文3	ヨコナデ、ケズリ	
甕	III?	Y864	95	N26E8 第2河濱 堆積土		口径14.4 器高5.8	口縁a		ヨコナデ	
甕	?	Y865	95	N14E5	4	口径20.0 器高3.8	口縁i	直線文10(貝?)	ヘラミガキ?, ヨコ ナデ	
甕	?	Y866	96	N13E7	4	口径23.0 器高8.6	口縁i	直線文6(クシ)	ヨコナデ、ケズリ	
甕	?	Y867	95	N19E9 第2河濱 堆積土		口径25.0 器高6.8	口縁h	直線文11(クシ?兼 多3回?)上に直下 変形文	ヨコナデ	
甕	?	Y868	95			口径25.0 器高6.8	口縁j			
甕	?	Y869	95	N10E7	4	口径14.4 器高6.8	口縁直攻		ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	?	Y870	96	N10E7	4	口径10.6 器高8.5	口縁a	口縁四線文、直線文 6(クシ)	ヘラミガキ?, ケズ リ	
甕	?	Y871	96	N16E7	4	口径16.4 器高6.4	口縁直口	同線文	ヨコナデ、ケズリ	
甕	III	Y872	96	N26E8 第2河濱 堆積土		口径25.0 器高5.3	口縁c	口縁凹線文2	ナデ、ケズリ	
甕	III	Y873	96	N12E8	5	口径18.2 器高5.6	口縁g	口縁凹線文3、直線 文5(クシ)	ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	III	Y874	96	N15E7	4	口径18.8 器高5.3	口縁b	口縁凹線文2	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	III	Y875	96	N12E4	4	口径17.0 器高7.8	口縁b	口縁凹線文2、刺突 文	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II	Y876	96	N14E7 第2河濱 堆積土		口径19.4 器高5.8	口縁b	口縁凹線文3	ケズリ	
甕	II	Y877	96	N25E7 第2河濱 堆積土		口径18.0 器高3.5	口縁c	口縁直線文3(クシ?)	ハケ目、ナデ、ケズ リ	
甕	II	Y878	96	N26E8		口径15.0 器高3.0	口縁b	口縁凹線文2	ヨコナデ、ケズリ	
甕	II	Y879	96	N11E7	4	口径26.6 器高7.0	口縁g	口縁凹線文2	ヨコナデ、ケズリ	
甕	II	Y880	97	N16E7	4	口径28.4 器高13.5	口縁g	口縁直線文3、内外 面波状文(ヘラ)、刺 突文	ヨコナデ、ケズリ	
甕	II	Y881	97	N18E9 第2河濱 堆積土		口径18.2 器高4.1	口縁a		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	IV	Y882	97	N24E7 第2河濱 堆積土		口径17.0 器高8.4	單輪口縁		叩き、ハケ目、ヨコ ナデ、ケズリ	
甕	IV	Y883	97	N12E8	4	口径15.3 器高2.7	單輪口縁		ケズリ?	

器種	分類	捕獲番号	図版番号	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要	Ⅳ	Y884	97	N25E8		口径23.0 器高 9.2	单輪口縁、端部若干 壊れ		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
要	Ⅲ	Y885	97	N11E7	4	口径16.8 器高 6.8	口縁h	口縁四輪文5(クシ 後ヨコナデ)	ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
要	Ⅲ	Y886	97			口径17.8 器高 6.2	口縁c		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	松江市保管
要	Ⅲ	Y887	97	N12E7	4	口径 2.1 器高 4.9	口縁g	口縁四輪文2	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y888	97	N13E8	4	口径31.6 器高 4.1	口縁h	口縁四輪文6(クシ 後ヨコナデ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y889	97	N10E6	4	口径21.2 器高 3.6	口縁h	口縁四輪文3	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y890	97	N12E4	4	口径24.0 器高 4.5	口縁h	口縁四輪文3	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y891	97	N12E9	4	口径27.0 器高 7.2	口縁l	口縁直線文6(凡?)、 直線文3~4(クシ) +刺突文(具)	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y892	97	N12 E4	5	口径16.2 器高 6.5	口縁l	口縁四輪文4、刺突 文(ヘラ)	ヨコナデ、ケズリ	
要		Y893	97	N17E9	第2河道 地盤上	口径16.2 器高 2.4	口縁h	口縁直線文4	ヨコナデ2	
要	Ⅲ	Y894	97	N16E7	4	口径19.0 器高 4.3	口縁k	口縁直線文5(クシ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y895	97	N13E4	4	口径20.0 器高 3.9	口縁k	口縁直線文6(クシ 後ヨコナデ)	ヨコナデ、ケズリ、 ハケ目	
要	Ⅲ	Y896	97	N18E8	第2河道 地盤上	口径18.8 器高 5.4	口縁k	口縁直線文9(クシ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y897	98	N15E6	4	口径29.8 器高 4.9	口縁k	口縁直線文9(具?)	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	Ⅲ	Y898	97	N10E6	4	口径23.0 器高 6.9	口縁k	口縁直線文12(クシ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y899	98	N12E4	4	口径12.4 器高 6.6	口縁l	口縁直線文3(クシ?), 刺突文(クシ押 引状)	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	Ⅲ	Y900	98	N25E8	第2河道 地盤上	口径19.2 器高 5.5	口縁k	口縁四輪文5	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ?	Y901	98			口径17.8 器高 5.2	口縁k(三曲鉤い)	口縁四輪文2、刺突 文(ヘラ)		
要	Ⅲ	Y902	98	N13E6	4	口径29.4 器高 5.1	口縁k	口縁直線文8(クシ 4条を2回)	ヘラミガキ、ケズリ、 ヨコナデ	
要	Ⅲ	Y903	98	N16E8	4	口径18.8 器高 5.2	口縁k	口縁直線文5(クシ 後ヨコナデ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y904	98	N18 ~19 E8	第2河道 地盤上	口径24.8 器高 3.5	口縁l	口縁四輪文4(ヘラ 後ヨコナデ?), 刺 突文(クシ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	Ⅲ	Y905	98			口径19.1 器高 3.6	口縁l	口縁四輪文4	ヨコナデ、ケズリ	松江市保管
要	Ⅲ	Y906	98			口径14.3 器高 4.2	口縁l	口縁四輪文3、刺突 文(ヘラ)	ヨコナデ、ケズリ	松江市保管
要	Ⅲ	Y907	98	N11E4	4	口径12.8 器高 3.1	口縁k	口縁四輪文4	ヨコナデ	
跡	V	Y908	98	N18E8		口径16.9 器高 5.6	口縁丸取		ケズリ	
跡	V	Y909	98	N12E4	4	口径17.0 器高 5.6	口縁h	口縁四輪文3(クシ 状ヨコナデ)	ヘラミガキ?, ケズ リ	

器種	分類	掲番号	図版 ページ	出上 地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
鉢	V	Y910	98	N11E6	第2河底 堆積土	口径 9.8 器高 5.3	口縁 h	口縁凹線文3	ケズリ?	
鉢?	V	Y911	98	N13E5	4	口径 15.6 器高 4.6	口縁 h	口縁凹線文2, 刺突 文(クシ)	ヨコナデ, ケズリ, ハケ目	脚付か?
鉢	V	Y912	98	N16E7	第2河底 堆積土	口径 17.6 器高 4.7	口縁 c, 頂部細い	口縁凹線文2	ヨコナデ, ケズリ	
高环	II	Y913	98	N10E7	4	口径 13.6 器高 3.1		口縁凹線文4 (クシ状)	ヨコナデ	
高环	II	Y914	98	N11E4		口径 16.3 器高 2.5	口縁 g	口縁凹線文2	ヨコナデ, ハケ目	
高环	II	Y915	98	N12E7	第2河底 堆積土	口径 18.4 器高 1.3	口縁 i	口縁凹線文6(ヘラ)	ヨコナデ, ハケ目	
基?		Y916		N16E8	4	口径 11.0 器高 3.6	端部折張	端部直線文7(クシ)	ヘラミガキ	天井部穿孔
高环	V	Y917	98			口径 18.2 器高 3.8				松江市保管
高环	V	Y918		N13E4	4	口径 10.4 器高 4.0			ヨコナデ, ハケ目, ケズリ	
高环		Y919	98	N11E4	4	器高 4.0 底径 13.5	端部肥厚	端部凹線文4条	ヘラミガキ, ケズリ	
脚台?		Y920	98	N17E7	第2河底 堆積土	器高 2.8 底径 12.2	端部折張	端部凹線文4	ヨコナデ, ヘラケズ リ	
脚台?		Y921	98	N16E7	4	器高 2.8 底径 17.6	端部折張	端部凹線文6(貝?)	ヨコナデ, ケズリ	
脚台?		Y922	98	N26E7	4-1	器高 4.1 底径 13.6	端部肥厚	端部凹線文3	ヘラミガキ, ケズリ	
器台		Y923	98	N15E7	4	器高 5.8 底径 16.4			ヘラケズリ	
底付上輪		Y924	98	N12E5	4				ケズリ	
底付上輪		Y925	98	N21E5	4				ヘラミガキ?	
底付上輪		Y926	98	N17E9	6				ヘラミガキ?	
瓶		Y927	98	N12E8	4		把手		ケズリ	
瓶		Y928	98			器高 1.4 底径 10.2			ヨコナデ	外匣漆塗 松江市保管
瓶	箱	Y929	99	N10E7	4	口径 12.0 器高 2.6			ヨコナデ, ハケ目	全面漆塗, 中期
		Y930		N15E7	5-1	器高 3.3 底径 5.1	高台状の底部		ヘラミガキ	内面漆塗, 中期
甕		Y931	99	N16E7	5-1	口径 10.9 器高 7.0	口縁安帝文に肥厚			瘤文土器系?
甕		Y932	99	N20E5	4	口径 18.6 器高 4.4	口縁深鉢形の断面形		ヨコナデ	瘤文土器系?
鉢?		Y933	99	N12E4	4	口径 15.1 器高 4.9		刺目安帝文An	ハケ目	胎土は中期に似る
甕?		Y934	99	N16E8	6	器高 2.9		刺目安帝文An	ヨコナデ	小片, 胎土は前期に 似る
高环		Y935	99	不明				脚付脱底(充填技術 ではない)		胎土は中期に似る

器種 や 分類	分類番号	図版 番号	出 土地点	層位	法 蓋 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考	
									前 中期?	後 期?
甕?		Y936	99	N14E5	4	器高 5.9 底径 4.6			ケズリ、ナデ	後期?
		Y937	99	N12E4	4	器高 3.6 胴部張る	突唇文Aa			前または中期?
		Y938	99	N13E5	4	器高 6.0 胴部張る	凹線文2	ヨコナデ、ヘラミガ キ、底部円弧充張		中期?
甕?		Y939	99	N11E4	4	口径 7.0 器底 6.3			ケズリ	
		Y940	99	N11E4	4	口径 7.6 器底 7.0 把手付き			ヨコナデ、ケズリ、 ナデ	
甕?		Y941	99	N11E4	4		口縁突出状		ナデ	無文土器系?
	I	Y942	99	N16E8	6		波状口縁? (摩滅著 しい)	波	ヨコナデ、ハケ目	前期
甕?	III	Y943	99	N27E7	4-2			刻目突唇文上面に斜 彎文(へう)	ナデ	前期、陶文化後期突唇 文十唇に似る
		Y944	99	N26E7	4-1		口縁肥厚			騎士は前期に似る 堺市深谷
甕?		Y945	99	N11E4	4			ハ縁突唇文		騎士は前期
		Y946	99	N15E5	4			直縁文6(クシ)+竹 骨文	ハケ目、ケズリ	後期
甕?	I	Y947	99	N13 ~12 E4				羽文B(へう)、不 明文様	ケズリ	後期
	I	Y948	82	N15E7	6	口径26.2 器高30.7 底径 6.2			ハケ目、ナデ	底部穿孔
甕?	I	Y949	82	N20 ~22 E5~6	4	口径25.0 器高12.5 底径 6.2			ハケ目、ナデ	

3. 土 師 器

上師器は弥生土器に比べ比較的出土数が少なく、図示したのは300点余りである。内容的には前回出土の土師器とはほとんど変わらないため、分類は報告Ⅱに準じたい。

壹 I. (第75図H 1～5 図版100) 複合口縁の壺で、口縁端部が内傾するもの。口縁部に波状文を施すものがある。

II. (第75図H 6～76図H24・31・32 図版100・101) 複合口縁で、口縁端部が外反するもの。口縁上端は平坦面をなすものが多いが、H 9は丸く終る。H13・15は複合口縁が退化したものと思われ、縁は突帯を貼り付けてつくられる。H24も縁が退化したものである。H19～21は他の土器より大きく開く。

III. (第76図H25～30・33～38 図版101・102) 単純口縁のもので、口縁部は大きく外反する。H30・38のように直立気味に外反するものや、H37のように口縁部が大きく開き口縁端を内側に摘み上げるものなどがある。

以上のはか、頸部に突帯を付けるものが出上している(第76図H39・40 図版101)。

壹 I. (第76図H41～第77図H48 図版102) 複合口縁の上器のうち、口縁端部が内傾または直立するもの。上端は平坦なものが多いが、H41・46は丸みを持つ。文様はH43の肩部に刺突文が施される程度である。

II. (第77図H51～第78図H78・81・82・84 図版103) 複合口縁の土器のうち、口縁部上端が丸く終るもの。クシ状工具で波状文(H58・65・67)、直線文(H56・70)、ヘラ状工具で羽状文、鋸歯文が施されるもの(H60)があるが、總じて文様が施されるものは少ない。

III. (第78図H79・80・83～第80図H141・143～149 図版103～106) 複合口縁の土器のうち、口縁部上端が肥厚し平坦面をなすもの。H79・80・83～97・99は上端部の肥厚化が顕著でなく、わずかに面取りされている。今回の調査ではH137～139のように口縁部上端が内側に摘み上げようになるものが少数出土している。文様は施されるものが少く、波状文が肩部に施されるものが少数ある(H120・136)。

IV. (第80図H142・第81図H151・155～169・170 図版105・106) 複合口縁ではあるが、縁から頸部にかけてやや厚くシャープさに欠けるもの。

V. (第81図H153・154・156・158 図版106) 複合口縁の土器のうち、縁が丸く鈍いもの。器壁はかなり厚い。

VI. (第81図H152・157・159～162・166 図版106) 外面は複合口縁の若干退化したように見えるが、内面は明瞭に屈曲しないもの。

II. (第81図H163～第82図H175 図版106・107) 外面は一応複合口縁形を呈しているが、稜は不明瞭なもの。H167～168のように稜がミミズ腫れ状のものもある。

III 今回はⅢ類は出土していない。

IV (第82図H176～199, 第83図H208～第84図H221 図版106～109) 口縁部は単純口縁で内湾するもの。口縁端部は丸く終るもの (H205・211など), 肥厚し内傾するもの (H213・216～220など), 平坦面をなすもの (H177～199など) など様々である。なおH220の胴部には叩き痕が残る。

V (第84図H200～209・222～第85図H250・253・254 図版107～110) 単純口縁で、口縁部が外反または外傾するもの。口縁端部は丸く終るもの (H226・230など), 先細になるもの (H224・233～235など), 平坦面をなすもの (H200・203など) など様々である。文様が施されるものはほとんどないが, H228の頸部にはクン状工具による刺突文が施される。報告Ⅱでは1～7に細分したが、今回は一括して扱った。

このほか、変わった器形として第85図H251・252がある。H251は胴部が張らず口縁部が大きく開くもので、鉢とすべきかもしれない。H252は口縁部が典型的な複合口縁ではなく、肥厚させ上方に摘み上げるもので、弥生土器の可能性もある。

高环坏部I. (第85図H255～264・266～268 図版111・112) 底部と口縁部の境に突帯状の稜が付くもの。この稜は坏部製作後に突帯を貼り付けてつくられたものもある (H263・256など)。坏部との接合は脚部接合後底部中央に粘土を埋め込んだものが多い。H263は底部中央が擴口縁となっている。

I. (第85図H267・269・271 図版112) 底部と口縁部の境は明瞭だが、突帯状にならないもの。口縁端部は内側に摘み上げるものがある (H267)。

I. (第85図H265・272～275, 第86図H288 図版112) 底部と口縁部の境が不明瞭なもので、口縁部が外反するもの。口縁端部は丸く終るものが多いが、H273は上方に摘み上げる。

II (第86図H276～287 図版111・112) 坏部が内湾しそのまま口縁部に至るもの。H283・284の脚部は大きく広がるようである。口縁端部は丸く終るものが多いが、H286・287は上方に摘み上げるものである。

脚部 (第86図H289～296 図版112) 脚部から脚端部にかけてカーブを描いて広がるもの (I H290・291・295), 脚端部で大きく屈曲して広がるもの (II H294・296), 複合口縁状を呈するもの (H292) がある。H292は弥生土器の可能性もある。

器台 (第86図H297～第87図H309 図版112) いずれも鼓形器台で、H297～301・305は受部, H302～304・306～309は脚部である。H297は受部が大きく広がらず、筒部が長い形態の器台と推定され、他の器台よりやや古い様相を持つ。これ以外は筒部が短いものである。文様はH297にク

シ描き直線文、H303に刺突文が施される以外は無文である。

低脚坏（第87図H310～320 図版113） 坏部は内湾する皿形で（H311・312）、「ハ」字形に開く低い脚がつく。H317は特に小さい脚である。

鉢？（第87図H322 図版113） 口縁部が短く外反し、肩部が張るもの。1点のみ出土している。

碗（第87図H323～329 図版113） 口縁部が内湾または外傾するものが出土した。器壁が薄いもの（H323など）、厚いもの（H324など）などがあるが、厚いものが多いようである。H323・328・329の底部外面、H327の内面にはヘラ削り調整が施される。なおH327は口縁部が厚く底部が薄い特異な土器で、碗以外の器種かもしれない。

壺（第87図H330・331） H330は把手部分、H331は底部（あるいは口縁部）の小片である。

小型丸底壺I₁（第88図H333～335 図版113・114） 口縁部は長く、内湾気味に大きく開くもので、口径が胴部最大径より大きいもの。

I₂（第88図H346～348・350） 口縁部はI₁類ほど長くはないが、わずかに内湾しながら伸びるもの。口径は胴部径とほぼ同じである。

I₃（第88図H342・349・356） 口縁部が長く、中ほどに段を設け口縁上半は外反するもの。

I₄（第88図H345） 口縁部が長く外反するもの。

II₁（第88図H351・352） 口縁部が短く外傾するもの。

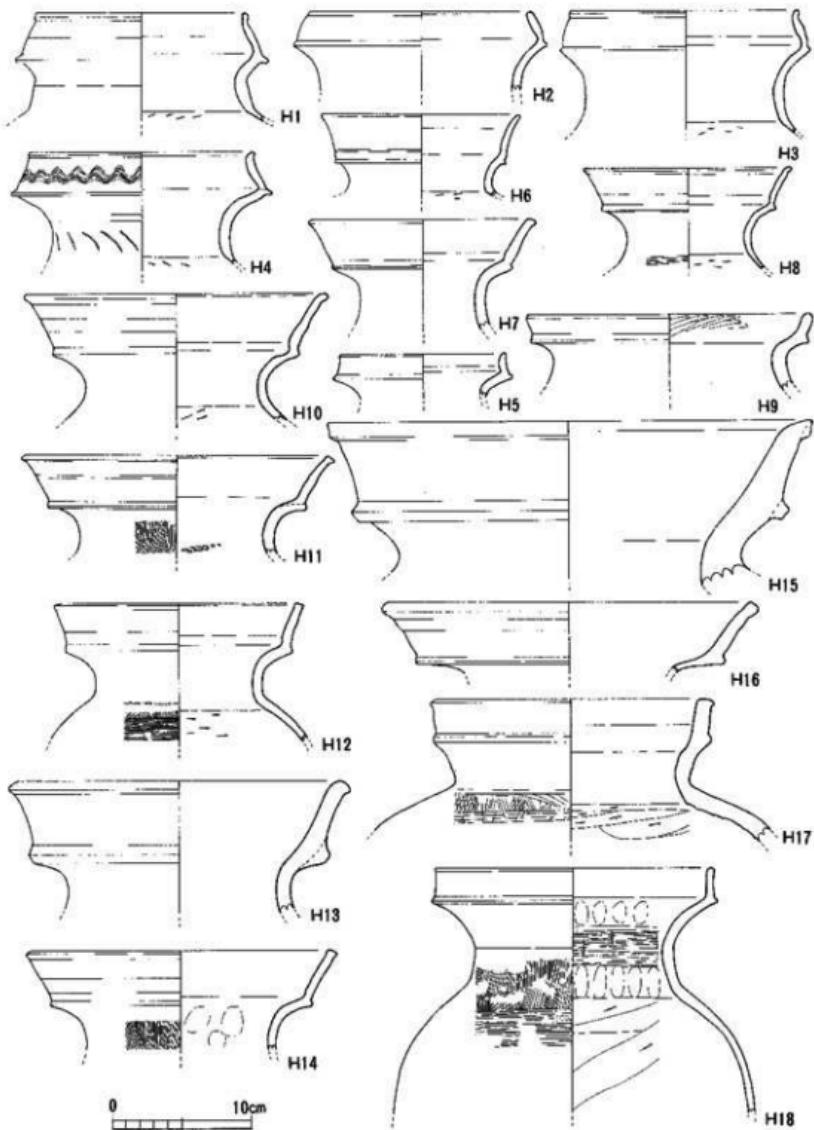
II₂（第88図H353～355） 比較的大型で、口縁部が外反または直口気味なもの。

IV（第88図H336～341・343・344） 前回の調査では出土していない。口縁部が複合口縁のものである。大型のものが多いが、H341・343は小型で、複合口縁の退化したものである。

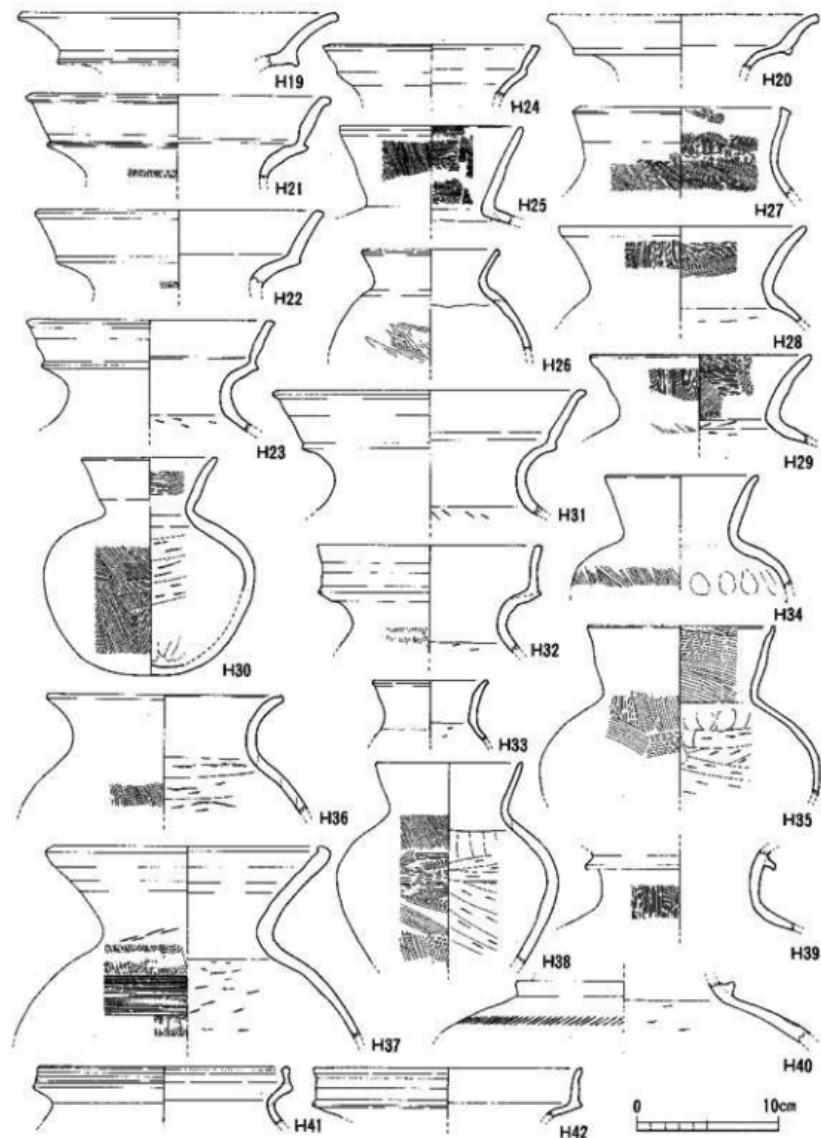
その他（第87図H332・357～360） 土瓶器には波状文以外に文様が施されるものは少ないが、竹管文（H332）、S字スタンプ文（H357・358）、貝殻腹縁による羽状文（H359）、ヘラによる不明文様（H360）が施されるものがある。

註

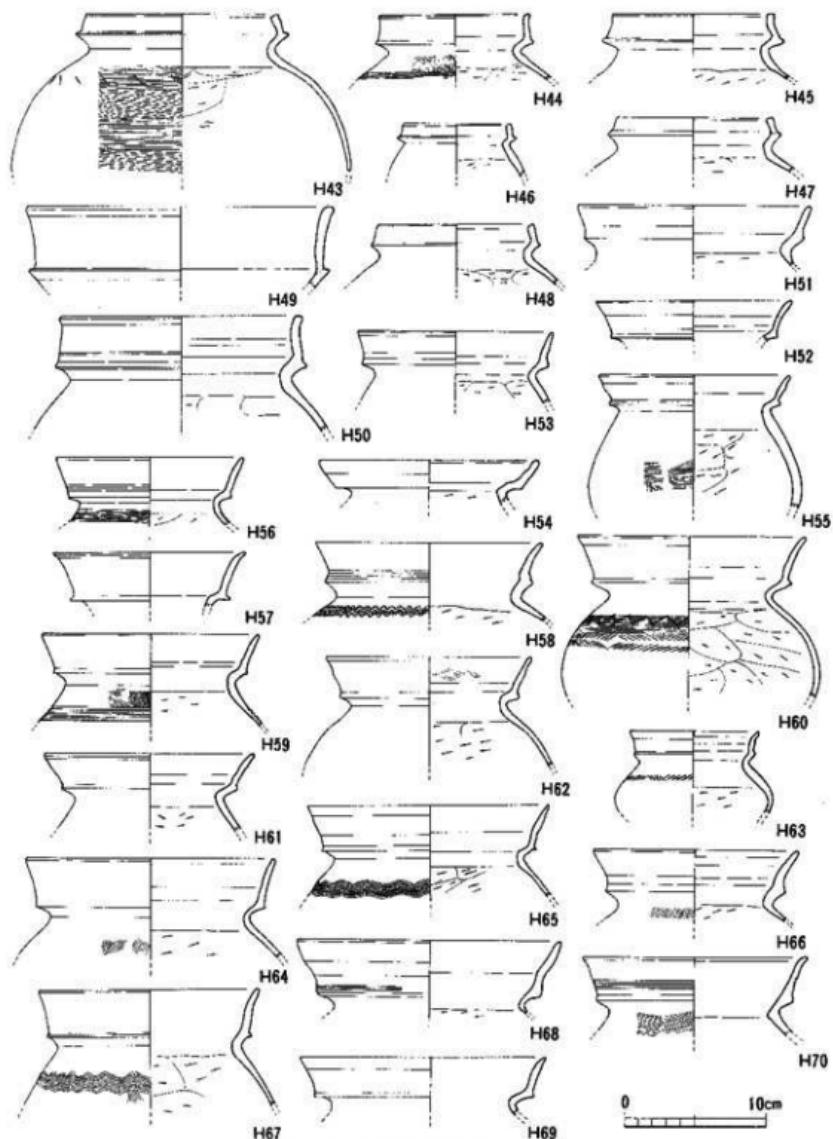
註1 島根県教育委員会 島根県上木部河川課『朝酰川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書』 II 1987



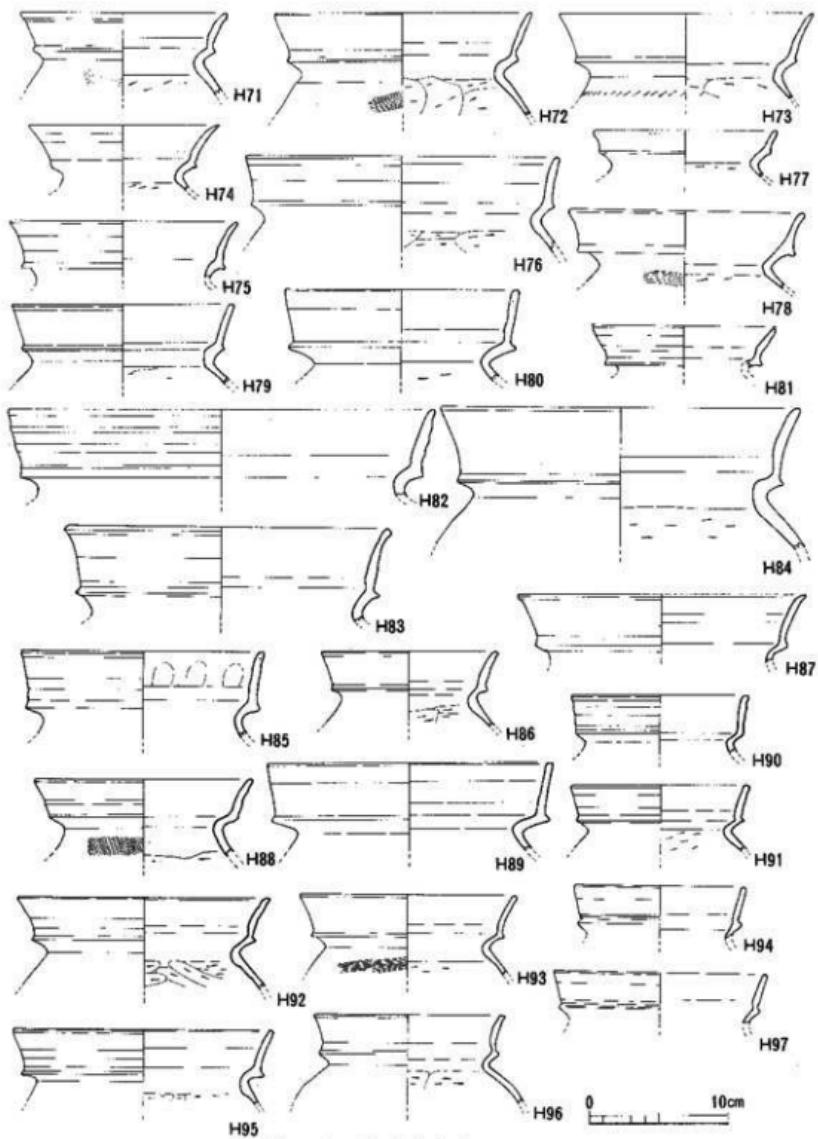
第75図 土師器(1) 壺 1:4



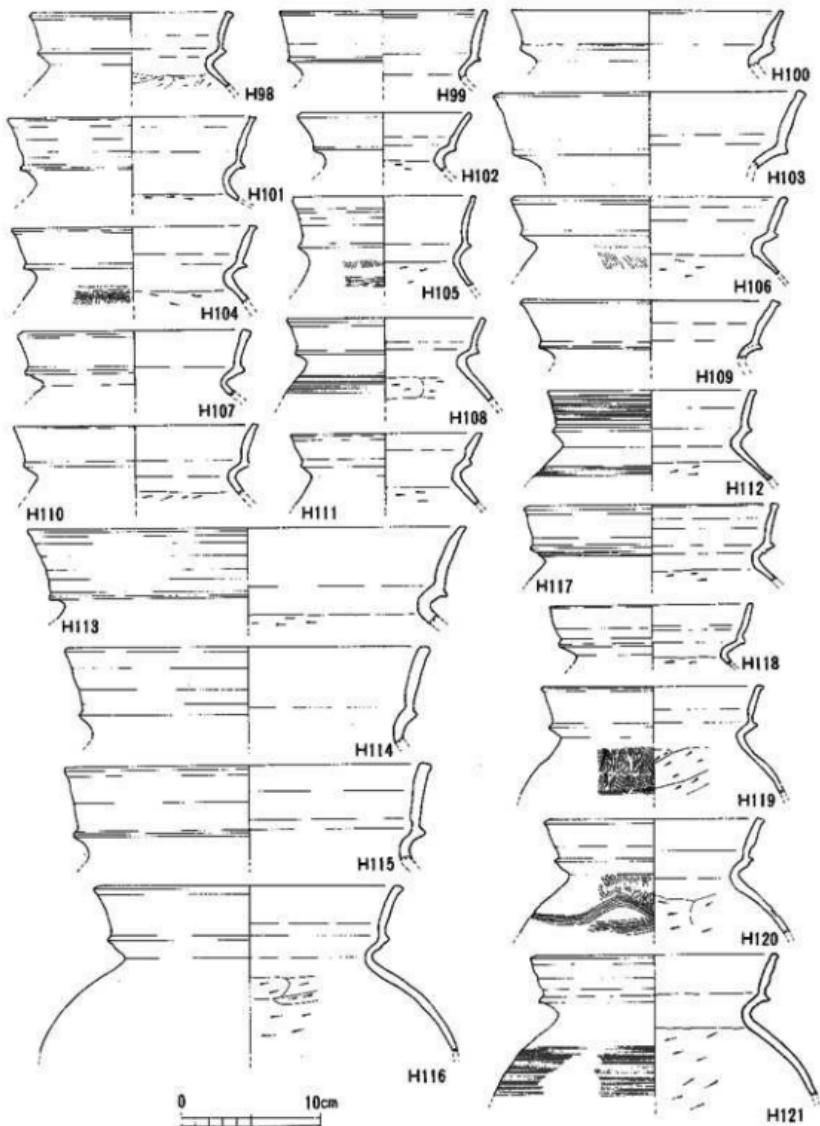
第76図 土師器(2) 壺・壺 1:4



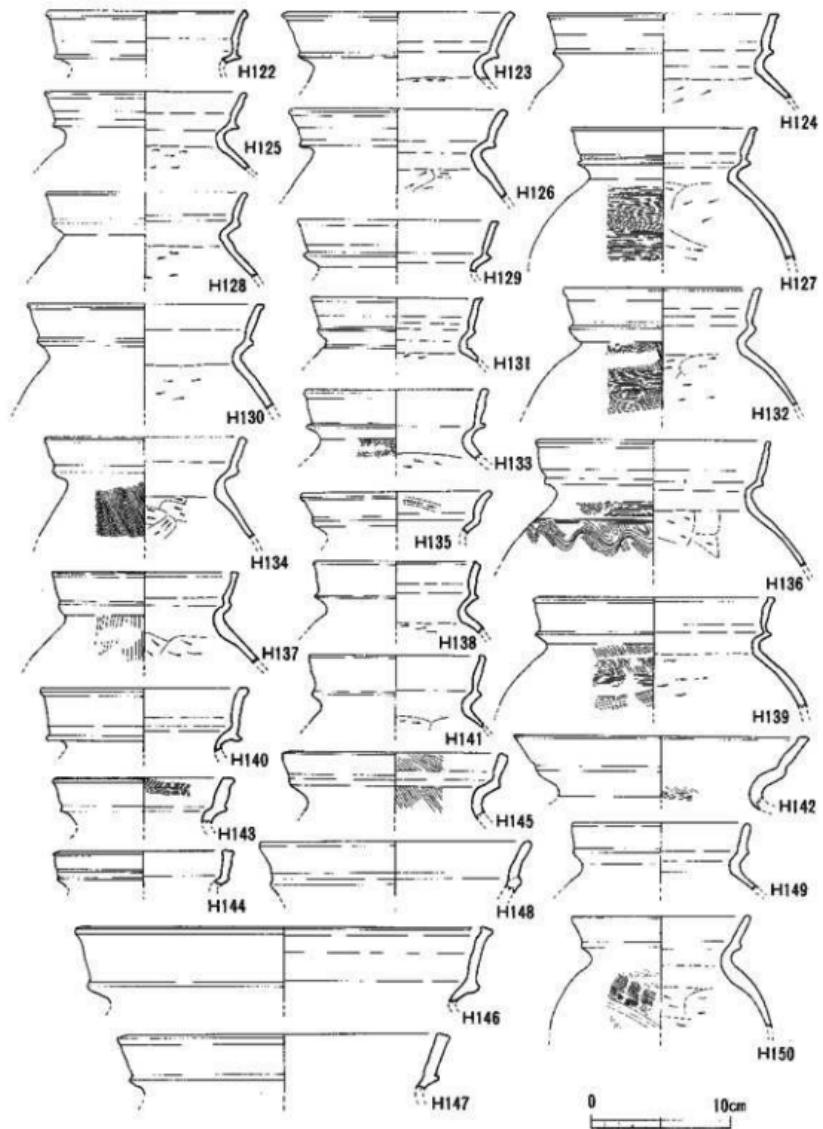
第77図 土師器(3) 窯 1:4



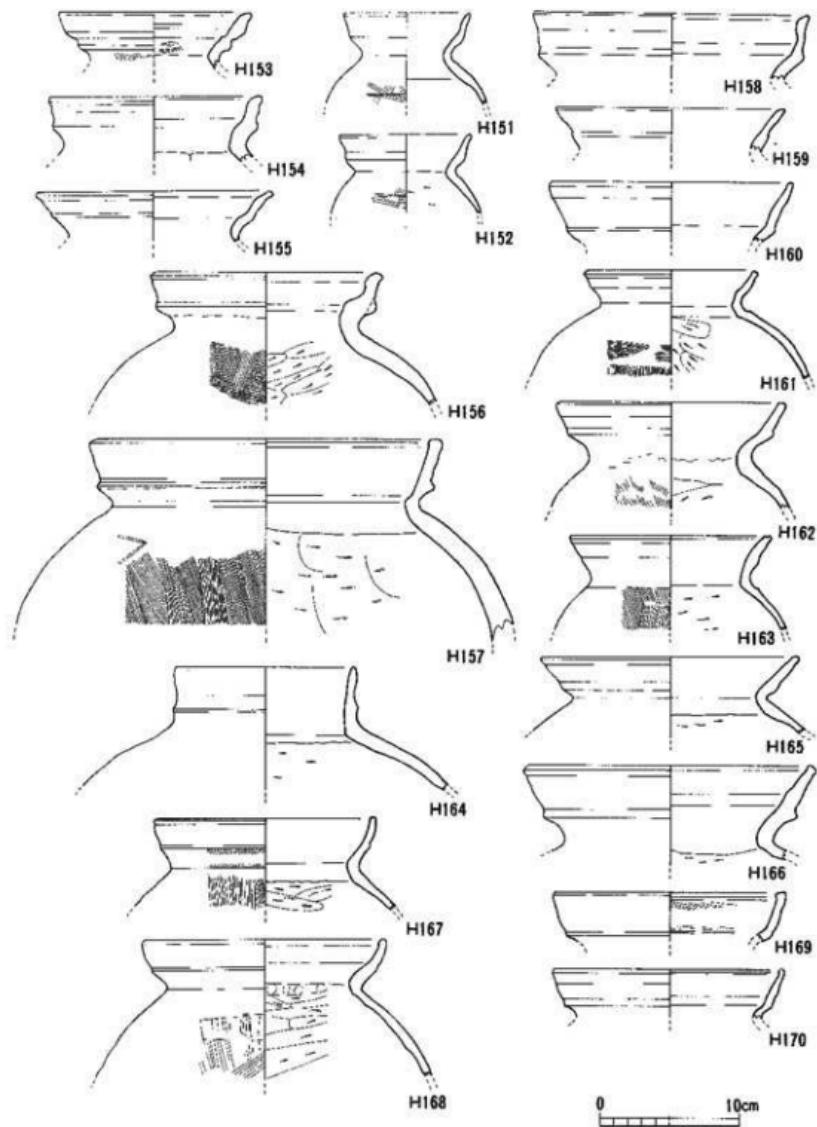
第78図 土師器(4) 瓢 1:4



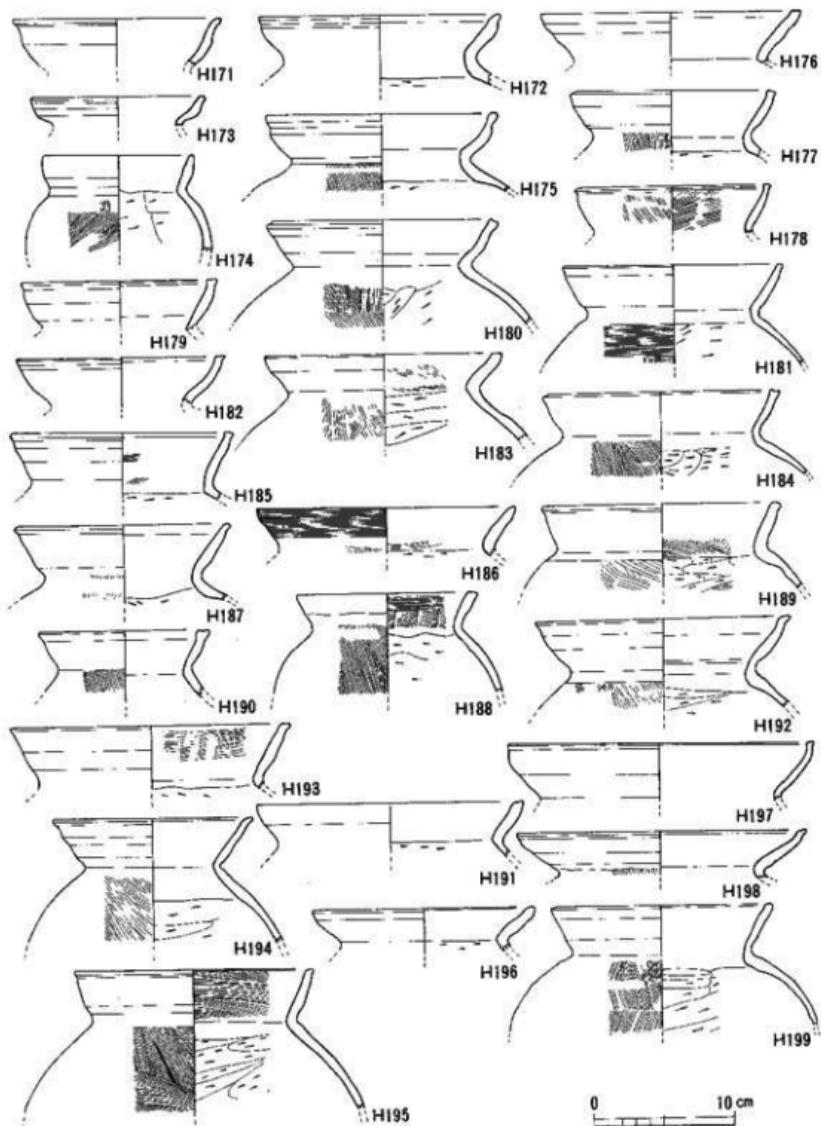
第79図 土器(5) 壺 1:4



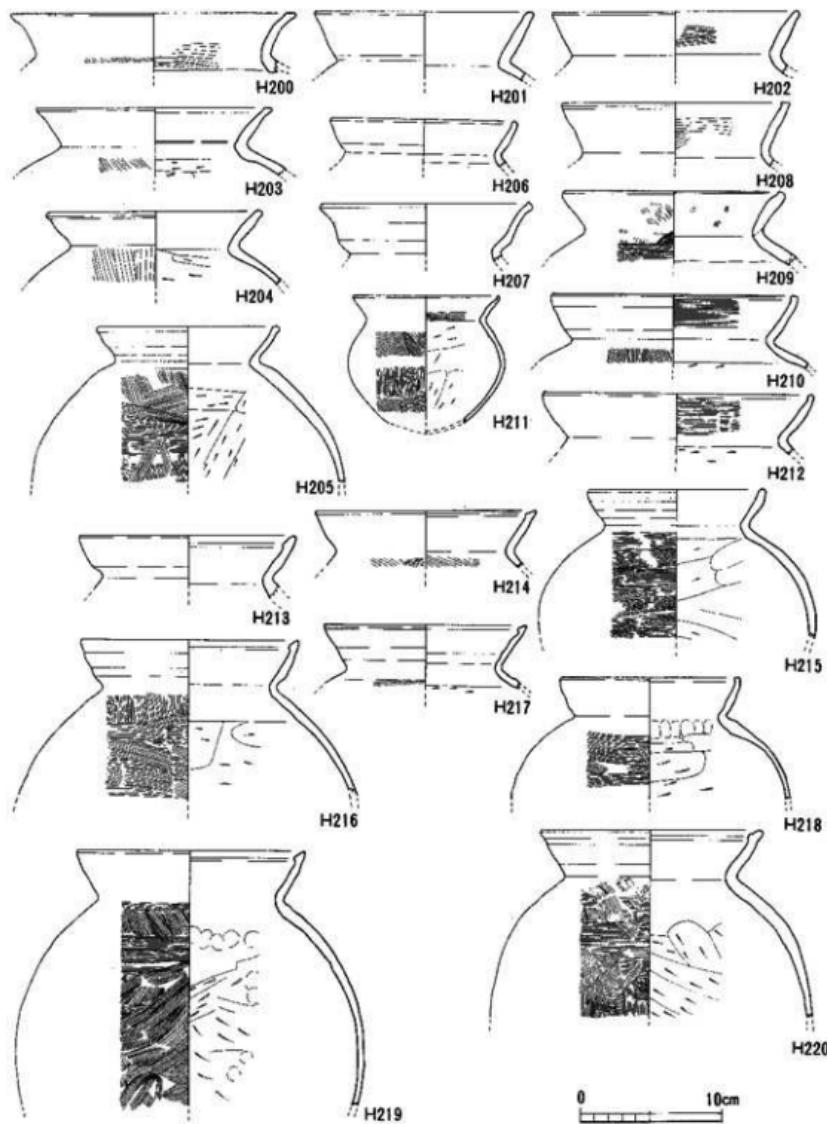
第80図 土師器(6) 瓢 1:4



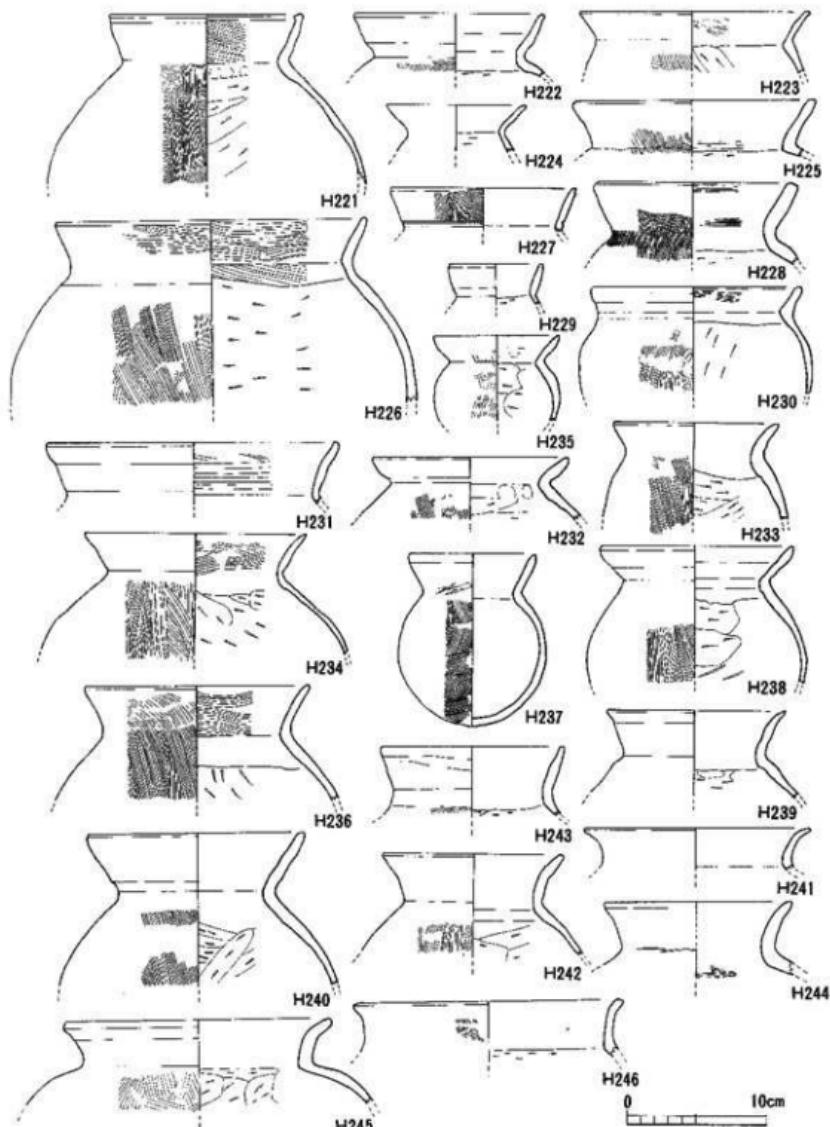
第81図 土師器(7) 覧 1:4



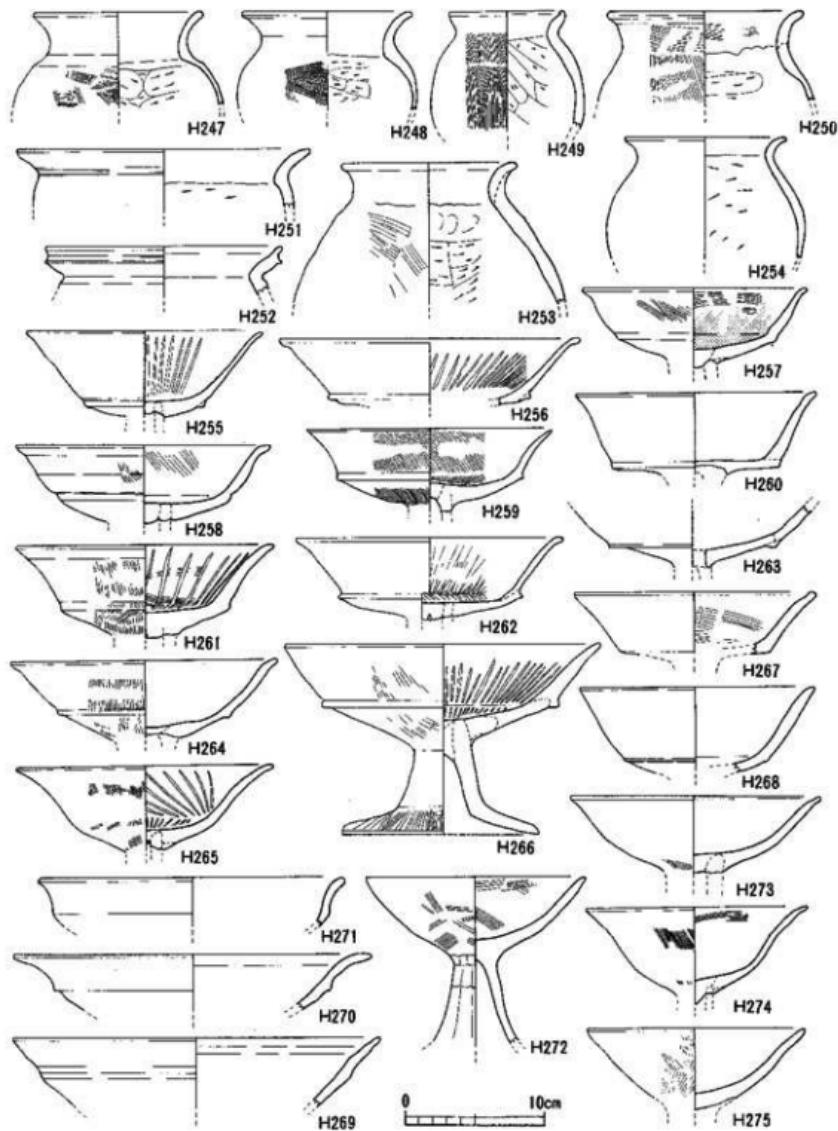
第82図 土師器(8) 壺 1:4



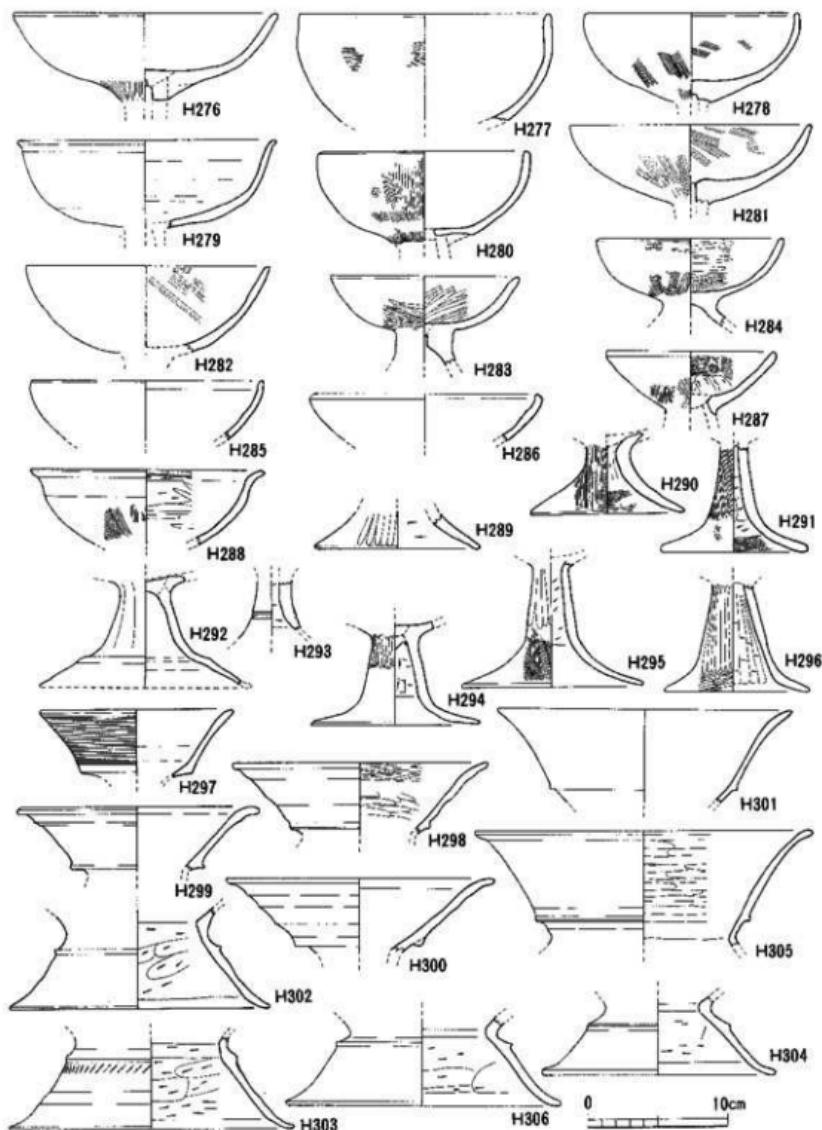
第83図 土師器(9) 麗 1:4



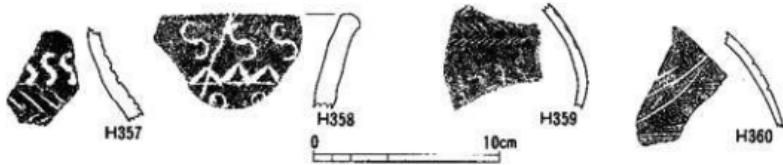
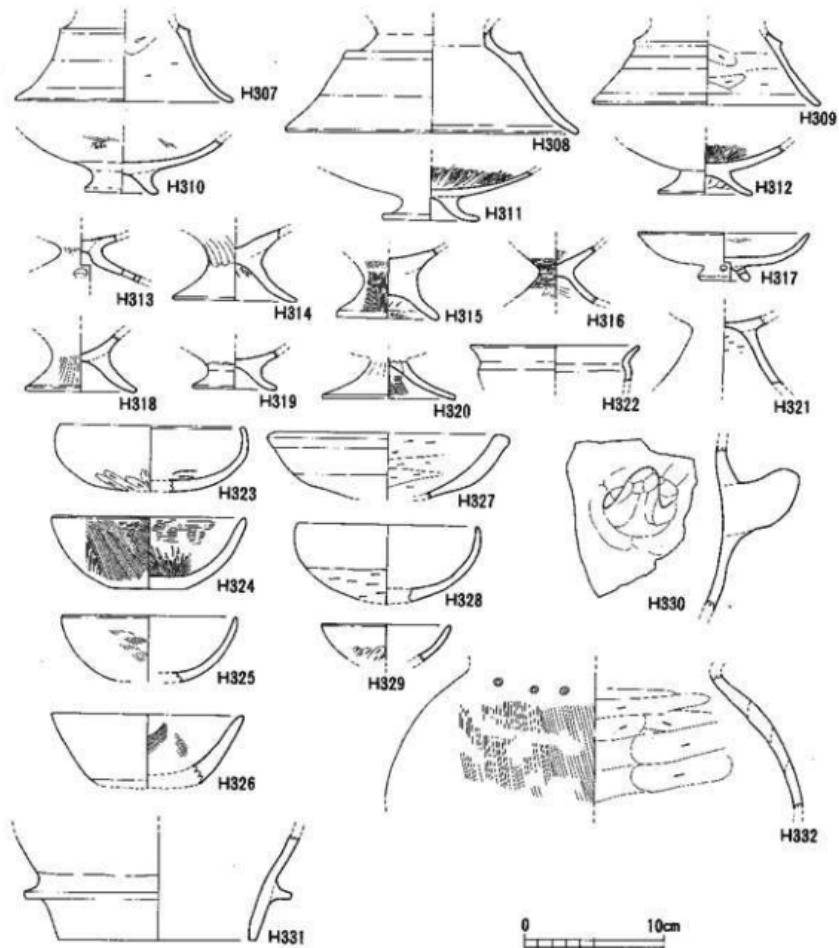
第84図 土師器(10) 壺 1:4



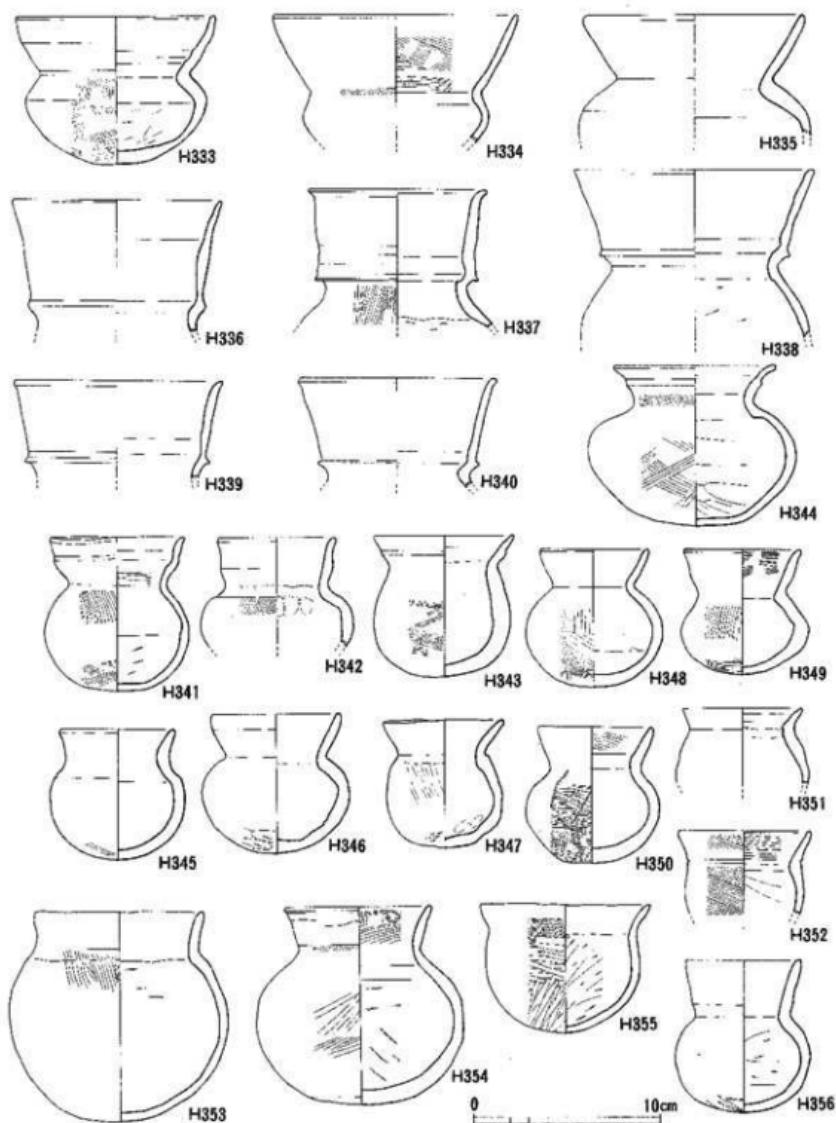
第85図 土器(11) 壺・高环 1:4(網目は漆)



第86図 土師器(12) 高坏・器台 1:4



第87図 土師器(13) 器台・低脚坏・碗・瓶・脚 1:4 文様拓影 1:3



第88図 土師器(14) 小型丸底壺 1:3

土 師 器 一 覧 表

器種	分類	番号	図版 ページ	出土地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
盃	I ₁	H1	N12E7	5-1	口径15.4 基高 7.4	口縁内傾		ヨコナデ、ケズリ		
盃	I ₁	H2	N13E8	4	口径15.9 基高 5.6	口縁内傾		ヨコナデ		
盃	I ₁	H3	100	N15E7	第1河道 地盤土	口径16.4 基高 8.7				
盃	I ₁	H4	100	N12E4	4	口径16.1 基高 8.1	口縁内傾	波状文(クシ4~5) 刻文(只)	ヨコナデ、ケズリ	
盃	I ₁	H5	100	N11E4	4	口径12.0 基高 3.0	口縁内傾		ヨコナデ	
盃	I ₁	H6		N15E6	4	口径14.4 基高 5.8			ヨコナデ、ケズリ	
盃	I ₁	H7		N18E8	第2河道 地盤土	口径16.4 基高 7.5			ヨコナデ、ナゲ	
盃	I ₁	H8	100	N12E5	5-1	口径15.0 基高 7.3			ハケ目、ケズリ	
盃	I ₂	H9	100	N16E8	5-1	口径20.2 基高 4.9	口唇丸い		ヘラミガキ、ヨコナ デ、ケズリ	
盃	I ₂	H10	100	N13E7	4	口径21.8 基高 9.0			ヨコナデ、ケズリ	
盃	I ₂	H11	100	N13E6	第2河道 地盤土	口径22.4 基高 7.0	口唇平坦		ヨコナデ、ハケ目	
盃	I ₂	H12	100	N18E8	第2河道 地盤土	口径17.9 基高 9.6	口唇平坦		ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
盃	I ₂	H13	100	N26E7	4-1	口径23.2 基高 9.4			口縁頬部の浸蝕付	
盃	I ₂	H14		N13E7	4	口径22.4 基高 7.1	口唇平坦		ハケ目、ヨコナデ	
盃	I ₂	H15	102	N18E8	第2河道 地盤土	口径34.9 基高10.8			ヨコナデ口縁強度の 境、貼付	
盃	I ₂	H16		N11E7	4	口径26.0 基高 4.5	口唇平坦		ヨコナデ	
盃	I ₂	H17	100			口径19.2 基高10.0	口唇肥厚		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	松江市保管
盃	I ₂	H18	100			口径19.4 基高17.4	口縁直立		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	松江市保管
盃	I ₂	H19		N15E7	第2河道 地盤土	口径22.8 基高 4.0	口縁大きく外汎		ヨコナデ	
盃	I ₂	H20	101	N16 E7-8	第2河道 地盤土	口径19.5 基高 4.0	口縁大きく開く		ヨコナデ	
盃	I ₂	H21		N16E8	4	口径22.6 基高 6.0			ハケ目、ヨコナデ	
盃	I ₂	H22				口径19.8 基高 5.8			ハケ目、ヨコナデ	松江市保管
盃	I ₂	H23	101	N12E7	4	口径17.8 基高 7.4			ヨコナデ、ケズリ	
盃	I ₂	H24	101			口径15.5 基高 3.7			ヨコナデ	
盃	I ₂	H25	101	N26E7	4-1	口径13.1 基高 6.7			ハケ目、ヨコナデ	

器種	分類	部番号	図版	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考	
										ページ	
壺	Ⅲ	H26	101	N12E8		口径10.0 脚高7.1	口縁やや短い		ヨコナデ、ハケ日、 ナデ		
壺	Ⅲ	H27	101	N13E6	4	口径15.6 脚高6.4	口縁平坦、腹部肩曲 弧い		ハケ日、ヨコナデ		
壺	Ⅲ	H28		N10E7	第2河底 堆積土	口径17.7 脚高6.6	口縁大きく開く		ヨコナデ、ハケ日、 ケズリ		
壺	Ⅲ	H29	101	N10E7	第2河底 堆積土	口径15.8 脚高6.5			ハケ日、ナデ、ケズ リ		
壺	Ⅲ	H30	102	N22E8	第2河底 堆積土	口径9.5 脚高15.5			ハケ日、ヨコナデ、 ケズリ	赤色墨影	
壺	I ₂	H31		N15E4	4	口径22.4 脚高8.5			ヨコナデ、ケズリ		
壺	I ₂	H32		N14E6	4	口径16.1 脚高7.6	口縁直立		ヨコナデ、ハケ日、 ケズリ		
壺	Ⅲ	H33		N11E4	4	口径8.2 脚高4.6	腹部の屈曲弧い		ヨコナデ？ ケズリ		
壺	Ⅲ	H34	101	N13E6	第2河底 堆積土	口径10.3 脚高7.5			ヨコナデ、ハケ日		
壺	Ⅲ	H35	101	N13E5	4	口径13.1 脚高11.8			ハケ日、ヨコナデ、 ケズリ		
壺	Ⅲ	H36	101	N23E8	4	口径16.9 脚高8.1	ヨコナデ		ハケ日、ケズリ、ヨ コナデ		
壺	Ⅲ	H37	101	N10E7	4	口径20.5 脚高14.2	口縁内側に巻き込む		ヨコナデ、ハケ日、 ケズリ		
壺	Ⅲ	H38	102	N12E5	4	口径10.5 脚高14.4			ヨコナデ、ハケ日、 ケズリ		
壺		H39	101	N15E7	第2河底 堆積土	脚高5.8	頸部突起文		ハケ日、ヨコナデ		
壺		H40	101	N10E6	4	脚高3.8		突起文、刺突文	ケズリ		
甕	I	H41				口径18.2 脚高4.0	口縁内傾	直線文2(クシ)	ハケ日、ヨコナデ	松江市保管	
甕	I ₂	H42				口径19.2 脚高3.4			ヨコナデ	松江市保管	
甕	I	H43	102	N16E8	4	口径18.8 脚高11.2		輪突文	ヨコナデ、ハケ日、 ケズリ		
甕	I	H44		N12E4	4	口径10.8 脚高4.8		直線文？ (ハケ日工具?)	ハケ日、ヨコナデ、 ケズリ		
甕	I	H45	102	N17 ~19 E7-E8		口径11.6 脚高4.4			ヨコナデ、ケズリ		
甕	I	H46		N13E5	4	口径7.8 脚高3.7	口縁やや肥厚		ケズリ		
甕	I	H47	102	N19E9	4	口径11.1 脚高3.8			ヨコナデ、ナデ、ケ ズリ		
甕	I	H48	102	N17E7	4	口径11.2 脚高4.3			ヨコナデ、ケズリ		
甕	I ₂	H49				口径22.0 脚高4.4			ヨコナデ	松江市保管	
甕	I	H50	102			口径17.4 脚高8.0			ヨコナデ、ケズリ	松江市保管	
甕	I ₂	H51	102	N13E4	4	口径16.8 脚高4.3			ヨコナデ？ ケズリ		

番号	分類	標高	面版	出土地点	層位	法 長 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要	II.	H52				口径14.0 器高 2.6			ヨコナデ	松江市保管
要	II.	H53		N18E5	第2河道 堆積土	口径14.0 器高 5.1			ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H54	103	N12E4	4	口径15.6 器高 2.8	口唇厚い		ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H55	102	N13E7	第2河道 堆積土	口径13.7 器高 9.4			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	II.	H56				口径13.4 器高 4.6	直線文?	(クシ一ハケ目か?)	ヨコナデ、ケズリ	松江市保管
要	II.	H57		N15E7	4	口径13.9 器高 3.9	口唇外反		ヨコナデ	
要	II.	H58		N17E7	第2河道 堆積土	口径16.2 器高 5.4		波次文(クシ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H59	103	N10E7	4	口径15.8 器高 6.4		直線文5(クシ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H60	103	N12E4	4	口径16.5 器高11.5		縦衝文(ヘジ)、羽状 文(只)	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	II.	H61		N15E7	第2河道 堆積土	口径15.0 器高 5.5			ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H62	103	N13E4	4	口径14.8 器高 7.8			ヨコナデ、ハケ目、 ナデ、ケズリ	
要	II.	H63	103	N10E7	第2河道 堆積土	口径 9.2 器高 5.8		山形刺突文(ヘフ)	ヨコナデ、ナデ、ケ ズリ	
要	II.	H64	103	N18E8	4	口径18.0 器高 8.6			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	II.	H65	103	N10E7	4	口径17.3 器高 6.5		波状文(クシ8)	ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H66	103	N17E7	第2河道 堆積土	口径14.7 器高 5.0			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	II.	H67	103			口径15.9 器高 8.2		波状文(クシ5~6)	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	II.	H68	103	N11E7	4	口径19.0 器高 5.2			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	II.	H69		N13E5	4	口径17.7 器高 3.3				
要	II.	H70	103	N19E9	4	口径16.0 器高 5.4			ハケ目、ヨコナデ	
要	II.	H71	103	N19E9	4	口径14.8 器高 5.5			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	II.	H72	103	N12E4	4	口径18.4 器高 7.2			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	II.	H73	103	N10E7	4	口径18.2 器高 6.0		刺突文(ヘフ)	ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H74		N11E7	4	口径12.8 器高 4.5			ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H75		N15E7	4	口径16.4 器高 4.0			ヨコナデ	
要	II.	H76	103	N12E4	5-1	口径22.6 器高 6.8	口唇直立気味		ヨコナデ、ケズリ	
要	II.	H77	103	N13E4	4	口径13.2 器高 3.5	口唇厚		ヨコナデ? ケズリ	

器種	分類	排卵号	図版	出上地	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要	I ₁	H78	103	N18E9	4	口徑16.8 器高4.7	口唇肥厚		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
要	I ₁	H79				口徑15.8 器高5.6			ヨコナデ、ケズリ	松江市保管
要	I ₂	H80	103			口徑16.6 器高6.4			ヨコナデ、ケズリ	松江市保管
要	I ₁	H81		N13E4	4	口徑13.2 器高2.8			ヨコナデ	
要	I ₁	H82	103	N19E9		口徑30.6 器高6.2			ヨコナデ(凹輪状に 凸門)	
要	I ₂	H83	103	N13E7	4	口徑24.6 器高6.7			ヨコナデ	
要	I ₁	H84	103	N12E5	4	口徑25.8 器高10.1			ヨコナデ、ケズリ	
要	I ₁	H85	103			口徑17.5 器高6.1			ヨコナデ	
要	I ₁	H86	104	N19E9	4	口徑12.7 器高5.4			ヨコナデ、ケズリ	
要	I ₂	H87	104	N16E7	4	口徑18.2 器高6.0			ヨコナデ	
要	I ₂	H88		N17E7	4	口徑15.8 器高6.6			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	I ₂	H89	104			口徑20.4 器高6.2			ヨコナデ	松江市保管
要	I ₂	H90				口徑12.6 器高4.0			ヨコナデ	松江市保管
要	I ₂	H91	104	N18 E8-9		口徑13.0 器高4.5			ヨコナデ、ケズリ	
要	I ₂	H92	104	N19E9	4	口徑18.0 器高6.4			ヨコナデ、ケズリ	
要	I ₂	H93		N11E4		口徑15.6 器高5.7			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	I ₂	H94	104	N12E4	4	口徑12.4 器高3.8			ヨコナデ	
要	I ₂	H95	104	N15E6	4	口徑18.7 器高5.2			ヨコナデ、ケズリ	
要	I ₂	H96	104	N13E7	4	口徑13.6 器高6.2			ヨコナデ、ケズリ、 ナデ?	
要	I ₂	H97	104	N12E4	4	口徑15.4 器高3.4			ヨコナデ	
要	I ₂	H98		N10E7	4	口徑14.6 器高5.4			ヨコナデ、ケズリ	
要	I ₂	H99		N14E6	4	口徑15.0 器高4.6			ヨコナデ	
要	I ₂	H100	104	N16E7		口徑19.6 器高3.8			ヨコナデ	
要	I ₂	H101		N17E7	4	口徑17.7 器高5.8			ヨコナデ、ケズリ	
要	I ₂	H102	104	N10E7	4	口徑12.6 器高4.0			ヨコナデ、ケズリ	
要	I ₂	H103	104	N13E5	4	口徑22.6 器高6.5			ヨコナデ	

器種	分類	揮発号	國版 ヘジ	出土点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
甕	II ₂	H104		N12E8	5-1	口径17.6 器高 5.4			ヨコナデ。ハケ日	
甕	II ₂	H105		N13E6	4	口径13.2 器高 6.5			ヨコナデ。ハケ日、 ケズリ	
甕	II ₂	H106		N12E4	4	口径20.0 器高 5.5			ハケ日、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	II ₂	H107	104	N10E6	4	口径16.7 器高 4.5			ヨコナデ	
甕	II ₂	H108	104	N13E4	4	口径14.4 器高 6.0			ヨコナデ。ケズリ、 ハケ日	
甕	II ₂	H109		N10E7	4	口径18.8 器高 4.4			ヨコナデ	
甕	II ₂	H110	104	N17E8	第2河道 堆積土	口径17.4 器高 4.8			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H111	104	N12E4	4	口径13.8 器高 5.0			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H112	104	N12E7	4	口径15.0 器高 6.5		直線文？(クシ)	ヨコナデ。ハケ日、 ケズリ	
甕	II ₂	H113	104	N13E4	4	口径31.8 器高 7.0			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H114	E4 N13E3		4	口径26.4 器高 6.7			ヨコナデ	
甕	II ₂	H115	104	N18E8	4	口径26.5 器高 6.7			ヨコナデ	
甕	II ₂	H116	104	N12E7	4	口径22.2 器高11.9			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H117		N10E7	第2河道 堆積土	口径18.4 器高 5.6			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H118	105	N16E7	4	口径14.6 器高 4.3			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H119	105	N10E7	4	口径16.0 器高 7.7			ハケ日、ケズリ。ヨ コナデ	
甕	II ₂	H120	104	N107	5-1	口径15.1 器高 8.1	被状文(クシ)	ハケ日、ヨコナデ、 ケズリ		
甕	II ₂	H121	105	N13E8	4	口径18.0 器高10.0			ハケ日、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	II ₂	H122	105	N16E8	4	口径14.1 器高 3.6			ヨコナデ	
甕	II ₂	H123	105	N11E6	4	口径16.7 器高 4.9			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H124	105	N18E9	第2河道 堆積土	口径16.6 器高 6.0			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H125	105	N11E4	4	口径14.4 器高 5.7			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H126		N16E7	第2河道 堆積土	口径15.8 器高 6.4			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H127	105	N11E4	4	口径13.3 器高 9.5			ハケ日、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	II ₂	H128	105	N16-17	4	口径14.0 器高 6.1			ヨコナデ。ケズリ	
甕	II ₂	H129	105			口径14.4 器高 3.6			ヨコナデ	松江市保管

器種	分類	番号	図版 ページ	出土地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
甕	II.	H130		N12E4	4	口径17.0 高さ7.5			ヨコナデ、ケズリ	
甕	II.	H131		N10E6	4	口径12.4 高さ4.3			ヨコナデ、ケズリ	
甕	II.	H132	105	N10E7	5-1	口径14.2 高さ8.5			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H133	105			口径13.3 高さ5.1			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H134	105	N13E5	4	口径13.9 高さ7.3			ヨコナデ、ケズリ、 ハケ目	
甕	II.	H135	105	N17E9	第2河運 埠積土	口径13.8 高さ2.9			ヨコナデ、ハケ目	
甕	II.	H136	105	N12E4	5	口径16.8 高さ9.0	直線文+波状文(上 もにクリ)		ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H137		N16E7	第2河運 埠積土	口径13.5 高さ6.3	口唇内側に肥厚		ヨコナデ、ケズリ	
甕	II.	H138		N10E7	4	口径12.0 高さ4.9	口唇内側に肥厚		ヨコナデ、ケズリ	
甕	II.	H139	105	N10E7	第2河運 埠積土	口径19.5 高さ7.8	口唇内側に肥厚		ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H140	105			口径14.6 高さ4.6			ヨコナデ	松江市保管
甕	II.	H141		N18E8	第2河運 埠積土	口径12.8 高さ5.1			ヨコナデ、ケズリ	
甕	II.	H142	105			口径21.2 高さ4.3	口縫大きく開く		ヨコナデ、ハケ目	
甕	II.	H143	105	N11E4	4	口径13.0 高さ3.1	口縫厚い		ハケ目、ヨコナデ	
甕	V	H144		N14E6	4	口径13.0 高さ2.5			ヨコナデ	
甕	II.	H145	105	N10E7	4	口径16.3 高さ4.3			ハケ目、ヨコナデ	
甕	II.	H146	105	N12E4	4	口径20.5 高さ5.3			ヨコナデ	
甕	II.	H147	105	N11E7	4	口径23.9 高さ3.1			ヨコナデ	
甕	II.?	H148	106			口径19.6 高さ3.8			ヨコナデ	松江市保管
甕	II.	H149	106			口径12.8 高さ4.6	口縫やや厚い		ヨコナデ、ケズリ	松江市保管
甕	II.	H150	106	N16E7	4	口径12.5 高さ8.0			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H151	106	N16E7	第2河運 埠積土	口径9.1 高さ6.9	口縫うすい		ヨコナデ、ハケ目、 ナダ、ケズリ?	
甕	II.	H152	106	N18E9	4	口径9.5 高さ5.7	口縫丸い		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	II.	H153	106	N11E4	4	口径13.6 高さ3.5			ヨコナデ、ハケ目、 ナダ	
甕	II.	H154		N15E7	4	口径15.1 高さ4.6			ヨコナデ、ケズリ	
甕	II.	H155	106	N13E4	4	口径17.0 高さ3.3			ヨコナデ	

器種	分類	揮番号	図版 ページ	出土 地點	層位	法 算 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
甕	II.	H156	102	E8 N17-18	第2河道 堆積土	口径16.6 器高 9.4			ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ 頭部口縁の境に蛇付	
甕	II.	H157	106	N11E7	4	口径23.7 器高 14.5		枕線文(ヘラ)	ヨコナゲ、ハケ目、 ナゲ、ケズリ	
甕	II.	H158	106	N11E7	第2河道 堆積土	口径19.8 器高 4.6			ヨコナゲ	
甕	II.	H159	106	N12E5	4	口径16.5 器高 3.1			ヨコナゲ	
甕	II.	H160	106	N11E6	4	口径17.6 器高 4.2			ヨコナゲ	
甕	II.	H161	106	N12E7	4	口径12.6 器高 7.6			ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H162	106			口径16.5 器高 5.5			ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H163	106	N16E7	4	口径14.6 器高 6.7			ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H164	106		4	口径12.9 器高 6.7	口縁直立		ケズリ	
甕	II.	H165	106			口径18.2 器高 5.6			ヨコナゲ、ケズリ	
甕	II.	H166	106	N18E8	第2河道 堆積土	口径20.4 器高 6.0			ヨコナゲ、ケズリ	
甕	II.	H167	106	N13E4	4	口径15.2 器高 6.5	口縁直列繩な継		ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H168	106			口径17.0 器高10.0	縦わざかに表現		ハケ目、ヨコナゲ、 ケズリ	松江市保管
甕	II.	H169	106	N13E7	第2河道 堆積土	口径16.8 器高 3.5			ヨコナゲ、ハケ目	
甕	II.	H170	106	N13E7	4	口径16.6 器高 3.4	口唇内側に巻き込む		ヨコナゲ	
甕	II.	H171		N14E5	4	口径15.0 器高 2.6			ヨコナゲ	
甕	II.	H172		N18E9	第2河道 堆積土	口径17.4 器高 5.0			ヨコナゲ、ケズリ	
甕	II.	H173		N17E8	4	口径12.7 器高 2.1			ヨコナゲ	
甕	II.?	H174	107	N17E8	4	口径10.8 器高 6.9			ヨコナゲ、ハケ目、 ナゲ、ケズリ	
甕	II.	H175	107	耕工中		口径16.7 器高 5.6			ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H176		N13E4	4	口径18.7 器高 3.6	口唇平坦		ヨコナゲ	
甕	II.	H177		E4 N12E3	4	口径14.9 器高 4.6	口唇平坦		ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H178	107	N14E5	4	口径14.0 器高 3.6	口唇曲取		ハケ目、ヨコナゲ	
甕	II.	H179		N11E4	4	口径24.1 器高 4.5	口唇平坦		ヨコナゲ	
甕	II.	H180	107	N17E7	第2河道 堆積土	口径16.7 器高 7.0			ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ	
甕	II.	H181	107	N16E7	4	口径15.1 器高 7.1	口唇平坦		ヨコナゲ、ハケ目、 ケズリ	

分類	捕獲番号	出土地点	層位	底量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要	H182	N16E8	4	口徑15.1 器高3.4	口唇平坦		ヨコナデ	
要	H183	107	N18E9	4	口徑17.2 器高6.0	口唇平坦	ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
要	H184	107	N12E7	4	口徑17.0 器高5.9	口唇肥厚	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	H185	107	N13E7	4	口徑16.0 器高4.6	口唇平坦	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	V.	H186	107	N17E8	4	口徑18.5 器高3.1		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ
要	V.	H187	107	N26E9	第2河運 堆積土	口徑14.0 器高5.8		ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ
要	V.	H188	107	N11E4	4	口徑12.9 器高7.4		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ
要	V.	H189	107	N14E5	第1河運 堆積土	口徑17.0 器高6.2	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
要	V.	H190		N17E8	4	口徑12.4 器高4.3	口唇肥厚	ハケ目、ヨコナデ
要	V.	H191		N12E4		口徑19.2 器高3.5	口唇平坦	ヨコナデ、ケズリ
要	V.	H192	107	N11E7	4	口徑18.4 器高6.5	口唇平坦	ヨコナデ、ケズリ、 ハケ目
要	V.	H193	107	N16E7	第1河運 堆積土	口徑20.2 器高4.4	口唇平坦	ハケ目、ヨコナデ
要	V.	H194	107	N15E7	第1河運 堆積土	口徑12.2 器高9.0	口唇平坦	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ
要	V.	H195	107	N11E7	4	口徑17.0 器高10.0	口唇平坦	ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ
要	V.	H196	107	N11E4	4	口徑16.1 器高2.9		ヨコナデ、ケズリ
要	V.	H197		N18E6	第2河運 堆積土	口徑22.0 器高4.2	口唇平坦	ヨコナデ
要	V.	H198		N18E8	第2河運 堆積土	口徑20.9 器高3.5	口唇平坦	ヨコナデ、ハケ目
要	V.	H199	107			口徑15.8 器高8.6	口唇平坦面	ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ
要	V.	H200		N13E6	第2河運 堆積土	口徑20.6 器高3.5		ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ
要	V.	H201	107			口徑15.4 器高4.8	口唇平坦	ヨコナデ、ケズリ
要	V.	H202				口徑17.6 器高4.4		ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ
要	V.	H203	107			口徑16.8 器高4.8	口唇平坦面	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ
要	V.	H204		N12E4	4	口徑15.6 器高5.3	口唇平坦	ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ
要	V.	H205	108	N10E7		口徑6.6 器高11.2	口唇丸い	ヨコナデ、ケズリ、 ハケ目
要	V.	H206	108			口徑13.7 器高3.2	口唇内面に段	ヨコナデ、ケズリ
要	V.	H207		N15E7	4	口徑15.4 器高4.1	口唇内面に段	ヨコナデ

器種	分類	揮番号	図版 ページ	出土 地點	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
甕	V ₃	H208		N15E8	4	口径16.4 器高4.5	口縁平坦		ヨコナデ。ハケ目	
甕	V	H209	108	N17E8	4	口径15.4 器高4.9	口縁内面に段		ヨコナデ。ハケ目、 ナデ	
甕	V	H210	108	N12E5	4	口径17.6 器高5.3			ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	V ₂	H211	108	N15E7	4	口径12.5 器高9.0	口唇内面段		ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V	H212		N18E9	第2河遺 堆積土	口径19.4 器高4.3			ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V	H213		N11E4	4	口径15.2 器高4.5	口唇内面段		ヨコナデ	
甕	V	H214	108	N11E4	4	口径15.9 器高3.9	口唇内面段		ヨコナデ。ハケ目	
甕	V	H215	108			口径12.6 器高10.8			ヨコナデ。ハケ目、 ヘラケズリ	松江市保管
甕	V	H216	108	N25E8	第2河遺 堆積土	口径15.5 器高10.7			ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V	H217	108	N107	4	口径14.6 器高4.4	口唇内面段		ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V	H218	108	N11E4	4	口径12.8 器高8.7	口唇肥厚		ヨコナデ。ナデ。ハ ケ目。ケズリ	
甕	B	H219	108	N12E4	第2河遺 堆積土	口径16.2 器高18.1	口唇内面段		ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V	H220	108	N11E8	5	口径16.0 器高13.2	口唇内面段		ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V	H221	109	N17-18 E8	第2河遺 堆積土	口径14.0 器高11.9	口唇内面段		ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	E ₂	H222		N12E7	4	口径13.6 器高4.5			ヨコナデ。ケズリ	
甕	V ₂	H223		N18E8	4	口径16.6 器高4.3			ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V ₃	H224		N14E6	4	口径10.0 器高3.4			ヨコナデ。ケズリ	
甕	V ₃	H225		N17E8	4	口径17.5 器高4.1			ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V ₃	H226	109	N16E8	4	口径22.1 器高13.1			ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
甕	V ₃	H227	109	N16E8	5-1	口径13.4 器高3.2			ハケ目	
甕	V ₃	H228	109	N11E4	4	口径13.3 器高5.7	乳突文(具)		ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	
甕	V ₃	H229	109	N10E7	4	口径6.8 器高3.9			ヨコナデ。ケズリ	
甕	V ₃	H230	109	N13E6	4	口径15.7 器高7.6	口唇やや厚い		ヨコナデ。ハケ目、 ナデ。ケズリ	
甕	V ₃	H231	109	N16E7	第2河遺 堆積土	口径21.0 器高4.4			ヨコナデ。ハケ目	
甕	V	H232				口径13.8 器高4.4			ヨコナデ。ハケ目、 ケズリ	松江市保管
甕	V ₃	H233	109	N17E8	第2河遺 堆積土	口径11.7 器高6.9			ヨコナデ。ケズリ、 ハケ目	

分類	所蔵番号	図版番号	出上地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
要	V ₂	H234	109	N12E6	4	口径15.8 器高 8.5		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₂	H235	109	N15E6	4	口径 9.0 器高 6.1		ハケ日, ヨコナデ, ケズリ	
要	V ₃	H236	109	N11E4	4	口径16.2 器高 8.2		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₃	H237	110	N17E8	4	口径 9.0 器高12.3		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₃	H238	109	N13E7	4	口径13.7 器高 9.1		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₄	H239	109	N10E7	4	口径12.7 器高 6.0		ヨコナデ, ケズリ	
要	V ₅	H240	109	N16E7	4	口径15.7 器高10.8		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₆	H241	109	N10E7		口径15.9 器高 2.7			
要	V ₆	H242	110	N26H7	第2河道 堆積土	口径12.9 器高 7.1		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₇	H243	110	N15E6	4	口径13.2 器高 5.0		ヨコナデ, ケズリ, ハケ日	
要	V ₈	H244	110	N17E8	4	口径13.4 器高 4.5		ヨコナデ, ハケ日	
要	V ₉	H245	110	N16E8	第2河道 堆積土	口径19.0 器高 6.0		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₁₀	H246	110	N13E7	4	口径19.4 器高 4.2		ヨコナデ, ケズリ, ハケ日	
要	V ₁₁	H247	110	N10E7	4	口径12.2 器高 6.7		ヨコナデ, ケズリ, ハケ日	
要	V ₁₂	H248	110	N10E7	4	口径12.4 器高 7.2		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₁₃	H249	110	N12E5	4	口径 8.3 器高 8.4	口唇内面斜	ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₁₄	H250	110	N17E8	第2河道 堆積土	口径14.0 器高 6.5		ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₁₅ ?	H251	110	E4	N12E3	4	口径21.0 器高 4.6	網張らず	ヨコナデ, ケズリ
要	V ₁₆	H252	110	N10E7	4	口径17.0 器高 3.6	口唇肥厚し複合口縁 状	ヨコナデ, ケズリ	
V ₁₇	V ₁₇	H253	110	N18E8		口径13.2 器高10.2	口縁細く網張らず	ヨコナデ, ハケ日, ケズリ	
要	V ₁₈	H254	110	N12E4	4	口径11.6 器高 8.7		ナデ, ケズリ	
高坏	坏I	H255		N11E6	4	口径17.0 器高 6.0	縫文	ヘラミガキ, ヨコナ デ, 縫貼付	
高坏	坏I	H256		N16E7	8	口径20.2 器高 4.8	縫文	ヘラミガキ, ヨコナ デ	
高坏	坏I	H257		N16E7	4	口径16.3 器高 5.7		ハケ日, ヨコナデ, ナデ	内面擦痕
高坏	坏I	H258	111	N11E4		口径18.1 器高 5.5		ヘラミガキ, ヨコナ デ, ハケ日	
高坏	坏I	H259	111	N19E9	4	口径17.7 器高 5.9		ハケ日, ヨコナデ	

器種	分類	番号	図版 ページ	出土 地點	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
高 环I		H260		N16E8	4	口径17.2 器高 5.8			ヨコナガ。ハケ目。 ナデ	
高 环I		H261	111	N12E5	4	口径18.6 器高 6.7		縄文	ハケ目。ヨコナガ。 ヘラミガキ	
高 环I		H262		N11E7	4	口径19.2 器高 5.9			ヘラミガキ。ヨコナ グ	
高 环I		H263	112	N12E4	4	器高 4.0			脚接合部脚口縫。後 貼付	
高 环I		H264	111	N16E7	4	口径19.1 器高 5.4			ハケ目。ヨコナデ	
高 环I		H265	111	N12E7	4	口径18.4 器高 5.8		縄文	ハケ目。ヨコナデ	
高 环I		H266	111	N18E8	4	口径22.6 器高 13.5 底径13.6		縄文	ハケ目。ヨコナガ。 腰貼付	
高 环I		H267		N12E4	4	口径17.0 器高 4.4	口唇内側凹		ハケ目。ヨコナデ	
高 环I		H268				口径16.8 器高 6.1				松江市保管
高 环?		H269	112	N12E4	4	口径26.4 器高 5.0	外裏中央に後		ヨコナガ	
高 环?		H270	112	N12E5	4	口径24.8 器高 4.6	口縁短い		ヘラミガキ。ヨコナ グ	
高 环		H271	112	N16E8	5-1	口径20.0 器高 3.4	口縁短く外反		ヨコナデ	
高 环		H272	112	N16E8	4	口径15.8 器高 13.0			ハケ目。ナデ。ケズ リ。ヘラミガキ	
高 环I		H273		N12E4	4	口径17.9 器高 5.5			ヨコナガ。ハケ目	
高 环I		H274	112	N13E4	4	口径16.0 器高 6.3			ハケ目。ナデ	
高 环I		H275		N17E8	第2回道 堆積土	口径15.6 器高 5.7			ナデ。ハケ目	
高 环I		H276	111	N12E7	4	口径18.7 器高 6.4			ヨコナデ。ハケ目	
高 环?		H277		N13E6	第2回道 堆積土	口径17.8 器高 7.9	深身		ハケ目。ナデ。ヨコ ナデ	縄?
高 环?		H278	111	N16E7	4	口径15.4 器高 6.3			ハケ目。ヨコナデ	
高 环?		H279		N16E8	4	口径18.1 器高 6.2	口縁外反		ヨコナガ	
高 环?		H280	111	E4 N12-13	4	口径15.3 器高 6.4	口縁平足		ハケ目。ヨコナデ	
高 环?		H281	111	N17E7	第2回道 堆積土	口径17.4 器高 5.7			ヨコナデ。ハケ目	
高 环?		H282		N11E4	4	口径11.9 器高 5.2			ハケ目。ヨコナデ。 ヘラミガキ	
高 环?		H283	112	N10E7	第2回道 堆積土	口径13.6 器高 6.1			ヘラミガキ。ヨコナ グ	
高 环?		H284	111	N10E7	5-1	口径13.1 器高 6.3	脚広がる		ヘラミガキ。ヨコナ グ	低脚环?
高 环?		H285				口径16.6 器高 4.2				松江市保管

器種	分類	掲載番号	図版ページ	出土点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
高环	环Ⅰ	H286		N17E8		口径16.8 基高3.4			ヘラミガキ。ナデ?	
高环	环Ⅱ	H287	112	N12E4	4	口径11.9 基高4.3	口唇面取		ハケ目。ヨコナデ。 ナデ	
高环	环Ⅲ	H288	112			口径16.5 基高5.2				松江市保管
高环		H289		N11E4	4	基高3.0 底径11.6	端部肥厚		ケズリ。ヘラミガキ	
高环		H290	112	N19E7~9	4	基高5.7 底径11.0	やや粗脚		ハケ目	
高环	脚Ⅰ	H291	112	N16E7	第2河通 堆積土上	基高7.6 底径20.7			ハケ目。ケズリ。ヨ コナデ	
高环	脚Ⅱ	H292	112	N16E7	第2河通 堆積土上	基高7.7 底径13.7	下部で屈曲		ヘラミガキ。ヨコナ デ	
高环		H293		N12E4	5~1	基高3.4		直線文(ヘラ)	ヘラミガキ。ケズリ	
高环	脚Ⅲ	H294		N13E6	4	基高7.2 底径12.1			ヘラミガキ。ナデ。 ケズリ	
高环	脚Ⅳ	H295	112	N14E5	4	基高8.9 底径13.0			ヘラミガキ。ハケ目。 ケズリ	
高环	脚Ⅴ	H296		N19E9		基高8.0 底径10.5			ヘラミガキ。ヨコナ デ。ケズリ	
器台		H297		N11E7	4	口径13.6 基高4.8		直線文(クン)	ヘラミガキ	
器台		H298	112	N10E7	4	口径18.3 基高5.0			ヘラミガキ。ヨコナ デ	
器台		H299	112	N13E7	4	口径16.7 基高4.3			ヘラミガキ。ヨコナ デ	
器台		H300		N16E7	第2河通 堆積土上	口径19.4 基高5.2			ヘラミガキ。ヨコナ デ。後は黏付	
器台		H301		N13E4	4	口径21.6 基高7.1			ヘラミガキ。ヨコナ デ	
器台		H302	112	N24F8	第1河通 堆積土上	基高6.8 底径18.4			ヨコナデ。ケズリ。 ヘラミガキ	
器台		H303	112	N11E4	4	口径20.4 基高6.5		斜変文(ヘラ)	ヨコナデ。ケズリ	
器台		H304	112	N16E7	第2河通 堆積土上	基高5.2 底径16.7			ヨコナデ。ケズリ。 ヘラミガキ	
器台		H305		N16F8	4	口径24.4 基高8.3			ヘラミガキ。ヨコナ デ	
器台		H306		N12E4	4	口径19.3 基高5.9			ヨコナデ。ヘラミガ キ。ケズリ	
器台		H307				基高5.6 底径15.4			ヨコナデ。ヘラケズ リ	松江市保管
器台		H308				基高7.6 底径20.8			ヨコナデ。ヘケズ リ	松江市保管
器台		H309				基高5.2 底径16.0				松江市保管
低脚环		H310		N11E7	1~2	口径4.0 基高5.2			ハケ目。ヘラミガキ	
低脚环		H311	113	N17E7	4	口径3.5 基高6.8			ヘラミガキ。ハケ目。 ヨコナデ	

器種	分類	標	図版番号	山	土	地點	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
低脚环		H312	113	N11E4				基高 3.6 底径 6.8			ハフミガキ、ヨコナ デ、ケズリ	
低脚环		H313		N11E4	4			基高 3.4		円形透孔	円板充填、ハケ目	
低脚环		H314	113	N13E4	4			基高 4.6 底径 9.0			ハフミガキ、ヨコナ デ	
低脚环?		H315	113	N12E7	4			基高 7.4 底径 4.8			ハケ目、ケズリ、ミ カキ	
低脚环		H316	113	N13E4	4			基高 5.8			ハケ目、ハフミガキ、 ケズリ	
低脚环		H317	112	N11E4	4			口徑12.4 基高 3.4 底径 3.4			ハケ目、ハフミガキ、 ヨコナデ	
低脚		H318		N16E7	第2河濱 堆積土			基高 4.2 底径 8.0			ハケ目、ヨコナデ、 ナデ	
低脚环		H319	113					基高 2.7 底径 6.1			ヨコナデ	
低脚环		H320		N12E4	4+5			基高 2.7 底径 9.7			ハケ目、ヨコナデ	
脚		H321		N13E7	5-1			基高 4.5			ナデ?、ケズリ	跡生?
鋸		H322	113	N17E8	4			口徑12.1 基高 2.4			ヨコナデ	
鋸		H323	113	N13E4	4			口徑13.3 基高 4.6			ヨコナデ、ケズリ	
鋸		H324	112	N19E	第2河濱 堆積土			口徑10.0 基高 5.1			ハケ目、ナデ、ヘラ ミガキ	
鋸		H325		N13E7	4			口徑12.6 基高 4.7			ハケ目、ヘラミガキ?	
鋸		H326	113					口徑13.8 基高 5.0			ハケ目、ナデ	
鋸?		H327	113	N12E4	4			口徑15.6 基高 4.8	口輪肥厚		ヨコナデ、ケズリ	
鋸		H328		N12E7	4			口徑12.9 基高 5.7			ナデ、ケズリ	
鋸		H329		N13E4	4			口徑 9.4 基高 2.6			ヨコナデ、ケズリ	
鐵		H330	113	N23E8	第1河濱 堆積土						ナデ、ケズリ	
鐵		H331	113	N20E5	第1河濱 堆積土			口徑 7.6 基高 14.2				
		H332	113					基高 9.4			ヨコナデ、ヘラケズ リ	松江市保管
丸小 底盤	I	H333	113	N11E4	4			口徑10.0 基高 7.9			ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	
丸小 底盤	I	H334		N11E4				口徑13.0 基高 6.6			ヨコナデ、ハケ目	
丸小 底盤	I.	H335										松江市保管
丸小 底盤	II	H336		N14E6	4			口徑 7.3 基高 7.0			ヨコナデ	
丸小 底盤	II	H337	113	N19E8	4			口徑 9.6 基高 7.2	口唇平坦		ヨコナデ、ハケ目、 ケズリ	

器種	分類	捕獲番号	図版ページ	出土点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
丸小底盤型	II	H336	113	N11E7	5-1	口径12.8 脚高8.8			ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
丸小底盤型	II	H339		N15E7	4	口径11.3 脚高5.2			ヨコナデ	
丸小底盤型		H340		E4 N12-13	5	口径10.6 脚高5.9			ヨコナデ	
丸小底盤型	II	H341	113	N15E7	5-1	口径7.2 脚高8.1	微丸い		ヨコナデ、ハケ日、ケズリ、ナデ	
丸小底盤型	I	H342		N17E7	第2河道 地盤土	口径6.2 脚高5.8			ヨコナデ、ハケ日、ナデ	
丸小底盤型	II	H343	113	N18E8	第2河道 地盤土	口径7.3 脚高7.5	後不規則		ハケ日、ヨコナデ、ケズリ	
丸小底盤型	II	H344	113	N13E5	4	口径8.8 脚高8.6	底部わずかに平底		ヨコナデ、ハケ日、ナデ、ケズリ?	
丸小底盤型	II	H345	113	N19E9		口径6.2 脚高5.0			ヨコナデ、ナデ	
丸小底盤型	I	H346	113	N11E4	4	口径6.8 脚高7.4			ケズリ、ヨコナデ	
丸小底盤型	I	H347	113	N14E6	4	口径6.5 脚高6.8			ハケ日、ナデ、ヨコナデ	
丸小底盤型	I	H348	113	N16E7	4	口径5.8 脚高7.3			ヨコナデ、ハケ日、ケズリ	
丸小底盤型	I	H349	113	N12E8	5-1	口径6.3 脚高6.6			ヨコナデ、ハケ日	
丸小底盤型	I	H350	113	N13E5	5-1	口径6.1 脚高7.2		垂下直線文(ヘラ)	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	
丸小底盤型	II	H351	114	N14E5	5	口径6.4 脚高4.0			ヨコナデ、ナデ	
丸小底盤型	I	H352		N11E7	4	口径7.1 脚高4.3			ハケ日、ヨコナデ	
丸小底盤型	II	H353	114	N16E7	4	口径9.1 脚高11.1			ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
丸小底盤型	II	H354	114	N12E4	5-1	口径8.0 脚高10.5			ヨコナデ、ハケ日、ナデ	
丸小底盤型	I	H355	114	N13E5	5	口径9.0 脚高6.8			ヨコナデ、ハケ日、ヘラミガキ	
丸小底盤型	II	H356	114	N12E4	4	口径6.2 脚高8.1			ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
亞		H357	114	N14E6	第2河道 地盤土			スタンプ文、羽状文		
亞		H358	114				上面平坦	スタンプ文	回転ナデ	松江市保管
		H359	114	N15E6	4			羽状文(貝)	ケズリ	
		H360	114	N13E7	4			ヘラ沈線文	ケズリ、ハケ日	
环		H361	155	第2河道		口径11.0 脚高5.2	丸底			
环		H362	155	第2河道		口径15.2 脚高5.0	口縁端わずかに外反、丸底			
环		H363	155	第2河道		口径14.0 脚高5.2 底径5.8	やや深身	放射、ワセン状の點文	神山系切削周辺を回転ヘラケズリ	

器種	分類	排図番号	国版ページ	山土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
壺		H364	155	第2河道 堆積土	口径17.7 器高 8.0		口縁軽く外反		ヨコナデ、ケズリ	
壺	V	H365	155	N17E7	6	口径9.6 器高 4.5	口縁軽く外反		ヨコナデ、ヘラケズ リ、ハケ目	
壺		H366	155	第2河道 堆積土	口径16.9 器高 6.3		口縁軽く外反		ハケ目、ヨコナデ、 ケズリ	
壺		H367	155	第2河道 堆積土	口径19.2 器高 6.3		口縁上部さらに外反		ヨコナデ、ケズリ	
壺		H368	155	第2河道 堆積土	口径26.3 器高 5.1		口縁やや長く外反		ヨコナデ	

4. 須 惠 器

須恵器は後述の通り第2河道中からまとまって出土したが、4～6層中からはほとんど出土していない。わずかに図示した4点（第89図 国版114）が4層上部（4～1層）から出土したに過ぎず、5層以下からはまったく出土していない。

SU123は肩部がかなり強く張る胴部である。腹胸部に似るが、円孔が窓えないため壺の可能性もある。胴部には直線文間に波状文が施される。肩部には緑色の厚い自然釉がかかっている。

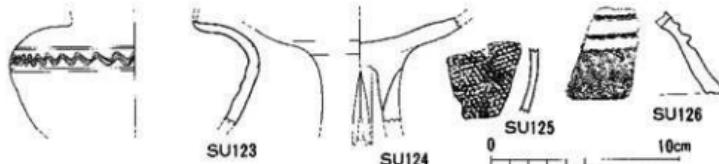
SU124は高坏环部と脚部の境である。脚部には三角形の透孔が二方に穿たれている。

SU125は壺または壺の胴部小片である。器壁が薄いことを考えると壺であろうか。外面には小さな格子叩き痕がみられ、内面はていねいなナデ調整が施される。

SU126は一見壺または壺の口縁部に見えるが、上端に円形透孔が窓えることから脚端部と判断した。上部に太い突線文2条、さらにその下に波状文が施される。

これらはいずれも古墳時代の須恵器で、SU123がI～II期、124がIII期と思われる。SU125は叩き目が格子で細かいことなどから古朴の須恵器と思われるが、小片のため詳細な時期は不明である。

註1 山本 清 「山陰の須恵器」『島根大学開学十周年記念論文集』 1960 島根大学



第89図 須恵器 壺・高坏ほか 1:3

5. ミニチュア土器

壺形、甕形、碗形、鉢形、高环形、杓子形など55点を図示した。これらは明らかに土器を模倣したものとわかるものほか、非常にていねいな作りの精製ともいべき土器がある。この精製土器は仮器としてのいわゆるミニチュア土器としてよいのか、実用的な小型土器とすべきか判断し難いが、ここではミニチュア土器として扱う。

壺形（第90図M1～18 図版115） M1～M10は比較的忠実に壺を模倣したものである。調整も比較的ていねいで、ヘラミガキ調整が施されるものがみられる。明らかに仮器と思われるM1・2・4・5・8である。M6はミニチュア土器中最も大きな土器で、実用品の可能性がある。文様が描かれるのはM1・2・4のみで弥生前期壺同様ヘラ書き直線文を表現したものであろう。M3・7～8も弥生前期壺を模倣したものであろうか。M8は脚付の壺で、M11～15は無頸壺である。M11・13はていねいに作られ、口縁部には1～2個の小孔が穿たれている。特に13はていねいに作られており実用品の可能性がある。なおM11の口縁部は上面形が方形をしているのが特徴的である。M14～18は手捏痕がよく残り、仮器である可能性は強い。

甕形（第91図M20～25 図版115） 深身のものを甕形とした。壺形と違い、弥生土器を忠実に模倣したものはないが、作りはていねいである。

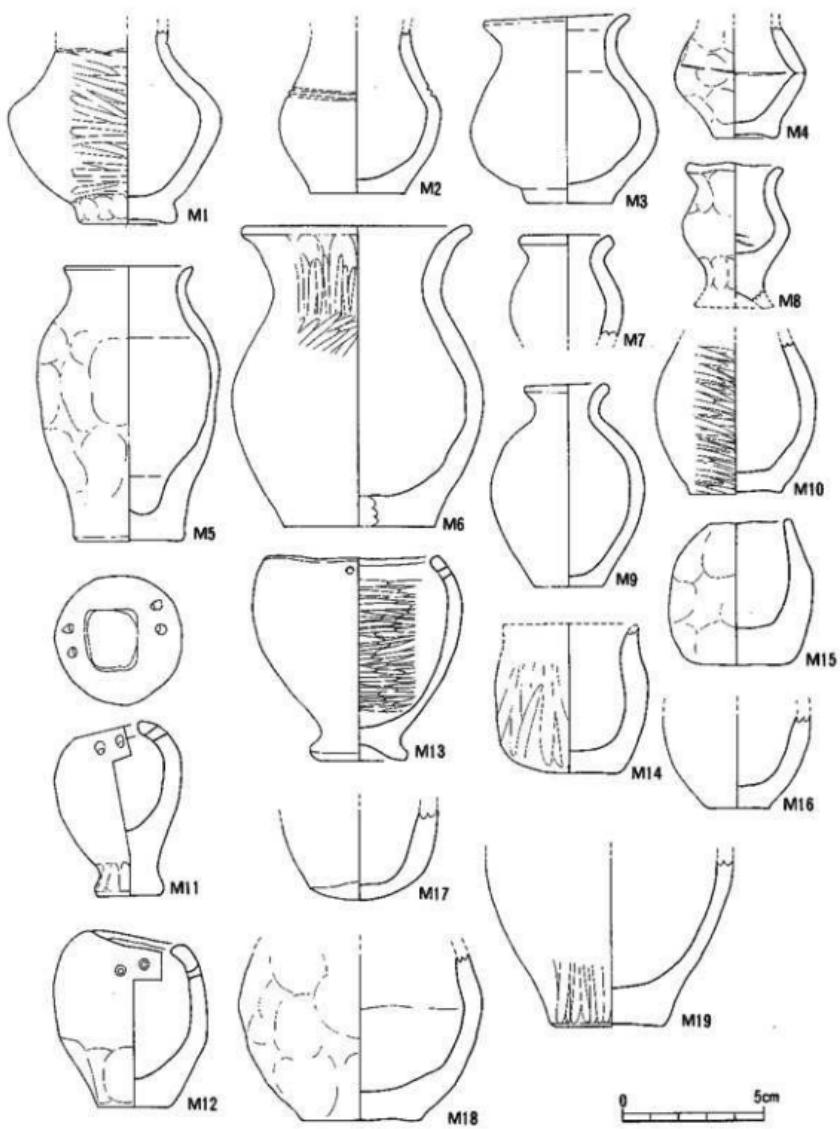
碗形（第91図M26・29 図版115） 底部は丸底で、口縁部は内湾する。M29は口縁部がわずかにくびれる。作りは雑で、手捏痕が明瞭に残る。

鉢形（第91図M27・28・30～41・54 図版116） 浅身のものを鉢形とした。口縁部はM38が直立する以外は外傾し、底部は平底ないしは丸底気味の平底である。M27は外面にヘラミガキ調整が施され整った形をするが、その他は調整が雑で手捏痕が明瞭に残る。いずれも仮器であろう。

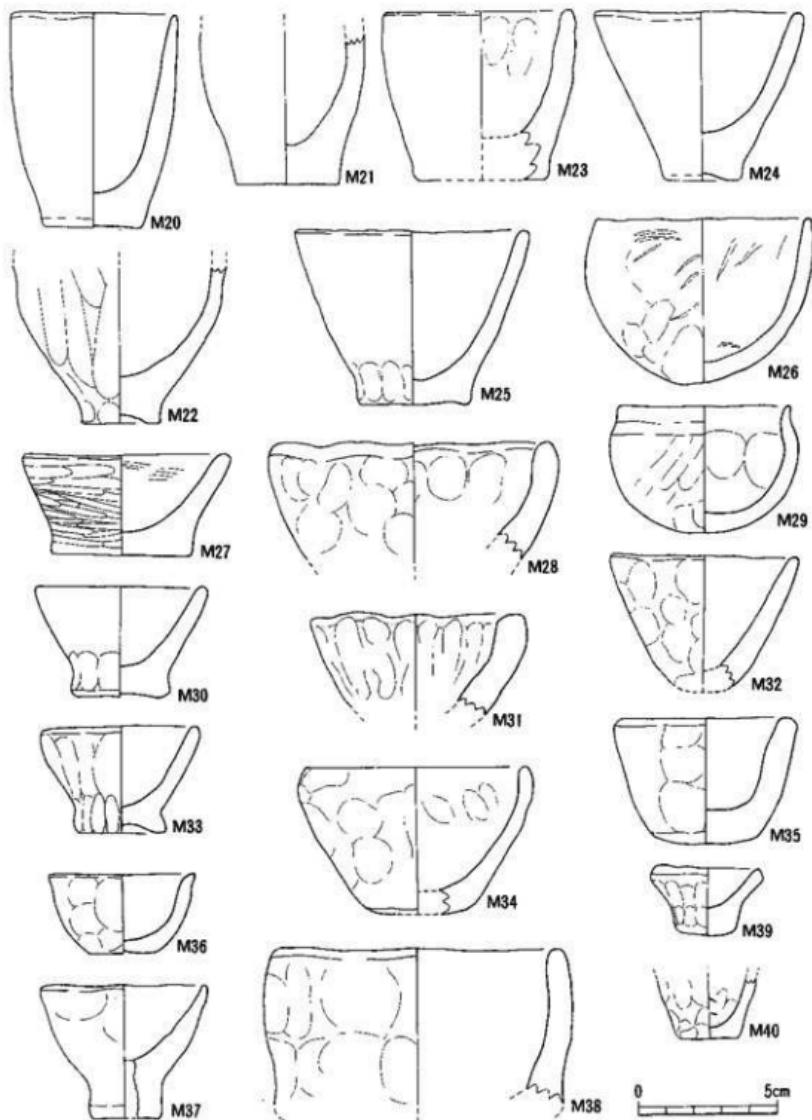
高环形（第92図M51～53 図版116） 完形はM51のみで、他は脚が残存するだけである。脚はいずれも柱状であるが、M52は小孔が貫通し、高环の脚を模している。いずれも雑なつくりで手捏痕が残る。

杓子形（第92図M55 図版116） 身部2分の1が欠損しているため杓子形とは断定できないが、身部の形状から杓子形と判断した。比較的ていねいな作りで、手捏痕はみられない。

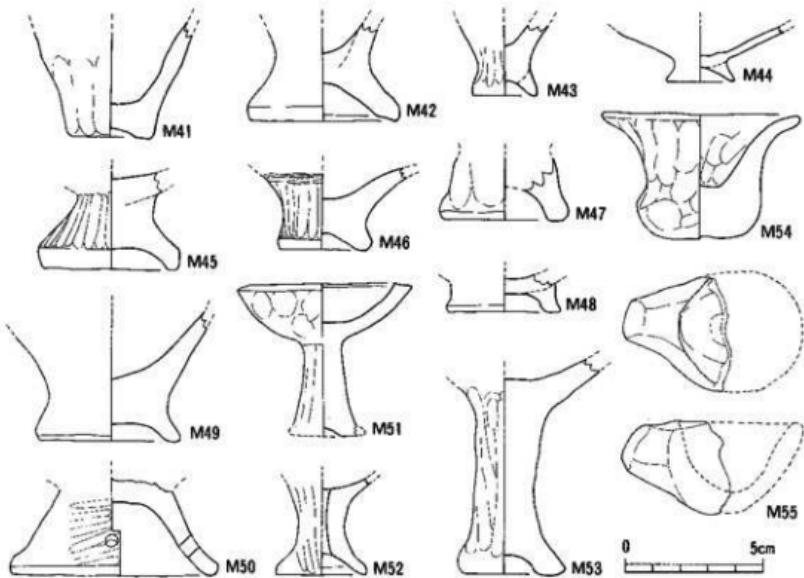
脚（第92図M42～50 図版116） 壺または鉢などの脚と考えた。M45・49・50は非常にていねいなつくりで、実用品の可能性もある。他の調整は雑で手捏痕が明瞭であることから、仮器と思われる。



第90図 ミニチュア土器(1) 壺形 1:2



第91図 ミニチュア土器(2) 瓢・鉢・椀形 1:2



第92図 ミニチュア土器(3) 脚・高環・杓形 1:2

ミニチュア土器一覧表

器種	分類	掲 番 号	國 版 頁 数	出 土 地 点	層 位	法 蓋 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備 考
壺		M1	115	N25E7	5	器高 7.0 底径 3.0		直線文1(ヘラ)	ヘラミガキ	弥生前期
壺		M2	115	N22E6	5	器高 5.8 底径 3.4		直線文2(ヘラ)	ヘラミガキ, ナゲ	弥生前期?
壺		M3	115	N17E8	4	口径 5.2 器高 6.7 底径 3.1				弥生前期?
壺		M4	115	N18 E8~9	4	器高 4.0 底径 2.2		直線文1(ヘラ)	手捏ね	
壺		M5	115	N17E9	4	口径 4.5 器高 9.8 底径 3.7	長脚		手捏ね	弥生前?
壺		M6	115	N21E5	4	口径 8.0 器高 10.7 底径 5.4	広口		ヘラミガキ, ナゲ	精製
壺		M7		N12E4	4	口径 3.2 器高 3.6	口縁短い			弥生前期?
壺		M8	115	N11E4	4	口径 3.4 器高 4.9	脚付		手捏ね	

器種	分類	排便番号	固版ページ	出土地点	層位	法量(cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
糞		M9	115	N11E4	6	口径 3.1 器高 7.2 底径 2.5	短頸			粘製 弁生中期?
糞		M10	115	N13E5	6	口径 5.4 器高 5.2 底径 3.2			ハラミガキ、ナデ	粘製 弁生前期?
糞		M11	115	N18E7	5	口径 2.4 器高 6.2 底径 2.3	口縫上面方形		ナデ	粘製 弁生中期?
糞		M12	115	N11E4		口径 3.8 器高 6.1 底径 2.5			手捏ね、ナデ	弁生前期?
糞		M13	115	N11E4	4	口径 6.2 器高 7.2 底径 3.1	高台状の底部		ハラミガキ	弁生前期?
糞?		M14	115	N21E5	4	器高 5.0 底径 2.8			粘いハラミガキ、ナデ	
糞		M15	115	N22E5	4	口径 2.9 器高 5.1 底径 3.5			手捏ね、ナデ	弁生前期?
糞?		M16		N18F	4	器高 3.3 底径 2.2				粘製
		M17		N22E5	4	器高 3.2				弁生前期?
糞		M18	115	N11E7	第2回遺堆積土	器高 5.9 底径 4.2			手捏ね	
糞		M19		N17E8-9	4	器高 6.0 底径 3.9			ハラミガキ、ナデ	粘製 弁生前期?
糞		M20	115	N17E8	6	口径 6.0 器高 7.6 底径 3.5			ナデ	弁生前期?
糞?		M21		N18E9	6	器高 5.4 底径 3.7			手捏ね、ナデ	弁生前期
糞		M22		N14E6	5-2	器高 5.5 底径 2.8			手捏ね、ナデ	
糞		M23	115	N12E4	第2回遺堆積土	口径 6.7 器高 6.0 底径 4.4			手捏ね?	
糞		M24	115	N18E8	6	口径 7.4 器高 6.0 底径 2.5			ナデ	粘製 弁生前期?
糞		M25	115	N16E8	4	口径 8.4 器高 6.2 底径 3.9				粘製
糞?		M26	115	N14E5	4	口径 7.7 器高 5.9			手捏ね、ナデ、ハケ目?	
糞?		M27	115	N17F	6	口径 7.4 器高 5.5 底径 5.0			ハラミガキ、ナデ、ハケ目?	粘製 弁生前期?
糞?		M28	115	N11E7		口径 9.8 器高 4.2			手捏ね	
糞?		M29	115	N11E4	4	口径 6.2 器高 4.5			ヨコナデ、ミガキ、手捏ね	
糞		M30	115	N11E7	4	口径 6.2 器高 3.9 底径 3.2				粘製
糞		M31	115	N13E4	4	口径 7.2 器高 3.4			手捏ね	
糞		M32	115	N12E4	4	口径 6.7 器高 4.6			手捏ね、ナデ	
糞		M33	115	N22E5	4	口径 5.6 器高 3.8 底径 3.0	高台状の底部		手捏ね、ナデ	
糞		M34	116	N19E9	4	口径 7.9 器高 5.2			手捏ね	

器種	分類	揮因 番号	図版 ページ	出土地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
鉢		M35		N11E4	4	口径 5.7 器高 4.4			手捏ね、ナゲ	
鉢		M36		N16E8	4	口径 5.2 器高 2.8 底径 2.5			手捏ね	
鉢		M37	116	N10E7	4	口径 5.9 器高 4.8 底径 2.3			手捏ね、ナゲ	
鉢?		M38	116	N11E7	4	口径 50.0 器高 5.5			手捏ね	
鉢		M39	116			口径 4.0 器高 2.4			手捏ね、ナゲ	
		M40		N18E8	6	器高 2.1 底径 2.1			手捏ね	
		M41	116	N12E7	4	器高 3.7 底径 2.7			手捏ね	
脚		M42	116	N14E7	第2河辺 地植土	器高 3.3 底径 5.2			ケズリ?	精製
		M43	116	N13E5	第2河辺 地植土	器高 2.5 底径 2.2	高台状の脚		ヘラミガキ、ナゲ	精製
		M44	116	N17E7	第2河辺 地植土	器高 2.0 底径 2.5	高台状の底部		手捏ね	
		M45	116	N10E7	第2河辺 地植土	器高 3.4 底径 4.8			ヘラミガキ、ナゲ, ヨコナゲ	精製
		M46	116	N17E7	第2河辺 地植土	器高 3.0 底径 3.1	高台状の底部		ヘラミガキ、ナゲ	精製、基?
脚		M47	116	E8 N13-17	4	器高 2.2 底径 4.7			手捏ね	
脚		M48	116	N12E4	4	器高 1.3 底径 4.0	高台状の脚		ナゲ、手捏ね	精製?
		M49	116	N12E4	4	器高 4.7 底径 4.9	高台状の底部			弥生後期?
脚		M50	116	N16E7	6	器高 3.4 底径 7.2			ヘラミガキ、ナゲ	精製
高环		M51	116	N12E4	4	口径 6.2 器高 5.5			手捏ね、ナゲ	
器台?		M52	116	N12E7	5-2	器高 3.3 底径 3.2			ヘラミガキ、ナゲ	精製?
高环		M53	116	N12E7	4	器高 2.7 底径 3.5			手捏ね、ナゲ	
鉢?		M54	116	N17E9	4	口径 7.0 器高 4.5 底径 2.3	口擴大きく聞く		手捏ね	
舟子?		M55	116	N10E6	8				手捏ね	

6. その他の土器

韓式系土器（第93図E1～12 図版116） いずれも小片で全形を窺えるものは少ない。E1～5は縄文が施されるもので、内面はていねいにナデ調整が施される。E1が比較的器形を窺うことができるが、頸部、口縁部は緩く外反するようである。E6～10は格子叩きが施されるものである。E6は把手の部分で、把手上面は強いナデによってわずかに凹む。E8は變形土器で、頸部は「く」の字形に屈曲し、口縁端部は肥厚しクシ描きの直線文が施される。E11は環状の把手がつく胴部片である。上部にはわずかに段がつくようである。E12は瓶の底部で、わずかに格子叩きが観察できる。底部には円孔の一部が残る。

埴輪（第93図E13～16 図版117） 10数点出土しているが、いずれも摩滅が著しく、図示した4点は比較的残存状態がよいものである。E13は口縁部、E14・16はタガ部分、E15は基底部である。E13・14は外面がナナメハケ、内面がヨコハケ、E16は内外面ともナナメハケ調整である。E15は風化が著しいが、基底部に二次調整が施されるようである。

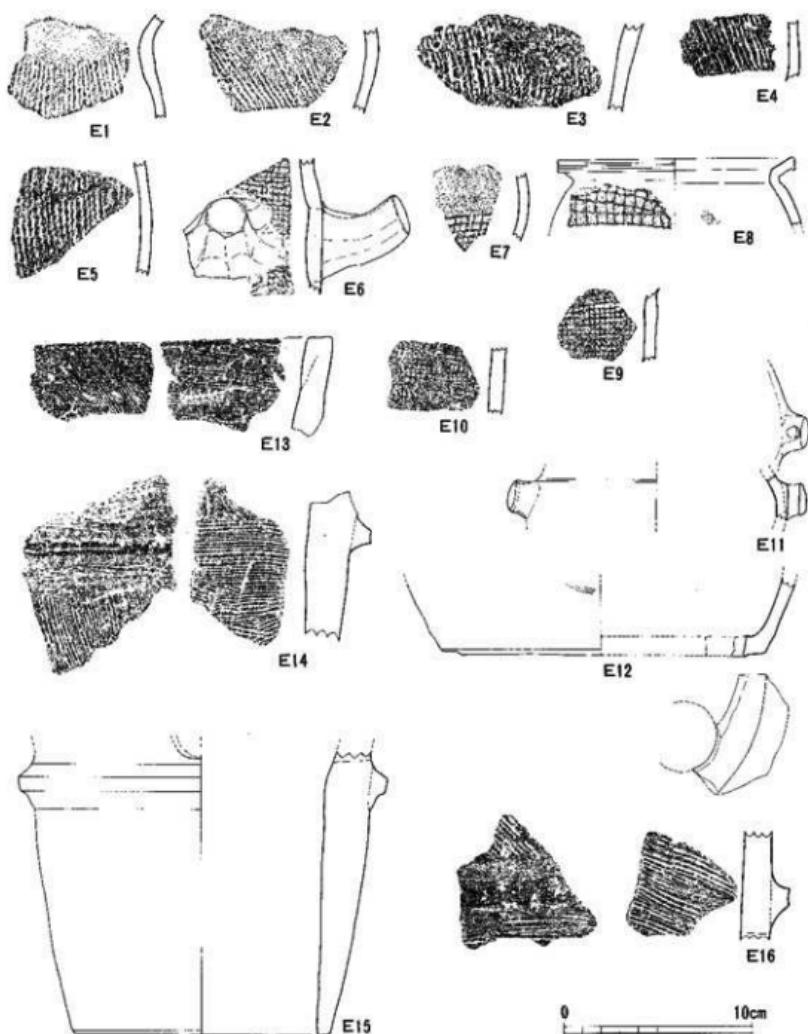
壺（第94図E17 図版117） 基底部片が1点出土している。

碗（第94図E18 図版117） 丸底で口縁部が大きく開く。内面、底部を粗くヘラケズリ調整するため、非常に雑な感じがする。一見縄文土器の感じを受けるが、土師器である可能性も捨てきれない。

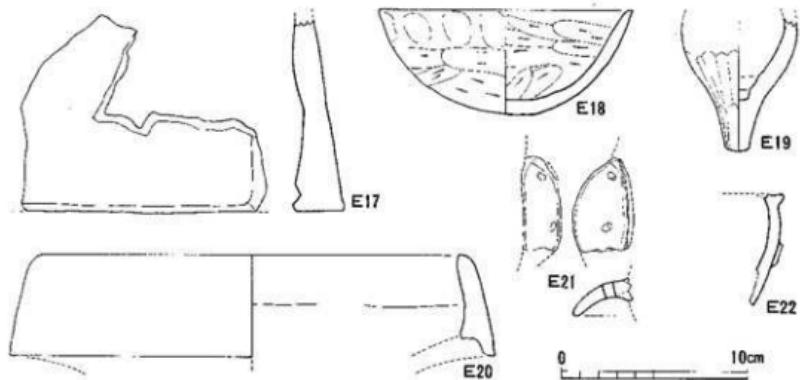
壺（第94図E20 図版117） 上部の小片のみ残るため、全体の器形、器種は不明である。下端の破面は擬口縁となっており、それから推定すると本来は複合口縁であったと思われる。この種の土器は当地方ではあまり出土していないため時期は不明である。

つまみ？（第94図E21 図版117） 平面形は半円形で、断面形が弧状を呈すものである。小孔が2個穿たれており、一侧縁は擬口縁となっている。弥生土器壺の頸部に同様のつまみが付くものがあり（第28図Y75）つまみの可能性が強いが、不明確である。胎土などは弥生土器に似る。

器種不明土器（第94図E19・22 図版117） ともに小片で全形は窺えない。E19は底部に柱状の突起がついていわば尖底の土器である。内面底部は大きく凹む。E22は小型の無頸壺または鉢のような器形をするが、小片のため定かではない。口縁部は肥厚し平坦面をなし、胸部には円形浮文をつける。これらは胎土、調整など弥生時代中期の土器に似るが、弥生土器という確証はない。



第93図 その他の土器(1) 韓式土器・埴輪 1:3



第94図 その他の土器(2) 電・時期不明土器 1:3

その他の土器一覧表

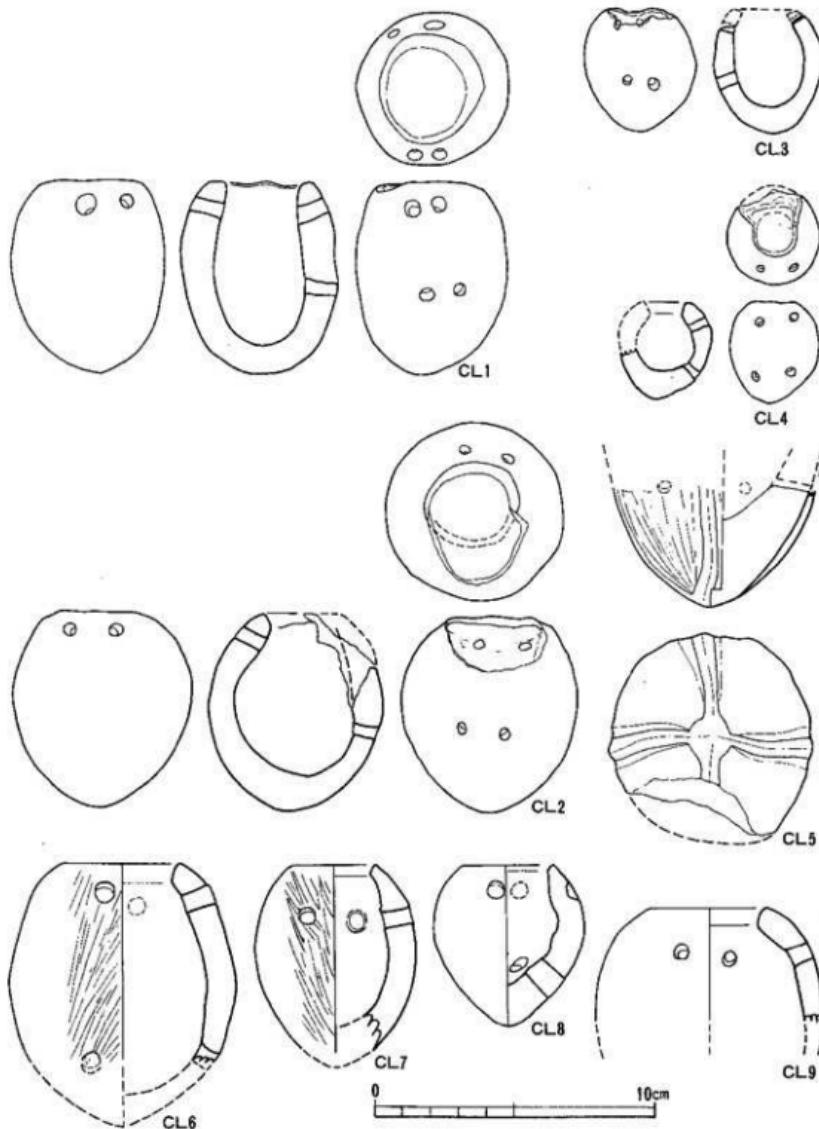
器種	分類	標番号	図版 番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
縁?		E1	116	N19E9	第2河道 堆積上		口縁緩く外反	繩目文	ナデ	
		E2	116	N17E8	第2河道 堆積上			繩目文	ナデ	傳式系
		E3	116	N16E8	6			繩目文		傳式系
		E4	116	N11E4	4			繩目文	ケズリ	傳式系
		E5	116	N18E8				繩目文	ナデ	傳式系
縁		E6	116	N16E7	4		把手上面やや凹む		格子叩き、ナデ	
		E7	116	N17E7	第2河道 堆積土				格子叩き、ナデ、ヨコナデ	傳式系
縁?		E8	116	N17E8	第2河道 堆積上	口径12.5 器高 3.6	口縁肥厚	直線文3(クシ?)	格子叩き、ハケ目、 ナデ	傳式系
縁?		E9	116	N14E5			口縁外反		格子叩き、ナデ	傳式系
		E10	116	N18E6	第2河道				格子叩き、ナデ	傳式系
縁?		E11	116	N22E5	8		低いつまみ(円孔あ り)	上部に段		傳式系
縁		E12	116	N17E9	第2河道 堆積土	口径 3.8 底径 17.4	底部に円孔		ヨコナデ、叩き	傳式系
縁輪		E13	117	N12E7	第2河道 堆積土				ヨコナデ、ハケ目	
縁輪		E14	117	N25E7	第2河道 堆積土				ハケ目、ナデ	

器種	分類	揮番号	図版 頁	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態の特徴	文様の特徴	手法の特徴	備考
埴輪		E15	117	N13E7	第2河濱 堆積土	器高15.2 口径13.7	円形透孔		底部二次調整？	
埴輪		E16	117	N26E8	第2河濱 堆積土		円形透孔		ハケ目、ココナデ	
埴輪		E17	117	N18E8	第2河濱 堆積土				握押し	
筒瓦？		E18	117	N19E9	4	口徑13.5 器高 5.6 底径 5.3			ケズリ	鏡文か土器器？
		E19	117	N24E7	第2河濱 堆積土	器高 6.9	尖底		ヘラミガキ、ナデ	弥生前期？
甕？		E20	117	N13E5	4	口徑22.7 器高 5.5	複合口縁		ヨコナデ。下部に握 口縁	
		E21	117	N13E5	5-1				ナデ	把手か？
		E22				口縁測 L.J字？	円形浮文			時期不明 松江市保管

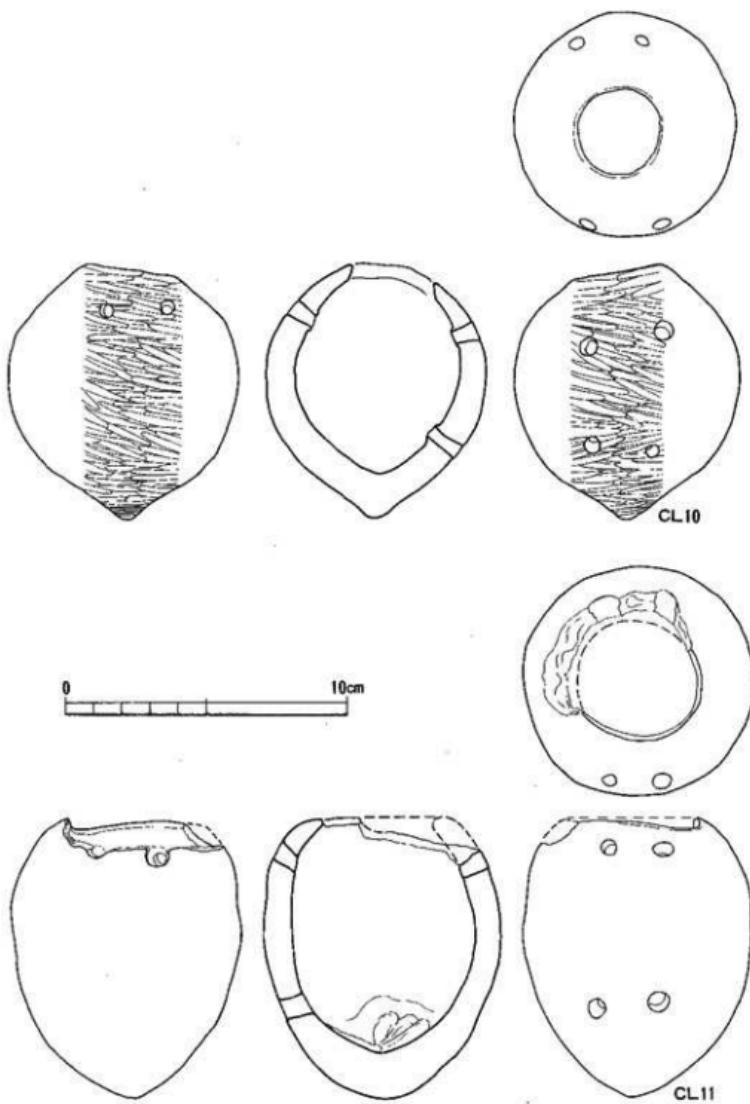
7. 土 製 品

土笛（第95回 CL 1～第97回 CL15・21 図版118, 119） 今回の調査では土笛は計17個出土し、そのうち16個を図示した。CL 9・13～15・21は小片で無頸壺ほか他器種の可能性も否定できないが、形状が土笛によく似ているため土笛と判断した。CL 1・2・7～9・12のように器高6～8 cm 前後を測るもののが一般的であるが、CL 2・3 のように器高3～4 cm の小型のもの、CL 10・11のように器高9～10 cm の大型のものもある。器形は正面形が卵形を呈し、吹口が胴部最大径より小さいのを基本とするが、口径と胴部と最大径があまりかわらないもの（CL 1）や、口径が極端に小さく桃果形を呈するもの（CL 10）など細部についてはバラエティに富む。CL 15は口縁部が短く直立するもので、他の土笛と形態が大きく違うが、底部が尖底であることなどから土笛と判断した。ほとんどの土笛には文様は施されないが、CL 5・15には胴部から底部に向って垂下する低い突帯文がレリーフ状に施されている。またCL 12には胴部に同様の突帯文と底部に1条の沈線文が施されている。全体に調整はヘラミガキ、ナデなどで非常にていねいに仕上げられているが、CL 1は調整が難で凸凹が著しい。孔は一面には上方に2個、一面に上・下方に各2個（計4個）穿たれている。なお、CL 8の上方の孔は貫通していない。

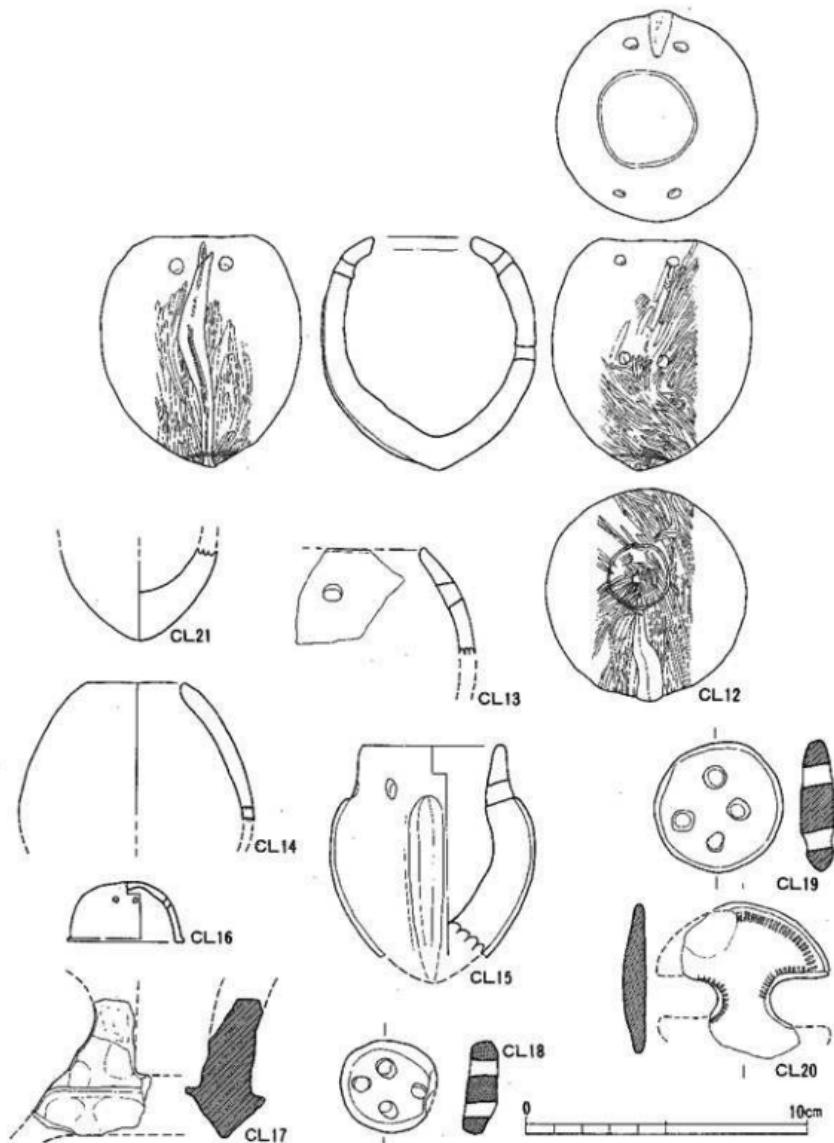
土笛は全国で、約50例出土しているといわれるが、そのうち西川津遺跡で18例、タテチョウ遺跡で19例（昭和52年度調査で2個出土）と朝鶴川流域で全国出土総数の3分の2を占めることになる。小片になると無頸壺と誤認しやすく、今後の注意しだいでは出土数の増加も考えられるが、当地での異常ともいいくべき土笛の出土数がどのような意味を持つか不明といわざるをえない。



第95図 土製品(1) 土笛 1:2



第96図 土製品(2) 土笛 1:2



第97図 土製品(3) 土笛・その他 1:2

蓋形土器（第97図 CL16 図版119） 小型で半球状を呈すもので、上部に2個一对の小孔が穿たれている。型作りによって作られたと思われる天井部内面には指印压痕が残る。類例がないため蓋であるか否か不明である。

不明土製品（第97図 CL17 図版119） 器面はわずかにカーブを描いているが、小片のため全形を窺うことはできない。下端は擬口縁となっており、両側縁は円形または方形の透孔があるようである。調整は全面に指印压痕がみられる。

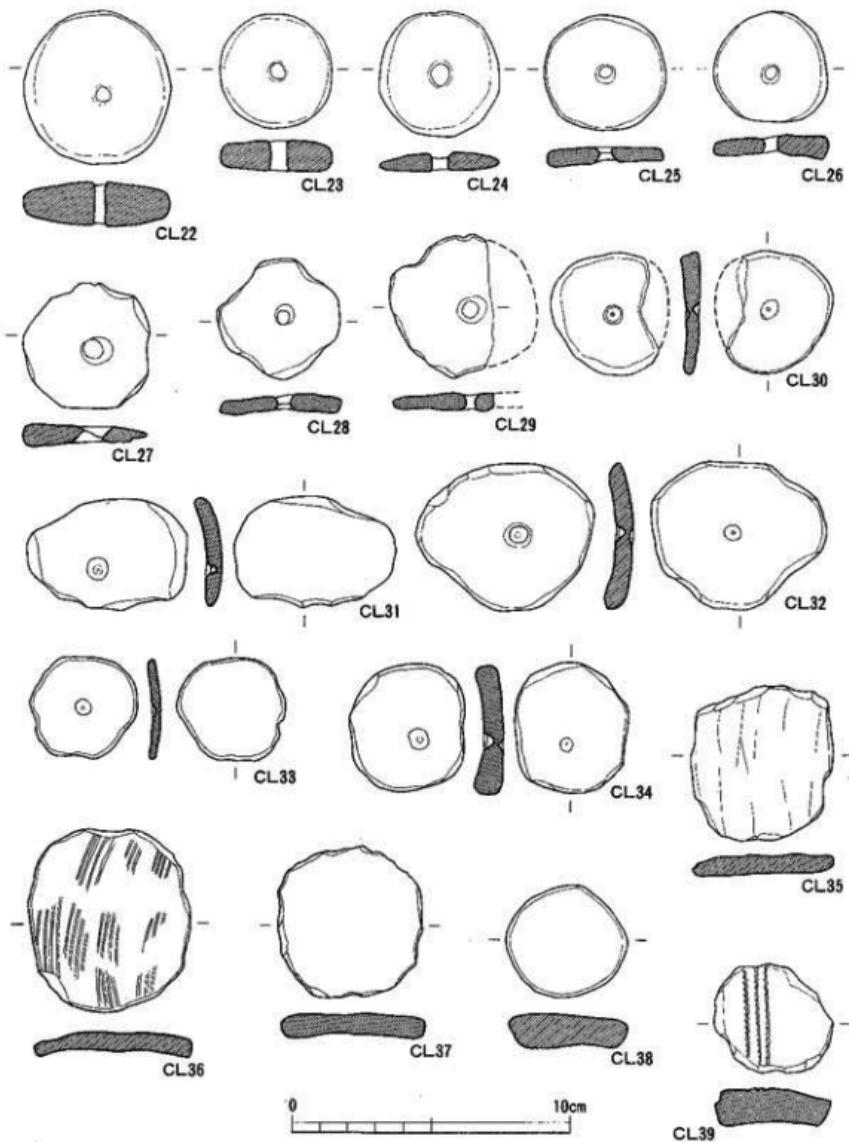
分鉢形土製品（第97図 CL20 図版119） 現全長5.5cmの小型で、下部は欠損する。表面周縁には刺突文が廻っている。

土製円板（第98図 CL22～第99図 CL43） 直径5cm前後の平面形円形を呈したもので、粘土を整形して作られたもの（CL22～24）と土器片を転用したもの（CL25～43）がある。一般に「有孔円板」と称されるものであるが、孔のないものは有孔円板未成品として限定する証拠がないため、土製円板とした。

CL22～24は粘土を成形して作られたもので、非常にていねいに調整され平面形がほぼ正円を呈するものである。直径は4～5cmを測り、胎土は弥生時代前期の土器に似る。CL25～29は土器片を整形し中央に円形を穿つものである。土器片の縁片を打ち欠き整形しているが、打ち欠いただけのものは少なく打ち欠いた後縁辺を多少研磨しているのが多いようである。CL25・26は特にていねいに縁辺が研磨されており、平面形は正円に近い。直径は4cm前後のものが多く5cmを越えるものはない。穿孔は打痕がみられず、孔面が平滑であることから、回転作用によると思われる。図示したものの胎土、調整はいずれも弥生時代前、中期の土器に似る。

CL30～34は穿孔途中の未成品である。孔は成品同様回転作用によるものと思われる。縁辺は多少研磨が施されるものが多く、CL30・34は比較的ていねいに研磨される。直径は4cm前後のものが多いが、CL32は5cmを越える比較的大型のものである。孔は、内面から穿つもの（CL31・33）、両面から穿つもの（CL30・32・34）があるが、成品の孔を観察すると両面から穿たれていますと思われるものが多いことから、最終的には両面から穿孔するのが一般的ではなかったろうか。時期がわかるものはないが、CL33は器壁が非常にうすいことから弥生時代中期中葉以降と思われる。

CL35～43は土器片を円形に整形しただけで穿孔痕のないもので有孔円板の未成品と考えられるものだが、他器種の可能性も否定できない。縁片は打ち欠いただけのものもあるが（CL35～37・39・41・42）、研磨を施すものもある。CL38・40・43は特にていねいに研磨された正円形に近い。このことから穿孔以前にすでに縁辺の調整は終らせてていることがわかる。CL36・37は二枚貝条痕がみられ、CL37にはわずかに織維が認められることから、縄文時代前期と思われる。またCL35は強いナデ調整が施され、縄文時代晩期の突帯文土器に似る。CL39～43の器面には文様が残っている



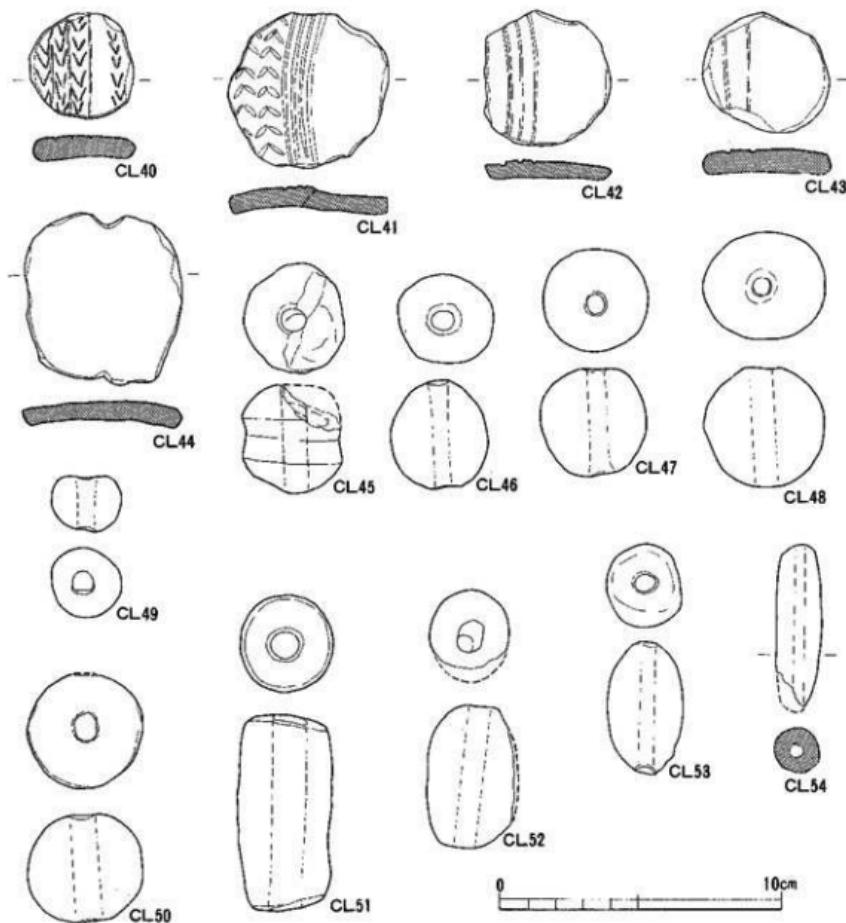
第98図 土製品(4) 土製円板 1:2

ことから弥生時代前期であることがわかる。CL42・43にはヘラ書き直線文、CL39には二枚貝腹縁による直線文、CL41にはヘラ書き直線文と羽状文、CL40には二枚貝腹縁による羽状文が施されている。このほかCL38も胎土などから弥生時代前期と思われる。またCL41・42には段がみられる。

土鍤（第99図 CL44～54） 土玉と称されるものも土鍤として括して扱った。CL46～50はほぼ球形を呈するもので、CL49は径2.5cmの小型であるが、大きさとしてはCL47程度が一般的のようである。CL51～54は柱状ないしは紡錘形を呈するもので、CL54は径1.6cmと最も細かく、CL51は径3.4cmと最も太い。多くはこの中間の法量である。CL45は中央がくびれる特異な土鍤で、1点のみ出土している。CL44は土器片を再加工した、いわゆる土器片鍤である。両端は擦切によって抉りが入れられ、周縁も研磨が施されるようである。内外面の調査や胎土から判断すると弥生時代前期または中期の上器と思われる。

土 製 品 一 覧 表

器種	排岡 番号	図版 ページ	出土地点	層位	法 量 (cm)			手 法	備 考
					口(直)	径 (最大径(長))	厚さ (厚さ)		
土箆	CL1	118	N36P7	4-2	2.8×3.1	5.5	6.8	ナデ	全体にいびつ
土箆	CL2	118	N18P9	第2河遺 堆積土	3.4	6.3	7.0		
土箆	CL3	119	N10P7	4		4.4	4.7		小型
土箆	CL4	119	N13P6	第2河遺 堆積土	1.5	3.2	3.6	ナデ?	小型
土箆	CL5	119	N17P8	6		7.1		ヘラミガキ、ナデ	交帶文
土箆	CL6	119	N20P5	4	4.2		4.1	ヘラミガキ、ナデ	
土箆	CL7	N16～15 P7	第2河遺 堆積土	3.0	5.7	6.5	ヘラミガキ、ナデ		
土箆	CL8	119	N13P6	第2河遺 堆積土	3.2	5.4	5.7		上部小孔未貫通
土箆	CL9	119		4	4.2	8.1		ナデ?	
土箆	CL10	118	N22E5	4	3.1	8.2	9.1	ヘラミガキ	
土箆	CL11	118	N22E5	4	4.6	8.1	9.9	ナデ?	全体にいびつ
土箆	CL12	118	N18P8	6	3.5	7.1	8.2	ヘラミガキ、ナデ	交帶文、沈線文(ヘラ)
土箆	CL13	119	N13P5	4				ナデ	
土箆	CL14	119			3.5	9.4			松江市保管
土箆?	CL15	119	N12E5	第2河遺 堆積土	5.2	7.0	7.4		交帶文



第99図 土製品(5) 土製円板・土錘 1:2

器種	排図 番号	図版 ページ	出土 地点	層位	規 格 (cm)			手 法	備 考
					口(底) 径	最大径(長)	器高(厚さ)		
蓋	CL16	119	N11E4	4	4.0		2.1	ヨコナデ、型作り?	
	CL17	119	N19F7	第二層遺 物層土				左側擬口縁?	上下に造孔?
円板	CL18	119	N13F4	4	3.4×3.5		1.1	ナデ	円孔4

器種	掲載番号	図版番号	出土地点	層位	基盤量(cm)			手法	備考
					口(高)径	最大径(長)	器底(厚さ)		
円板	CL19	119	N12E5	6	4.6		1.1	ナデ	円孔4
分離型土製品	CL20	119				5.5	0.7		松江市保管
土笛	CL21	119				5.6			松江市保管
土製円板	CL22		N17E8	6	5.4×5.3		1.5		
土製円板	CL23				5.1×5.5		1.1		松江市保管
土製円板	CL24		N16E7	第2河道 堆積土	4.4×4.3		0.6		
土製円板	CL25		N16~17 E8		4.1×4.3		0.6	周縁研磨	
土製円板	CL26		N26E7	4-1	4.0×4.0		0.8	周縁研磨	
土製円板	CL27		N18E9	4	4.5		0.8		
土製円板	CL28		N18E9	4	4.3		0.6	若干周縁研磨	
土製円板	CL29		N21E5	6	5.0		0.6		縄文晩期
土製円板	CL30		N12E4	4	4.4		0.7		
土製円板	CL31		N12E7	4	5.7×3.9		0.5		孔朱質造
土製円板	CL32		N12E4	4	6.2×5.2		0.7		孔朱質造
土製円板	CL33		N25E7	4-1	3.9×3.6		0.3		孔朱質造
土製円板	CL34		N13E7	4	4.1×4.6			周縁研磨	孔朱質造
土製円板	CL35		N26E7	4-1	5.5×5.1		0.6		縄文晩期
土製円板	CL36		N26E7		6.5×5.3		0.7		縄文前期
土製円板	CL37		N10E7		5.4×5.2		0.8		縄文前期
土製円板	CL38		N20~22 E5~6	4	4.0×4.3		1.2	周縁研磨	
土製円板	CL39		N12E5	6	3.9×4.3		1.3		直線文(貝) 弥生前期
土製円板	CL40		N12E4	4	3.8×3.7		0.6	周縁研磨	羽状文(貝) 弥生前期
土製円板	CL41		N26E7	4-2	5.5×5.2		0.7		波、羽状文、直線文 (ヘラ) 弥生前期
土製円板	CL42		N12E5	5-1	4.8×4.5		0.6		直線文(ヘラ) 弥生前期
土製円板	CL43		N21E5	4	4.2×4.4		0.8		直線文(ヘラ) 弥生前期
土器片體	CL44		N27E7	4-1	6.0×5.5		0.6	両端に抉り	

器種	通図番号	図版 ページ	出土 地点	層位	法 量 (cm)			手 法	備 考
					口(直)径	最大径(長)	高(厚さ)		
土鉢	CL45		N16E8	6	3.8×3.6		3.7		中央くびれる
	CL46		N16E7	4	3.2×3.5		3.8		
土鉢	CL47		N17E7	第2河漫地 堆積土	3.7		3.9		
土鉢	CL48				4.3		3.8		松江市保管
土鉢	CL49		N11E6	4	2.5×2.6		2.0		
土鉢	CL50				5.1		5.1		松江市保管
土鉢	CL51		N29E5	4	3.5×3.4		6.9		
土鉢	CL52				3.2		5.0		松江市保管
土鉢	CL53		N19E9	第2河漫地 堆積土	3.0×2.7		4.8		
土鉢	CL54		N18E9	第2河漫地 堆積土	1.6		5.7		

8. 石 器

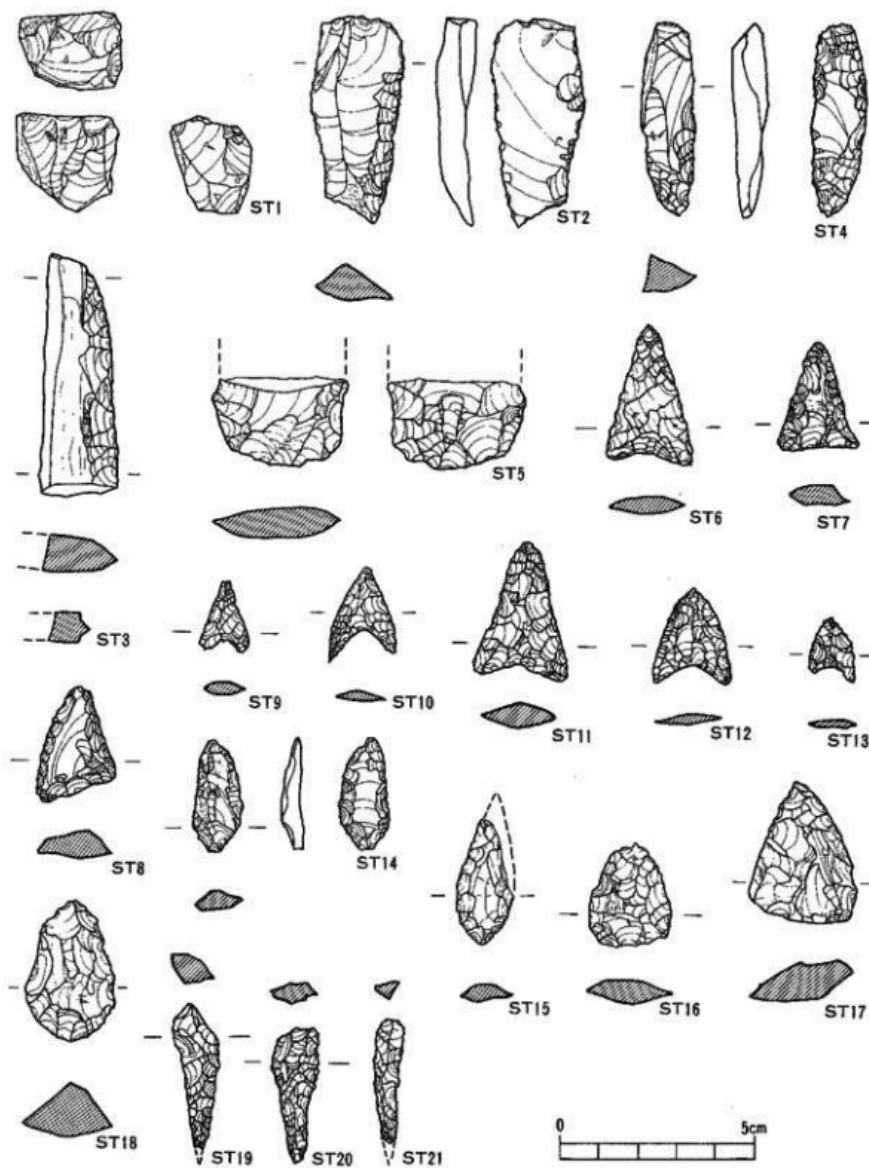
石器は主に第4層から出土したが、そのうち102点を図示した。これらは縄文系の石器、弥生系の石器ともに出土しているが、出土した層はいずれも縄文土器から土師器まで混在するため、所属年代を知ることは困難である。なお石材については時間的な制約から鑑定を依頼できなかった。

石核（第100図 ST 1 図版120） 細石刃様の剥片を剝離した黒曜石製の石核で、同一方向から剝離が行われた面が一面ある。これは、一定の剥片剝離技術によったものと考えられ、層位的な裏付けはないが、細石刃核の可能性がある。

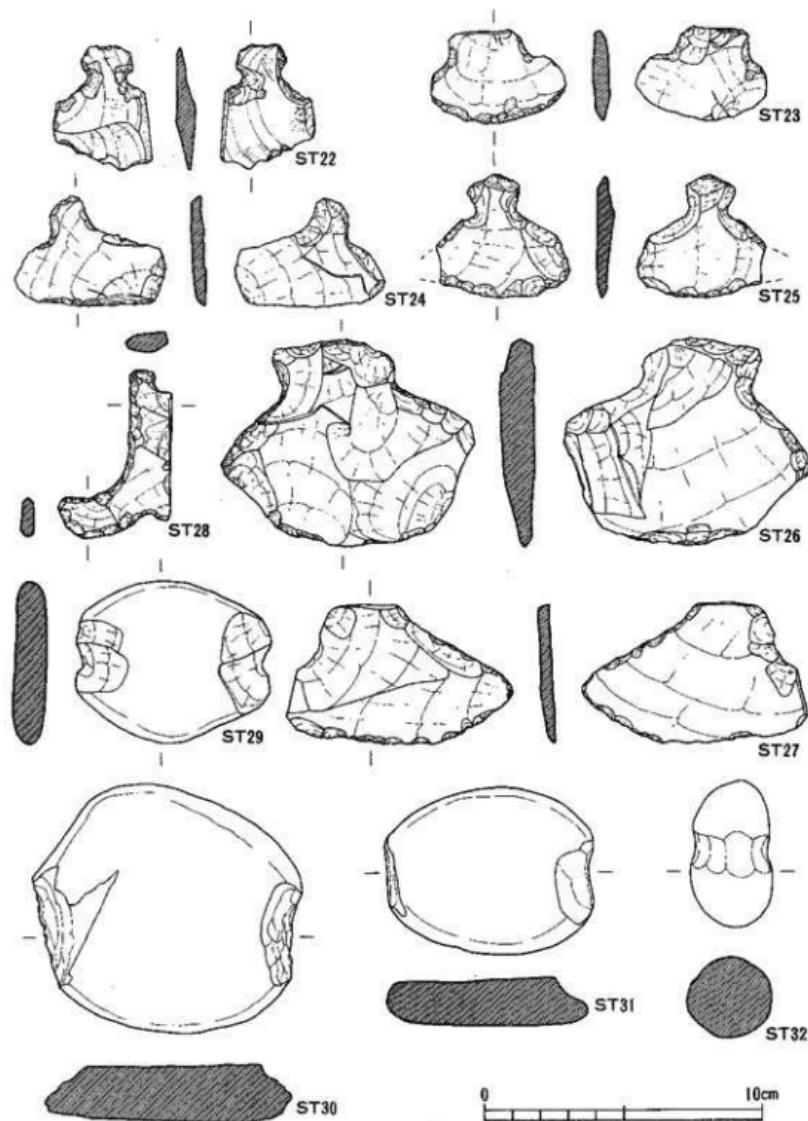
縦長剥片（第100図 ST 2 図版120） 長さ5.2cm、幅2.3cmを測る黒曜石製の縦長剥片である。腹面、背面とも同一方向の剝離面がみられ、背面の側縁にはていねいな二次加工が施される。また側縁には刃こぼれ様の小さな剝離がみられる。これも一定の剥片剝離技術によったものと考えられ、石刃の可能性がある。なお、上下端には自然面が残っている。

尖頭器状石器（第100図 ST 3～5 図版120） 尖頭器状の刺突具と思われるものを一括した。完形はST 4のみでST 3は側縁、ST 5は基部片と思われる。いずれも刃部、先端部はていねいに調整されるものの、大きな剝離面を中央に残す。ST 4の先端には使用によると思われる摩滅がみられる。ST 4、5は黒曜石製である。

石鏨（第100図 ST 6～18 図版120） 石鏨は器種のわかる石器中最も多いが、図示したのは13点



第100図 石器(1) 細石核・剥片・刀器・尖頭状石器・石錘 7:10



第101図 石器(2) 石匙・異形石器・石錘 1:2

である。凹基式（ST6・9～13）、平基式（ST7・8・16～18）、有茎式（ST14・15）のいずれもあるが、凹基式が最も多い。ST16～18はやや大型で厚みのある石鎌で、16以外は難な剝離である。調整は簡単なものが多く、ほとんどが一面の中央に大きな剝離面を残す。ST9、12、16は両面ともていねいに調整するものである。ST14は両面とも同一方向の大きな剝離面が残り、九州地方の剝片鎌に似るが、本例1点のみの出土のため石鎌製作に一定の製作技術があったかは不明である。石材はST15以外は黒曜石である。

石錐（第100図 ST19～21 図版120） 黒曜石製が3点出土した。いずれも先端部をていねいに調整されるが、基部の調整は粗い。

石匙（第101図 ST22～27 図版119） すべて横型の石匙であるが整った形のものはない。いずれもつまみ部周辺が比較的ていねいに調整されるが、刃部その他はほとんど調整されていない。黒曜石製はST22のみである。

異形石器（第101図 ST28 図版119） 鉤形を呈し背部に幅広のつまみ状の突起をつける。突起部の側縁のみは自然面が残るが、その他の縁辺はていねいに二次調整が施される。

石鍤（第101図 ST29～第102図 ST33 図版119・121） ST32以外は自然礫の両端を打ち欠いただけのものである。7～8cm前後のものが多いが、ST33のように15cmを超えるものもある。ST32は卵形にていねいに整形したもので、中央部を凹ませた磨製の石鍤である。

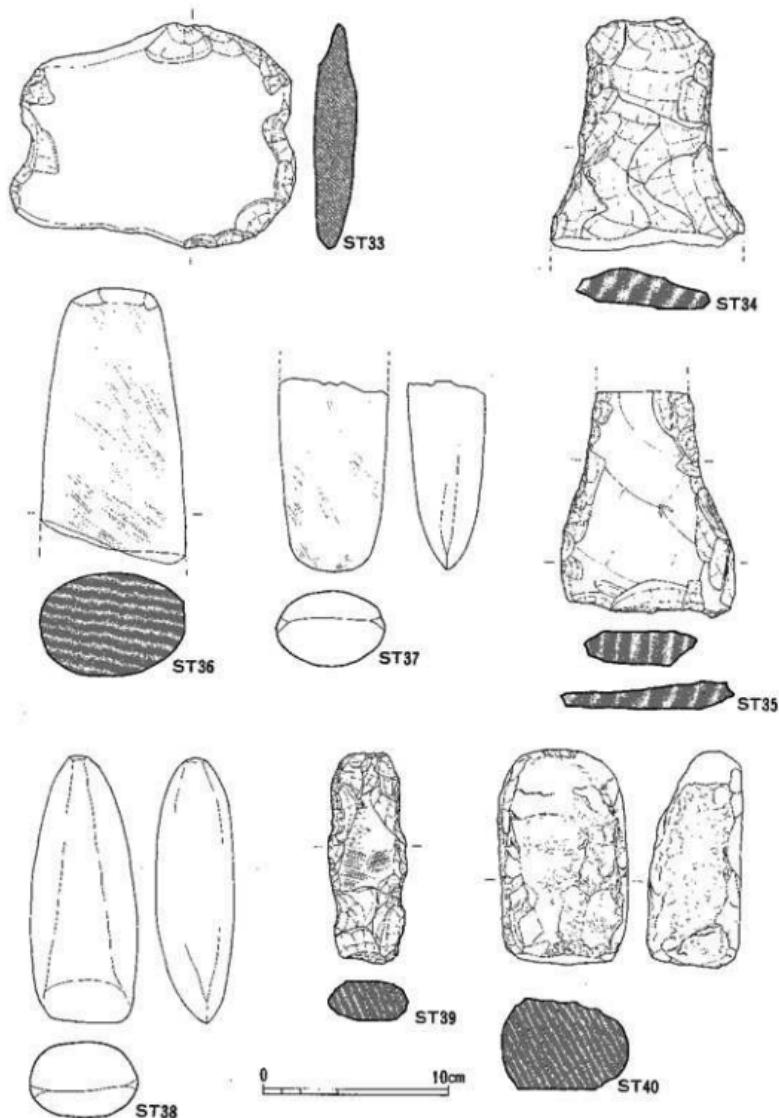
打製石斧（第102図 ST34・35 図版121） 大型で偏平な、いわゆる石鎌が2点出土している。ともに大きな剝片の側縁、刃部がていねいに調整されている。

大型蛤刃石斧（第102図 ST36～38 図版121） 小片は多く出土したが、完形はST38のみであった。ST37・38が一般的な大きさだが、ST36は幅7.7cm、厚さ5.5cm、現存長14.9cmを測る大型品である。全面ていねいに研磨されるが、基部上面は若干磨く程度である。またST37の刃部には刃こぼれ様の使用痕が観察できる。

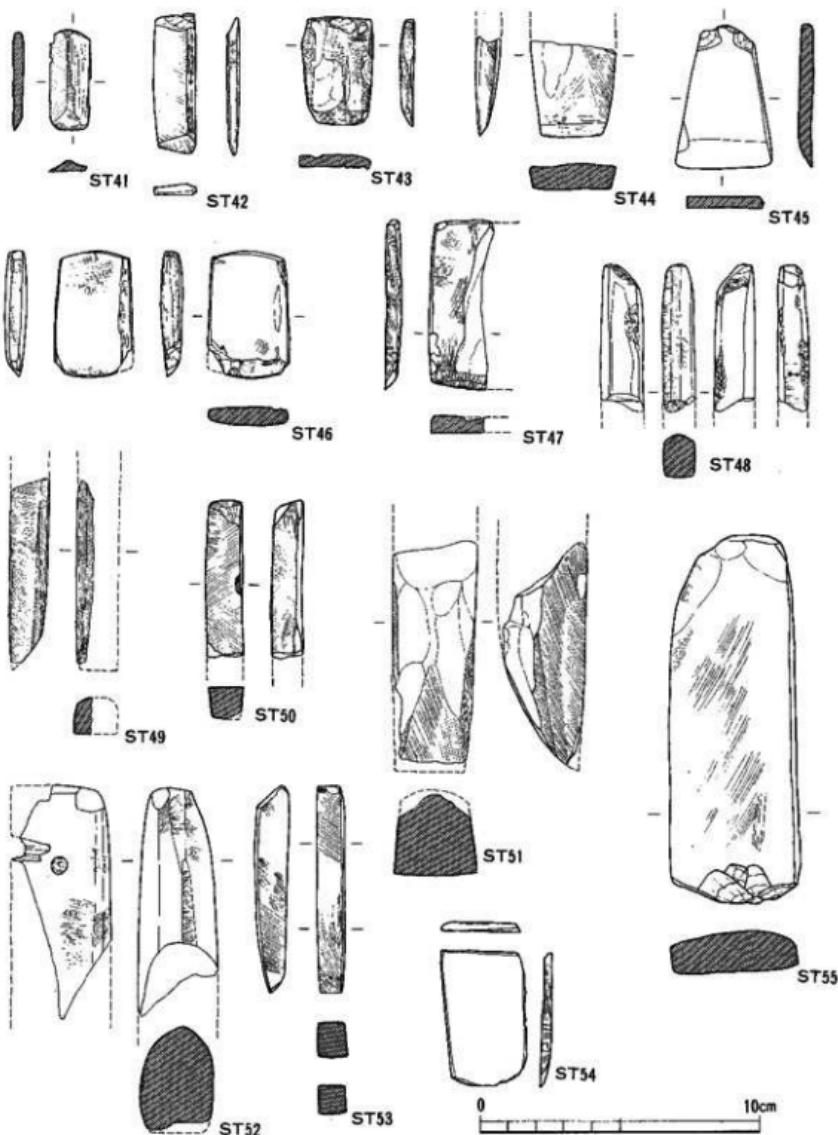
石斧未成品（第102図 ST39 図版121） 縁辺に二次加工が施されるが刃部は作られていない。中央部に研磨痕が観察できるものの、他は粗い剝離がみられるだけであることから、石斧未成品と判断した。

叩石（第102図 ST40 図版121） 1点のみ図示したが、出土量は多い。ほとんどが円礫を利用したものであるが、図示したST40は下端を上に使用しており平坦となっている。

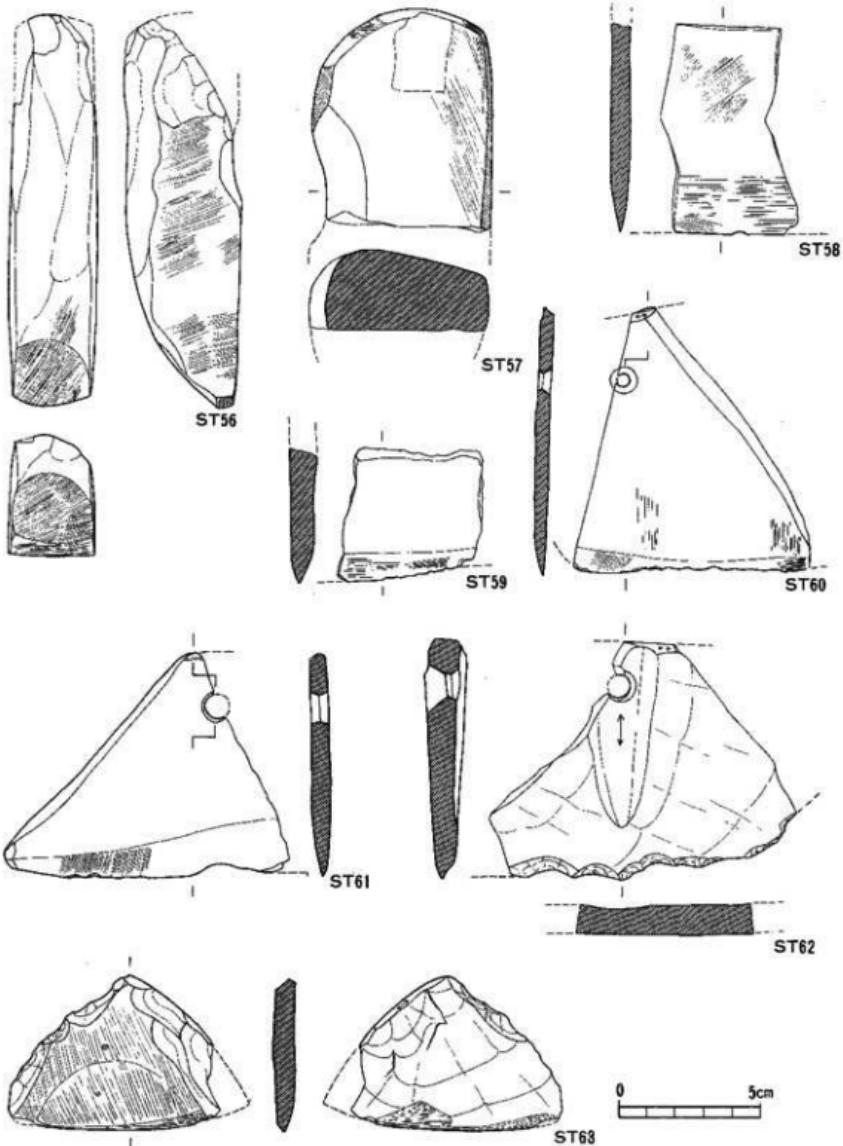
扁平片刃石斧（第103図 ST41～47・54・55 図版121） 典型的なもの（ST43～47）と、小型で作りが粗雑なもの（ST41・42）とがあるが、全体にあまりていねいな調整は施されず部分的に剝離面が残るものが多い。特にST41は刃部、基部、腹面を研磨しただけの粗雑なものである。一部に擦切溝が残るもののが1点あり（ST42・43・45・54）、扁平片刃石斧の制作に擦切技法が用いられる



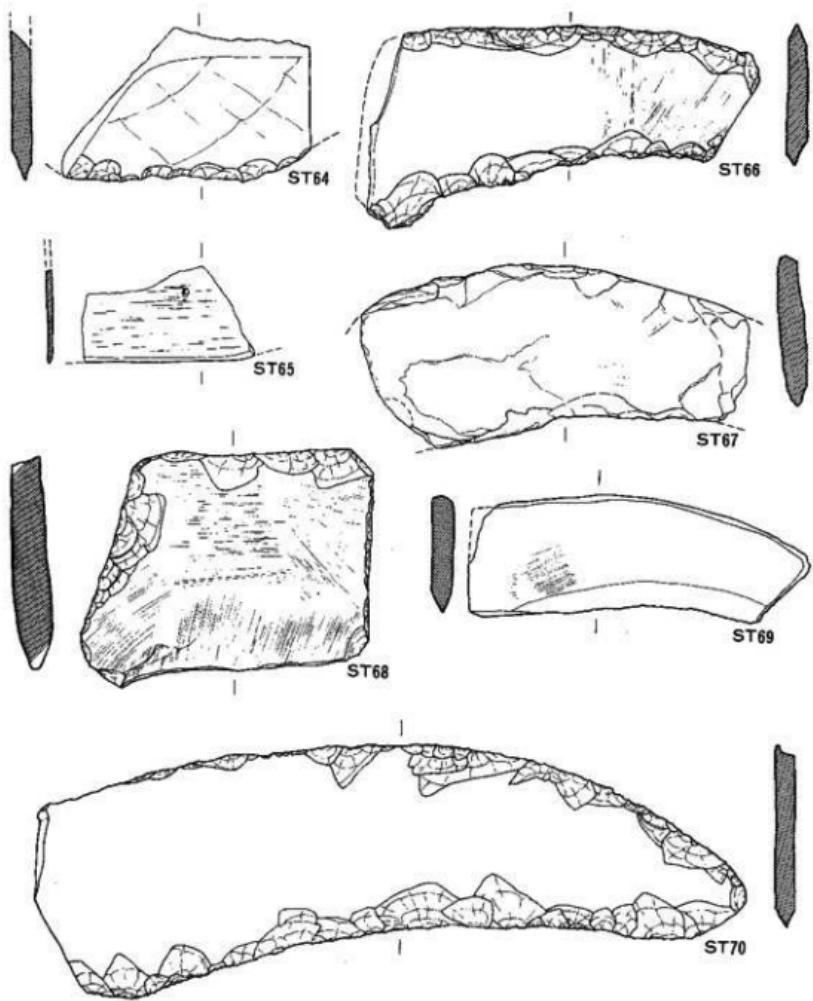
第102図 石器(3) 石錘・石斧 1:3



第103図 石器(4) 扁平片刃、柱状片刃石斧 1:2



第104図 石器(5) 柱状片刃石斧・石包丁 1:2



0 10cm

第105図 石器(6) 石包丁・擦切用工具・石鎌 1:2

こともあることがわかる。ST55は扁平な板状のもので器種不明の石器であるが、全体の形状から扁平片刃石斧の未成品と判断した。またST54の一側縁には半円形の小さな抉りが入れられている。

柱状片刃石斧（第103図 ST48～53・第104図 56・57 図版121・122）幅1.5cm前後のいわゆる石のみと呼ばれるもの（ST48～50・53）と抉り入りのもの（ST51・52・56・57）とがある。いずれも全面ていねいに研磨されている。抉り入り柱状片刃石斧のうち、ST52は2条の擦切溝によって抉りが入れられている。ST56は刃部が研磨されているものの平坦面をなし刃となっていないことから未成品であろう。ST57は破片であるが、残存部から考えると柱状片刃石斧でも大型のものと考えられる。

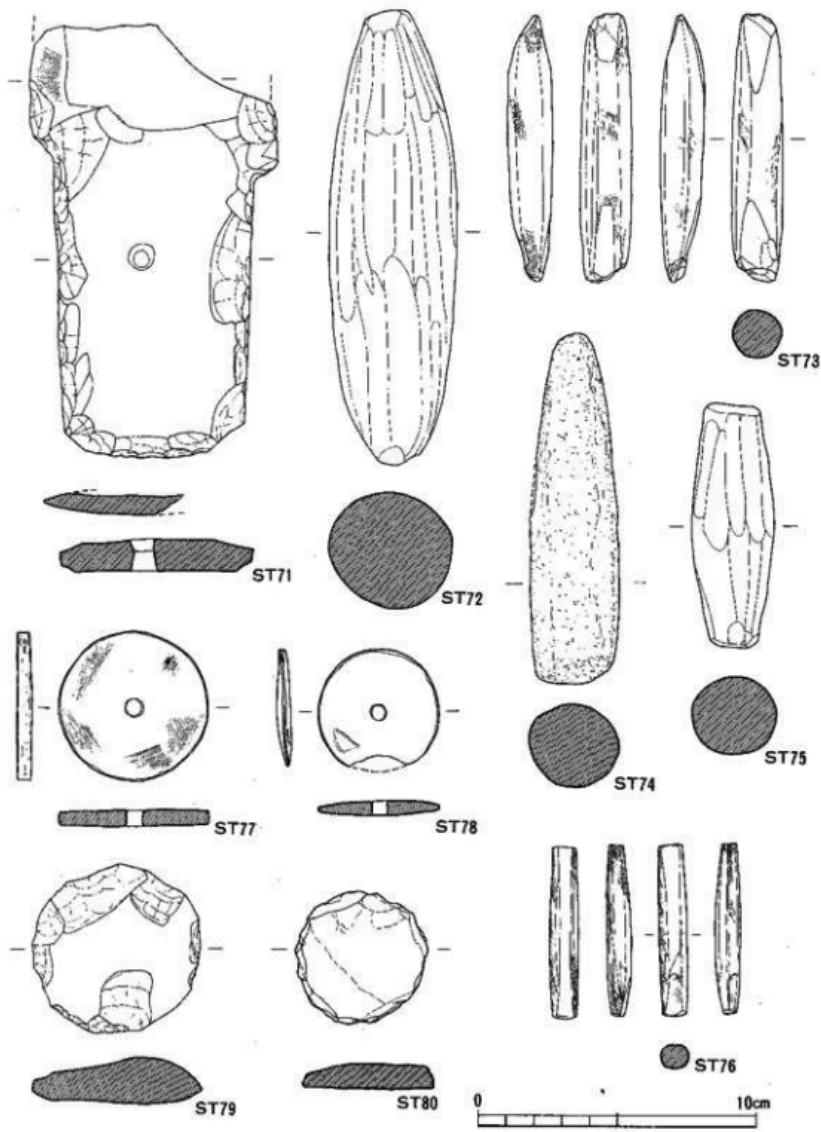
石包丁（第104図 ST58～64、第105図 ST68 図版122）すべて人型の石包丁である。ST62、64が打製石包丁であるほかは、すべて磨製である。研磨は刃部を中心に施されており、他の部分にはごく簡単に施されるものが多い。これらの石包丁にも一部に擦切溝がみられるものが多く（ST60～63）、石包丁製作にも擦切技法が使用されていたことがわかる。ST61・62の上部には大きな円孔が穿たれ、ST62はさらにその部分から刃部に直交する形で深い溝を作っている。またST63には竹管文状の小円孔が2個穿たれているが貫通していない。ST68は完形で平面形方形を呈す。一側縁に自然面が残り縁辺には剥離痕が残る。刃部端は未調査であるため未成品と思われる。ST59は硬質の石材であるが、他は軟質の石材である。

擦切用工具（第105図 ST65 図版122）下端のみに研磨（または使用痕）が認められ、両面とも大きな剥離面を残す。一見石包丁に見えるが、非常にうすく石材も硬質の片岩を使用していることなど他の石包丁と大きく異なることから擦切用工具と判断した。刃部は横方向の研磨痕が観察できる。

石鎌（第105図 ST66・67・69・70 図版122）磨製のもの（ST66・67・69）と打製のもの（ST70）とがある。磨製石鎌のうち研磨が全面に及ぶものはST69のみで他は刃部・背部が打製のままのものが多く半磨製というべきものである。ST66は基部を若干欠くがほぼ完形である。先端は尖らず直線的な形を呈するのは、剣片の形に起因するのであろうか。なおこの部分は若干研磨が施されている。ST70は全長25.5cmを測る人型の石鎌である。大きな剣片の背部、刃部に二次調整を施したものである。非常に簡単な作りで背部頂面には調整が施されず、また両面とも大きな剥離面を残す。

石劍状石器（第106図 ST71 図版122）茎から間にかけて残存するが、剣身の大部分は欠損する。茎幅7.2cm、闊幅9cmを測る大型品で、比較的ていねいに整形されている。闊部は比較的忠実に表現され、茎中央に径0.5cmの円孔が穿たれている。両面とも中央に大きな剥離面を残し縁辺を二次加工して整形されている。部分的に研磨痕がみられることから考えると、磨製石劍の未成品であろうか。

棒状石器（第106図 ST72～76 図版122）太い紡錘形のもの（ST72・74・75）と細い円柱形のも



第106図 石器(7) 石剣状石器・棒状石器・紡錘車・円板状石器 1:2

の（ST73・76）とがあり、それぞれ異なった器種と思われるが、適当な名称がなかったため一括して棒状石器とした。ST72・74は紡錘形を呈するもので、表面には調整痕と思われる幅0.5～1cmの平坦面が観察できる。これは研磨によるものではなく表面を少しづつ削り取ったような痕跡である。ST73・76は長さ6～9cm、径1～1.8cmの細い円柱形を呈するもので、これらは全面に研磨痕が残る。

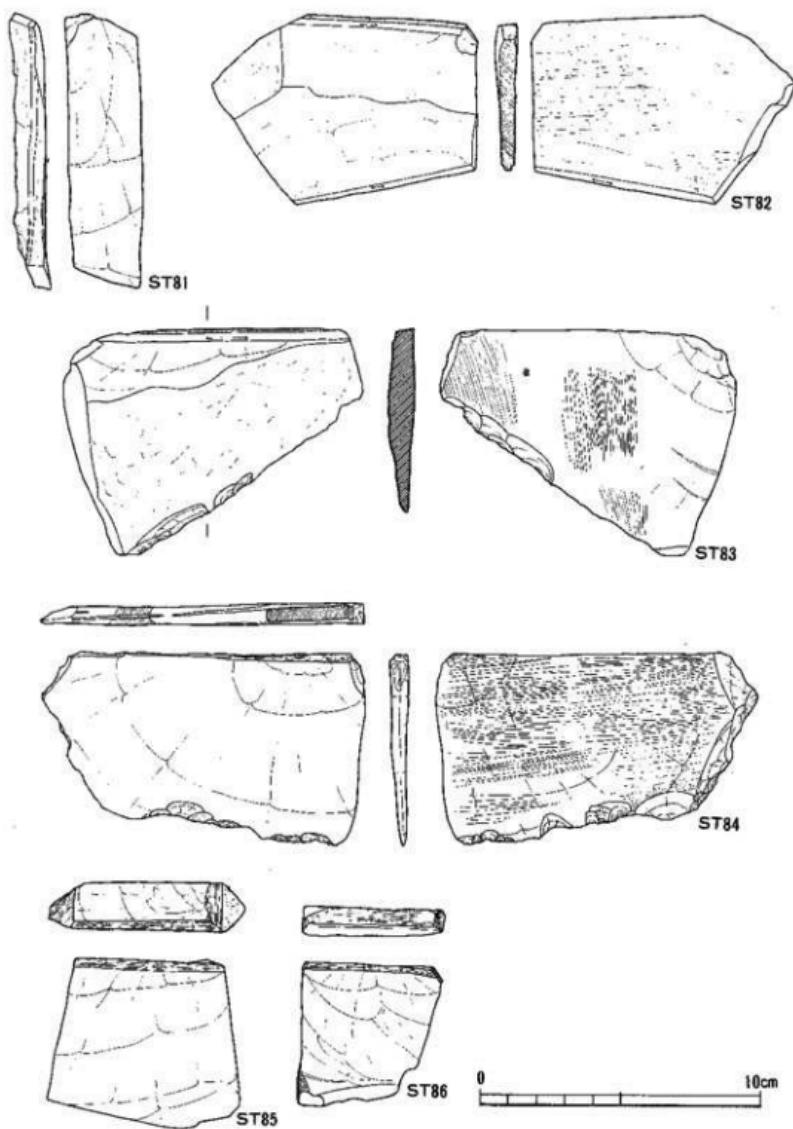
紡錘車（第106図 ST77・78 図版123）ともにていねいに整形され、平面形はほぼ正円形に近い。ST77の厚さはほぼ均一であるが、ST78は凸レソズ状を呈す。ST77には全面に研磨痕が観察できる。

円板状石製品（ST79・80）ST79は自然縁の周縁を打ち欠いて円形に整形したもので、両面とも中央に自然面が残る。ST80は剝片の周縁を打ち欠いて円形に整形したもので、紡錘車の未成品の可能性がある。

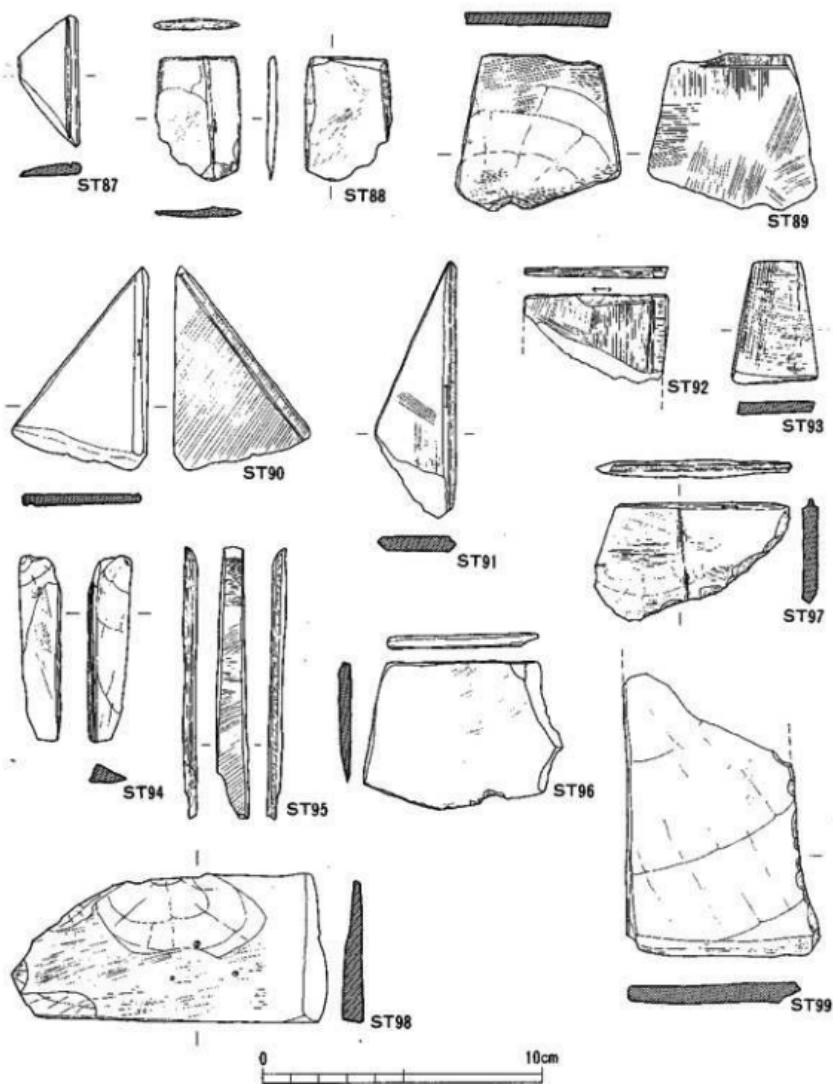
擦切未成品（第107図 ST81～第108図 ST98 図版123）側縁に施溝のある板状の石製品である。従来は管玉未成品として一括扱われていたが、扁平片刃石斧（ST42～45）や石包丁（ST60～63）の中にも擦切技法によって製作されたものがあり、施溝のある石製品のすべてが管玉未成品とは限らないと思われるため、擦切未成品とした。擦切未成品はかなりの量出土しているが、図示したのは18点である。この中にはST84のように刃器として使用できるものもあるが一応ここで扱う。

ST81～86は石核から取った直後の剝片である。擦切による溝が一から三側縁にみられるが、いずれも小口面に直交するよう施溝されている。このうち擦切溝のある小口面では同一面上に平行して2条の溝が施されるものはST82のみである。リング・フィッシャーを観察すると擦切溝の一つは必ず打点としているようであるが、ST81のように擦切溝の中央ではなく一端を打点としているものも多い。これらの剝片はすべての擦切溝を打点としているのではなく、打撃に直接関係ない擦切溝がいくつか施されているようである。またST83・84・86の擦切溝のある面はていねいに研磨されるが、この研磨がどの時点で研磨されたかは不明である。なおST81・83・85・86の一表面または側縁には自然面が残っている。

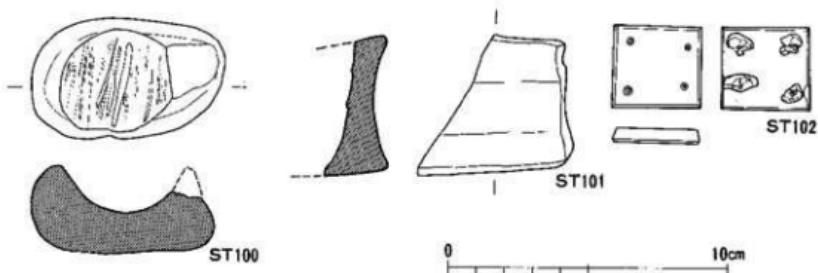
ST87～98は剝片に研磨を加えた段階のもので全面ていねいに研磨されるものが多い。いずれも厚さ0.5cm前後のうすい板状を呈する。擦切溝は側縁のはか側縁に平行して表面に施されるもの（ST87～90・92・93・97）がある。側縁の擦切溝の部分には研磨が施され擦切の方向が不明なものが多いが、側縁が研磨されていないものを見ると擦切溝が小口面に直交するもの（ST95左側縁）と平行するものがある。ST95の擦切溝は左側縁が小口面に直交、右側縁が小口面に平行しており、擦切り技法の実態を窺わせる資料である。即ち、左側縁の溝は石核から剝片を取るためのもので、右側縁の溝は剝片をさらに分割するためにつけられた溝と考えられる。後者の擦切溝のある剝片は表面がていねいに研磨され、石核から剝片を取った段階で研磨が施されていることがわかる。



第107図 石器(8) 摘切り未成品 1:2



第108図 石器(9) 擦切り未成品 1:2



第109図 石器(10) 砥石・石帯 1:2

この擦切溝は両面から施されるものが多い。従来はこの剥片をさらに分割するために打割したと考えられていたが、本遺跡出土資料を見る限りでは打痕らしき痕跡は認められないことから、折るようにして分割したと考えたい。

本遺跡出土の擦切未成品をみると剥片剥離の際、打点の方向が一定ではないものが多い。これは石核からの剥片剥離があまり規則的に行われなかつたことを窺わせる。一つの小口面に直交する擦切溝が1条しかみられないものが多いことも、このことに起因するかもしれない。打面を同一とするなら平行する2条の擦切溝が存在するはずであるからである。また剥離の順を追っていくと剥片を打割するに必要な擦切溝が認められる(ST86左下)。これらの溝の機能は不明であるが、一定の厚さの剥片を取るために石核を一周するよう施溝したとは考えられないであろうか。

擦切技法については松江市布山遺跡¹¹で解明されているが、本遺跡でのあり方と細部で違いがある。これが玉牛産と石器生産の違いか、遺跡間の違いであるのか検討すべき問題であろう。

砥石（第109図 ST100・101 図版123）ともに自然石を利用したものである。ST101は3面使用されているが特に上面はよく使われレンズ状に凹む。ST100は円錐の一面が使用され半円形に大きく凹んでいる。深い擦痕が観察できるが、通常の砥石の砥痕とは大きく違う。砥ぐ対象物は不明である。

石帯（第109図 ST102 図版123）ほぼ正方形を呈するものである。下辺は2.9×3.2cm、上辺は2.7×2.9cmを測り断面形は台形である。表面は非常にていねいに研磨され黒光りするが、裏面はあまり調整されていない。孔は表面から穿たれており、裏面の剥離痕は未調整である。石帯は一般的の遺跡からはあまり出土しない遺物であるが、昭和52年度調査で出土した「驛」の墨書き器、今回出土した円面硃との関係が注目される。

註1 島根県教育委員会「布田遺跡」『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』 IV
1983

石器一覧表

器種	挿図番号	図版ページ	出土地点	層位	法量(cm) 長×幅×厚	形態の特徴	手法の特徴	備考
細石核?	ST1	120	N11E4	4	2.5×2.6×1.9		上面不整の剥離	
網目削片	ST2	120	N13E5		5.2×2.3×0.9		腹面、背面とも同一方向の剥離	
尖端器状石器	ST3	120			6.1×2.0×0.9		刃部でいわいな剥離	
尖端器状石器	ST4	120	N11E4	4	4.9×1.4×1.0		下端でいわいな剥離	下端使用痕?
尖端器状石器	ST5	120	N16E8	5-1	2.3×3.5×0.8		中央に大きな剥離面	尖端器底部?
石鏃	ST6	120	N16E8	6	3.6×2.3×0.5		正面でいわいな剥離	
石鏃	ST7	120	N26E7	5-1	2.7×2.1×0.5	平基式	中央に大きな剥離面	
石鏃	ST8	120	N18E8	6	2.9×2.0×0.7	平基式	中央に大きな剥離面	
石鏃	ST9	120	N12E7	第2河道堆積土	1.9×1.3×0.3	凹基式	ていねいな剥離	
石鏃	ST10	120	N11E4	4	2.4×1.7×0.2		ていねいな剥離	
石鏃	ST11	120	N16E7	4	3.5×2.5×0.6	凹基式	ていねいな剥離	
石鏃	ST12	120	E4 N12E3	4	2.5×2.0×0.2	凹基式	ていねいな剥離	
石鏃	ST13	120	N11E7	4	1.7×1.1×0.2	凹基式	裏に大きな剥離面	
石鏃	ST14	120	N12E4	4	2.8×1.3×0.5	有茎	背面裏面とも同一方向の剥離面	
石鏃	ST15	120	N21E5	6	3.2×1.4×0.4	有茎		
石鏃	ST16	120	N15E7	4	2.5×2.2×0.6	平基式	ていねいな剥離	
石鏃	ST17	120	N17E8	第2河道堆積土	3.6×2.7×1.0	平基式	裏面中央に大きな剥離面。基部二次加工なし。	
石鏃	ST18	120		4	3.6×2.3×1.3	有茎	裏面中央に大きな剥離面。階段状の剥離。つぶれ	
石鏃	ST19	120	N16E7	4	3.6×1.2×0.3~0.7		ていねいな剥離	
石鏃	ST20	120			3.4×1.2×0.4~0.5		頭部階段状剥離	下端使用痕?
石鏃	ST21	120	N16~17E8	4	3.1×0.7×0.3~0.5	断面形三角形	ていねいな剥離	
石鏃	ST22	119	N13E5	4	4.4×2.5×0.7		つまみ部以外は二次加工なし	
石鏃	ST23	119	N20E5		4.8×3.3×0.6		分離つまみのみ二次加工	
石鏃	ST24	119	N16E7	4	3.9×5.5×0.5		つまみ、分離のみ二次加工	
石鏃	ST25	119		第2河道堆積土	4.4×4.6×0.6		縁辺部のみ二次加工	

器種	採集番号	図版 ページ	出土地点	層位	法 量(cm) 長×幅×厚	形態の特徴	手法の特徴	備 考
石 砺	ST26	119	N16E8	5-1	7.3×9.1×1.2		主要剥離面残る	
石 砺	ST27	119	N13E5	4	4.9×8.3×0.4		縁辺部のみ二次加工	一部自然面残る
両形石器	ST28	119	N17E7	第2河溝 堆積土	6.0×4.1×0.6	裏断面窓状剝片形	刃部でいねいに加工	一部自然面
石 砺	ST29	119	N22E5	4	5.7×7.1×1.3			
石 砺	ST30	119			8.8×9.0×2.1		自然縁の両端を打欠く	松江市保管
石 砺	ST31				7.2×5.9×1.7		自然縁の両端を打欠く	松江市保管
石 砺	ST32	119			5.2×3.1×2.8	中央にくびれ	磨製(ていねいな整形)	松江市保管
石 砺	ST33	121	N16E8	6	12.0×15.2×2.2			
石 斧	ST34	121	N11E8	6	12.2×10.4×1.9		打製	
石 斧	ST35	121	N13E5	4	11.9×9.3×1.9		両面に大きな剥離面	
石 斧	ST36	121	N13E5	4	14.9×7.7×5.5		ていねいな研磨	
始刃石斧	ST37	121	N16E8	第2河溝 堆積土	10.0×5.9×4.0		ていねいな研磨	
始刃石斧	ST38	121	N17E9	6	14.4×5.8×5.0			風化著しい
石 斧 ?	ST39	121	N11E9	6	11.3×4.3×2.1		縁辺二次加工、一部 研磨	磨製石斧木底品?
叩き石?	ST40				11.5×6.7×4.9		下面に研磨、叩き痕	松江市保管
扁平片刃 石 斧	ST41	121			3.6×1.4×0.4	非常に薄い	自然面、主要剥離面残る	
扁平片刃 石 斧	ST42	121	N19E8	4	4.9×2.6×0.4	非常に薄い	擦切跡あり	
扁平片刃 石 斧	ST43	121	E7イン N16	4	2.8×2.6×0.5		擦切跡あり、裏面に 粗いフィッシャー	
扁平片刃 石 斧	ST44	121	N11E4	4	3.4×3.1×0.9		ていねいな研磨	
扁平片刃 石 斧	ST45	121	N11E4	4	5.1×3.5×0.4	平面形台形	擦切跡あり	
扁平片刃 石 斧	ST46	121	N12E7	4	4.5×2.9×0.5			
扁平片刃 石 斧	ST47	121	N16E7		6.0×2.4×0.6		ていねいな研磨	
柱状片刃 石 斧	ST48	121			5.2×1.5×1.1		全面ていねいに研磨	松江市保管
柱状片刃 石 斧	ST49	121	N10E7	4	6.5×1.3×1.4		ていねいに研磨	
柱状片刃 石 斧	ST50	121	N17E9	6	5.6×1.3×1.2		ていねいに研磨	
柱状片刃 石 斧	ST51	121	N14E6	4	7.9×3.1×3.3		ていねいに研磨	

器種	押出番号	図版 ページ	出土地点	層位	法 長×幅×厚	形態の特徴	手法の特徴	備考
抉入柱状 片刃石斧	ST52	121	N21E6	4	8.4×2.9×3.7		抉入切による	
柱状片刃 石斧?	ST53	121	N11E7	4	7.4×1.6×1.3		ていねいな研磨	
扁平片刃 石斧?	ST54	121			6.7×4.2×0.3	側縁に刃口状の小 きな抉り	全面ていねいな研磨。 一側縁に削刃溝	松江市保管
扁平片刃 石斧?	ST55	121	N12E7		14.2×4.5×1.4		ていねいな研磨。ド 端に削刃溝	未完成?
抉入柱状 片刃石斧	ST56	122	N14E6	4	14.1×3.1×4.4	刃部平坦	腹部の研磨跡	未完成
抉入柱状 片刃石斧 ?	ST57	122	N25E7	第2回遺 跡土	7.9×6.5×2.8	極度	ていねいな研磨	
石包丁	ST58	122	N13E5	4	7.4×4.5×0.7		面部ていねいな研磨	
石包丁	ST59	122	N17E8	4	4.8×5.2×1.0		面部以外は粗な研磨	
石包丁	ST60	122	N15E7	4	9.4×8.4×0.6		腹切溝。折割面未調 整	
石包丁	ST61	122	N14E6	4	8.0×10.3×0.7			
石包丁	ST62	122	N17E8	4	8.5×10.0×1.5	孔底に溝		打製。刃部二次加工
石包丁	ST63	122	N16E7	8	5.5×6.7×0.8		腹切溝。刃部主に研 磨	小穴孔2あり
石包丁	ST64	122	N15E7	4	5.5×9.0×0.7		打製。刃部のみ二次 加工	
柳切用 工具?	ST65	122	N10E7	4	3.4×6.3×0.2	非常にうすい	面部のみ研磨(使用 痕?)	
石錐	ST66	122	N21E5	5	4.5×14.1×0.8		面部背面二次加工。 表面研磨	
石錐	ST67				13.5×5.7×0.9		磨製(研磨跡)	松江市保管
石包丁?	ST68	122	N21	4	8.9×10.8×1.3		研磨	
石錐	ST69	122	N16E7	5-1	4.0×12.2×0.8		磨製	
石錐	ST70	122	N25E7	8	7.8×25.3×0.7		刃部、背部を二次加 工。打製	
石劍	ST71	122			15.4×9.0×1.2	頭を表裏。中央に円 孔	周辺に小さな削痕。 部分的に研磨	松江市保管
棒状石器	ST72	122	N11E7	4	16.3×4.5×4.2		全面に調整による平 坦面	
棒状石器	ST73	122	N18E8	4	9.6×1.8×1.7		研磨	
棒状石器	ST74	122			12.5×3.2×2.9		全面に加工痕	松江市保管
棒状石器	ST75	122	N11E4	4	8.7×3.1×2.7			調整による平坦面
棒状石器	ST76	122	N18E9	5	6.1×1.0×0.9		研磨	
砧盤車	ST77	123	N17E9	6	5.3×5.4×0.6		ていねいな研磨	

器種	捕獲番号	図版 ページ	出土地点	層位	法量(cm) 長×幅×厚	形態の特徴	手法の特徴	備考
筋錐車	ST78	123	N13E5	4	4.2×4.3×0.5		研磨	
円板状石製品	ST79	123	N16E8	6	6.0×6.1×1.7		自然石の縁辺を打欠く	
円板状石製品	ST80	123			4.5×4.5×0.8		周辺を打欠き円形に整形	有孔円板未成品？ 松江市保管
磨き成形	ST81	123	N26E7		2.7×16.0×1.1		施磨後打削	
磨木成形	ST82	123			6.8×9.4×0.5		一面研磨、擦切研磨	松江市保管
磨木成形	ST83	123	N12E5	4	7.9×10.6×1.0		擦切磨、上端研磨	大きな自然面残る
磨木成形	ST84	123	N17E8	4	6.7×11.8×0.7		擦切磨、一面研磨、上端研磨	
磨木成形	ST85	123	N13E5		6.0×7.1×1.7		3辺に擦切り溝	
磨木成形	ST86	123	N26E7	4-1	5.2×5.1×1.0		3辺に擦切り溝、上端研磨	裏は自然面
磨木成形	ST87	123	N17E7		4.6×2.2×0.4		擦切磨3、全面研磨	
磨木成形	ST88	123	N12E4	4	4.9×3.0×0.4		擦切磨3、全面研磨	
磨木成形	ST89	123	N12E7	4	5.5×6.0×0.5		浅い擦切磨、全面研磨	浅い円孔
磨木成形	ST90	123	N16E8	5-1	7.2×4.9×0.4		全面研磨、折割面研磨	
磨木成形	ST91	123	N20E5	4	9.0×2.9×0.5		側壁に擦切溝、折割面未調整	
磨木成形	ST92		N16-17E8	4	5.2×3.1×0.4		側壁に擦切溝、折割面未調整	
磨石製品	ST93	123	N10E6	4	4.3×3.1×0.4		全面研磨	
磨石製品	ST94	123	N12E3-4		6.6×1.6×0.6		擦切磨2、折割面未調整	
磨石製品	ST95	123			9.6×1.1×0.3		3辺に擦切溝、折割面未調整	
磨石製品	ST96				7.3×10.2×0.4		一面縫に擦切溝、両面研磨	松江市保管
磨石製品	ST97	123	N12E7	第2河運 堆積土	4.2×7.0×0.5		2辺と中央に擦切溝、 折割面未調整	
磨石製品	ST98	123	N15E6	4	5.2×11.4×0.7		表面・下縫研磨	
	ST99	123	N11E4	4	10.0×7.0×0.7		2側縫をいわいに 研磨	
砥石？	ST100	123	N15E7	6	6.9×4.2×3.0	砥面深く抉れる	粗い擦拭	
砥石？	ST101		N26E8	第2河運 堆積土	5.5×5.0×3.2			砥面3面
石器	ST102	123	N17E7	第2河運 堆積土	3.2×2.9×0.5	断面斜台形	外側ていねいな研磨	

9. 木 製 品

遺跡が湿潤な地帯に位置しているため、有機質の保存には適していたとみえて多い量の木製品が出土した。これらは装身具・農耕具・飲食具・工具・建築部材等多岐にわたるものであった。

しかし全般的に破損したものが多く、破損を免れたものも摩滅が著しい状況であった。

以下性格の判明しているものから順次概要を示すことにする。

漆塗櫛 (第110～第114図 図版124・125)

漆塗櫛は小片も含めると20点を越える。これらの櫛は製作方法から大きく4種に分けることができる。

その1類はW1～W14・W17に見られるように爪楊枝よりやや太い歯を並べ、その上方を横方向に結束するもので、結束した部分を硝漆で固めた後、赤色漆を塗布している。

この類で最も残存状態の良好なものはW6である。これは径0.3cm、長さ10cmを測る歯を14本並べて結束し、横6cm、縦4.5cmを測る逆台形の身をつくっている。W2は身が縦5.5cm、W5は6.4cm、W9が5.8cm、W12が6.4cm、W13が6.5cm、W14が5.6cmを測る。歯の本数はW6が14本、W13が17本、W14が18本となっており、これらは縦が5.5cm～6.5cm、歯の本数は14～18本と若干の違いはあるものの、同様な構造を示すものである。

2類としたものはW15にみられるように、歯の上半分を結束する点では1類と同様であるが、その位置が身の上端・中央・下段に限定されること、透し孔をもつことが注意される。歯の断面も隅丸方形か、円形に近いものとなっている。

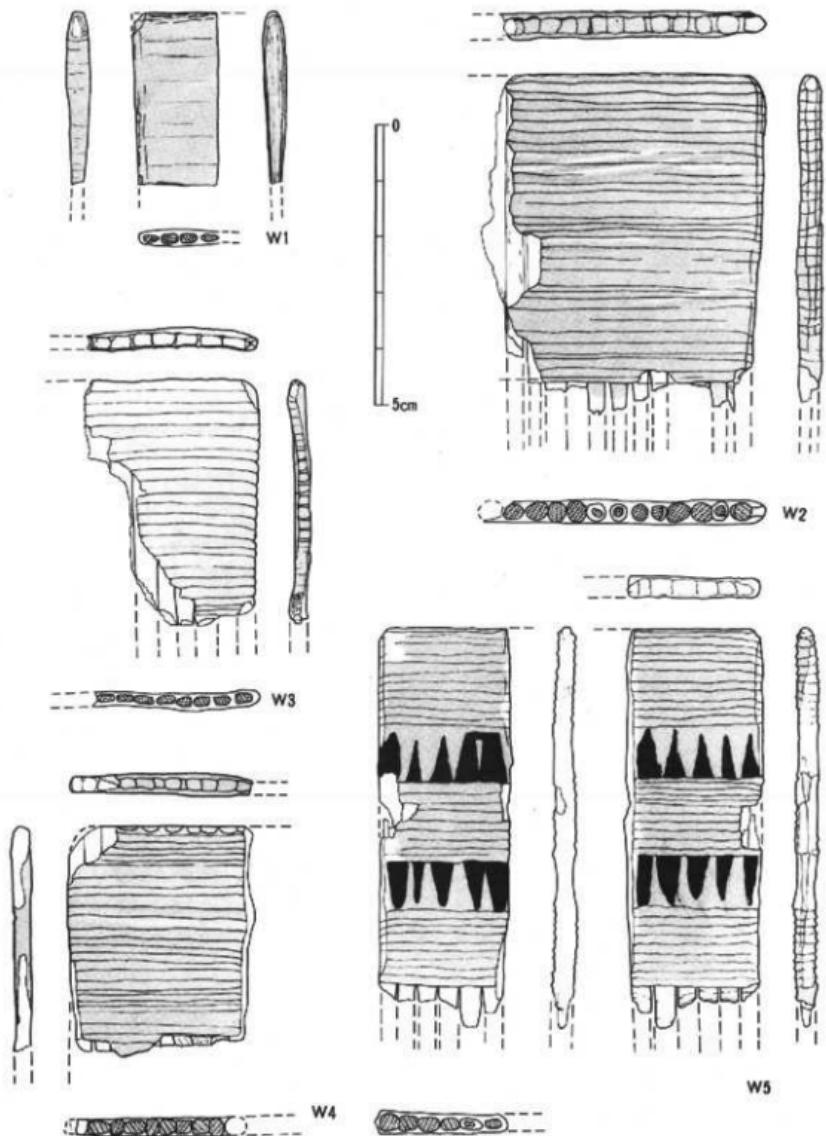
3類はW16にみられるように、上辺が「U」字形を呈するものである。上端部の破面には繊維を巻きあげた痕跡が認められる。このことから両端の歯は身の上端までびており、上辺の構成材とともに結束されたものと推定される。

4類はW18にみられるように幅0.3cmを測る薄い竹材を10枚ほど重ね、それを「U」字形に曲げて結束し、寄せ合わされた竹の両端が歯を形成するもので、黒色漆が塗布されている。これは古墳時代の通有のものである。

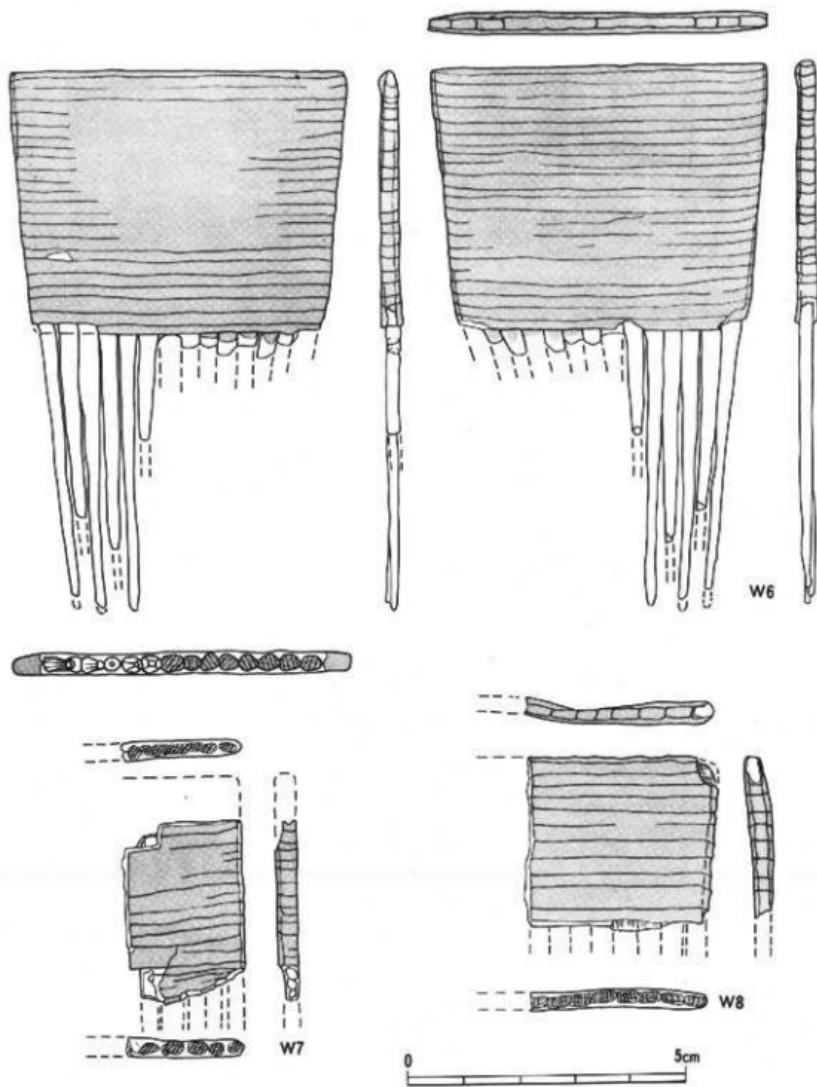
4類を除けば、1～3類まではほぼ同様な構造であるといえる。ただし、1類のうちにも上辺が直線になるW1～10、12～14とW17のように「U」字形に湾曲するものがある。

表面いずれも暗赤色の漆が塗布されているが、W15は明度が高く鮮かである。

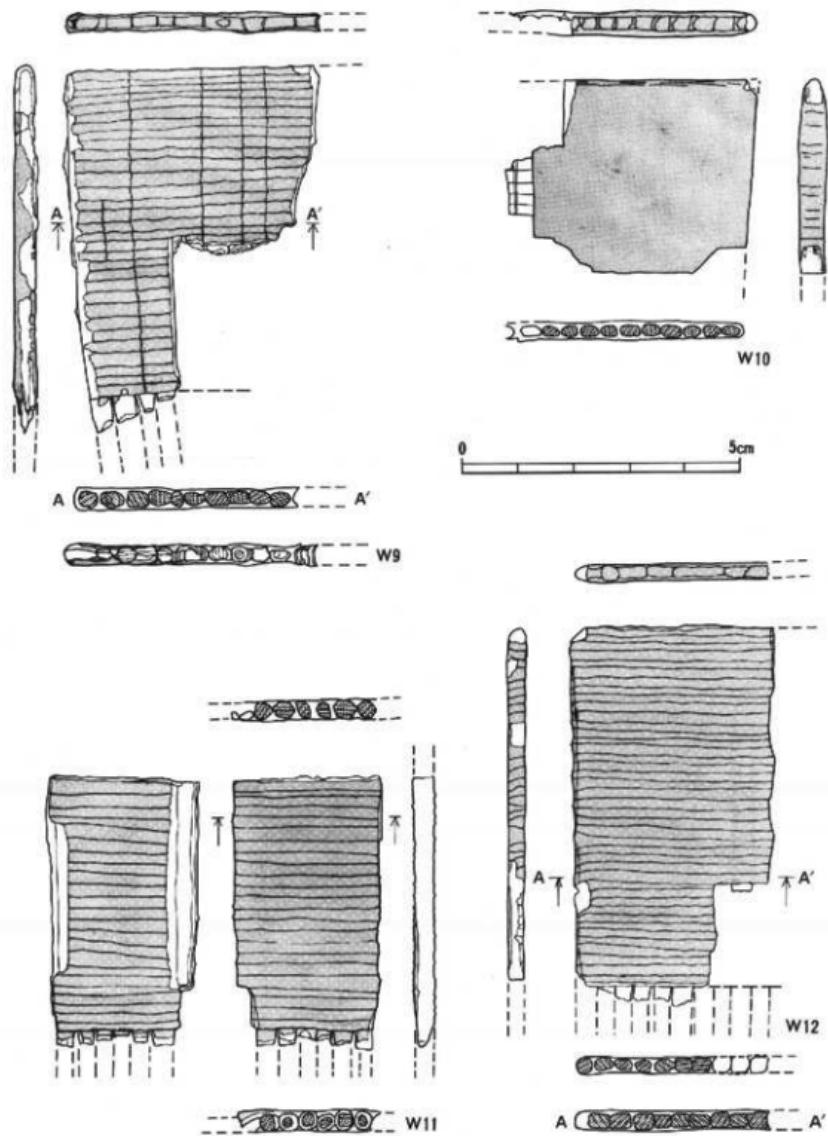
W5は乳赤褐色の漆地に赤色漆で銀歯文を塗り分けて表現しており、赤色一辺倒のなかでは特異な表現方法となっている。



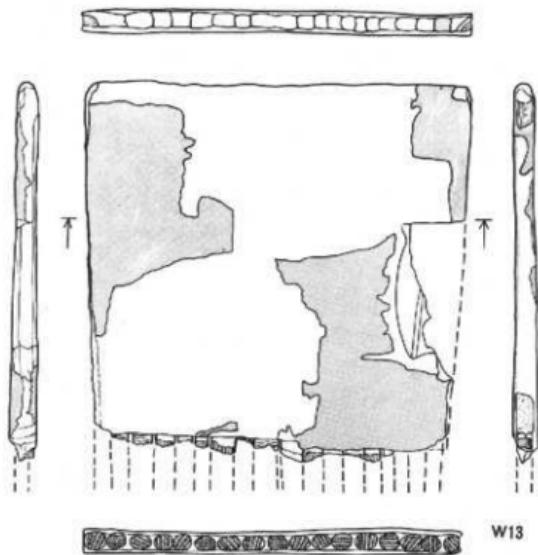
第110図 漆塗り櫛実測図(1) 1:1



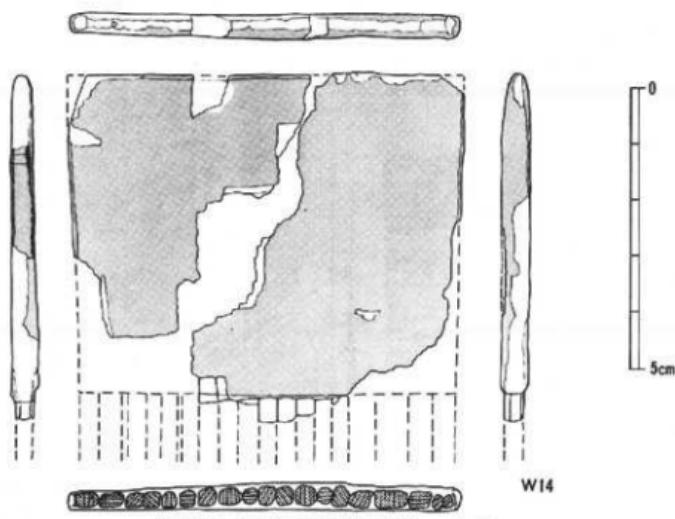
第111図 漆塗り櫛実測図(2) 1:1



第112図 漆塗り櫛実測図(3) 1:1

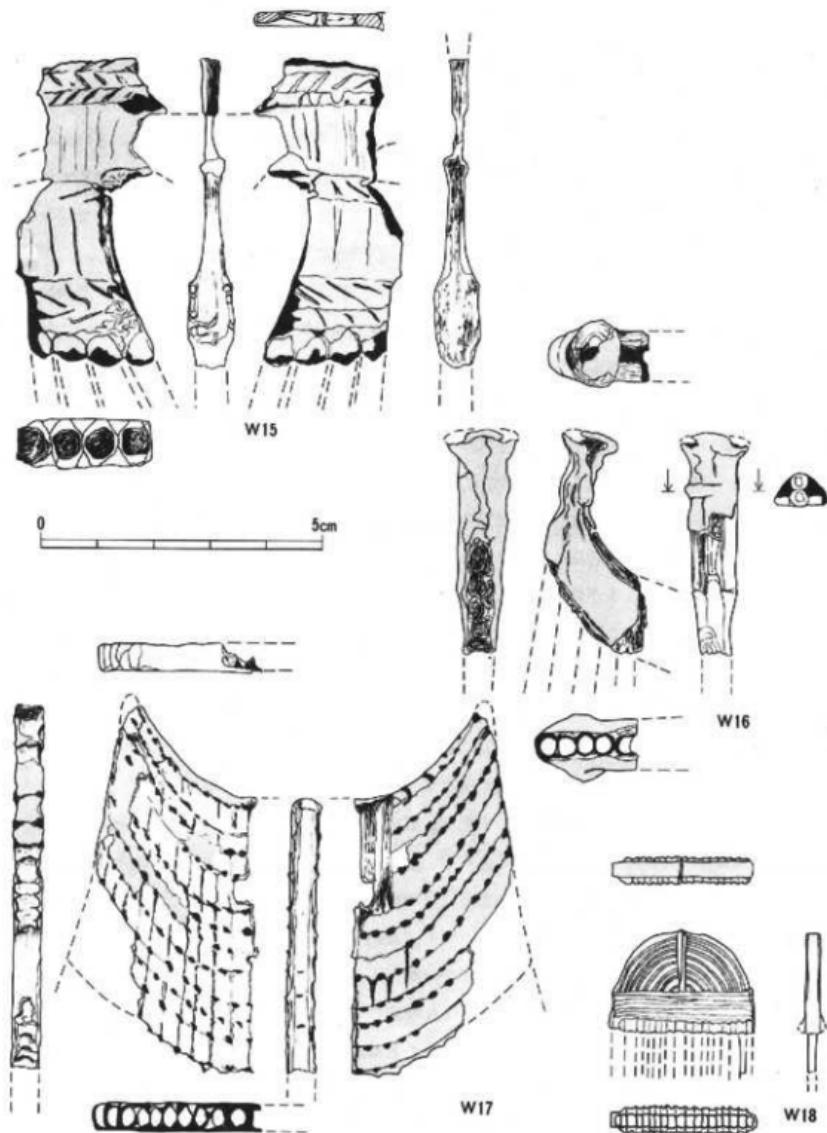


W13



W14

第113図 漆塗り櫛実測図(4) 1:1



第114図 漆塗り櫛実測図(5) 1:1

錫

木製農耕のうち錫は残存状態が比較的良好で、分類可能なものは未成品も含めると64点を数える。これらは広錫、狭錫、横錫（エブリ）に大別できる。当地方における錫の出土例は近年増加しつつあるものの統一的な分類基準は設定されておらず、各遺跡ごとの分類提示にとどまっているのが現状である。当遺跡でも以前に分類が試みられたことがあるが、現状に合わない点もあるので若干の改変が必要と考えられた。しかし新に分類基準を設定して混乱を招く恐れがあるので、ここでは木製農耕具の出土点数の多い西川津遺跡の分類を基礎とし、一部改変して示すこととした。

広錫A_a（第115図W19～24 図版126） 幅広で、内面の柄孔上部に断面略三角形を呈す突帯をもち、外面中央に船形隆起を削り出すものである。細部を見ると両辺が下方にいくにしたがって外へ開き、結果的に幅広となるものW19・20・23とほぼ直線的な辺をなすものW21・22・24がある。

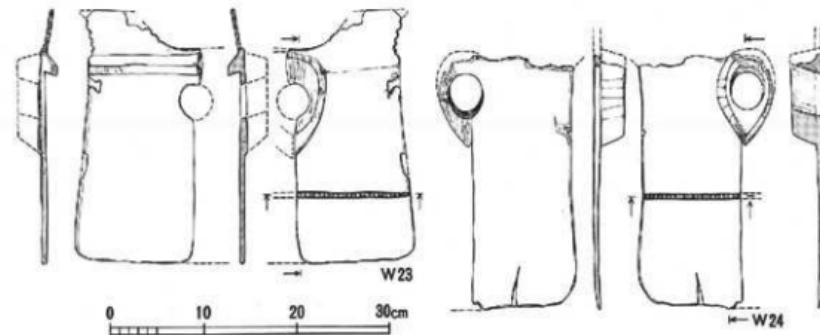
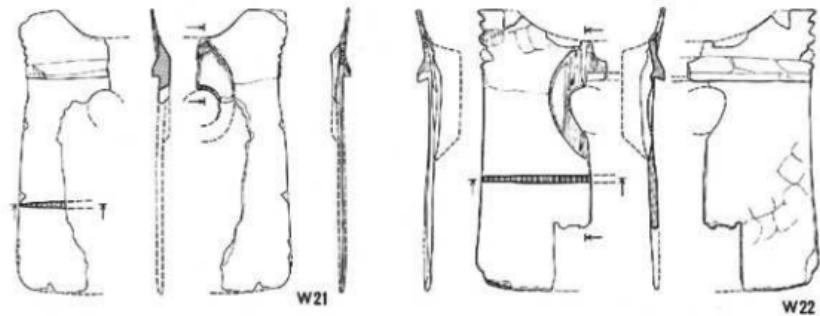
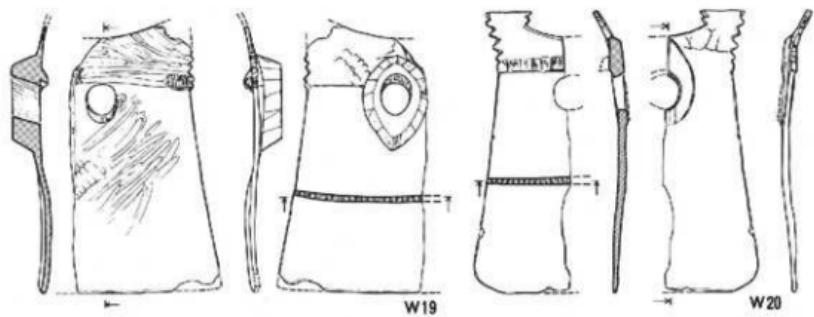
船形隆起は倒卵形を呈し、重厚な感じである。これらの中には側辺上端部付近に鋸歯形の刻みを施す例W19～23がある。いずれも中央から欠損しているが船形隆起が残存しているものを参考に中軸線を想定し、身幅を推定復元するとW19が最小幅19cm、下端（齒）幅26cm、W24の最小幅が22cm、下端（齒）幅23cmを測るものであったことが知られる。W25・27は未完成品で、最小幅、下端（齒）幅の数値が、前記したものと近似しており、側辺上端がかなり広く木取りされているのは鋸歯形の刻みを施す予定であることを予測させるものである。W26は上半分を欠損しているが側辺が下方に行くにしたがって外へ開くこと、下端（齒）幅は24.4cmを測り、上記の数値におさまることから広錫A_aに含めておいた。

広錫A_b（第117図W28～36 図版127・128・129） 内面の柄孔上部に断面略三角形を呈す突帯をもち、外面中央に船形隆起を削り出す点は広錫A_aと同様であるが、平面形が正方形に近い形態を呈すこと、船形隆起が下方に向って細長く突り気味である点に相違が認められる。

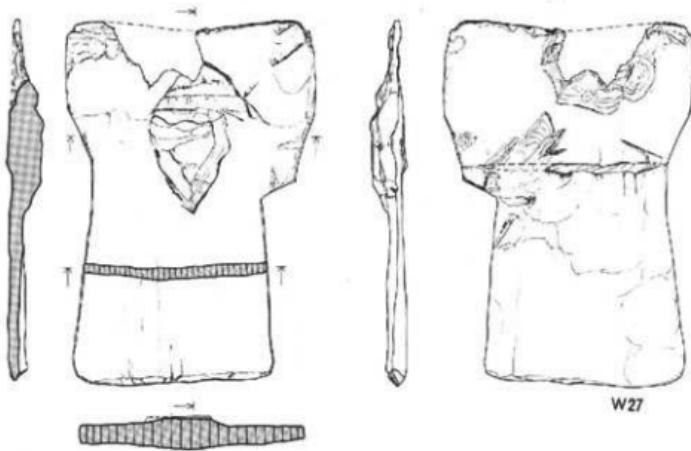
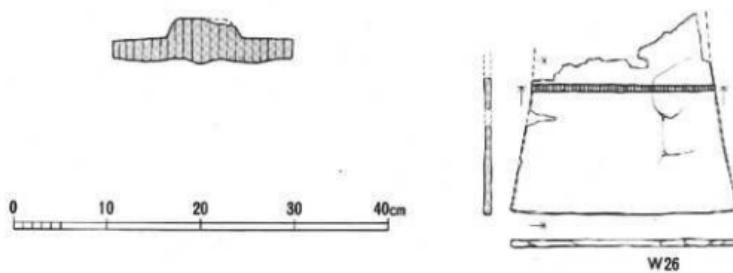
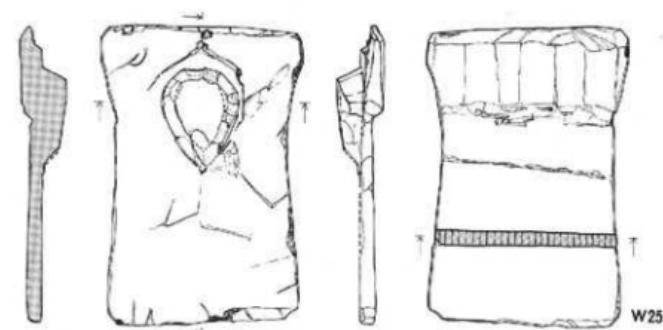
W28・34には内面突帯の直下両端付近に小孔が1個ずつ貫通している。これは所謂丸錫を固定するため木鉛等が打ち込まれていた痕跡であろう。この小孔はいずれも内外面両方向から幅1cm未満の鑿状工具によって打ち抜かれたものである。W28の下端に近い位置に小孔が認められるが、これも同様な工具によったものと考えられる。ただし、この用途は不明である。

W31・37～39は未完成品であるが外面中央の船形隆起が下方に向って細長く削り出されようとしている点から、広錫A_bに含めた。ただW37はかなり摩滅しているので、除外するとしても、W32・W39に、内面に突帯を削り出そうとした形跡がないことが注意される。ここでは平面形態と船形隆起の長さ、内面突帯がこれから削り出される可能性も考慮し、ここに含めておいたが完成品の類例増加を待って検討すべきものである。

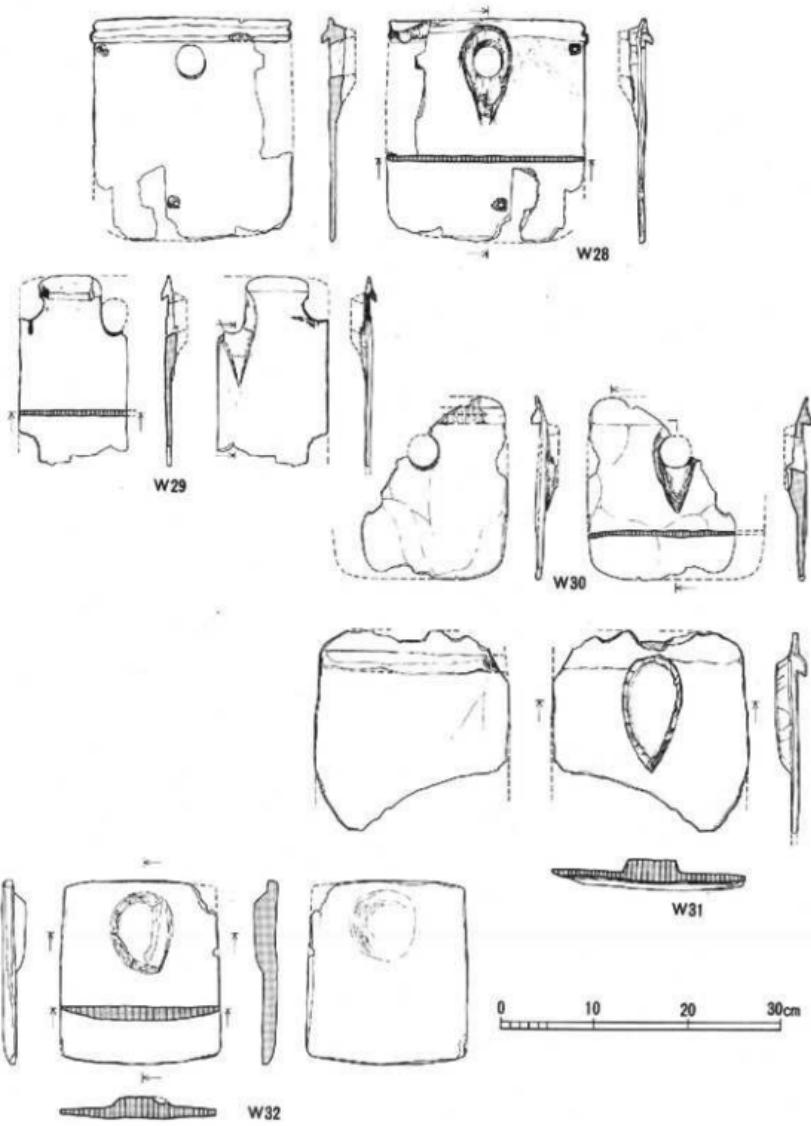
W40は柄を挿着した状態で出土したもので、身幅6cm、身の長27cm、柄長45cmを測り、他のもの



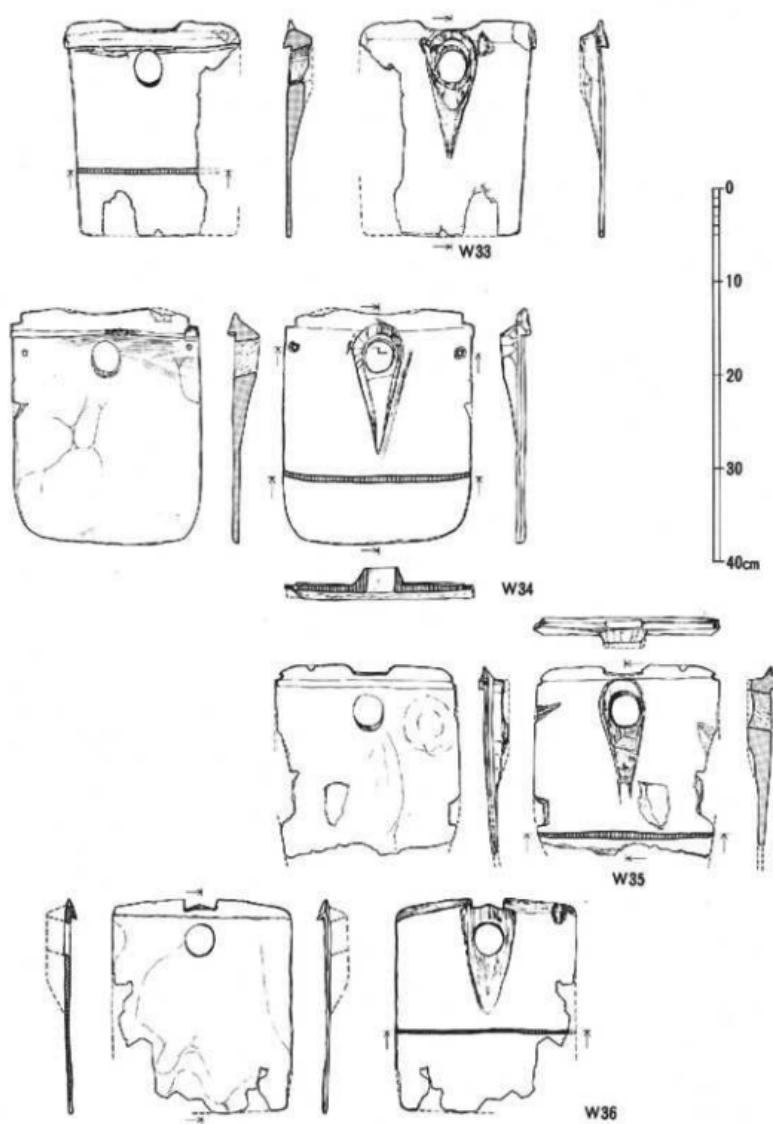
第115図 広鎌AI実測図(6) 1:6



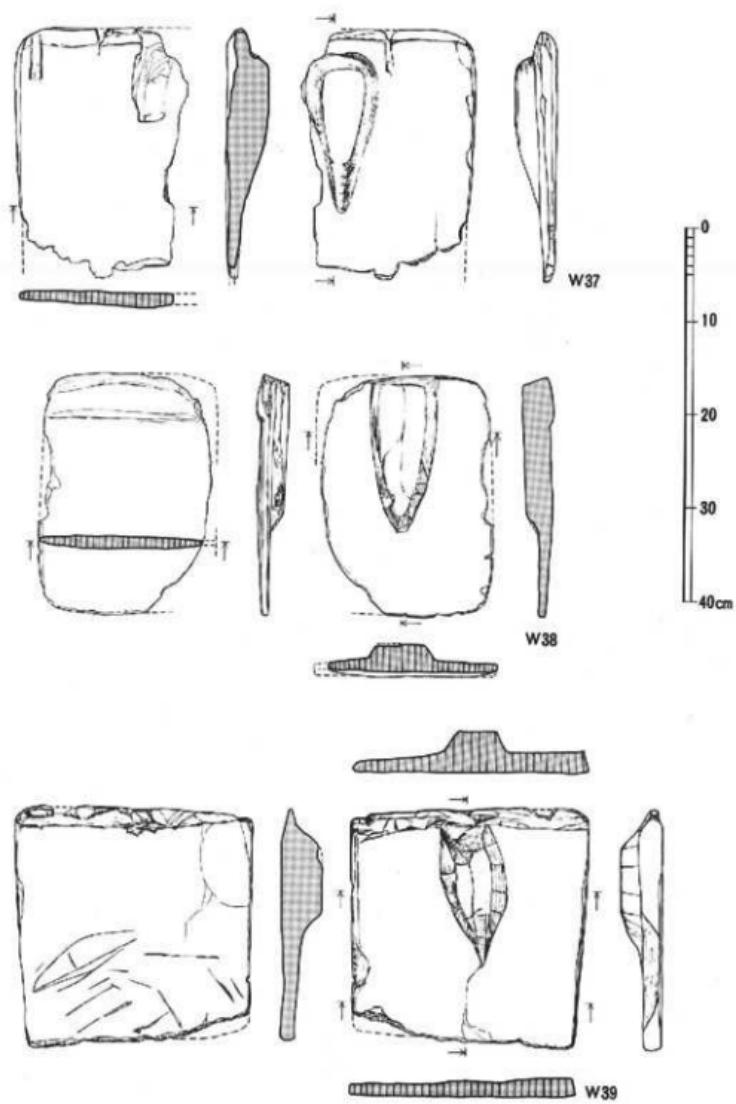
第116図 広鎌A1 未成品実測図(7) 1:6



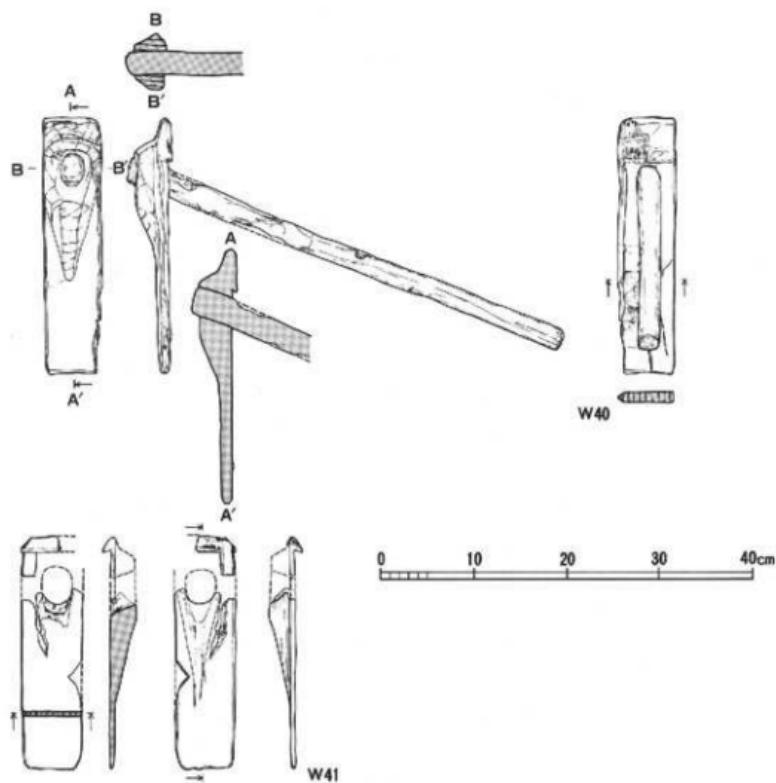
第117図 広鋸A1・A2実測図(8) 1:6



第118図 広鎌A1実測図(9) 1:6



第119図 広鋸A1・A2未成品実測図(10) 1:6



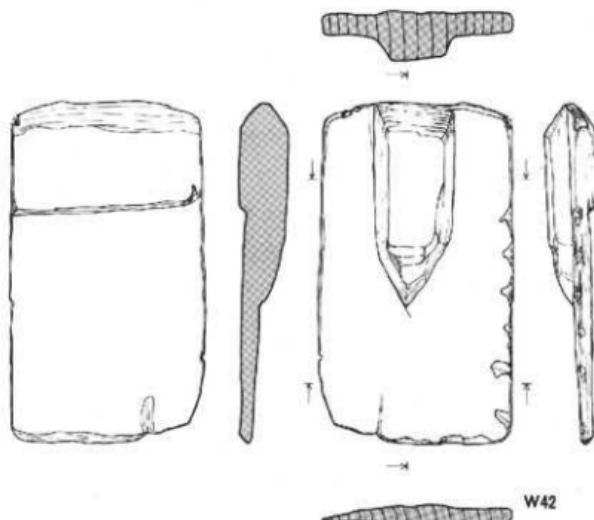
第120図 広鎌A1転用品実測図(11) 1:6

と比較して身幅が著しく狭いことが注意される。この側辺を見ると、内面に向って左側辺は、断面図に示したように「V」字形に刃物で面取りが施されている。一方右側辺は刃物が当った痕跡が認められない。

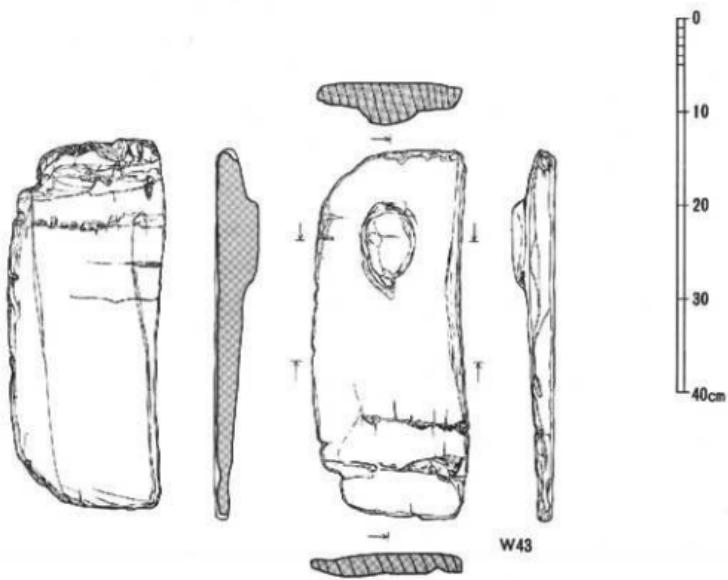
W41は柄孔付近を欠損しているが、前者と同様な形態を示すもので、身幅6.5cmを測る。この両側辺は刃物による加工痕跡は認められない。

W40・41は身幅が狭いことを不間とすれば、身の長さ、27cmを測り、船形隆起の形態等からすると広鎌A,bの特徴を示すものといえる。つまり、W40は広鎌A,bの右側辺が破損したため、船形隆起を中軸線として左側辺を削り落し、狭鎌として再利用されたものであろう。

同様な例は西川津遺跡³³や当遺跡の報告³⁴にも散見される。いずれも幅が6cm前後を測るものである



W42



W43

0
10
20
30
40cm

第121図 広鋤AI未成品実測図(12) 1:6

ことは広鋸A₁bの船形隆起幅や、その底面積に起因するものと考えられる。

W42・W43は広鋸Aの未成品である。W43は外面の下端（歯）部から上方へ5cmとさらに上方10cmの位置に横方向に走る刃物痕が認められる。これは整状工具による連打痕であって、このあたりから切断しようとしたものであろう。このことからすると完成時の身の大きさは長さ28cm、幅15cmほどの物となろう。

広鋸B（第122図W44・45・47 図版132） いずれも内面に所謂丸鋸を挿着するための突帯がなく、外面にも船形隆起が認められないものである。完成品ではないが、柄孔の位置から中軸線を想定して、身幅を推定復元するとW44・45・47の幅はそれぞれ16cm・17cm・14cmとなる。長さはW44が27cm、W45が21.5cm、W47が20.7cmを測る。

これらの柄孔は横長の橢円形、あるいは隅丸方形を呈し、これまで列記したものが正円に近い形を施したものであったのとは大きく異なっている。

このうちW47は両側辺部より、やや身幅を狭くする形に一種のえぐりが認められ、これは金属製の歎先を挿着した痕跡を思わせるものがある。この他、外面の中央に縦方向に走る稜線があつて、これはW44・W45とは異なる点である。

狭鋸B（第122図W46・48・49 図版132） 前者と比較すると身幅が10cm前後と狭く、柄孔から上端部までの長さがやや長いことが指摘できる。

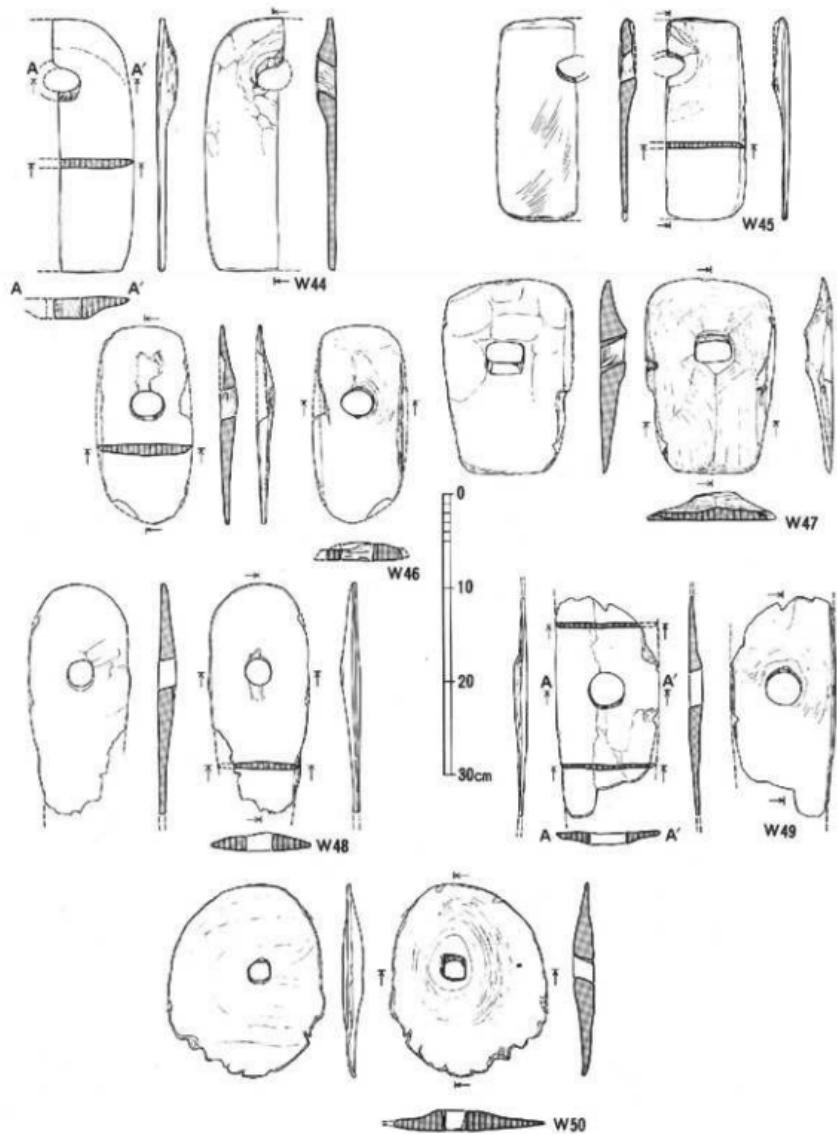
W50は外面に船形隆起、内面に突帯をもたないという点を考慮して、このB類のグループに入れておいたが、平面形態が大略円形を呈し、周囲が刃部のように薄くなっていることや柄孔が正方形に近いことからすると用途が異なる可能性も十分考えられるものである。

丸鋸（第123図W51～53 図版133） この種の木製品は近年使用方法の復元が試みられ、「泥除け具」であろうとされている。³³ 鋸と呼ぶべきものではないかもしれないが、ここでは便宜上從来の分類に従つておくこととした。W51～53は丸鋸Bである。W51は柄孔から下半を欠損している。上辺両端には広鋸A₁に挿着するための小孔が認められる。また凹面には柄孔から上方にかけて幅1cmを測る溝が走っている。これは柄の背部が接するため、その配慮であろう。

W52は柄孔の上方を欠損しているが、破面に沿つて左右にそれぞれ2孔の補修孔が穿たれている。W54は当初エブリの未成品と考えていたものであるが、長さと幅の比がさほど開かないことから、丸鋸Aの未成品としたものである。

W55は丸鋸Bの未成品としたものであるが、凹面の右側が木理に直交する方向に切断されているため、全体の形態が丸鋸とは異なったものとなっている。これは当初丸鋸Bを意図して木取りをされたものが、作業途中で別のものに変更されたためと考えられている。

エブリ（第124図W56～58 図版134） W56は成品、W57～58は未成品である。W56は略台形の



第122図 広鋸B・狭鋸B実測図(13) 1:6